

中 藥 乃

卷 七 第

篇 攷 彙 名 參

版局賣專府督總鮮朝



序言と凡例

○人蔘史編著豫定卷別は。第一卷、人蔘思想編第二卷、人蔘政治篇。第三卷、人蔘經濟編。第四卷、人蔘栽培篇。第五卷、人蔘醫藥編。第六卷、人蔘雜記篇、第七卷、蔘名彙攷篇。第八卷、人蔘年表、引用書目索引、解題及遺補にして。以上を以て完結するものなり。最初此篇を撰したるは編著の便宜に因る。

○本篇は人蔘竝其擬似品等苟くも參の名ある者を悉く網羅し考證解説を加へたるものなり。而して參名ありと雖も特定名詞たらざるものは省き。其通用範圍の廣狹に論なく名詞化したるものゝみを掲ぐ。

○特に本篇を一巻としたるは、人蔘名稱竝類似擬似品の名稱甚多く、それ等を一々各本篇に於て解説するときは、行文多岐に涉り理路論系の一貫を缺ぐの嫌あるを以て。茲に此編を設け各本篇と對照參酌せしめ。且人蔘名稱索引たらしめんとするに出づ。

○人蔘史は元來人蔘を史的に見て記述するを以て目的とし。植物學の上より説敍するものに非ず。されど史的記載の連絡上自然植物學の範圍に筆を走せしは止

むを得ざる所とす。而して著者素と其學に迂く中には其植物學的記載の當を得ざるものあるべく。斯道學者の指正を待つ所なり。

○本史總資料は大體二箇年半に蒐集せり。而して第三年目の半年間に於て本卷を脱稿したり。右の如く出版を急ぎし事情ありて、猶詮索検討の足らざるものあり。更に終刊の篇に於て補記せんとす。本書を閲覽せらるゝ君子、斧正の好意を吝む勿くんば幸甚なり。

○漢字の讀み方の不明なるものあり。例之は三をミとよむかサンと讀むる不明なる如き類のものは便宜に隨ふ。

○掲載の書目必要あるもの紛れ易き同名の書あるもの等は著者の名を掲げ、其他は第八編引用書目略解に譲れり。

○複引即ちマゴヒキのものも亦必要あるものゝみ之を記し他は第八編中の引用書目略解に明示す。

○書目の上下のワク。『、』は日本の書。『、』は支那の書。『、』は朝鮮の書。〔、〕は西洋の書たることを示す。

○文の上下に……を附したるものは原文と著者の記述との境界を示すものなり、又

中間に……之を付しあるは中略の意なり。

○フリ假名の右にあるものは原文のまゝを示し。左にあるものは著者の附したるを示し、原文の左右にフリ假名あるものは、其左のフリ假名の字上に○印を附して區別す。

○字の横に・・を付したるは著者の注釋あるを示す。

○ニンジン。は元來ニンジンにして、シ。がジ。となりしは音便による。然るに徳川時代の學者は沙參^{シヤジン}紫參^{シシジン}等と參の字何れもジンと讀めり。本史には音便の外の者は皆シンと爲したり。

○學名は主として牧野根本兩氏日本植物總覽に據りたり。

昭和九年八月 日

著者

朝鮮總督府
實業局

今

村

鞆

識

字音及假名遣の目録

頭字の假名遣及
訓の中難解の分

ア行 奥アウ。有イウ。芋ウ。生ウブ。○カ行 高カウ。樺カラ。杏キヤウ。曲

キヨク。玉ギヨク。光クワウ。廣クワソ。官クワソ。關クワソ。公コウ。○サ行

相サウ。糙サウ。草サウ。造ザウ。扱サウ。澤サハ。秋シウ。皺ジウ。纏シメ。

上ジャウ。芍シヤク。鑲ジヨウ。滌ジヨ。沁シン。西セイ。昭セウ。截セツ。總

ソウ。○タ行 黨タウ。唐タウ。直チヨク。忠チユウ。頂チヤウ。中チユウ。調

テウ。朝テウ。瀆テン。統トウ。東トウ。燈トウ。○ハ行 泡バウ、ハウ。包ハウ。

綁ハウ。豐ホウ。鳳ホウ。買ボウ。○ヤ行 羊ヤウ。洋ヤウ。養ヤウ。姚ヨウ。

札ヨセ。○ラ行 琉リウ。類ルキ。遼レウ。揀レン。○ワ行 黃ワウ。秧ワウ。

威キ。撰エリ。兗エン。折チレ。

蔘名彙攷目錄

五十音別

ア 行

○ 奧州人參	アウシウニンジン	一
○ 赤海老	アカエビ	一
○ 阿伽陀羅	アカダラ	二
○ 赤根人參	アカネニンジン	二
○ 秋田人參	アキタニンジン	四
○ 啞叭蓐	アハツシン	五
○ 會津人參	アヒヅニンジン	五
○ 會津本製	アヒヅホンセイ	七
○ 亞弗利加樣	アフ리카デ	七
○ 阿勃參	アボツシン	九
○ 亞米利加人參	アメリカニンジン	一一
○ アメリカンセソム	アメリカンセソム	一三
○ 有體參	イウタイシン	一六

◎有體人參	イウタイニンジン	一七
◎移山萆	イサンシン	一八
◎出雲人參	イヅモニンジン	一九
◎糸じめ	イトジメ	二〇
◎狗人參	イヌニンジン	二〇
◎岩人參	イハニンジン	二二
◎인삼 (Insam)	インサム	二三
◎因陀羅訶塞多	インダラカソクタ	二三
◎芋角萆	ウカクシン	二五
◎ウキデ	ウキデ	二五
◎ウコギ人參	五加人參又五加木人參	二六
◎羽州人參	ウシウニンジン	二六
◎薄茶	ウスチャ	二七
◎ウツカ	ウツカ	二七
◎ウバタケニンジン	姥嶽人參(?)	二八
◎生玉人參	ウブタマニンジン	二九
◎ウブデ	庄様	三〇
◎ウブ人參	ウブ人參	三〇
◎雲州人參	ウンシウニンジン	三一

◎	エゾノジャニンジン	蝦夷の蛇人參	三三
◎	エヒデ	蝦様	三四
◎	蝦手人參	エビデニンジン	三四
◎	蝦人參	エビニンジン	三五
◎	圓葉人參	エンエフニンジン	三九
◎	御種人參	オタネニンジン	四〇
◎	オナガヤブニンジン	尾長鉸人參	四三
◎	オホツリガネニンジン	大釣鐘人參	四三
◎	大人參	オホニンジン	四四
◎	大横人參	オホヨコニンジン	四四
◎	オルトホイダ		四五
◎	額爾保多	オルホダ	四六

カ 行

◎	海貨	カイクワ	四七
◎	海參	カイシン	四七
◎	孩兒參	ガイジン	四八
◎	海峰人參	カイホウニンジン	五一
◎	海腴	カイユ	五四

◎カイルコ手	蛙子様	五	
◎高麗蔘	カウライシシ	五	
◎高麗人蔘	カウライニンジン	五	
◎加州人蔘	カシウニンジン	六	
◎家蔘	カシシ	六	
◎牙蔘	ガシシ	六	
◎蝌斗人蔘	ガタニンジン	六	
◎架豆蔘	ガトウシシ	六	
◎カノニゲグサ	六	
◎鹿鬚草	カノニレグサ	六	
◎加乃三支草	カノミシグサ	六	
◎皮付白蔘	カハツキハクシシ	七	
◎カハラニンジン	河原人蔘	七	
◎合貨	ガフクワ	七	
◎カブラ	七	
◎蝦蟆人蔘	ガマンニンジン	七	
◎カモジ様	髭デ	七	
◎カモジニンジン	髭人蔘	七	
◎樺太人蔘	カラプトニンジン	又カハプトニンジン	七
◎漢蔘	カンシシ	七	

◎ 韓參	カンシン	七
◎ 邯鄲人參	カンタンニンジン	七
◎ 葳	ギ	七
◎ 鬼蓋	キガイ	八〇
◎ 龜胸手	キキヤウデ	八一
◎ 桔梗人參	キキヨウニンシン	八一
◎ 菊花參	キククワシン	八二
◎ 刻人參	キザミンジン	八二
◎ 議政府參	ギセイフシン	八三
◎ 吉林參	キツリンシン	八四
◎ キミノチクセツニンジン	黃實の竹節人參	八四
◎ 杏葉沙參	キヤウエフシヤジン	八四
◎ 杏參	キヤウシン	八五
◎ 曲參	キヨクシン	八六
◎ 玉精	ギヨクセイ	八六
◎ 清正人參	キヨマサニンジン	八七
◎ キリシマ人參	霧島人參	九〇
◎ 切人參	キリニンジン	九〇
◎ 錦山人參	キンザンニンジン	九一

◎金雀馬尾蔘	キンジャクバビシン	九二
◎金鑲玉嵌	キンジョウヨウギヨクカン	九三
◎金參	キンソン	九四
◎金井玉蘭	キンセイギヨクラン	九四
◎空紅	クウコウ	九八
◎クサニンジン	草人蔘、臭人蔘	九八
◎苦參	クシン	九八
◎クソニンジン	糞人蔘	一〇六
◎クダラ人蔘	百濟ニンジン	一〇七
◎熊谷人蔘	クマガヤニンジン	一〇七
◎クマノイ	能ノ膽	一〇七
◎熊野小人蔘	クマノコニンジン	一〇九
◎熊野人蔘	クマノニンジン	一〇九
◎熊本人蔘	クマモトニンジン	一一〇
◎貨	クワ	一一〇
◎光小熟	クワウシヨウジュク	一一一
◎光小條	クワウシヨウヂウ	一一一
◎光大條	クワウダイヂウ	一一一
◎光頂熟	クワウチヤウジュク	一一一

◎光中熟	クワウチユウジユク	二三
◎光二頂	クワウニチャウ	二三
◎火蔘	クワシン	二三
◎光辣熟	クワウレンジユク	二三
◎廣蔘	クワンシン	二三
◎官蔘又官蔘又官蔘	クワンシン	二四
◎關東蔘	クワントウシン	二六
◎關東人蔘	クワントウニンジン	二七
◎廣東蔘	クワントンシン	二七
◎廣東人蔘	クワントンニンジン	二七
◎京貢蔘	ケイコウシン	二五
◎京蔘	ケイシン、キンソン	二六
◎京人蔘	ケイニンジン	二七
◎月下蔘	ゲツカシン	二七
◎月山人蔘	ゲツサンニンジン	二九
◎血蔘	ケツシン	三〇
◎獻上手	ケンジョウデ	三一
◎原枝	ゲンシ	三一
◎獻上人蔘	ケンジョウニンジン	三三

○拳參	ケンシン	一三三
○乾參	ケンシン	一三五
○建參	ケンシン	一三六
○犬蔘	ケンシン	一三七
○玄參	ゲンシン	元參	一三七
○建人蔘	ケンニンジン	一四二
○紅根	コウコン	一四三
○後蔘	コウシン	一四三
○江蔘	コウシン	一四四
○紅蔘	コウシン	一四四
○貢蔘	コウシン	一四八
○紅黨	コウトウ	一五二
○紅肉	コウニク	一五三
○紅毛蔘	コウモウシン	一五三
○公用蔘	コウヨウシン	一五四
○五葉草	ゴエフサウ	一五四
○五葉蔘	ゴエフシン	一五五
○五葉人蔘	ゴエフジン	一五六
○黑蔘	コクシン	一五六

- ◎ 戸曹蔘 コサウシン……………一五八
- ◎ 五子人蔘 ゴシニンジン……………一五八
- ◎ 御赦免人蔘 ゴシヤメンニンシン……………一五七
- ◎ 五蔘 ゴシン……………一五六
- ◎ 胡蔘 コシン……………一六〇
- ◎ 戸蔘 コシン……………一六〇
- ◎ 五島人蔘 ゴタウニンジン……………一六一
- ◎ 古多邇 コタニ……………一六二
- ◎ 小人蔘 コニンジン……………一六三
- ◎ コマニンジン 高麗人蔘……………一六四
- ◎ 御免人蔘 ゴメンニンジン……………一六四
- ◎ 御物 ゴモツ……………一六四
- ◎ 御用蔘 ゴヨウシン……………一六六
- ◎ 古呂様 コロデ……………一六七
- ◎ 金剛山人蔘 コンガウサンニンジン……………一六八
- ◎ 根子 コンシ……………一六八

サ 行

- ◎ 細葉人蔘 サイエフニンジン……………一六九

◎象牙蔘	ザウゲシン	一七〇
◎相州人蔘	サウシウニンジン	一七一
◎サウシシヨウニンジン	相思子様人蔘	一七二
◎糙蔘	サウシン	一七四
◎草神	サウシン	一七五
◎草蔘	サウシン	一七五
◎造蔘	ザウシン	一七六
◎糙重	サウヂユウ	一八〇
◎箱底	サウヂイ	一八〇
◎糙條	サウデウ	一八一
◎草人蔘	サウニンジン	一八一
◎極梨草	サウリサウ	一八一
◎座賣人蔘	ザウリニンジン	一八二
◎先折人蔘	サキチアレニンジン	一八五
◎薩州人蔘	サツシウニンジン	一八六
◎扎蔘	サツシン	一八六
◎薩摩小人蔘	サツマコニンジン	一八六
◎薩摩人蔘	サツマニンジン	一八七
◎座人蔘	ザニンジン	一九二
◎渣泡	サバウ	一九二
◎澤人蔘	サハニンジン	一九二

◎三椏五葉草	サンアゴエフサウ	一九三
◎三葉人參	サンエフニンジン	一九三
◎三枝五葉草	サンシゴエフサウ	一九七
◎三枝人參	サンシニンジン	一九八
◎山蓼	サンシン	一九九
◎山楮人參	サンチヨニンジン	二〇四
◎山養蓼	サンヤウシン	二〇五
◎秋參	シウシン	二〇七
◎皺面還丹	シウメンクワンタン	二〇八
◎私價參	シカシン	二〇八
◎紫玉參	シギヨクシン	二〇九
◎紫花人參	シクワニンジン	二〇九
◎次糙	ジサウ	二一〇
◎子參	シシン	二一〇
◎紫參	シシン	二一一
◎紫團參	シダンシン	二一六
◎次頂	ジチャウ	二一九
◎シテンバ	シトウシン	二二〇
◎獅頭參	シトウシン	二二〇

◎ 信濃人蔘	シチノニンジン	三三〇
◎ 施南山蔘	シナンサンシン	三三〇
◎ 島人蔘	シマニンジン	三三一
◎ 島原人蔘	シマバラニンジン	三三一
◎ 志村人蔘	シムラニンジン	三三一
◎ 纏	シメ	三三四
◎ 上好蔘	ジヤウカウシン	三三四
◎ 上々人蔘	ジヤウジヤウニンジン	三三五
◎ 淨鬚	シヤウジュ	三三七
◎ 上黨蔘	ジヤウタウシン	三三七
◎ 上黨人蔘	ジヤウタウニンジン	三三四
◎ 上人蔘	ジヤウニンジン	三三四
◎ 常平蔘	ジヤウヘイシン	三三四
◎ 鑲鳳	ジヤウホウ	三三五
◎ 勺蔘	シヤクシン	三三五
◎ 芍藥手	シヤクヤクテ	三三五
◎ 沙州蔘	シヤシウシン	三三七
◎ 沙蔘	シヤシン	三三七
◎ ジャニンシン	蛇人蔘	三三〇
◎ 熟蔘	ジユクシン	三三一

◎珠兒參	ジュジシン、又珠子參	二五二
◎鬚參	ジュシン	二五五
◎鬚條	ジュデウ	二五五
◎巡營蔘	ジュンエイシン	二五六
◎春參	シュンシン	二五六
◎小兼皮	シヨウケンピ	二五七
◎小糙	シヨウサウ	二五七
◎鍾山人參	シヨウサンニンジン	二五七
◎小熟	シヨウジュク	二五八
◎鑲鳳	ジヨウホウ	二五八
◎滁州人參	ジヨシウニンジン	二五九
◎女直參	ジヨチヨクシン	二六〇
◎シラキニンジン	新羅人參	二六一
◎シラタケニンジン	白嶽人參	二六一
◎白根人參	シラネニンジン	二六一
◎白山人參	シラヤマニンジン	二六五
◎白海老	シロエビ	二六五
◎白手人參	シロデニンジン	二六五
◎參	シン	二六六
◎參葉	シンエフ	二六八

◎蓼花 シンクワ……………二七二

◎神草 シンサウ……………二七三

◎信州人參 シンシウニンジン……………二七四

◎沁州人參 シンシウニンジン……………二七五

◎參鬚 シンジユ……………二七五

◎信蓼 シンシン……………二七八

◎ジンスエン 人參……………二七九

◎蓼茶 シンチャ……………二七九

◎蓼丁 シンテイ……………二八二

◎參條 シンデウ……………二八三

◎蓼皮 シンピ……………二八四

◎新山 シンヤマ……………二八四

◎新羅人參 シンラニンジン……………二八五

◎參蘆 シンロ……………二八八

◎水蓼 スイシン……………二九二

◎水尾蓼 スイビシン……………二九四

◎濁石人參 ススクシンニンシン……………二九四

◎居根 スハリネ……………二九四

◎清河參 セイカシン……………二九五

◎成形人參	セイケイニンジン	二九六
◎薺萇	セイジ	二九六
◎西參	セイシン	二九六
◎生參	セイシン	二九六
◎稅蓼	ゼイシン	二九九
◎生人參	セイニンシン	三〇一
◎青羊參	セイヤウシン	三〇一
◎西洋人參	セイヤウニンジン	三〇三
◎紹糙	セウサウ	三〇五
◎昭參	セウシン	三〇五
◎赤棍	セキコン	三〇六
◎赤參	セキシン	三〇六
◎セタヲニンジン		三〇六
◎接貨	セツクワ	三〇七
◎截谷參	セツコクシン	三〇七
◎折參	セツシン	三〇八
◎切參	セツシン	三〇八
◎節參	セツシン	三〇八
◎セリニンジン	芹人參	三〇九
◎船廠	センシヤウ	三一一

◎總州人參 ソウシウニンシン……………三三二
◎宗親府蓼 ソウシンフシン……………三三三
◎挿參 ソウシン……………三三三
◎賊參 ゴクシン……………三三三

タ 行

◎退却後蓼 タイキヤクコウシン……………三三九
◎臺貨 タイクワ……………三三九
◎大兼皮 タイケンピ……………三三九
◎泰山人參 タイザンニンジン……………三三〇
◎大脩尖 タイシウセン……………三三〇
◎太子參 タイシシン……………三三一
◎大參 タイシン……………三三一
◎體參 タイシン……………三三一
◎台參 ダイシン……………三三三
◎臺參 ダイシン……………三三三
◎台黨參 タイタウシン……………三三三
◎大條 タイデウ……………三三三
◎大同蓼 дайドウシン……………三三三

◎大人參	ダイニンジン	三三四
◎代人參	ダイニンジン	三三七
◎大部參	タイブシン	三三七
◎松明様	タイマツデ	三三九
◎大棟熟	ダイレンジユク	三三九
◎大折人參	ダイチレニンジン	三三〇
◎黨參	タウシン	三三〇
◎湯參	タウシン	三三一
◎塘西貨	タウセイクワ	三三三
◎唐大	タウダイ	三三四
◎タウダイニンジン	燈臺人參	三三四
◎當團參	タウダンシン	三三四
◎唐人參	タウニンジン	三三五
◎湯人參	タウニンシン	三三〇
◎托鬚	タクジユ	三三〇
◎朶子參	ダシシン	三三一
◎陀堂人參	ダダウニンジン	三三一
◎韃參	ダツシン	三三一
◎豎根人參	タテネニンシン	三三一
◎立山人參	タテヤマニンジン	三三一

◎タマ手	玉様	三四三
◎タマニンジン	玉人蔘	三四三
◎溜り根	タマリネ	三四四
◎玉折人蔘	タマチレニンジン	三四四
◎丹葉人蔘	タンエフニンジン	三四四
◎單股人蔘	タンコニンジン	三四五
◎丹州人蔘	タンシウニンジン	三四六
◎單蔘	タンシン	三四七
◎丹蔘	タンシン	三五一
◎團蔘	ダンシン	三五八
◎短中	タンチュウ	三五八
◎短丁	タンテイ	三五八
◎短條	タンデウ	三五九
◎丹波御種	タンバオタネ	三五九
◎丹波人蔘	タンバニンジン	三六〇
◎竹葉人蔘	チクエフニンジン	三六一
◎竹節人蔘	チクセツニンジン	三六二
◎チシマニンジン	千島人蔘	三七五
◎地蔘	ヂシン	三七五

◎地精	ヂセイ	三七一
◎頂糙	チヤウサウ	三七八
◎頂條	チヤウデウ	三七八
◎茶蔘	チヤシン	三七八
◎中熟	チュウジュク	三八〇
◎忠勳府蔘	チュウケンフシン	三八〇
◎中兼皮	チュウケンヒ	三八〇
◎中樞府蔘	チュウウスウフシン	三八〇
◎中條	チュウデウ	三八一
◎中揀熟	チュウレンジュク	三八一
◎中折人蔘	チュウチレニンジン	三八一
◎頂兼皮	チヨウケンピ	三八一
◎直根人蔘	チヨクコンニンジン	三八二
◎直蔘	チヨクシン	三八四
◎ツクバニンジン	筑波人蔘	三八五
◎包ツツミ		三八五
◎釣鐘人蔘	ツリガネニンジン	三八六
◎蔓人蔘	ツルニンジン	三八九
◎調御蔘	テウギヨシン	三九三
◎條小熟	デウシヨウジュク	三九三

◎朝鮮種人蔘	テウセンダネニンジン	三九四
◎朝鮮人蔘	テウセンニンジン	三九五
◎天狗人蔘	テンダニンジン	三九〇
◎瀟州蔘	テンシウシン	三九〇
◎統貨	トウクワ	三九一
◎童蔘	ドウシン	三九一
◎東蔘	トウシン	三九一
◎燈臺子	トウダイシ	三九一
◎燈臺人蔘	トウダイニンジン	三九一
◎統頂	トウチヤウ	三九一
◎同福人蔘	ドウフクニンジン	三九一
◎東洋人蔘	トウヤウニンジン	三九一
◎ドクニンジン	毒人蔘	三九一
◎土根人蔘	ドコンニンジン	三九一
◎土佐向	トサムキ	三九一
◎土蔘	ドシン	三九一
◎土精	ドセイ	三九一
◎土黨蔘	ドタウシン	三九一
◎トチニンジン	栃人蔘	三九一

- ◎トチノキニンジン 栲の木人參 四三
- ◎トチノハニンジン 栲の葉人參 四三
- ◎トチバニンジン 栲葉人參 四三
- ◎トチハラニンジン 栲原人參 四五
- ◎トトキニンジン 四五
- ◎土人參 ドニンジン 四七
- ◎土木參 ドモクシン 四三

ナ 行

- ◎内局蔘 ナイキヨクシン 四三
- ◎ナガハチクセツニンジン 長葉竹節人參 四六
- ◎並人參 ナミンニンジン 四六
- ◎南陵蔘 ナンガイシン 四六
- ◎南禪寺人參 ナンゼンジンニンジン 四六
- ◎二甲子 ニカフシ 四七
- ◎肉折人參 ニクナレニンジン 四七
- ◎ニコタ 爾古多、爾古太、爾己太、尔己太 四七
- ◎ニコタグサ 四三

◎二頂	ニチヤウ	四三〇	
◎日光人蔘	ニツクワウ	ニンジン	四三一
◎二條尖	ニデウセン	四三二	
◎人銜	ニンガ	四三三	
◎人形蔘	ニンギヨウシン	四三三	
◎人形樣	ニンギヨウデ	四三四	
◎人銜	ニクワン	四三五	
◎人微	ニクケウ	四三五	
◎人身	ニンシン	四三六	
◎人蔘	ニンジン	四三六	
◎胡蘿蔔	ニンジン	四三九	
◎人蔘果	ニンジンクワ	四四二	
◎人蔘草	ニンジンサウ	四四三	
◎人蔘三七	ニンジンサンシツ	四四三	
◎人蔘正果	ニンシンセイクワ	イン솔淸과	四四九
◎人蔘糖	ニンジンタウ	인솔당	四五一
◎人蔘木	ニンジンボク	四五一	
◎人微	ニンビ	四五六	
◎ヌキダシ	拔出	四五六	

◎貫の木手 ヌキノキデ……………四五七

◎念珠人參 ネンジュニンジン……………四五七

◎ノコバチクセツニンジン 鋸葉竹節人參……………四五七

◎ノウニンジン 野人參……………四五七

◎野人參 野胡蘿蔔ノニンジン……………四五八

◎ノラニンジン 野良人參……………四六〇

ハ 行

◎煤參 バイシン……………四六一

◎泡 バウ……………四六一

◎箒様 ハウキデ……………四六四

◎芳草 ハウサフ……………四六五

◎包參 ハウシン……………四六五

◎泡參 ハウシン……………四六九

◎綁錘 ハウスイ……………四七〇

◎防黨 バウタウ……………四七一

◎泡丁 ハウテイ……………四七一

◎泡條 ハウデウ……………四七一

◎泡頭	ハウトウ	四七一
◎防風黨參	パウフウタウシン	四七二
◎バカニンジン	馬鹿人參	四七二
◎白棍	ハクコン	四七三
◎白熟	ハクジユク	四七三
◎白蔘	ハクシン	四七四
◎白黨	ハクタウ	四七五
◎白條參	ハクヂウシン	四七五
◎把蔘	ハシン	四七五
◎ハタノニンジン	畑の人參	四七七
◎拔頂熟	パツチャウジユク	四七七
◎葉ニンジン	葉胡蘿蔔	四八五
◎濱人參	ハマニンジン	四八五
◎婆羅門參	バラモンシン	四八七
◎判事様	ハンスデ	四八九
◎判事人參	ハンスニンジン	四九〇
◎盤龍參	バンリョウシン	四九五
◎引ハナシ	ヒキハナシ	四九七
◎鬚人參	ヒゲニンジン	四九七

◎被執蔘	ヒシツシン	五〇三
◎尾蔘	ビシン	五〇五
◎人形根	ヒトガタネ	五〇七
◎ヒブリニンジン	ヒブリニンジン	五二〇
◎平野人蔘	ヒラノニンジン	五二〇
◎百濟蔘	ヒヤクサイシン	五二二
◎百尺杵	ヒヤクシヤクシヨ	五四四
◎楓葉人蔘	フウエフニンジン	五二五
◎不可根	フカネ	五二六
◎服ジメ人蔘	フクジメニンジン	五二六
◎福蔘	フクシン	五二七
◎服蔘	フクシン	五二七
◎服人蔘	ブクニンジン	五二七
◎節人蔘	フシニンジン	五二九
◎富士人蔘	フジニンジン	五三一
◎附蔘	フシン	五三二
◎佛掌蔘	ブツシヤウシン	五三三
◎粉蔘	フンシン	五三三
◎粉末紅蔘	フンマツコウシン	五三四

○兵營蔘	ヘイエイシン	五三四
○別付蔘	ベツプシン	五三四
○別買蔘	ベツボウシン	五三五
○片蔘	ヘンシン	五三五
○片料	ヘンリヨウ	五三五
○豊基人蔘	ホウキニンジン	五三六
○鳳蔘	ホウシン	五三六
○買蔘	ボウシン	五三八
○鳳梢	ホウセウ	五三一
○鳳凰城	ホウワウジャウ	五三一
○鳳凰城人蔘	ホウワウジャウニンジン	五三一
○北蔘	ホクシン	五三五
○補縮蔘	ホシユクシン	五三五
○ホソバニンジン	細葉人蔘	五三六
○牡丹人蔘	ボタンニンジン	五三六
○本須様	ホンスデ	五三八
○本朝人蔘	ホンテウニンジン	五四〇

マ 行

- マガリデ 曲り様……………五四一
- 巻人參 マキニンジン……………五四一
- 松葉人參 マツバニンジン……………五四三
- 圓葉人參 マルバノニンジン……………五四四
- マレタヲコウヲ……………五四五
- 蔓蔘 マンシン……………五四六
- ミヅニンジン 水人參……………五四八
- ミツバチクセツニンジン 三葉竹節人參……………五四八
- ミツバニンジン 三葉人蔘……………五四九
- ミヤマニンジン 深山人蔘(?)……………五五一
- ミヤマヤブニンジン 深山藪人蔘(?)……………五五一
- 眠蔘 ミンシン……………五五二
- ムガゴ人參 零餘子人參……………五五三
- 明蔘 メイシン……………五六〇

ヤ 行

- ◎羊角蔘 ヤウカクシン……………五六一
- ◎養蔘 ヤウシン……………五六二
- ◎洋蔘 ヤウシン……………五六三
- ◎琉玖島人蔘 ヤクジマニンジン……………五六四
- ◎藥蔘 ヤクシン……………五六四
- ◎藥精 ヤクセイ……………五六五
- ◎藥用人蔘 ヤクヨウニンジン……………五六五
- ◎野山蔘 ヤサンシン……………五六五
- ◎野蔘 ヤシン……………五六六
- ◎藪人蔘 ヤブニンジン……………五六六
- ◎山人蔘 ヤマニンジン……………五六八
- ◎ヤマホリニンジン 山掘人蔘……………五七一
- ◎姚州蔘 ヨウシウシン……………五七三
- ◎横筋 ヨコスヂ……………五七三
- ◎吉野小人蔘 ヨシノコニンジン……………五七三
- ◎吉野人蔘 ヨシノニンジン……………五七四
- ◎扎人蔘 ヨセニンジン……………五七八

ラ 行

◎羅參	ラシン	五七九
◎羅浮參	ラフシン	五八〇
◎琉球人參	リウキウニンジン	五八一
◎栗短	リツタン	五八二
◎類參草	ルキジンサフ	五八二
◎類違人參	ルキチガヒニンジン	五八二
◎麗江參	レイコウシン	五八六
◎鈴鐸參	レイシヤクシン	五八六
◎麗蓼	レイシン	五八七
◎禮蔘	レイシン	五八八
◎禮單蔘	レイタンシン	五八八
◎例買蔘	レイボウシン	五八九
◎遼東參	レウシン	五八九
◎遼東參	レウトウシン	五九〇
◎遼東人參	レウトウニンジン	五九二

◎ 揀糴 レンサウ 五九二
◎ 揀參 レンシン 五九三

◎ 踏參 ロシン 五九四

◎ 踏黨參 ロタウシン 五九六

◎ 蘆頭 ロヅ 五九六

ワ 行

◎ 黃草參 ワウサフシン 五九七

◎ 黃絲 ワウシ 五九八

◎ 秧子蓆 ワウシシン 五九八

◎ 秧蓆 ワウシン 五九八

◎ 黃參 ワウシン 六〇〇

◎ 和製人參 ワセイニンジン 六〇一

◎ 和參 ワシン 六〇一

◎ 和人參 ワニンジン 六〇一

◎ 蕨葉人參 ワラビハニンジン 六〇五

◎ 蕨人參 ワラビニンジン 六〇五

◎ 割人參 ワリニンジン 六〇六

◎ 割人參	ワレニンジン	六〇七
◎ 威勝軍人參	キシヨウダンニンジン	六〇八
◎ 撰下人參	エリサゲニンジン	六〇九
◎ 兗州人參	エンシウニンジン	六一〇
◎ 折人參	チレニンジン	六一一

外 國 語

◎ American Ginseng.	六九
◎ <i>Aralia cepens</i> Maxim.	六一二
◎ <i>Araliastrum foliis ternis</i> Quinquapartitis, Ginseng et Ninjin officialis.	六一三
◎ <i>Araliastrum Quinquifolii</i> folio maius, Ninjin Vocalam.	六一三
◎ Dwarf Ginseng oder Ground Nut.	六一〇
◎ Gen-seng.	六一〇
◎ Ginseng chinensium.	六一〇
◎ Ginseng sinensium.	六一〇
◎ Jen-sen.	六一一

- ◎ Panax Bipinnatifidus Seem. 本三
- ◎ Panx Ginseng. 本三
- ◎ Panax Quinquefolium var Ginseng 本三
- ◎ Parax quinquifolia a Coreensis Siebold 本三
- ◎ Panax guinguefolium, var Ginseng. 本三
- ◎ Panax japonicus Wery. 本三
- ◎ Panax psenoto ginseng. 本三
- ◎ Panax Pseude-Ginseng Wall. 本三
- ◎ Panax Bipinnatifidus Seem. 本三
- ◎ Panax quinquefolium L. 本三
- ◎ Panax repens, Maxim. 本三
- ◎ Panax Schin-seng var Coraiensis Ness. 本三
- ◎ Panax Trifolius L. 本三

(以上五種七十二項)

了

行

◎奥州人參

アウシウニンジン

徳川中期に現はれし人參偽似品の一種。

『^{坂上}臺人參譜』……に仙臺の人、人參とす、常州人參と形略同じ。根は防風に似たり……とあり。其圖左の如く修製の根形を描けるのみにして何科の植物かは明かならず。



坂上玄臺人參譜 奥州人參圖

此名稱は他に見えず、又地方名にも非ず。坂上玄臺の命じたるものなることは、同書全體の記載振より見て推定せらる。

◎赤海老

アカエビ

徳川中期以後に於ける人參品名。藥肆醫師、本草家間の通用語。

『^{加藤}和漢人參考』……に海老^{エビ}様 長崎口、對馬口兩方より來る。其形は海老に似たり、日本にて名づけたり。……此海老様の中の色赤きを赤海老といふ……とあり。元來海老様なる稱は人參の形態の海老に似たる者に命名せられたるものなり。海老様

の項に詳説す、參照すべし。

曾槃は其著『人參識』に於て……安葛アカカ惠美エミ、土魯惠美シロヒメ、以上二名はいつの時よりはじまりしことを知らず。按に新撰字鏡に、黄精ナルコユリを惠彌、和名鈔に於はるゑみ、又夜まゑみ、又女蔵を惠美くさ。此に云ふゑみ古とまたあるひは同語ならむかするべからず。延美殿、藥肆の稱、即蝦様の義なり。是は俗語エミデにして、惠美とは同じからず……とエミとエビを區別せるは餘りに詮索に過ぎたる僻説なり。海老手の名稱の由來等は其項及エビ人參の項に於て詳説す照見すべし。

◎ 阿 伽 陀 羅

アカダラ

……人參の梵名にして『身毒勝覽』に出づ……と『葦葭堂人參錄』に出づ。

身毒勝覽なる書は未だ見ざれども此記載誤謬なるべし。身毒は印度のこと、阿伽陀藥といふもの佛教典の中所々に出づ。されど此は人蔘に非ざること明かなり。

詳しくは第六卷人蔘雜記篇中、印度と人蔘の章に出づ、參照すべし。

◎ 赤 根 人 參

アカネニンジン

徳川中期に現はれし人參擬似品の一種根の赤きに因り名けらる。

『^{坂上}人參譜』……に正名鰯白草、山野皆之れ有り。俗赤根人參と呼ぶ、又河原柴胡と名くとあり。

輒曰、河原柴胡と稱せしものは、柴胡とは全く別の植物にして、『和漢三才圖會』に：



圖のコイサラハカ 鑑圖物植本日 士博野牧



圖の參人根赤 譜參人臺上坂

……河原柴胡の根は稍長くして四五寸許、紫赤色、豊州白木に出る者良し。阿波、備前、安藝、紀伊、能登、佐渡、越後之に次ぐ。但赤紫なる者を上と爲す、純紫なる者之に次ぐ、淡白なる者を下と爲す……とあるものに相當す。

此植物は、イバラ科 (Rosaceae) キジムロシ屬 (Potentilla L.) の學名 *P. chinensis* Ser. にして。

カハラサイコの名は日本學名として今に傳承せらる。

〔鑿〕日本植物圖鑑』には……其形態等を左の如く記さる。

〔產地〕山野特に河原に多き多年生草本なり。

〔形態〕葉は羽狀複葉を爲し、小葉も亦羽狀に分裂し、其裏面白色を呈す。葉間に一尺許の花梗をぬきて枝を分ち、五瓣花を綴る、〔花期〕夏秋の候〔花色〕黄色……とあり。前掲の二圖を對照すれば、同一物たること疑なし。

◎秋 田 人 參

アキタニンジン

〔一〕秋田の領内に産せし御種人參の稱。〔石坂標圖〕人參攷』に、嶽父竿齋の秋田參を修製せし記事あり。『日本藥園志』によれば、秋田藩の藥園は文政三年に開園し、猶ほ在方角館、上野、天王野留等にも其支園とも云ふべきものを設け。人參拾餘萬本を製造せし記録あり。昭和七年八月秋田縣より專賣局への回答によれば。明治二十七、八年以後に至つて栽培の跡を絶てり。其原因は山野に自生するタケフニンジンの採取利用が影響せるもの、如し……とあり。猶詳しきは、第四卷人參栽培篇に詳説す參照すべし。

〔三〕徳川中期以降に現はれし人參擬似品、何々人參と稱せしもの、一種。其秋田人參と稱せし擬似人參が一種ならざりしことは左の記載により明かなり。

『倭訓栞』に……秋田人參は防風の類、島人參の別名なり……とあり。

『小野山本草綱目啓蒙』に……羽州にてアキタ人參と云ふ是眞の蛇床子なり……とあり。

『熊谷廣參品』に……恕菴先生曰、佐渡に産する所の山人參一名島人參、又濱人參とも云。

出羽、秋田にて秋田人參と云ふ、皆一物也……云々……稻若水翁以て防風と爲す……云々。

各其名稱の項を參照すべし。蛇床子の圖、ハマニンジン項に出す。

◎啞 叭 蓐

アハツシン

滿洲の土語、下等劣種の人參。

『東華輯要』に……人參の精液の渴きたる者、價無し……とあり。即藥材としての出來上り品の劣等なる者を謂ふ。

◎會 津 人 參

アヒツニンジン

〔一〕徳川時代會津藩に於て生産せられたる御種人參。現今に於ても猶此の名稱通用す。

初め藩主御種人參の種を拜領して栽培せしも盛なるに至らず。松平容頌公の代に至り、寛政年間國老田中玄宰の進言により、種を出雲に得て其業を盛にし、爾來生産巨多となり、日本國內に供給するのみならず。安政年代には支那にも輸出するに至り、藩の財政に資したること多大なり。明治維新の際東北の一藩を以て克く官軍に抗し得たるも、畢竟人參の利益の爲め藩庫裕かにして其の軍費を支へ得たるに由ると謂ふ。

現在に於ても、其産額は出雲と共に内地の主位を占め、大正十五年度に於て、栽培反別四十七町餘、價格二十餘萬圓を算し、今に支那方面に輸出しつゝあり。其栽培地は、若松市及南會津、北會津、耶麻、大沼、河沼の諸郡にして、此等生産品を總括して、會津人參と稱せらる。

〔三〕會津藩内の山林に自生せし竹節人參の名稱。

會津藩内の山林には、此植物豊富に産せられしより、御種人參の供給未だ普及せざる享保の初年前後に於て、是を採取修製し、會津人參なる名を以て、商品として日本各地

に供給したり。其本根と鬚根とを共にして干したるものを、カモジ人參と稱せられたり。現在會津製造紅參は、本根鬚付の儘修製せる他と異なるものあり、この昔の名残なるべきか。

『小野本草綱目啓蒙』竹節參を敍する條に……會津。鬚と共に連ね干したるをカモジ人參と云ふとあり。猶竹節參竝和人參の項を見るべし。

◎會津本製

アヒヅホンセイ

現在に於ける會津人參の商品種別名。

本製とは昔ながらの會津の製造法を謂ふ。是を以て現在の白參、紅參、薄茶、豎筋等、等と區別するの稱なり。其製法は、生まの人參を洗ひ暫時熱湯に浸け、取出し爐にかけ而後天日に曬すものを謂ふ。色淡黄色を帶ぶ。

◎亞弗利加樣

アフリカデ

亞米利加人參の訛傳誤稱。

アメリカ人參則ち、*Panax quinquefolia L.* の製品が廣東人參なる名稱をもつて。廣

同亞布利加様



古方藥品考の圖
 額曰く此形態より見て
 アメリカニンジンの自然生の者なること確實なり、
 別項アメリカ人蔘の圖と合せ見よ。

東支那商の手により徳川中期日本に輸入せられ。其後それが亞米利加産なることを知りしと雖も、當時世界的智識薄く、アメリカとアフリカとを混同して斯く稱したるものなり。

『寫真人參記』にも、アフリカ手人蔘の畫あり廣東人蔘亞弗利加手と傍記せり。

『内藤古方藥品考』に……又廣東人蔘數品あり。其芍藥様ヲと稱する者形長く重實、此れを良と爲す。亞弗利加様ヲと稱する者之に次ぐ……と出づ。本書は天保年間の新鑑なるに、猶此訛稱は殘傳せりと見ゆ。

廣東人蔘、アメリカ人蔘の項を照見すべし。

◎阿勃參

アボッシン

拂菻國に産せし一種の植物藥品。

唐の段成式の『酉陽雜俎』に……阿勃參は拂菻國に出づ。長一丈餘皮の色青白、葉は細く兩々相對す、花は蔓菁に似て正黃、子は胡椒に似て赤色、其枝を折れば油は汁の如く出づ。以て輪癰に塗れば瘡ざる者無し。其油極めて貴く價千金……云々とあり。『王氏彙苑』。『程賦統會』。『職方外記』。『華夷草木考』等にも、大抵右と同様の記載あり。拂菻は一に拂菻、拂懷、拂臨等と書かれ。漢代以來支那本部と交渉ありしこと、『隋書』。『唐書』。『西域記』。『元史』等に出づ。『職方外記』の記載によれば、此藥材は唐代景教と共に波斯より輸入されたるもの、如し。此植物は英語 The Balm of Gilead にして、其唐譯に參の名を附したるは、玄宗の時波羅門僧の獻じたる者に、波羅門參と名づけたると同じく、貴重藥を意味するものなるべし。

著者不明『本草一家言』に、此阿勃參を強ひて日本産植物に附會し……阿勃參和名邊櫃又犬櫃と稱す、所々山多く之を生ず。樹短小にして長大なる者を見ず、形狀甚だ櫃に似て花は零碎黄色、實は棗の如く、生青、熟紅、江州、邊々乃木と稱す。土人油に搾る。

外科家阿勃油と曰ふ、能く小兒の小瘡を治す。一滴を瘡の上部に淋せば即ち癒ゆ。阿蘭陀一種の油を出す、保留土賀留と名く、一に阿世登宇奈と名く。皆南蠻の方言にして即ち此油也、然して未だの否を知らず。實は山茶に似て圓、食用に入るべからず、但だ外科用に入る。又藝花家伽羅木と稱する者、一名一位木、又志保志保之木と名く。信州飯田に峯蘇防と稱す、實は阿勃參に似て色は紅し、葉は阿勃參に比すれば細小、葉實愛すべし。好事家盆玩と爲す、葉形實色甚だ阿勃參に合す、直に此を以て正しと爲すべし。本邦有職家其木を采つて笏を製す、此蓋し一位之名に取つて以て官位昇進を祝するの義なり。近世修驗道の輩大峰入峰の時、阿羅良木、小藥樹木を以て珠數に製す。其阿羅良木と稱する者即是なり。とあり。

右甚しく妄説なりと謂ふべし。但た文中に……外科家其油を以て阿勃油と云ふ……とあるは或は事實なりしなるべく、當時針葉樹の一種の樹油を然く稱したるものなるべし。

加地井高藏の『藥品手引草』にも……ホルトガル。バン國の木のみのおぶら也……とあり。當時此名稱ある、オランダ處方の藥劑ありしなるべく前記日本産のものは其擬似品なるべきか。

◎亞米利加人參

アメリカニンジン

〔一〕亞米利加北部に産せし野生人參。

Panax 屬の一種にして、學名を *Panax quinquefolia* L. と稱す。西紀一千七百十六年、一佛人が英領加奈陀のモントリール附近の森林中に於て發見し。専らインデアン人をして採集せしめ、支那に輸出して大利益を得、爾來數年ならず一の重要輸出物産となれり。其人工栽培に着手せしは、一千八百六十年頃よりにして。此に成効繁殖して多量を支那に輸出するに至りたるは、一千八百九十八年頃なり。其輸出量及價格は一千八百二十一年より一千九百十年までの間に於て。量目最大六十四萬磅、最小十三萬磅、價格の最高は百四十萬弗、最小六萬弗なり。其耕作地方は、ニューヨーク。ウキスコンシン。ミシガン。ケンタッキ。ペンシルバニア。ミズリー。オハイヨ。イリノイズ。北カロライナ。インデアナ。アイオワ。ニューゼルシー。ミソネタ。マサチユセツト。オレゴン。カリフォルニア等、等の諸州なり。以上は『三博士米國蔘業調査書』による。右は明治四十年代の調査なれば、現今は上記とは多少の相違あるべし。

此を日本に齋らせし最初は、延享四年印四番シャム船が長崎に齋らせしとも言ひ、又寛政九年に和蘭船が長崎に舶載せしとも云ふ。前後の事情より稽へて前説可なるが如し。最初に廣東船が持ち來り、商略上其産地を隠して支那産の如く装ひし爲め。日本に於ては廣東産と信じ、廣東人蔘又は略稱して廣參とも稱呼せしが。其外國産たることを判明したる後には、アメリカ様デとも稱せられたり。其舶載當初の事情は廣東人蔘の項に於て詳説せり、其項を併せ見るべし。

本植物の形態は、苗根、花、實色共に總て朝鮮人蔘と同一なれど。但だ葉の圓み太く、其鋸齒縁鋭く太く、花梗短かく。一見したる感じは、朝鮮人蔘の如く、ヤワラカ味無く、鋭どし。

本植物の形態等に付ては、『根本牧野日本植物總覽』に左の記載あり。

多年草、高一尺、根は紡鐘形、屢ば二岐、葉は長柄、概ね五出、小葉は卵形或は倒卵形、鋭尖頭、齒牙縁、繖形花序は六乃至二十、花梗は葉柄より短、花柱は通常二、果實は鮮紅色。

栽培 原北米。

〔二〕 人蔘とは別の食用植物。

『根本牧野日本植物總覽』に左の記載あり。此稱呼何時よりなるかは不明。食用ニンジン

の擬似名なるべし。

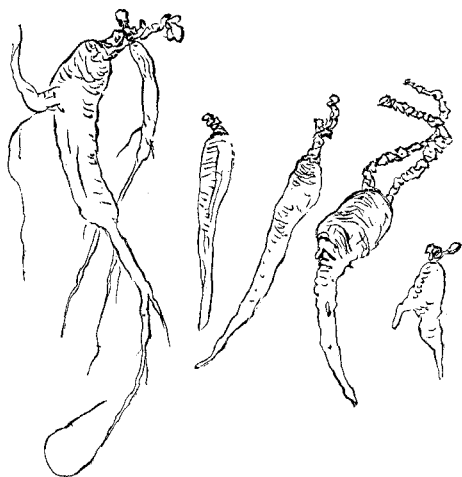
繖形科 Umbelliferae アメリカカバウフウ屬 *Pastinaca L.* の *P. sativa L.* アメリカカバウフウ。アメリカニンジン。

二年草、高三尺乃至五尺、莖は多溝、葉は單羽狀複生、小葉は三四對、卵形或は長橢圓形、鈍頭、齒牙、狀鋸齒緣、往々缺刻或は三淺裂、複繖形花序は無總苞、花は黃色、萼齒片は不明、瓣片は圓形、果實は廣橢圓形 栽植(原、歐洲)

◎アメリカカーンセソム

此名著者不明『本草圖說』に出づ即左の如し。

蘭畹摘芳次篇卷十三……西洋參 諸子藥種四五種を出し其名を問ふ、談次廣東人參の事に及ぶ、「レッテキ」曰く、其品我方呼で「アメリカカーンセ、ソム」と云ふ、就て其由を問ふに、此物亞墨利加洲の屬なる「エキオルク」と云ふ地より求め來り、多く拂郎察フラシス及諳厄利亞國インシッリア人彼地より貿易し來り、廣東に輸して交易を爲すなり。乃ち「アメリカカーンセ、ソム」と書する也と云ふ。通事曰く、去年丁巳、渡來の洋船フラングブネに、「アメリカカーンセソム」と云ふものを始めて持渡れり、まさしく廣東人參なり。長崎の藥目利をして鑿



米國產野生人參 (新實物臨寫)



米國產栽培人參 (新實物臨寫)

くるよに書査調士博宅三根年五 參人カリメア

定せしむるに疑なき廣東人參なりといひしよし……余等涉獵する和蘭醫籍方劑中、未だ此品を見ず。但人參は支那の地産なる事を説き、略其形狀主治等諸書に載す。各々支那の稱する所を記し、「ジンセム」、「ニンシング」など書す。即人參の唐音の轉聲なり。

又亞墨利加「安泄」^{アンゼ}は亞墨利加地方と云事なり、蘇摸^{ソム}はジンセムの「ゼム」の再び轉せるなからん乎。因て顧ふに、「ソム」は參^{ソム}なるべし。然る時に譯して亞墨利加人參となすべし。

愚考ふごとくなる時は、此物亞墨利加地方に産する淺の一種なり。西洋人これを知りて「參」^{ソム}の名を命ずるか、未だ知るべからず、姑く録して後考に備ふ。「エキラルク」より交易の品なれども、其土産とはきこへず、北亞墨利加の何と稱する土地より出す乎。生植の形狀等を和蘭の博濟の士か、又其地に往來し生物を目睹する人等に質正して其實を究めたき事也。

再按に、西洋人別に稱する所の原名あるものを廣東に渡せて、支那人、淺類といひしを以て、洋人「アメリカンセンソム」と呼て、其本名は別にあるにあらずや。九月十八日。猶林九臯か話をきくに、往來加比丹ベートが説に「ソム」は亞墨利加産を以て天

下第一とすといへり、……とあり。

『あり、まゝ』に……廣東人參の功能ある事、世人あまねく知る所なり……。然るに寛政九年丁巳のとし、阿蘭陀の船アメリカ人參といふものを載せ來れり、全く廣東人參なり。蘭語にアメリカガンセンソムと呼ぶよし、參ソムは人人の變名、フランス、リンキリス等の人。アメリカのエキナルクといへる地より、交易し來るといへり……とあり。

是れを朝鮮人參にくらぶれば、其の功はひとしけれども、其能少しおとれる所あり。たとへば玉と水晶との如く、能く光らざるにあらずして水晶は玉の蘊醇含畜の氣象に似ず。きら／＼しく、げやけき意ありて。病者の肌熱を動かすおそれなきにしもあらねども。其の成功にいたりては韓參と伯仲の間にあり。然るに近來の一説には、廣東人參はもと人參にあらず、彼地に生ずる所。本草に所謂三七根なりといひしより。世人多く疑惑を生じ異説紛々たり……云々(下略)。

◎ 有 體 參

イウタイシン

人間の形をせし人參。後に上等の人參の意味に使用す。有體人參の項を見るべし。

◎有體人參

イウタイニンジン

略して有體參又略して體參と稱す。

人參の中其根形が人體の形態に似たるものは特に神効ありとして貴ばれしこと本草諸書に出づ。支那朝鮮に於ては今猶此思想あり。有體人參とは則ち人間の形を有する人參の稱後に至り轉じて上等の人參といふ意味に使用せらる。

〔一〕人間の形を爲せる人參。

〔高麗史〕趙彝傳に……元の丞相安童の命に依り、金裕等は來つて。海東三山液藥方といふ仙藥を合成すべく、有體ゲ人參を求めし……記事あり。高麗元宗の時なり。此高麗史の体の字は本來は體テイにして劣ると云ふ意味の字なれど、茲には體の略字として書かれしものなるべし。

〔二〕上等の人參。人間の形に似たる事と關係無し。

〔萬機要覽〕に對馬よりの年例送使に給する物品の條に……單參一斤、體參十兩八錢、尾參五兩二錢……とあり。〔江界邑誌〕に……英祖甲寅、體參一錢代一兩五錢、同壬申初めて體參三十五斤、尾參二十五斤を卜定……と記せり。

今現に江界附近に於ては、此體參の名稱を上等の人參の意味に使用しつゝあり。昭和五年頃の同地の山人參の相場を示せば左の如し。

山參名稱、重量、價格

體參	一根十匁以上の者	價	七拾圓
一 枝	二根にして同上	同	四拾圓
三 枝	三根にして同上	同	貳拾五圓
四 枝	四根にして同上	同	拾五圓
五 枝	五根にして同上	同	六圓
細參	六根以下にして同上	同	貳圓

人形參、成形人參、孩兒參等の各項を併せ見るべし。

◎ 移 山 蓐

イサンシン

自生人參の幼根を山より移し植えたるもの、滿洲通用語。

『吉林地理記要』山人參採りの事を敘する條に、……亦下山の後蓐營に移植する者名けて移山蓐と曰ふ。堅壯また佳品と爲す……とあり。營は山間移住者の一區域を

指す。

◎出雲人參

イツモニンジン

出雲に於て栽培製造せらるゝ人參の稱。

其起原は寶曆十年八月、藩主松平宗衍天隆公の旨を承け、江戸青山の藩邸で、御次御内用毛坊主小村新藏に試作せしめしに始まる。それより治郷の代に及び。安永二年に、出雲意宇郡東津田村に人參畑を作りしも、爾後成績不良にして遂に中絶せり。寛政年間茂重の代に至り、藩より吏員を日光會津に派し。其栽培製造の傳習を受け、歸つて後、八束郡大根島に移植し、藩營として經營す。文化三年に至り、百姓にも其栽培を許し。其製産額漸増加するや、他國賣りの事を江戸表に願出許可を受け、栽培を擴張して百八十畑を五百畑とし。大阪に人參賣支配人を置きて日本國內に販路を擴張し。後には長崎廻送に手を延ばし、支那に向け輸出したりも、天保以來幕府より其輸出品の制限を受け一時頓挫せり。明治維新後藩營を廢し、人民の自由に任じ爲めに其統制混亂せしたため、明治二十三年同業組合を設け、製品検査を勵行し、市場の信用を恢復したり。其販賣方法は神戸商人の手を経て支那に輸出す。其商品別號た

る昔ながらの、旭、宇、宙、天、鳳、仁、義、禮、智、信、等、等の記號は、今に支那に於ける信用を保持せり。現在の栽培地は、八東、能義、旗川、大原、仁多、飯石の各郡にして、其内八東郡大根島最も盛んなり。昭和七年の産額は六萬四千餘圓なり。

◎糸

じ

め

イトジメ

徳川後期に於ける技工製人參の一種。人參に絲を纏繞して緊壓し、輕鬆浮虛なるものを堅實なる如くにしたるもの。

『樂田日用藥品考』に……凡そ市家に賣るもの眞物は甚だ希にして、多くは本邦にて諸參を以て偽るものなり……。と説ける中に……糸ジメヨシノ。人參にて偽るもの……とあり又……總て偽品は皆砂糖或は鶏卵を以て柔潤ならしめ、或は締木を以てし、或は糸を纏て堅實ならしめたるものなり……とあり。

人參は凡て堅くよく緊實せるものを貴びしに由る。右吉野人參とあるは竹節人參の垂直根のものを指す。

◎狗

人

參

イヌニンジン

『^{本草}披上人參譜』に、野人參の別名として出づ、其項を見るべし。狗とは、犬蓼、犬山椒、犬蕨等、等の如く、類を同くせる下等品、又は似て非なる者の意味也。

◎ 岩 人 參

イハニンジン

繖形科 (Umbelliferae) のシラネセンキュウ屬 (Angelica L.) の一植物。A. hakonensis Maxim. の日本學名。

此名稱『^{本草}披上人參譜』に出づ、其記載左の如し……。



圖の鑑圖物植本日 士博野牧 ンジンニハイ

〔產地〕 山地に自生する多年生草木なり。

〔形態〕 莖の高さ三四尺に達し、一葉は數回分岐せる羽狀複葉にして、小葉は通常卵形を呈し、邊縁に大小不齊の尖銳鋸齒を有す。梢上に枝を分ち、複繖花序に五瓣の小花を簇生す。葉柄本に細長き鞘あり。〔花期〕 秋日。〔花色〕 淡黃綠色。……

何に因り人參名を得たるか、何時頃よりの名稱なるかは明かならず。

◎인삼 (in-sam-i)

インサム

人參の朝鮮語。삼或は삼に作る、人參なる漢字の朝鮮よみの發音現在も此語を使用す。

朝鮮には古代より李朝の中期まで、全道豊富に自生人參を産せしを以て。古へ其土語ありしならんも、今亡びて傳はらず。畢竟するに、其本草學的の藥草たることを覺りたるは百濟、新羅各支那より文籍傳來により教へられたるものの如く。土語亡びてインサムが一般的通用語となりしものならん。但だ平安、咸鏡兩道國境沿ひに於ける山人參採りの職業者のみは、今も人參の隱語として滿洲土語の轉訛たる、ボッコォー(芳草)の語を使用せり。

『雨森交隣須知』には、インサムの諺文をインと書けり。『芳洲交隣須知』には、インサムの諺文をインと書けり。クーラン（韓佛辭典）にはインと書けり。

◎因陀羅訶塞多

イングラカソクタ

此名稱人參の梵名として、『和保前本草通串』に因陀羅訶塞多梵説として記さる。

何より引用したるかは不明也。摩訶陀軫師供奉訶梨勒方に……訶梨勒者、元非大地草藥也、上至有頂天、名因陀羅、其天於諸天命最長、此天服餌飲藥、入腹盈滿、睡涎口、多吻流落者、地因而生訶梨勒、其藥惣有七名。一名毗誓耶、二名底移、三名盧纈尼、四名鉢夜娑婆、五名菴末多、六名蒔表知、七名訶梨勒耶。惣名訶梨勒……云々とあり。『香藥抄』所載。訶梨勒は一に訶黎勒に作る。番木にして支那南方諸省に産し、樹は木櫨に似て白花を開き、實は梔子に似て色青黄、皮肉相著く。新秋の時熟す、上に凹紋六行有る者を以て佳と爲す。葉と實核と皆病を療すべし。『中國醫學辭典』

此藥材を使用せる處方は、『濟生方』、『金匱要略方』、『大平聖惠方』、『證治準繩方』等に出づ。人參とは全く別物也、梵譯の誤なるべし。

『博士植物名彙』に左の如く出てたるものと同一なるべきか。

Cassia Fistula, L. (Leguminosae) nanban-Saikach.

波斯皂莢(酉陽雜俎)。忽野簷獸 Khiyar-chambar (Persia) 阿黎 ahi (Parijab) 阿勃勒 annultus (Benge) amaltus (Hind) (P.) (Jap.) 長菓子樹 (H. M)

(P.) 本草綱目 (Jap.): = by Japanese authors. (H. M): = Henry, Aug., -Anahabeticallist of Chinese names of plant ined.

『延喜式』に呵梨勒丸の名出づ。『海藥本草』に婆羅門參の梵名として河輪勒陀なる名出づ、以上皆同一物なるや否は不明也。

『酉陽雜俎』の記述は左の如し

波斯皂莢は波斯國に出づ。呼んで忽野簷獸と爲す。拂林呼んで阿梨_去伐樹と爲す。樹の長さ三四丈圍四五尺、葉は枸椽に似て短小、寒を経て凋まず花せずして實る。其莢の長さ二尺、中に隔あり、隔内各々一子あり。大き指頭の如く赤色。至つて堅硬。中黒ふして墨の如く、甜きこと飴の如し。食ふべく亦藥用に入る。

とあり。木項の植物は皆前記植物名彙の指定の如く

マメ科 Leguminosae カハラケツメイ屬 *Cassia* L. のナンバンサイカチ *C. Fistula* L. なるべし。

◎ 芋 角 菱

ウカクシン

此名初めて明の陳嘉謨の『本草蒙筌』に現はる。則ち……百濟參、白堅且圓、白條參と名く、俗名芋角參……とあるものなり。

百濟參なる名稱は、百濟滅亡後に於ても猶久しく支那日本に於て稱呼通用せり。芋はシゲルの意なれば、角のしげれる形狀、則ち根の多く分岐せる人參の形態より名けられたるものか。羊角參の中特に角の多きこと、彼の綿羊の角に一角三四本あるもの、如きを指したるか、或は羊の字の古文は羊フなれば、羊角參を誤りたるか。又或は本草蒙筌の版字が羊を芋に誤りたるか。以上の何れかなるべく、此名稱は他には餘り使用せられ居らず。

羊角參の項參照すべし。

◎ ウ キ デ 浮 様

徳川後期に於て藥肆が輸入人參に對し名けたる人參品等名。

『藥肆人參識』に……泡參 此方の藥肆ウキデと稱す……とあり、此方とは日本を指す。

泡參の部及ウツカ、ウブ等の項參照すべし。

◎ウコギ人參

五加人參又五加木人參

竹節人參の別名。

『^西人參辨』に竹節人參の別名として此名出づ。

『古今要覽』に……ウコギ人參。俗稱 按に此葉小なるものはうち葉の如。故に此名あり……と出づ。

ウコギは人參と同じくウコギ(五加)科の落葉灌木にして、其葉も繖狀花序も人參によく似たり。學名を *Acanthopanax spinosum*, Miq. と稱す。

前項とちの葉の如し……とあれど唯掌狀葉が大略似たるのみ、眞に似たりとは言へず。

◎羽州人參

ウシウニンジン

徳川中期に現はれし人參擬似品の一種。

『^{坂上}人參譜』に……月山に生ず、土人月山人參と名く……とあり。此名稱坂上玄臺の

命名なる如く、他には使用されず。

山人參の項を見るべし。

◎薄茶

ウスチャ

現在の會津人參の品種名稱。小ガタの人參にして薄茶色を爲せるもの。

◎ウツカ

徳川後期の人參品種名。

『岡本和語本草綱目』に……浮ウツカ人參或は服とも云もの、本綱の湯參なり。朝鮮産の人參を完なからの藥に用ひ其後を晒乾して本邦に渡す也、功用甚微也……とあり。『黒川本草辨疑』に……煎じて汁を取り查カスを乾して製す……。『加藤和漢人蔘考』に……湯參 西子云ふ、綱目に曰ふ。人參を以て先づ浸し乾し復た售る、之を湯參と謂ふと矣。今之見る所、形沙參の如くにして輕虛也。藥肆中古へ之を浮ウツカと謂ふ、又服と名く。今は浮と呼ばず、單に服と稱すのみ。而して服とは汁を取つて之を服するの義也……云々とあり。

朝鮮人參の輕虚なる下等の者なるべし。右二氏の説に、煎じ殻を干したるものとせるは誤なり。本草綱目に李時珍の説として湯參と稱し……近ごろ又薄夫あり、人參を以て完浸汁を取り自から擧り乃ち晒乾して又售る之を湯參と謂ふ……とある、記事を信據するに過ぎ。其湯參なる一種の品が爾來世に存在するものとする前提の下に自説を出發せしめたるものなればなり。徳川時代の本草學者皆多少如此類の弊に陥らざる者なし。然して明の萬曆時代に、或は偶に右の如き薄夫ありしならんも、商品としたる相當の大量を、一々汁を擧りたるカヌを更に製作し外國に渡すものとは考へられ得ざればなり。

湯參の項を參照すべし。

◎ ウバタケニンジン

姥嶽人參（ウバタケニンジン）

繖形科 (Umbelliferae) ノダケ屬 (Peucedanum L.) の一植物 *P. ubatakense* Makino の日本名。右の名稱『（略）日本植物志』に出づ、左の如し。

宿根草。三五寸—尺餘、細毛、葉に三四回羽裂、裂片線形。更に疏裂。繖梗二十許、小繖梗多數。總苞は缺如一—二、小總苞數片。花は白色、帶紫葯。果實は長楕圓形。

◎生玉人參

ウブタマニンジン

徳川中期以後の藥肆人參品種名稱。生は加工せざる生れの儘の意味、玉は根の魁状をなせるもの、意味。

『小辭本草綱目啓蒙』に……生玉人參は寛保中唐船に齎し來る、形小なる白及根の如く又科斗の形に似たり堅紋にして横ならず、黄黒色、味甘にして微苦……とあり。『加藤和



加藤玄順 和漢人參考の圖
生玉參

漢人葑考』に……西子云ふ、又藥肆中の稱呼也。寛保年間華船載來す、其形蝌蚪の如く縦理あり、横紋無し、其色黄黒、市中赤蝦手と呼ぶ者と同じ焉。味苦く微甘を帯び、齒に粘る、然して多く載せ來る有らず、本邦の三椗五葉參初生のものと、其根の形狀相似たり……云々。『藥人參識』に……生玉參 此方俗稱 西章人參論に云、此れ肆中の稱呼なり。寛保年間華船載來す、其狀蝌蚪の如くにして縦理あり。其色黄黒、肆中赤エビと呼者と略同じ、味苦甘にして齒に粘す……と。前掲本草啓蒙と同じく、西章人參論

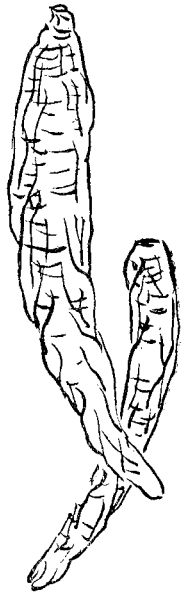
の記載を掲げ。猶……按に近來此品を見ることなし、亦シマ夏の稱も詳かならず……と曾榮の意見を加へあり。

何の植物の加工品なるかは不明なれど、一種には非ざるべく。アメリカ人參の中には根の塊状を爲せる者あり。それ等も或は此中に交り居たるものならんか。

◎ウ ブ デ 生 様

生人參に同じ、其項を見るべし。

ウ ブ デ 宇 夫 様



古 方 藥 品 考 の 圖

◎ウ ブ 人 參

生シマ產等とも書けり。徳川中期以後に於ける人參の品種名稱にして、初めは藥業取

引者間に於て名けられ使用せられ。後には藥肆醫師、本草學者間に通用するに至れり。

其語源に付ては、(1)ウブ則ち處女のウブなりと云ふ如く、手の入らざるもの則種々加工を加へざるもの。(2)ウブ即生にして根のナマのもの。(3)ウブ則幼にして根の

ウブ尾屈セザルモノ



ウブ根ノ末ヲ上ニ屈シテ糊ニ
テ粘ス唯目盛ノモノヲ眞トス



藏士博井白故 圖の記眞寫參人

幼なるもの。等々の諸説あれど、何れも首肯するに足るものなし。ウブの外にウツカ、ウツス等の稱もあり。元來此名は長崎より初ましものなれば、長崎に於て清商が稱へたる、支那人參品種名の轉訛なるべし。

其ウブと稱する人參品種に付ても、確として一定したるもの無く。同じ時代に於ても時代を異にして見るも。其品が一定したる標的なく甚しく區々に涉れること、以下に記すが如し。

『小野本草綱目啓蒙』には……韓參にウブ、單參の二品あり、其ウブと呼者は、根は圓にして扁ならず、枝ある者も糊にて粘す。根の大に見る爲なり、此をまがり手と稱す……又同書に……又御種人參の横紋多き者を以て韓のウブに僞る者あり。甚辨別し難し鉛を入れたるあり、肉をすぎ去るもあり、尾を曲たるもあり。是ウブの僞也……とあり。『内藤古方藥品考』に……又宇夫人蕚あり、形瘠小にして横文少なし。淺鬚中より得る者……とあり。『本草一家言』に……ウブ 根の上を屈けて糊にて粘す、唯自蘆のものをも眞とす……とあり。『兼葭堂人參錄に』は……産ウブ 生人參也と云は甚非也。生人參は異國より渡來したることなし。産人參、製人參の纏造せざるものなり……と出づ。

◎雲 州 人 參

ウンシウニンジン

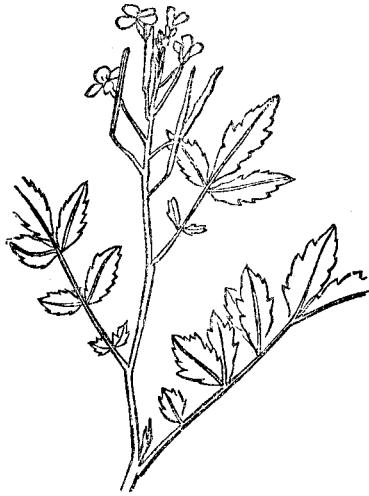
出雲に産せられし人參の稱。出雲人參の項を見るべし。

◎ エゾノジヤニンジン

蝦夷の蛇人參

十字科 (Cruciferae) タネツケバナ屬 (Cardamine) の一植物 *C. nasturtifolia* Boiss. の日本名。右『牧野日本植物總覽』による。同書形態の記載其の如し。

牧野博士 日本植物圖鑑の圖



ンジンニヤジノゾエ

莖は脚部葡萄生、葉は頭大羽狀全裂裂形は六乃至九對、狹披針形花は白色、總狀花序は密生、瓣片は萼の三倍長、角は銳尖頭、開出一花候六月 北海道……。

此名稱古書に見えず、何故にニンジン名を附したるか、何時頃よりの名稱かは不明。

◎エ ヒ デ 蝦 様

蝦手人參と同じ。其項を見るべし。

◎蝦 手 人 參 エビデニンジン

徳川中期後に命名したる人參品種名稱。其形蝦の形態に似たるより名けらる。略して蝦手とも云ふ。エビの字蝦鰻海老とも書き、又鯰の字を書けり、此字は魚扁に人參の參の字の省畫ミをツクリとしたる新造字なるべし。手は様とも書く。又其色に依り白エビ、赤エビの稱あり。

此人參名徳川中期以降支那、朝鮮より輸入されたる人參に對し、長崎に於て付けたる名稱なるべし。後に藥肆、醫師、本草家に通用す。而して此名目は二個の異りたる人參に充てられたり。

「一」人參の根形が多少畸形となり、稍や曲がりて海老の形に似たるもの。

『加藤和漢人藎考』中、長崎人より聞取りたる記事の中に……海老エビ様 デ 長崎口、對馬口兩方より來る。其形小海老に似たり、日本にて名けたり。此人參大抵は一本立にて繕ツクロビ

すくなし。中もよく充實^{ツツリ}て上人參の如しといへ共潤すくと無し。カラ〜とカハキたるものなり。

此人參につき種々の説あり……と左の意味の如き記述あり。

(1) 惣じて人參はいづれも、一ト蒸して乾かすものなり。此エビデは蒸しの過ぎたる故に此の如き形となる。(2) 上人參の箱の底に數十年もありしもの、此の如く變形す。(3) 上人參の古くなりし者を見るに、何れも如此形とはなり居らず。瘦地に生じ歳久くしてカヂケ固まりたるものなり。(4) 極寒の時に採取したる者にて。此を乾かす時、寒氣の爲めイテたるものなり。

猶同書には、加藤懿之の言として……五六十年前に海老様と云ふもの一向に無し。今藥肆海老様と云ふのは湯人參にて一遍煎したるものなり……とあり。此五六十年前と謂へるは、寛文延寶の年代に當る、未だ朝鮮に於て人參の人工栽培に着手せざる前なれば。自然生、人參の下の者なるべし。

『和漢三才圖會』には……一層の妄説を記せり。蝦手人參は白頭山の産にして韃韃より出づ……蓋し韃韃の土地は水清からず毒多し、故に其富豪の者は常に人參を井中に浸し其水を用ふ、更に人參を採出して之を販ぐ。故に飴色を帯び尾端は曲り蝦

の形に似たり。所謂湯人參の類乎……とあり。

『小西長左衛門人參考』には……半須海老様と云ふ一種あり鉛入多し。是も朝鮮の産也、製へざるもの故、少しもシメリケ無く色合もよく心地よき物也……云々……。是も新渡無之……とあり。

『佐藤中藻志』には本項に該當する圖出づ、左に示す。

以上何れも同一種類の物なるべし。

〔三〕 人參の修製法の一種として、根の一部を上に向けて纏着したるもの。

此修製法は、今現に全羅北道錦山人參、全羅南道同福人參、慶尙北道豊基人參に於て別圖の如く製造せられ居るものなり。開城人參に於ても嘗て此修製法によりし事あり、今無し。蝦手は一にシリマゲとも稱せられたり、尻を曲げあるの意なり。

朝鮮に於ては今此れを曲參と稱す。畢竟如此修製法を用ゐし起原は、人參の價漸々暴騰したるにより。其一小根をも量目に算入せしむるを利益とし。且つ商品として遠隔の地に荷造輸送するに方り折れ摧くるの損害を少なからしめん趣旨に出たること明けし。今現に平安、咸鏡の北邊に於て、山人參を乾製する時、此曲參に似たる方法を執り居れり。

『正簡藥田日用藥品考』に……朝鮮參に數品あり、今渡るもの產單參ツツの二品あり。根の形圓、枝を糊にて粘す、根の末寸餘上にまげて亦糊にて貼す、根の大に見ゆる爲也。是をマカリ手又シリマゲ、又エビテとも云ふ。此太き所には必ず鉛を多く入る……とあるは本項に該當す。又『内藤尙賢古方藥品考』に下に示す如く、新山の稱ある本項に該當する人參の圖出づ。

【三】 形狀不明の海老手人參の記載。

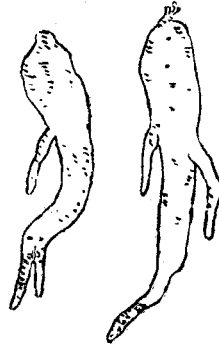
『中野本草綱目啓蒙』に……又一種蝦手と云あり。市人諸參中より揀び出す、赤白の二品あり。其白色なるを白蝦手と云ふ……『田村藥肆人參類集』に、此の第十八の參は、藥肆に呼で海老手の人參と稱する上好なる者、五六十年以前に舶上に來れる者あり。其狀大小等しからずと雖も、黃潤透明にして微赤を帶る者なり……云々……人參或問に述ぶる所の海老手とは又別種なり……とあり。『熊谷廣參品』に……蝦手と稱するもの色赤く味劣る。相似て色白きものを白蝦と云、味亦劣る。賈舶の説に蝦手人參は冬時採取して氷結するなり。且久しく年經たるはアメ色になる。肉の潤液外へシミトナルとみへたり。性は冬採る故に堅實にして輕虛の者に勝る……とあり。此等は以上「一」か「二」かに相當するものなるべし。

勝成社葦志の圖



蝦 樣

萊商堂人參錄の圖



參 蝦

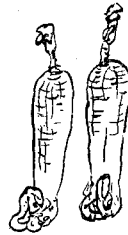
和漢藥考新山の圖



寫真人參記白手の圖



現今の同福人參 賴臨寫



現在の豊基人參 賴臨寫



現在の錦山人參 賴臨寫



『對馬文書』巨冊の人參書類中に、蝦手等の稱一も無き點より見れば、此の稱號と其品は公の取引のものに非ざりしことを知るべし。

◎ 蝦 人 參

エビニンジン

竹節人參の別名。

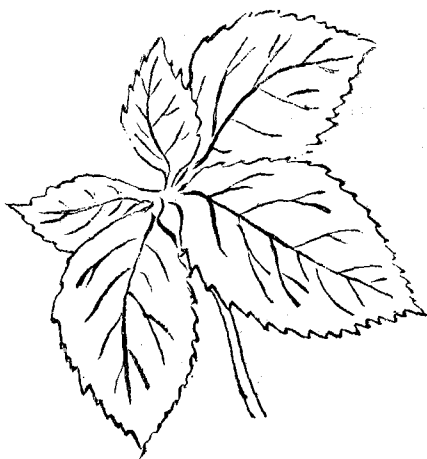
『服部人參譜』に……薩摩人參 薩州、信州、野州、日光諸山之ありと雖、薩州の者最多し。故に今藥肆薩摩小人參と謂ふ……云々……一に蝦人參と曰ふ、此れ形に因つて名くる也……とあり。

他の文獻には如此記載なし。本書は享保十二年頃の著なれば、其當時の人參事情より如此名稱ありしと考へられず。若しありしとするも稀有のものにして、此名稱世に行はれざりしものならん。

◎ 圓 葉 人 參

エンエフニンジン

竹節人參の中、小葉の比較的普通のものより圓みを帯びたるもの。此名前田利保本草通串の附圖に出づ。



國通草本 人參和是國諸自の生もの

此形態の竹節人參は、未だ近代の植物書に採録され居らず。通串に掲載のものが一品種たるや否やは不明なり。

本草通串附圖に圖ある外に、記事は無し。故に何地の産なるや不明也。

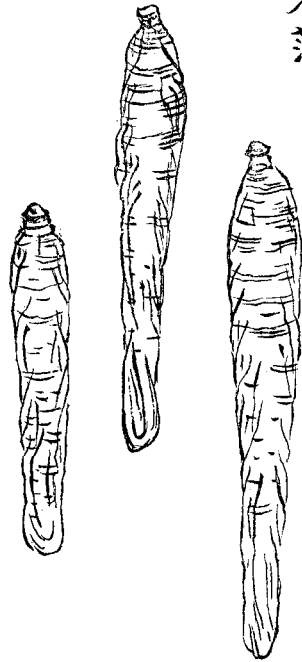
◎御種人參

オタネニンジン

享保年中、徳川八代將軍吉宗は、宗對馬守に命じ、朝鮮より人參の生根及種子を取寄せ、之を下野國下都賀郡内に試種し、後次第に繁殖す。其日光の種子を賜與又は頒

與し栽培せしむ。其栽培したる人參を世に御種人參と敬稱せしが。後に至りて、日光産を初め其種統系の人參は、全部御種人參の名を以て稱呼せり。

御種人參



古方藥品考の圖

『具原大和本草』に……人參生根、昔朝鮮より來り江戸にあり、今は無之……とあるを。

『小野大和本草批正』に……人參生根 おたねの未だ來らざる以前なり、御種は享保中

來る……と訂正せり。『小野本草記聞』に……朝鮮種を種するを御種人參と云ふ。形狀

は和に同じくし直根なり。其の異なる處は實の形扁にして圓にならざる也。實を

わると仁三つ連りてあるなり、和産は仁一つなり。是れ和と朝鮮との異なり……と

あり和は和人參の略稱竹節人參のこと。『内藤古方藥品考』に……享保年間、大府朝鮮に

命じ渡種を貢せしむ。今諸州出す所、御種人參と稱するものはなり……。『八代古今要覽』に……。今御種人參といへるは、享保の御代朝鮮に命じ、遼東、百濟の二種の參十株を召寄せられ。江都の官園、下野の日光山にうへさせ給ひしを始とす……。『立森神農本草經攻注』に……。朝鮮種今諸州に蕃殖す、而して野州日光産する所、最上品と爲す。號して御種人參と曰ふ……。『甲斐國志』に……。明和二年の春、逸見西井出村與兵衛と云ふ者、一橋殿より御種人參種六十二粒を賜はり。八岳中央の黒壤を運び、庭中に圃を築き……。云々。

『甲子夜話』に……。享保の御仁政數多き中に、第一は御種人參なるべし……。とあり。至言と謂ふべし。

此御種人參の元祖となりし朝鮮種の渡來年月に付ては、徳川時代の諸書の記載を、本件の史料として最確實なる『對馬文書』に照合するに、誤謬のもの多く、明治以後の人參記述亦其誤謬を襲用せるもの甚多し。詳しく第四卷、人參栽培篇に修正し置けり。照見すべし。

◎オナガヤブニンジン

尾長鯨人參

徳川中期後の人參擬似品(?)の一品種としての日本學名。

繖形科(Umbelliferae)のヤブニンジン屬(*Osmorhiza* Ref.)の一植物 *O. amutensis*, Fr, Schm. の日本名。

右の名〔夜野
田中〕『日本植物志』に出づ、同書の形態の記載左の如し。

宿根草。一二尺。葉は三出羽狀全裂裂形は三四對、長橢圓形、銳尖頭、齒牙狀鋸齒。

小繖梗三五、小總苞五六。果實、主肋上々向剛毛、宿存花柱長し……。

附記『本朝食鑑』には、……胡蘿蔔の項に、一種野人參なる者あり。形相似て之を用ゆるに堪へず、野人參は藪人參と同じ。而して其中に蒿本あり、細辨すべからざる也……とあり、元來ヤブニンジンなる植物、食用ニンジンの擬似品として命名せられしものならん。

◎オホツリガネニンジン 大鈎鐘人參

徳川中期後人參擬似品の一。その一品種の近代命名の學名。

桔梗科(Campanulaceae)のツリガネ人參屬(*Adenophora* Fish.)の一植物。 *A. polymorpha*, Ledeb var *pereskiaefolia*, Makino. の日本名。

右の名稱『牧野日本植物志』に出づ。同書には其形態を左の如く記せり……。
宿根草。二三尺。葉は輪生尖卵形―尖卵狀長橢圓形の粗鋸齒。花は稍輪生式圓錐花序。萼裂形は線狀披針狀微細齒……。

◎ 大 人 參

オホニンジン

大人參ダイニンジンの項を見るべし。

◎ 大 横 人 參

オホヨコニンジン

徳川中期に現出せる擬似人參の一種。

『小野本草綱目啓蒙』に……オホヨコニンジンは即ハダカホウヅキ龍珠也……とあり。

『熊谷之欽廣參品』に……大横人參 恕庵先生曰ふ、嗟峨の花肆鬻ぐ此方莖圓く葉は龍珠草
アタゴホウヅキ 羽扇ウツギのアタゴホウヅキに非ず。別なり、赤圓實を結ぶ、又蜀羊泉シヨトウケンの實に
イヌホウヅキ 似たり。全く參類に非ず漢名未詳……とあり。

ハダカホウヅキに付ては、『牧野日本植物總覽』の記載左の如し。

ナス科 Solanaceae ハダカホウヅキ屬 *Tubocapsicum Makino*. ハダカホウヅキ *T. anomalum*

Makino.



日本植物圖鑑 牧野博士

ハカダホヅキの圖

多年生、高四五尺、全株無毛、葉は單立或は雙生、膜質、卵形、橢圓狀或は披針狀卵形、長銳尖頭、楔脚、有翼柄に移行、稍全綠、花は有梗腋出、萼は杯形、截頭、花冠は黃色、廣鐘形、徑二分五厘、五裂、裂片は卵狀三角形、銳頭、雄蕊五、花冠中部に着生、漿果は無毛、濃紅色、徑二分五厘乃至四分一山谷陰地、花候秋。本州(中南部)四國、九州、臺灣。

◎ オルトホイダ

滿洲の人參土語、オルホダの項を見るべし。

◎額爾保多

オルホダ

滿洲の人參の土語。オルは草、ホドは王の意、則ち草の王の意味。此土語現在猶滿洲人の間に使用せられつゝあり。

〔醫國大藏
省編纂〕

滿洲通史

人參の事を敍する條に……支那植物中著名のもの、一にして、滿

州語之れをオルトホイダと稱し草の頭と云ふ意なり……とあり。〔參謀本部編纂〕支那地誌

に……人參を滿洲語にて額爾保多オルホダと云ふ。蓋し植物中の貴重品と云ふ義……とあ

り。

『小野蘭山本草記聞』に……朝鮮人參を紅毛にて、オルトホルタウタス……と云ふ……。

とあり以上皆此の滿洲語の訛傳なるべし。

此の滿洲語オルホダの滿洲字は、左の如し。『欽定音漢清文鑑』に出づ。



人參 (Orhoda)

力

行

◎海 貨

カイクラ

滿洲に於ける人參の別名。

此の名『東華輯要』に出づ。

◎海 參

カイシン

ナマコナマコの別名。此名稱本草古書には掲載無し。

崔禹錫の『食經』に……海鼠ナマコの名あつて出づ、『本草綱目』にも藥中に入れず、されど

李時珍は其著『食物本草』中に海參ナマコの名を出だす、其意藥物となさざるを知るべし。

而して同書に……海參は東南海中に生ず、其形蠶の如くして大、色黒く身に癩癩多し……。今北人驢皮及驢馬の陰莖を以て形狀を贗するあり。味色略相同じ、形微かに偏を帶る者は也……とあり、『五雜俎』には……海參、遼東海濱之れ有り。一名海男子、其狀男子の勢の如し、然して淡菜の對也。其性溫補、人參に敵するに足る、故に海參と名く……とあり。『藥性纂要』『藥鑑』等にも海參の記載あり。

右に據れば、海參の藥用は清代に始まりし如きも、『醫心方』中に……陰を大にする

方 洞玄子云、肉從容三分、海蔘二分、右搗き篩ひて末と爲し。以て正月白犬の肝汁に和し、陰上に塗る三度。平旦新らしき水を汲み洗へば即ち陰三寸を長ず。極驗……とある、此文中の海蔘は、ナマコを指せるものなるべく。房中家に於ては昔より薬用とせしものなるべし。

補効人參に匹敵するにより海參と名く……。と謂ふは、後とよりの附説なるべし。

◎ 孩 兒 參

ガイジン

小兒の形態を爲せる人參の名稱。

千歳を經し人參は孩兒の啼聲を發し、或は脱け出で、小兒に姿を現はし遊行す。之を食へば天上に登仙し得る等の傳説支那にあり。『抱朴子』外篇に……枸杞千歳化して蒼狗となる。人參千歳化して小兒となる……とあるを。最も古きものとなし。『異苑』に……人參一名土精、上黨に生ずる者佳し。人形皆具はる、能く兒啼を爲す……云々、とあるもの是に次ぐ。

朱鬱儀の『元覽』にも……人淩千歳小兒と爲る……。『群芳譜』にも……其の手足面目あり人形に似たるもの更に神効、之を孩兒參と謂ふ。假偽なる者尤多し……とあ

り。『本草綱目』に……其人形に似たる者之れを孩兒參と名く。尤も偽贗多し……とあり。『五雜俎』にも……千年の人參根人形を爲す。千年の枸杞根狗形を作す……云々とあり。今より一千六百年前以來より支那に傳へ來れる古き傳説的思想なるを知るべし。

而して其人參を食つて仙人となりしと云ふ記述は、唐宋以降より文籍に見はる。

『神仙感遇傳』、『稽神錄』、『平陽府志』、『五雜俎』等々に出づ。詳しくは第六卷人參雜記篇。人參と神話傳説の項を見るべし。

右の思想と其名稱は、支那典籍の輸入と共に。日本竝朝鮮にも傳へられたること、以下に記すが如し。

『小野本草記聞』に……和産にも孩兒參あり……又『小野本草綱目啓蒙』に人參の項に……古渡の中形狀人形の如き者あり。此に雌雄あり、精き者は面目共に備るあり、是時珍説く所の孩子參なり。根人形の如き者神あり、故に之を人蔘神草と謂ふと。然れども必ず拘るべからず。孩兒參と雖も輕虚なるは用るに堪へず……又和人參を敘する條に……直根の者は形狀韓參に似て鬚少く、味微甘又人形の者もあり……又別項に……唐山人參の中にも孩兒參あり……とあり。

『服部人參譜』……孩兒參即ち朝鮮上品、人形に似たる者なり。稍得難しと爲す……。

『加藤和漢人叢考』に……孩兒參 西子云ふ。本邦初めて人形を圖する者、稻先生其人

にて、最も精密を究めたるものなり。予今年官庫に於て御物數品を頒つ。其中雌雄形狀の物を得たり。以て之を眎す……云々。『小崎廣參說』に……向きに清賈あり、大孩兒參二枚を官に進むる者。鑿藥家皆言ふ、廣參なりと……あり。此れはアメリカ人參の孩兒參也。

『經世遺表』に、國境廢四郡の地へ滿洲人の侵入し來れるを敍する條に……朔野奸細の民をして山林中に潜居せしめ。其妻子を挈げ託して巢窟と爲し。金銀銅鐵を採り、鼓鑄して以て貨となし。孩兒の蔘、貂鼠の皮以て自から肥へ……云々。『芝峯類說』に……參の特大なるものあり。數歳の小兒の如し。人或は之を採れば則ち死す。故に畏れて採らず……とあり。

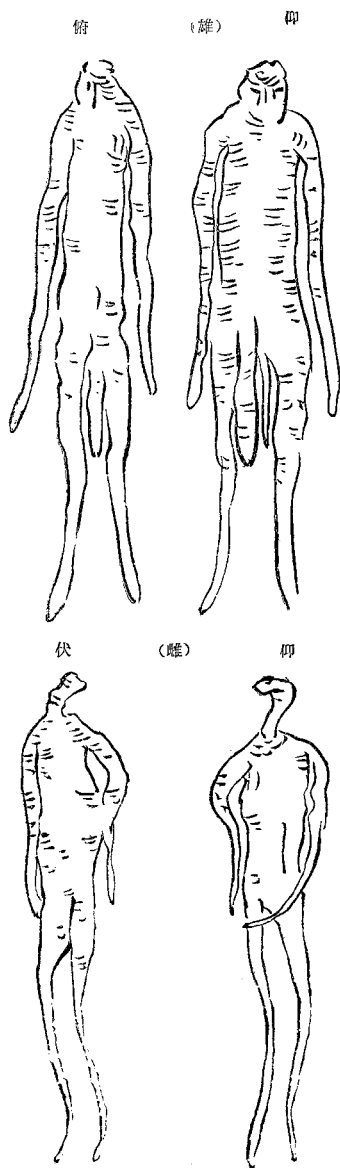
『於于野談』に……成俛微なる時出て、郊園に遊び、途中溪上樹陰に憩ふの一老人を見たる時。朝餉を勧められ、之を見れば一小兒を爛熟せるものにて。辭して食はざりしに。後にて其れが人參なりしことを知り。悔ひて後を追ひしに、彼は驢に騎して悠々として行く、成俛が馬に鞭つて疾驅するも及ばず。忠州を経て鳥嶺に迄

及び、杳然踪を失したり。其老人は、唐の天寶十四年に胎化せし呂真人なる仙人なりし、云々の記事出づ。

此孩兒參なる名稱は、支那に於て近代まで使用せられたり。則ち關稅規則たる『重訂蘇省水卡捐章』に、孩兒參、每佰筋捐錢參仟文、とあり。

孩兒參

加藤玄順 和漢人參考の圖



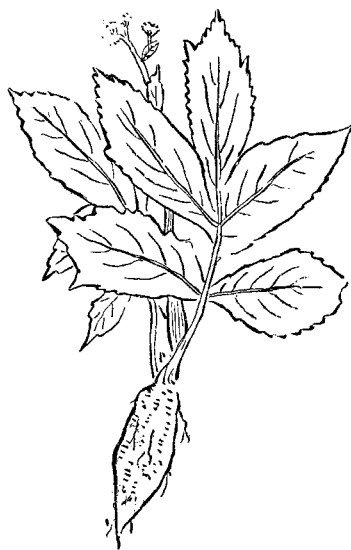
猶一言すべきは、孩兒參と、人形參、體參等の關係なり。其用字各異なりと雖も、實質は同一物なり。各其項を參照すべし。

◎海峰人參

カイホウニンジン

徳川中期に出現したる人參擬似品の一種。

『具原大和本草』に……鹹草 アシタと云ふ草八丈が島の民多くうへて朝夕の糧に充つ。彼島米穀なき故也。江戸諸州にもアシタをうふ。葉は前胡、防風に似たり、各三葉分る。莖微紅小なる者紅ならず。微し香氣を有し、微かに辛し……云々。『倭訓栞』



參人峯海 圖の譜參人 蓋立上坂



草バタシア 圖の鑑圖物植本日 士博野牧

に……海峰人參はアシタバ草也……。とあり『小野本草綱目啓蒙』に……タウダイニンジン、一名カイホウニンジン、八丈草なりとあり。『小野大和本草批正』に……鹹草 あした、あしたば、八丈草 八丈嶋にて此草にヒエなどを雜へて、粥にたき食ふ。疱瘡のまじなひとて、京邊アキの人家にもうう。葉形羌活と同じくして厚く光あり、切れば黄汁出

づ、花實亦羌活と相同じ。實生より三年目にて花實をつけ根は枯る。昔し二年目の嫩根を人參に偽り、海峰人參と稱せしことあり。葉に鹽味ある故鹹草に近し。又紀州、越後等諸州海邊にアシタと一般なる草あり。黄汁なきにて分つべし。大毒あり鬼うど、毒うど、と云……とあり。

『松岡醫用藥須知』に……又海峰人參と稱するものあり。即八丈嶋のアシタバ草の根なり。之を試むるに絶て氣味無し……とあり。『敷上人參譜』には……海峰人參、一名燈臺人參、一名アシタバに産す……と其圖出つ、『森谷廣參品』には……海峰人參 一名燈臺人參、一名アシタバグサ、一名八丈草、八丈島に産す、故に名く。葉は當歸に似て稍大又前胡の葉に似る。重臺あるを異と爲す。根は白芷に似たり、故に犬サイキと名く。稻若水云ふ、本草の都管草ならん……とあり。

以上記載各多少は異なれども、其の根基植物は皆同一のものを指す。即ち、繖形科 (Umbelliferae) シラネセンキウ屬 (Angelica U.) の *A. utilis* Makino. 日本學名。アシタバ、アシタグサ、ハチヂャウサウなり。

『整野外植物圖譜』に……暖地海濱近くの山地に生ずる、壯大なる多年生草本にして、其根は地中に直下し多肉肥厚黄色を帶ぶ。根生葉は大形にして、本に、鞘ある長葉柄

を具へ、二三出、第一、第二の裂片には柄を具へ、最終裂片は卵形にして、尖り更に尖裂し、尖裂片には尖鋸齒あり無毛。質稍厚く、葉面は生時光澤あり。莖葉は梢に至るに従ひ、漸次に小形となり、且つ分裂も少くなり。葉柄本は鞘を呈す。莖は圓柱形、高サ三四尺に達して分岐し、枝に白綠色の著しき鞘ある苞を着け、枝末に複繖形花穂を成して、五瓣五雄蕊綠色の淡黃花を滿着す。本品は其嫩葉を食用とす。和名は明日葉の意なり……と記さる。

アシタバ草の語原に付ては。アシタバ草は明日葉アシタバの義にして今日葉を蒞り置けば明日アシタバ既に葉を發生し居るの意なりとの説あり。

◎海

腴

カイユ

人參の異名。此名古書に載せず。

『侯寧極藥譜』に出でたるを始とすべく『群芳譜』、『本草綱目』等に出でたるも出所を示さず。

腴は腴にも作らる。腰下の肥大の意、海カイユの字は往々新羅の物に充てらる。例之は海松子、海石榴、海松等の如し。此海腴カイユの海も或は右の如き意味か。後唐の侯寧極藥


譜の薬名は、シャレと雅號を併せたる如きもの多し。皺面還丹の項を參照すべし。
附記 蘇東坡の人參の詩に。「上黨天下背、遼東眞井底、天泉傾海腴、白露灑天醴……」
の句あり。

海腴を海腴とせるものあり。全くの誤り也。

◎カイルコ手

蛙子様

人參品種別として根形により名けたる徳川後期の藥肆名稱。

カイルコは蛙子の意味にしてカイルコ蚪カイルコのことなり。則ち  の如き根の形状を意味す。此名稱も左記の如く、數種カイルコの者を包含す。

「一」竹節人參の中、根の比較的圓きもの。

『小野本草綱目啓蒙』に竹節參を敘する條に……圓根の者は珠の如し、タマニンジンともカブラともカイルコ手とも云ふ。竝に白色にして臊氣あり……とあり。『内閣圖書古方藥品考』に……直根淺數品あり……又形圓にして尾の短き者を多末タマデ様と呼び。或は加伊留古様と呼ぶ。俱に用ゆべし……云々とあり。右の直根淺と稱するは竹節人參の垂直根の者を指したるものなり。

〔二〕 廣東より舶載し來れる僞稱人參及アメリカ人參の根の稍長圓に近きもの。
『加藤和漢人參考』に……寛保年間華舶載せ來る、其狀シラ蛸蛸の如し……云々とあり。是に生玉參なる名稱をも附せり。何の植物かは不明なれど、其内にアメリカ人參をもありしことは生玉人參、蛸蛸人參、芍藥手、竹節參の項に記す參照すべし。

◎高麗參

カウライシン

高麗人參の略稱、其項を見るべし。

◎高麗人參

カウライニンジン

或は略して高麗參とも云ふ。此名稱は高麗なる歴史的竝地理的名稱が變遷せしに隨ひて、時に依り其意義に相違あり。

〔一〕 高句麗に産せし人參を指せるの稱。

高句麗産人參の最古き記載は、隋の沙門灌頂纂『國清百錄』中、永陽王、手自書中に、高麗昆布人參送去云々……とあり。隋の開國前、高句麗も未だ國を成さず、唯部族名たりし年代に係る記述なり。又『翰苑』殘帙に、高麗の馬多山蓋馬大山のこに人參を

産する云々。隋の煬帝時代と思はるゝ年代の記述あり。

『名醫別錄』陶弘景の注に……人蓐は乃ち百濟の者を重んず。次に高麗を用ゆ、高麗は卽是遼東。形大にして虚軟。百濟に及ばず……とあり。『陶弘景藥總訣』にも大抵右と同様の記載あり。以上の記載は高麗人參なる固有名詞として認むるを得ざれど、稍其名詞化せるを認め得べし。

〔二〕王氏高麗に産せし人參を指せるの稱。

『高麗圖經』に……高麗人參生熟二等あり……高麗人參の軀特生、在在之れ有り。春州最良し……春州は今の春川とあり。『大觀本草』宋注に……人參見に多く高麗、百濟の者を用ゆ……『談苑』に……邵化及高麗王の爲に藥を治む。云ふ人蓐ダ極めて堅く、斧を用ひて之を斷つ、香一殿に馥る……『本草衍義』に……人參今の用ふる者皆河北權場より博易して到る。盡く是高麗出す所、率ね虚軟味薄し……等々とあるもの如し。

〔三〕李氏朝鮮となりし後以降朝鮮に産せし人參を指せる稱。

王氏高麗亡び、李氏朝鮮の世となりし後も、支那に於ては、往々朝鮮を指すに高麗なる文字を用ひ來り。人參も亦高麗參を以て稱呼し來れり。『本草蒙筌』に……高麗

參紫に近く體虛なり……『五雜俎』に……人參遼東上黨の者最佳し……清河之に次ぐ……高麗新羅又之れに次ぐ。『本草原始』に……高麗參紫に近し體虛……。

『蠶尾集』に……康熙三十八年城龍に高麗人參一筋を賜ふ……王孟英の『王氏醫案』處方中に……西洋參東洋參高麗人參……の名あり。吳朱樵『本草詩箋』に……。

人參高麗の者良し……『清代野記』屬國絶貢先後の章に……遂に我駐英公使と緬甸條款を訂す。朝鮮は則歲例貢あり……云々……彼國の商人恒に歲貢に藉り以て

大利を獲。蓋し貨物を以て貢品中に雜ゆ。兩國の境に出入す皆免稅也。高麗蓆を以て大宗と爲す……『增補文獻備考』に柵門後市。朝鮮より支那に赴く使節並隨員等が其機會を利用し貿易を行ひし鳳凰城より

五里許に。高麗人參局の設けありしこと出づ。同治四年校刊『欽定戶部則例』稅則。

東海關江蘇省雜貨稅則に……人參高麗蓆每拾筋……各稅五兩……廣東省釐金稅則

に……高麗參每拾筋……各稅五兩……『重訂蘇省水卡捐章』に……高麗參每筋捐錢貳百文……『吉林地理記要』に……高麗參の粗製法に假ふ……今の開城の紅等參製法を指す

々とあるが如し。

支那に於て朝鮮人參主として紅參を高麗參と稱呼することは。現に今日に於て猶通用しつゝあり。

〔四〕近代滿洲吉林省に於て栽培せる人參の中、朝鮮種のもの。

『吉林地理記要』に……種、葎中、洋葎、高麗葎の別あり。別折甚だ微なり……云々とあり。此の洋參とあるは、東洋參、則日本タネの人參を指す。

〔五〕徳川中期以後に於て名稱付けたる者。

江戸時代人參熱甚だ盛となるや。(一)藥種商、支那貿易商等商略上より、支那朝鮮より輸入する人參にも、種々の名稱を附け人を幻惑したり。中に高麗人參あり。(二)また本草學者醫師等が、藥材の研究上支那の本草書醫書を漁涉し。其記載に捉はれ、其中に出てたる高麗人參なる別種の者が、其當時猶存在するものと認識せり。此の(一)と(二)が抱合して遂に、高麗參なる名稱を生み出せり。『四村藥肆人參類集』に……第六、高麗人參 此の第六の參は即遼東參の一種にして少異あり……。藥性纂要に云ふ。高麗に出る者は白色にして質清く氣香ばし……。余此の參の形狀色澤を以て察し考ふるに、藥性纂要の説と甚だ相合せり……。今藥肆に藏むる所の者、第六、中品なる者、一兩に付其價五百十錢目……。『服部人參譜』に……高麗參、俗に韃參と呼ぶ。形大にして虚軟百濟に及ばず……。此類の記載甚多し。

朝鮮に於ても、支那向輸出品には、現時猶高麗人參なる名稱を使用せり。

◎加州人參

カシウニンジン

シラネ人參。白山人參の項を見るべし。

此名稱『坂上人參譜』に出づ、著者の命名なる如く、他の書には見えず。

◎家 蓼

カシン

李朝の後期に至り、朝鮮の南部に於て人參の人工栽培行はるゝに至りし時、自然生の人參と區別すべく付けられたる名稱。現今普くは使用せられず。

其家蓼の朝鮮に創まりし年代に付ては、金澤榮「詔獲堂集」に……時に全羅道同福の女子、山に蓼子を得て之を田に種ゆ。崔姓なる者あり傳へて蕃殖す。此れ家蓼の始めなり……とあり。此の全文と同一の文は

「増補文獻備考」。「中京誌」の増補記事に出で何れも皆其事に該りし金氏の筆に成れり。而して時にとあれど全文を通覽するも、其時代は空漠として不明なり。

輒曰、此記載は予の同福に於ける人參史料採訪によるに、全く相違の點ありて信憑するを得ず。詳しきな第三卷人參栽培篇に出づ。

「正宗實錄」十四年八月、梁山郡守南鶴聞上疏の中に……嶺南、古へ産蔘の郷と稱する所。而して比來山蔘漸く貴く、家種風を爲す……。云々、同二十一年三月、備邊司の啓の中に……兩南嶺南湖南即ち慶尙全羅兩道家植の蔘近ごろ漸く豐盛、交易買賣一の生業となる……。同年同月、新築華城水原内に戸數を充實する策として資本家に人參專賣を許し水原に移住せしめんとせし備邊司の啓中に……。其一家蔘の事、家蔘は私貨と雖も自來富戶其興販を專にす……。同二十二年六月、延日縣監鄭晚錫が王旨に應じ上疏したる中に……。其蔘弊は則近來山採漸稀に家植甚多し。古へ羅蔘と稱する所の者、或は之れ有りと雖も、蔘商輩審藥名官に潜付し其賣る所に非ずんば……。云々。

「純祖實錄」二十一年十一月、開城留守吳翰源の疏中に……。臣謹で察するに管下の居民多く種蔘を以て業と爲す。每歲燕ベネチヤに出る、紅蔘専ら此地に出づ……。云々。

「海東釋史」に、本草綱目中に……。亦た子を收めて種を下す、菜を種ゆるが如くすべし……。とある文を引用して……。按ずるに、此れ本國人家蔘を種ゆるの法也……。とあり。「林園十六志」に……。近ごろ數十年來より山産漸く罄きて、家種の法始めて嶺南に起る。國內に遍ねし、之を家蔘と謂ふ。山産と別つ所以也……。とあり。「五洲衍文長箋散稿」に……。我東の家蔘は、正廟の初年に窺まり。統廟の中葉に至り、始めて

盛に、一域に遍ねし……とあり。

以上の記述により、此家參の名稱の起原が、人工栽培の創始と同一なるを知るべし。右各書記載によれば、正祖の初年に其人參栽培の濫觴を見、純祖の代に至り盛となりしものなり。之れを日本と比較するに、徳川吉宗の御種人參栽培より約二三十年遅れたりと考せらる。

朝鮮に於ける人參の人工栽培が、何故に日本支那に比して遅れ。且又其主産地たる平安、咸鏡等の山地に發達せずして、却て南方に創りしかと云ふに。北方主産地は王室政府よりする、人參討索誅求の虐政の爲め、人民は長き間骨をゑぐり肉をそぐ塗炭懸倒以上の苦を嘗め、冤怨天に漲るの慘狀を呈し、人參を呪ふこと甚しかりしに由る。而して南方は森林開墾と濫獲の爲め、山蔘は既に早く盡きて、其貢納の苦痛無かりしに由るものならずんばあらず。

◎牙

參

ガシン

滿洲の人參品種別の名。

初夏に得る人參の稱なりと『吉林通志』に出づ。

◎ 蝸斗人參

ガタニンジン

徳川中期後の藥肆人參品種名。

〔一〕 人參の根の形狀が蛙の子、則オタマジャクシに似たるものに對し、名けられたる稱。

〔二〕 竹節人參の中に根が右の如き形狀を爲せるもの。

〔三〕 人參識〔實美〕に蝸斗人參、蝸斗舊ガタと科斗タに作る。異名蝦蟇人參方。直根人參上同。吉野人

參藥。世單に直根人參と云ふ。卽是れなり。其形狀は全く竹節參の如し。但其根

縦直にして、短身長尾、正に科斗兒の形に似たり。其味は甚だ深苦なり……云々。
ガマ人參、カイルコ手の項を併せ見るべし。

◎ 架豆參

ガトウシン

清代に現はれし擬似人參の一種。

『植物名實圖考』に左の如く出づ。何科の植物なるかは明かならず。

架豆參 雲南に生ず、短蔓、葉翳の如く二四對生、十字を架するが如し。根は太く、薯

の如し……とあり。



図の考圖實名物植 參豆架

◎ カノニゲグサ

日本古代の人參の和名となすもの。

此假名書は、加乃爾介久佐。加乃爾計久佐。可迺余解俱左。加那尼儻苦察等。等種々に漢字を借音せり。又鹿^{ガキ}逃草。鹿^{カキ}鱸草。香^{カキ}逃草。等とも書けり。而して又其記載に付て、人參と云ふ漢字にフリ假名せるものと。人參と書きて、和名をカノニゲグサと書きわけあるものとあり。前者は『出雲風土記』のみなりとす。

本項名稱の載せある典籍は『出雲風土記』楯縫の郡の諸山所在草木中に出でたるを最古のものとし。次で『藥經大素』。『新撰字鏡』。『和名類叢抄』。『醫心方』。『本草和名』。『康賴本草』。『香藥抄』。『藻鹽草』等に出でたり。其中新撰字鏡に……人參久萬乃伊、有人云加乃爾介久佐……とあるは。此名稱の由來を探るに注意すべき文字なりとす。爾後の典籍に、本項カノニゲグサの名の出でたるものは、何れも盡く前掲古書に典據して、記述せられしものなり。

其語源に付ては種々の説あり。

【一】 阮孝緒の故事に基くものとせるもの。『梁書』列傳阮孝緒傳竝『南史』隱逸傳に……阮孝緒の母王氏病あり合藥須らく生人參を得ざるべからず。舊と傳ふ鍾山出づる所と、孝緒躬から幽險を経るも累日逢はず、忽ち一鹿の前行するを見る。孝緒感じて後へに隨ふ、一處に至り鹿遂に滅す。就て視れば果して此草を得たり……とあり。爲めに母の病癒へたるは、天が孝緒の孝心に感したるものなる意味の記述あり。瀧澤馬琴の『玄同放言』。森立之の『神農本草經攷注』等に此説あり。馬琴は之を『萬葉集』の……所射鹿乎認河邊之和草身若可倍爾佐宿之兒等波母……とある。歌に牽強附會せり。

【二】 蚊の逃げ草の意にして、蚊が人參の香氣を嫌ひて逃げ出すとなすもの。
『和語人參辨』に此説出づ。甚しく附會の説と云ふべし。現に開城の蔘圃中には夏に蚊あり。

【三】 鹿か齧をかむ、則ち鹿好みて食ひ反芻するより名けられ、其ニレがニゲに訛りしとするもの。或は其ニレは誤りにて、ニゲが反芻の本語となすもの。

『塵添壘囊抄』に、鹿の好み食ふ草なり、ニゲが眞にしてニレをかむは誤なる意味の記述あり。『東雅』にも此記事を肯定せり。

【四】 カノニゲは顔ノ和にして、人參を飲めは顔の和かになるとするもの。佐藤方定は『備急八藥新論』中に、此説をなせり。

【五】 鹿の毛と、人參の根と似たるより、名けしとなすもの。岡村尙謙は、『本草拾遺』に於てニゲは鹿の爾古毛即毳の字を充つべく、小さき毛の事にして、昔の人參と稱せば、竹節參にして、其小さき鬚根が無數にあるによるものとせり。

【六】 人參の年を経る者は香氣あり。枯るゝ時は土皆香氣あり。故に名くとなすもの。『玄同放言』に……大洲曰く、人參の年を歴る者香氣あり……云々と本項の説出づ。

以上何れも牽強附會の説にして。鹿逃、鹿齧等々が借音の充て字なる事に氣付かざりし根本の誤謬より出發せるものなり。特に日本に甚だ縁遠き『梁書』の故事を、和銅年間に命名したりとは常識上考へ得られず。

而して其原基植物の認識に付ては、左の四に區分して觀察することを得べし。

〔一〕日本には古より人參あり。それが和名カノニゲグサ等の名を以て稱せられたりと爲し。其人參と稱せしは眞人參則今日の學名の *Panax ginseng* となせしか、或は又他の植物を指したるか。今日より其著述の説明より考へて、著者本人の認識を忖度し得ざるもの。

〔二〕前項に同じきも。其植物を明かに眞人參と爲すもの。

〔三〕前項に同じきも。其植物を竹節人參なりとなすもの。

〔四〕〔二〕〔三〕に非ざる他の植物となすもの。

徳川時代の學者の説。大抵右の四の何れかに該當す。

結局何れも根據なき説にして、『物類品隲』に……人參。カノニゲグサ又クマノイと訓す。何物を認めて人參とせしかを知らず……とある平賀源内の説を正しとすべきなり。

ニコタ、クマイキの項參照すべし。

◎鹿 齧 草

カノニレグサ

日本に於ける人參の古名となすもの。

『塵添壻囊鈔』『類叢本草』等に出づ。

前者は齧の字にニゲとフリ假名せり。ニレとは、ニレをかむなど言ひて、獸の反芻のこと。反芻の支那の文字は獸により各異なり『爾雅』集注に牛は齧、羊は齧、鹿は齧とあり。即ち齧の字は鹿族の反芻に充てらる。

此のカノニレグサの語源に付ては。鹿が人參を食ひて反芻するより出でたりと爲す學者多く、『東雅』にも……舊説に人參は鹿の好み食ふ草也。故は鹿齧草といふ事あれば。昔し我國人試みしことあり、かく名づけいひしと見えたり……とあり。其説を肯定せり。

されど以上の説の牽強附會たる論なし。日本には元來人參の分布無し。假りに其人參を、『延喜式』に人參と出たる、當時人參と認識したる、別箇の植物とするも。此名稱は日本の古典に無く。カノニレグサなるニコタの別名が、古典に多く見らるゝ

點より考へて。ニレはニゲの轉訛と斷するを以て妥當なる見解なりと信す。

韞曰く。鹿族の人參の葉を食ふことは余の實驗により明かとなれり。當に鹿族のみならず、牛、馬、駱駝も與ふれば亦人參の葉莖を食ふ。

ニコタ、カノニゲグサの二項を參照すべし。

◎加乃三支草

カノミシグサ

此名は『藥經大素』のみに、唯一つ出でたるものなり。則ち其記載は……人參、和名加乃爾介草又爾古多草、又加乃三支又久萬乃伊、亦人銜異と名く……とあり。何を根據せしかは不明なり。

◎皮付白參

カハツキハクシン

白參の一種、普通の白參は、乾曬する前に、悉く人參の表皮を削り去るものなれど。此皮付白參は、生ま人參を洗ひて後、根の股其他疵の部分等幾部を削り去り。其他の表皮は悉くは取去らざるもの。現在朝鮮在留の内地人たる其道の人が斯く稱呼するものなり。

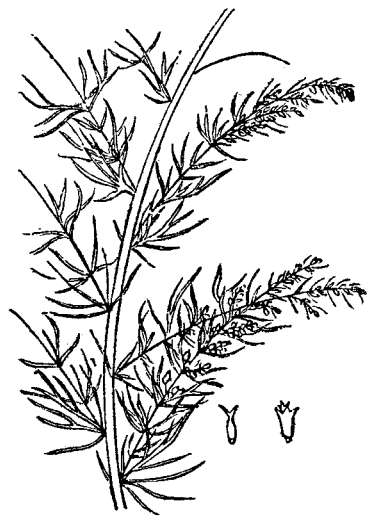
朝鮮に於ては、此種の人參は昔は白蔘と稱したり。又滿洲にては糙參と稱したるものゝ中に此種のものありたり。各其項を参照すべし。

◎カハラニンジン 河原人參

徳川中期以後に現はれし人參擬似品の一種。

牧野博士 日本植物圖鑑の圖

同上



(藤蕒) ギモヨラハカ
るらせ稱もとンジンニラハカ



(藎青) ンジンニラハカ

『小野本草綱目啓蒙』に……青蒿茵陳にカハラニンジンの名あり……。『熊谷廣參品』に……河原人參即眞の茵陳なり。眞人參に非ず……。とあり。

『江馬藥物本草圖彙』稿手にも……カハラニンジン青蒿……とあり。圖あり。

以上の記述により、此名稱のものに二種ありしを知るべし。

漢名青蒿は、日本にて臭人參クサヨモギとも臭艾とも稱せられし者にて。菊科 (Compositae) ム

モギ屬 (Artemisia L.) の一植物なり。『牧野日本植物總覽』に *A. apiacea* Hance の和名として

出づ。……越年草、全株無毛、根葉は叢生、細裂、裂片は線形、上葉亦細裂、裂片は絲狀、濃緑に

して微臭あり。莖高三五尺、上部分枝、梢頭枝、端頭花は圓錐狀に排列、頭花徑二分許。

花は綠黄色——河岸沙地。花候夏備考クソニンジンに比するに、頭花は半球形、徑一分

餘なり……と記さる。茵陳は、青蒿と同科同屬、學名 *A. Capillaris* Thunb. 日本名カハラ

ヨモギにして、前同書に、其形態等を左の如く記さる。多年草、高二三尺、莖は多枝、根葉

は有柄、絹毛密布、二回羽狀全裂、裂片は細線形、莖葉は無柄、無毛、抱脚羽狀全裂、裂片は毛

管狀、頭花は卵形純底、長七厘、徑三乃至五厘、點頭、密生總狀、圓錐花序、小花は異形、心花

は不登生、花托は裸出——山野、花候夏秋 樺太本州、九州、臺灣。

◎合

貨

ガフケワ

清代後期に於ける、不良偽巧人參の名稱。

接貨の項を見るべし。

◎カ ブ ラ

徳川中期以降藥肆に於て命名したる人參品種別名。其根が稍や蕪菁に似て、塊形を爲せるに由る。

『小野本草綱目啓蒙』には竹節參の中一種のもの、別名となし。……圓根の者は珠の如し、タマニンジンとも、カブラとも、科斗手カイルコデとも云ふ……。とあり。『山本人參考』に……。世孺案するに人參四種あり……。蕪菁カブラ。カエルコ手とも稱し、竹節參の中に交り生ず。竹崎源三が所著本草圖譜に、御種人參とするは誤りなり……。とあり。

されど此カブラなる名稱は。必ずしも竹節參のみに限り使用せられたるに非ず。廣東より人參として舶載したる、不明の植物及アメリカ人參にも、此名を宛てしこと其項に記すが如し。

◎蝦 蟆 人 參

ガマニンジン

竹節人參の根形の異りたる者に對し命じたる名稱。

『本草綱目纂疏』に蝸斗人參の一名として出づ同書に……。

是斯方一種の人參也。其葉花實正に竹節參と異なる無し。但だ其根、短身、長尾殆んど蝸斗兒の形に類す。其味深苦、傍付の細鬚は稍甘し。然も節參の鬚に及ばず。昔年村田宗貫、浪華に此鬚を製し以て四方に鬻ぐ。呼て和肉と爲すと云。或云。元祿己巳の歲陸奥始めて出す。己卯に至て駿河繼て出すと。按ずるに、杉田元伯人參談亦此説を載す。今肆上出る者、紀伊、伊豆、武藏、信濃、甲斐、尾張、加賀、上野等と云。近ごろ種參蕃殖此れに因て此種多く廢る……とあり。

蝸斗人參オウネの項を見るべし。

◎カモジン様鬚 デ

カモジンニンジンの項を見るべし。

◎カモジンニンジン 鬚 人參

竹節人參が發見せられ。それが人參代用品として盛に使用せられし頃に命名せられたる稱呼。修製結束の形狀の類似より名けらる。

竹節人參の鬚根は、其味人參に似たるより、重に其鬚根を使用せられたり。其商品としての修束法に種々あり。鬚の如く束ねたる者に、此稱を與へたるなり。



服部範忠人參譜カモジ人參圖

摩羅人參續短日光人參續長藥肆

束而名韃人參今世不用故稀也

『小野本草綱目啓蒙』に……薩摩人參の鬚を延ばし、乾したるものをカモジ人參と云ふ。會津、鬚と共に連ね干したるものをカモジ人參と云ふ……とあり。『小野本草記聞』に……鬚人參、下野日光氣味尤も好し。日光にて此鬚人參をカモジ人參と云ふ。カモ

ジ人參、會津 之れは鬚を束ねたる人參なり……。『肥前人參譜』……日光産は細根長し。古へ多く藥肆に賣る。頭を結んで鬚カモジ人參と謂ふ。今世に用ひず、故に少し……。『倭訓栞』に……カモジ人參は根鬚の似たるなり。韓種の品も一般なり……。とあり。されど此韓種とあるは、朝鮮より輸入せられたる尾參を指したるものなれば。日本にて此をカモジ人參と謂ひしには非ず。

カモジニンジン、一にカモシデと稱せられたり。

今開城に於て白蔘及紅蔘の直ぐなる鬚根を揃へて束にする修製法あり。

◎樺太人參

カラプトニンジン、又カハプトニンジン

樺太及千島に産する人參擬似品。

日露戦争の末期樺太占領後に於て。内地より移住したる内地人の某者が。此植物を發見して、如此命名し、後盛に採取して内地に販賣するに至れるもの。(?)

樺太廳よりの回答文は……此植物は樺太の海岸草生地に自生す。其分布區域は、樺太、北海道、千島、勘察加等の海岸。

形態は。高さ五寸乃至一尺許の平滑なる宿根草。莖は鴈木形を爲し、數條の條線

縦走す。葉は二回羽狀全裂にして第一回裂片は有柄、各小裂片は卵形長橢圓形、先端は銳形微の、羽狀深裂す。縁邊微かに粗糙、表面の中肋も少しく粗糙なるものあり。一莖三四葉を出す。花は複繖形花序をなし、總苞は線形にして縁邊膜質、十箇内外の小花梗は等長若くは其より長し。花梗及小花梗の内側の條線は粗糙なり。花は白色、果室は長橢圓形、扁平にして平滑、五條の縦走したる翅翼あり、其側部のものは脊部のものもより廣し。油腺は各條線間に各々一箇づゝを具へ、合生面には三箇乃至四箇を有す。八月開花す、九月果を結ぶ。

學名 *Conioselinum Kantschaticum* Rupr,

異名 *C. uni vitatum*, Maxim

土名 ウペウ 北海道アイヌ。フローラウエンチボコ 樺太アイヌ。

根は藥種の香氣あり。藥湯の原料に用ゐられ、又種々なる民間藥とす……。とあり。

【牧野日本植物志】にミヤマセンキウ屬、カラプトニンジン *Conioselinum Kantschaticum*,

Rupr. 宿根草、一二尺、葉は二回羽狀小葉は卵形、披針形、更に二回羽裂、約裂片は長橢圓形、銳頭。繖梗は二十以下、總苞は數片。果實は長橢圓形、五縱翼、兩側翼廣く、背側翼狹し。

千島。……と記さる。

『敦野日本植物總覽』には學名を *Conioselinum Fish Rupr* 産地を樺太、千島とせり。

◎漢

參

カンシン

徳川の中期以降長崎貿易により、日本に輸入せられし支那人參に對し大衆が之を唐人參と稱せしを俗なりとし、學者が漢文的名稱として、高尙ぶつて附けたる名。されど餘り廣くは使用せられず。

其用字例は、『辯醫斷』に……余長ずるに及び、長崎に住す。斯業に奔走すること又二十餘歳、因つて漢參を視る極めて多し矣……。『熊谷廣參品』に……漢參和俗通じて唐人參と云ふ。上好の者を京參きやうさんと標し渡す……。等々とある如し。

◎韓

參

カンシン

徳川時代、朝鮮より日本に輸入せられし人參に對し、學者が朝鮮人參と云ふ名稱が俗なりとし、漢文的に高尙ぶつて附けたる名。されど餘りに廣く多くは使用せられず。

『辯醫談』に……余本と對州に在り。韓參を目撃する多からずとせず……『ありのまゝ』に……廣東人參は其功能韓參と伯仲の間にあり……『用藥須知』に……女直參を韓參に雜へて賣之。尙審に擇ぶべし……『閑田次筆』に……韓參にて病人を助けし話出づ。『佐藤澁志』に……薩州城北韓蕤を種ゆ。其吏澁江氏常に言ふ。韓蕤本と彼山生也……『興谷廣參品』に……今朝鮮より來るを上とす。俗に朝鮮人參と云ふ。即ち韓參也……『山口安齋韓叢話』にも尾張藩製造の人參は韓參と遠からず……とあり。何もわざわざ韓參と謂はずとも、朝鮮人參と、大衆に通用せる名稱を使へばよきものを。學者兎角如此惡癖あり。現代にてもワザワザ難解の外國語を著書に使用して得意がる者と。揆を同ふするものと謂ふべし。

◎ 邯 鄲 人 參

カンタンニンジン

清正人參の項を見るべし。此名『前田本草通串』に、清正人參の別名として出づ。吳氏本草に生邯鄲に生ずと云ふ者と略似たり……とある。『本草綱目』に……普曰、或は邯鄲に生ず三月葉を生ず小銳、枝黒、莖に毛あり……とあるものゝ引用なるべきも、當らずと謂ふべし。

◎ 芪

キ

『新撰字鏡』に……芪 士矢反、生山其味甚苦、人能食、爾古多、東人云、加乃爾介。……とあり。輒曰く甚の字或は甘の誤？。

『名物六帖』に……芪カニコタ、東人云……とあるは、恐らく字鏡に據りしものにて。芪は芪の誤りなるべし。

屋代弘賢は『古今要覽』にて……新撰字鏡に芪字を爾古多と訓し、東人云、加乃爾介といへる、芪は、爾雅に葍、葍とへる芪なり。これは紹興本草圖する滁州、兗州等の人參なり……云々と説けり。

輒按ずるに、『唐韻』に芪は葍と同じとし。芪とは別とせり。字鏡の字は芪キにして葍テイに非ず。屋代弘賢の説中らざるべし。『爾雅』には……葍、葍。郭注に齊葍とあり。『名醫別錄』齊葍の陶注に……根形總て人參に似たり、葉小なる異とす。味甜苦……とあり。字鏡の著者僧昌住は、『爾雅』に據りしにも非ず又『名醫別錄』唐本草に據りたるに非ずして、何等か他に據り所ありしなるべく。熟考するに。魏の張輯の『廣雅』釋草に……。

芪 祇 母兒踵東根也、郝蟬也、丹參也……鹿腸玄參也、地精人葭也、苦心沙參也……とあり。芪の中に總ての人參類を總括して記したる如く見ゆ。昌住は恐らく此れに根據して記したるものならん。輒按するに、此廣雅の文苦心と沙參の間に苦參也□□の脫字ある如し、須く共に記して疑を存す。

◎鬼

蓋

キガイ

人參の異名。『神農本草經』に出づ。

『本草綱目』に……其草、陽に背き、陰に向ふ、故に鬼蓋と曰ふ……と。此考説は李時珍の初めて述べたるものなれど、附會説たるを免れざるべし。蓋し鬼蓋なる名稱は、後漢末以前に於ける人參の別名にして、多分借音文字なるべし。蓋とは、天子の行列等に用ゆる、織物を以て造りたる傘の如き形狀を爲せる物を云ふ。織も亦大抵同一の物なり。

唐の陸龜蒙の詩に、「名參鬼蓋須難見」の句あり。

森立之は此名稱に對し、『神農本草經攷注』にて……立之案するに、葉狀繖カサに似たり、故に名くる耳。房葵一名梨蓋、衛矛一名鬼箭、此れと同義。鬼猶山谷の魘神也。一莖

三種、上三葉あり頗織形と爲る、故に名く……との新説を發表せり。

◎ 龜 胸 手

キキヤウデ

徳川後期、御種人參栽植盛大となりし頃の其道の黒人筋の通語。人參の根形の人形を爲せる者の下等なる者。セムシに似たるより名けらる。此名『肥料人參耕作記』に出づ。

韮曰く、龜胸とは病名にして、俗に謂ふセムシなり。『醫學入門』に……。龜胸は妊孕及び乳子の時多く、五辛炙燂淹藏を食すれば、生れ下るの嬰孩或は胸前高く起ち、形龜の狀の如し……とあり。『壽世保元』にも同様の説あり。

◎ 桔 梗 人 參

キキョウニンジン

徳川後期に名けられし、人參擬似品の一種。

桔梗科(Campanulaceae)ツリガネニンジン屬(Adenophora Fish.)の一植物の學名 A. Polymorpha, Ledeb, var. Stricta Makino. の日本學名。

『小野本草綱目啓蒙』には、キキョウニンジンを齊苳の一名として出せり。『飯沼草木圖説』

に杏葉沙參の一名として此名出づ。『（摺）警日本植物總覽』には。日本學名をマルバニンジン、キキヤウニンジン、トウシヤジンとせり。

各其人參の項を見るべし。

◎ 菊 花 參

キククワシン

清の中期後に現はれし、人參擬似品の一種。

『本草綱目拾遺』に……雲南東川府巧家汛江の邊に産す。葉は菊花に似たり。功用人參と同じく力は較や遜る……とあり。何科の植物なるかは不明。

◎ 刻 人 參

キザミニンジン

「一」徳川後期官營の人參を刻みて、直に煎じ得る様にして賣りたるもの。

徳川政府が日光山に栽培せし人參も漸く繁殖し。之を製造して一般公衆に拂下の公賣を行ふに至りし時。其品種を區別したる一種の下等品。

刻人參は、則ち折れ人參、鬚人參と共に下等品にして。價を安くして下民に迄も此靈藥を供給すると云ふ。惠民的醫藥行政の見地より、且つはまた、其專賣經營の計算

上より造られたるものなり。

刻人參は、小さき塊状を爲せる、人參本根の碎けたる者を、初は割人參として賣下しも。後に至り之を刻みて賣下ぐるに至れり。明和元年閏十二月二十八日の『御觸書』に……。

朝鮮人參刻み候て袋入。壹兩代錢六百匁、半兩代錢三百匁、小半兩百五十匁、五分入、七十二文。

右之通人參座より相渡候。輕き者共へ寄々可被咄置候事……とあり。

〔三〕竹節人參を刻みたる賣品。

竹節人參にも亦キザミ人參ありしことは、『兼葭堂人參錄』に……節人參を絲の如く割みたるを割人參と呼ぶ……とあり。

以上の外に。藥肆が取扱中折れたるものを折れ人參としても賣り。又之れを刻みて、キザミ人參としても賣りたることは。唐朝鮮、和産を問はず。人參の名の付くものには皆行はれたり。

◎議 政 府 蓼

ギセイフシン

李朝の官用語なり。稅蔘の項を見るべし。

◎吉林 參

キツリンシン

滿州吉林省内に産せられし人參。

吉林省内の人參は清の中期より船廠の名に於て呼ばれたり、本項名詞は近代の稱呼なり、故に古典の記載には無し。『植物名實圖考』人參の項に……今遼東、吉林を以て貴しと爲す……とあり。

船廠の項を見るべし。

◎キミノチクセツニンジン

黄實の竹節人參

果實の黄色なる竹節人參の一變種。の近代的植物學上の名。
竹節人參の項を見るべし。

◎杏葉沙參

キヤウエフシヤジン

杏參の項を見るべし。

◎杏

參

キヤウシン

人參類似品の一種、一に杏葉沙參とも云ふ。其葉杏葉フシメに似たるにより名けられたるものならん。

杏參の名初めて『圖經本草』に現はる。蓋し宋代に至つての命名なるべし。同書は杏參を以て薺苳なりとし。『救荒本草』は杏葉沙參は薺苳なりとし。『本草綱目』には。……時珍が曰く、薺苳汁多く薺苳の狀あり、故に名く。……其根沙參の如く、而して葉は杏の如し、故に河東の人呼んで杏葉沙參と爲す。蘇頌圖經の杏參即ち此也。俗之を甜桔梗と謂ふ。……とあり。

『三才圖會』……杏葉沙參。淄州の田野に生ず。根は小菜根に似たり。五月苗葉を採る……とあり。支那に於て此名を以て呼ばれしものに、數種ありしを知るべし。而して薺苳と杏葉沙參とは、同科同屬の植物にして、其形甚類似せるより、植物學の發達せざる古に混同せしも亦無理ならず。されど全く別種のものなり。

マルパニンシン、賊參、ツリガネニンジンの項に詳説せり。各其項に圖あり併せ見るべし。

◎曲 蔘

キョクシン

朝鮮人參品種名。修製上の一種の方法にして即根尾を上曲げて纏絡したるもの。

此名稱は朝鮮の稱にして今現に朝鮮に於て通用せり「中京誌」中京は開城 隆熙四年の補修記事に……藥料又曲蔘と曰ものあり、尾を巻き身に傅ツけ、縛つて之を乾かす本と嶺・南・道・尙・の方也。而して開城の人仿つて之を行ふ、尤も盛也……とあり。

此の修製法は今現に錦山人參に於て全部行はれつゝあり。需用は朝鮮内なり。徳川時代に於て輸入せられたる人參に此に似寄りし者を、蝦手或ば尻まげと稱したり。

慶尙北道豊基人參、全羅南道同福の人參も亦尾端を曲げて製造すれども。錦山人參の如く甚しく短く曲げす。唯僅かに尾端を曲ぐ。

錦山人參、蝦手、尻マゲの各項參照。

◎玉

精

ギョクセイ

古代支那に於ける人參の一異名。

此の名『吳普本草』及『釋藥性』に出づ。藥材となるべき物を何々の精と稱したる類は甚多し。例之地黃は土精也。『大清經』。昌蒲は水精也。『范注方』。石斛は石精也。『神仙服餌方』。等の如く、方術家の書に多し。此玉精なる名稱も亦蓋し神仙家の命名に由來するものならん。支那の本草學はもと神仙思想の發達に其根據を置くものなればなり。

◎清 正 人 參

キヨマサニンジン

徳川の中期に現はれし人參擬似品の一種。

英雄偉人には、兎角死後に於て種々の傳説を附會すること世に事例多し。此名稱も亦加藤清正が文祿慶長の役に朝鮮より其種を持傳へしとの附會説より拵へられたるものなるべし。

其清正人參と稱せられし者に數種あり。

「一」『小野本草綱目啓蒙』に、キヨマサニンジン 一名セリニンジン、ヤマゼリ、ヤマニンジン 藝州廣嶋毛利元就の城址に多く生ず。朝鮮役の時、加藤清正持來ると傳ふ。

莖葉は、大葉の川芎に似て白みあり……。『群本草綱目啓蒙圖譜』……葉大葉の川芎に似て白みあり……。

【二】『山口守全本草正々僞』……清正人參は防風の一種なり。或は大葉川芎と云は非也。『子無谷廣參品』……山人參一名芹人參。藝州廣島山中に多く生ず。土人呼で清正人參と爲す。眞の防風なり。

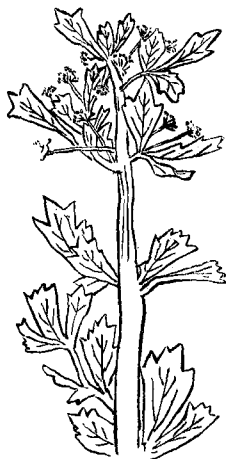
【三】『加藤玄藤和漢人葷考』……又別に人參と名くる者あり。相傳ふ、加藤清正朝鮮を征し其種を得て以て歸ると。氣味胡蘿蔔の苗葉に似る、時に蔬に作り食ふべし。『日本和語本草綱目』……又一種人參と呼者あり。加藤清正朝鮮を征せし時に此種を得て歸ると。氣味胡蘿蔔に似たり……とあり。

【四】『茶葭堂雜錄』には、寶曆十二年四月十二日、京都東山芙蓉樓に於て、好奇の士物産會を開きし時に。鑑古堂の出品として「一種の清正人參」なる名目のものありしこと出づ。

【五】『前利保本草通串附圖』には……邯鄲人參と標し左の如き圖出づ。

以上(1)より(5)迄の中、或は重複せるものあるべきも。少くとも此名稱を以てせるものに三、四種はありしを知るべし。

井口筆之本草綱目啓蒙 圖譜（原圖彩色）
 キヨマサニンジン 葉大葉川芎ニ似テ白ミアリ



牧野博士 日本植物圖鑑の圖
 オランダニツバ、キヨマサニンジン



本草通串、清正人參の圖
 稱白原圖縁を使用せず、葉裏葉淡綠、莖表濃綠、花白色



郭 鄴 人 參
 朝鮮舶來清正人參と稱する者
 吳氏本草に生鄴鄴と云者と略似なり

〔牧野 日本植物總覽〕には、キヨマサニンジン（根木）を繖形科 (Umbelliferae) オランダミツバ屬 (Apium L.) の一植物 *A. graveolens* L. の和名オランダミツバ、キヨマサニンジン、セリニンジン、セレリ、とせり。其形態等に付ては、……二年草、全株無毛、滑澤、芳香、葉は羽狀複生、小葉は稍圓形、稜柱、三中裂、缺刻狀齒牙緣。複繖形花序は、無總梗苞、無小總苞。花は白色、萼縁は不明。瓣片は稍圓形、先端內曲、雄蕊五、稍超出、花柱二短。果實は稍圓形、左右より扁壓、長約五厘。花候夏秋 歸化(原、伯國)と記さる。

前記(三)に該當するものなるべし。

◎ キリシマニンジン 霧島人參

『小野本草綱目啓蒙』に、蛇牀の一名、薩州の稱呼として出づ。蛇牀に付ては、ハマニンジン、シマニンジンの項を見るべし。

◎ 切 人 參 キリニンジン

徳川時代人參を幾つものに横斷して賣りし商品名。

此名『（藥師）日用藥品考』に出づ、蓋し人參の破損品並に一部腐壞したる者の、そのよき

部分を輪切りとして、商品とせしものならん。

切參チンシの項を參照すべし。

◎錦山人參

キンザンニンジン

全羅北道錦山郡内に於て產出する人參の稱。其附近地、茂朱、鎮安等に於て產せらるゝものも、概して錦山人參と稱せられて取引さる。

其栽培の起源に付ては。李朝正宗の朝金笠なる者、種を松都開城に得て作り始めしと傳へらるゝも。此傳説甚だ訝かし。何となれば朝鮮に於ける人參人工栽培の搖籃地は。慶尙全羅の山村にして、正宗時代開城にて栽培せしこと無ければなり。或は一且中絶し、後更に開城より種を傳へられしものか。

錦山人參の修製法は、一種殊別のものにして。先づ水參ナミの泥を洗ひ落したる後、一二日間日蔭に置きて乾燥し、曲折自由に萎びるをまち。圖の如く尾端を曲げ、莞草ワカグサの蕊を以て纏絡して、更に乾燥し其蕊を解き去る。

出來上り品は、一斤入りの紙袋に入れ商品とす。一袋の根數は八十乃至百二十なり。其生産額は昭和三年に於て、八千六百斤、價格十萬五千餘圓、其需用は皆悉く朝鮮

内なり。

現在に於ても、如此製法の人參を曲參と稱す。此修製法に似たる方法は昔し自然生の人參に對して行はれたるものにして。徳川時代日本に輸入せられ、蝦手又はシリマダと稱せられたり。

此修製法は、荷造、運搬、貯藏、上破碎を少くせん爲に考案せられしものなるべし。又或は其全形を一見すれば、何となく人の胎兒を見るの感あり。如此神秘色を表現する爲かとも考へらる。

曲參エヒデ、シリマダの項参照すべし。

◎金雀馬尾參

キンジャクバビシン

清代に現はれし擬似人參の一種。

『植物名實圖考』に左の如く出づ、何科の植物なるやは明かならず。

金雀馬尾參は雲南山中に生ず、綠蔓柔長、根は赭白色、一叢數百條、葉際に花を開く壺盧形を作す、長さ四五分、細腰、色は紫五瓣を圻く而して尖復た合す、茸毛外森鬱翹別致……とあり。



圖り參尾馬雀金 考圖實名物植

◎金 鑲 玉 嵌

キンジョウウギヨクカン

清の後期、人參集散地たる蘇州商人が、變造不正の人參に對し附したる詩的名稱。人參を横斷して其外廓の白きを玉櫛。内肉の黄色なるを金井、併せて金井玉蘭と稱せり。上等人參の意味なり。金鑲は則ち内肉を人工を以て補ふの意。玉嵌は外皮をはめるの意なり。

〔藥業〕人參攷「眞偽攢疊の項に。……參日に價貴とし。奸惡の徒網利に巧み。全假の貨を以て售るを求め、人に甌破せらるゝを恐る。反つて罪戾に罹る。或は糙を以て

熟に接ぎ、或は假を以て眞に鑲し。或は豎を用ゐる相雜へ以て攢輳す。或は層を用ひ相間し、節を以て疊ね、做して成極を成す。一色宛も無縫の天衣の如し。一時人目を眩惑す以て識別し難し。名けて金鑲玉嵌と云ふ。必ず須らく細心審察すれば、欺を受けざるに庶し……とあり。

◎金

參

キンソン

京參の項を見るべし。

◎金 井 玉 蘭

キンセイギョクラン

人參の異名。蘭の字或は櫛又蘭にも作り。また金井玉蘭干とも稱せらる。

此名稱古書に見當らず。明時代に至つて初めて見はる。『本草綱目』に……桔梗は體堅く心あり、而して味苦し。人參は體實し、心ありて、味甘く微かに苦みを帶ぶ。自から餘味あり。俗金井玉蘭と名く……。『群芳譜』に……桔梗は體堅く心あり、而して味苦し。人參體實し、心有り、而して味甘く微しく苦みを帶ぶ、自から餘味あり。俗金井玉蘭干と名くる者は是也……とあり。右二書の記載は、玆に掲げたる外の、其人參の記述

は全部殆んど同一なり、著者たる李時珍と王象晋とは、兩人共萬曆の進士なれど。其書の刊行は、前者は神宗の末年。後者は天啓元年に刊行したるものなれば、前後期間甚だ少し。群芳譜の人參記事は本草綱目のものを取り用ひたりとは思はれず。而して二者の相違は但だ干の一字にあり。此點に付て考ふるに。當時の稱呼は玉欄干の方が實にして。李時珍はそれを雅ならずとして、干の一字を取去り、王象晋は當時の稱呼其儘を記したるものならんか。

此異名の出所に付き考ふるに。浙江に産する菊の一種に茶菊と稱するものあり。其花の中心黄色にして、周縁の白きものを金井玉欄杆と名く。則ち金色(黄)の井を玉(白)の欄干にて圍むの意味なり。此菊の名稱を人參に轉用し。人參を横斷して其中心が潤實黄色にして、周縁が堅白なる上好品に充てて稱したることが其名稱の起原に非ざるなきか。

右の茶菊のことは『中國醫學大辭典』に出づ、出典を示さず、何時の稱呼かは不明なれど。宋時代の各『菊譜』を閲するに、金井玉蘭なる名稱見當らず。多分明時代の稱呼ならんか。

猶攷究すべきは。宋の孝宗時代の人楊萬里が新羅參を貽られたるを賦する詩中

に「想翁面敷腹、玉色帶金井、芸々納歸根」の句あれど、本項の名稱とは關係ありと斷定するには猶攷究を要す。

此名目は、日本の本草學者等には難文字として種々に解釋せられたり。就中これを人參の紋則ち外皮上のタテヨコの皺の事に曲解せられ。金井玉蘭を布くと書ける者もありたり。

西章次は此文字の解釋に疑惑せしと見え『人參辨』にて……稻生若水の本草圖翼に……亦金井玉蘭あり、但皮に横文無し……これによれば蘆に近く横紋有るを上品とするに似たり、又云金井玉蘭を布く……とあるより見れば、横紋を指すにも似たり……物理小識、之を切る、須らく金井玉蘭たるべし……と云ふより見れば。切口の事と見ゆると……記せり。

『加藤和漢人蔘考』に御物參を敍する條に。西子云ふ……横紋無く唯金井玉蘭少きの異なるあるのみ……云々とあり。

『用藥須知』に……本草の金井玉蘭とあるものとは、上好の品なり……。

『松平本草正譌』……人參の味、金井玉蘭と云ふ。知らず苦を正味とするや……。

『服部人參譜』には……金井玉蘭とは朝鮮の上品のことにて此俗言也……とあり。

『本草圖翼』には。…遼東、上黨の者は、形狀東防風の如く。而して潤實、金井玉蘭を布く…云々とあり。

以上何れも文字に囚はれたる見解なり。唯曾槩は『人參識』に於て。…或は外白、内紅なる者あり。其膚細理稠密、云ふ所の金井玉蘭是也…と卓越せる識見を發表せり。

輒猶案ずるに、右玉蘭とある名の起原は『瓶史』に。玉蘭は辛夷の一種とある花にして『本草綱目』花の部。玉蘭花 瀕湖綱目辛夷集解下に、惟云ふ。…白花有る者、人呼んで玉蘭と爲す、並に別に主治を立てず、即ち辛夷亦た香蕊を用ゆ…『群芳譜』に。玉蘭…九瓣色、白く蓮の如し。香味蘭に似たり、故に名くとある。灌木モクレン科の Magnolia Kobus. D. C. の花名より出たるものならん。

『中國醫學大辭典』の記載下の如し。茶菊 菊の一種 形態 多く浙省に産す。莖柔かにして、葉は淡綠色、小金鈴に似て而して尖り多く極淺し。

氣味は薄荷に似たり。花色正黃、小さきこと指頭の如く外尖る。瓣内細萼柄細くして長し。枝幹嫩ければ則ち青し、老ゆれば則ち紫。實は葶藶の如くして細し。種ゆれば亦苗を生ず。蔬茹に供すべく、黃白二種あり…云々。

◎空

紅

クウコウ

清代滿州人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる、品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

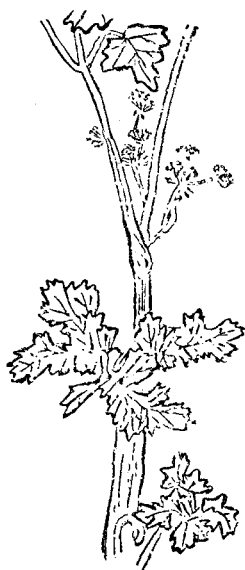
◎クサニンジン

草人參 臭人參

徳川中期以後に見はれし、擬似人參の一種。

『小野本草綱目啓蒙』には……ワラビニンジンの一名クサニンジン云々、竹葉にクサニンジンの名あり。

『非口本草綱目啓蒙圖譜』にクサニンジンの畫あり。



非口望之本草綱目啓蒙圖譜の圖原圖彩色

クサニンジン 竹葉齋齊民要術

以上により此名稱の者に二種あるを知るべし。

青蒿とは川原に生ずる臭文、又は臭胡蘿蔔と稱する藥草なり。クサはクサ(草)の轉訛ならん。

バカニンジンとは、其効力の役立ぬ意味なるべし。

ハカラニンジンの項を見るべし。クサニンジン即青蒿及黃花蒿の形態に付てはニンジンの項に記す、其項を見るべし。

◎苦

參

クシン

支那の古代より五參と稱せられしもの、一或は五參に加へず。

苦參に關する最古の文獻は『山海經』中山經、陽華之山の條……其草藎と苦辛多し、其狀櫛の如し其實瓜の如し其味酸甘之を食つて瘡を已む……とあるものなり。

山海經の中此記載ある五藏山經は小川琢治博士の考證によれば先秦の作となす者なれば、竄入如何は別問題として西紀前二百年以前のもの也、而し此記載より見れば別物の如し。次で『史記』大倉公傳なり。其文は……大倉公、姓は淳于、名は意、少ふして醫方術を學ぶ。公爲に病を治す。死生を決し驗多し。齊の中太夫齟齒を病む。

臣意ふ其左の陽明脈に灸し即苦參湯を將ひ日に嗽する二三升、出入五六日病已む……とあり。此記事は、前漢文帝の勅問に應じ答へたるものにして。西紀前百六十年頃に當る。參類の中唯一つ此苦參が飛離れて最初最古く、茲に出現したるに付ては、竄入なるや人參より苦參の名早きかに付き大に攷究を要すべきものあり。

苦參は『神農本草經』には、中品の上的部に出づ。『名醫別錄』に……苦參汝南山谷及田野に生ず。三月、八月、十月、采根暴乾……。陶弘景の注に……近道處々之れ有り。葉は極めて槐葉に似る。花は黃色、子は筴を作る。根味至つて苦惡……とあり。『圖經本草』には……苦參、汝南山谷及田野に生ず。今近道處々有之、其根黃色、長五七寸許、兩指、粗細三五葉並び生ず。苗の高さ三四尺已來、葉は碎青色、極めて槐葉に似たり。故に木槐の名あり。春生じ冬凋む。其花黃金色、七月實を結ぶ、小豆子の如くして堅し。河北に生ずる者花子無し……とあり、『本草綱目』には……時珍が曰く……七八月角を結ぶ。蘿蔔子の如し。角内子有り、二三粒、小豆の如くして堅し……とあり。此植物左記の如く別名甚多し。

苦 識 『神農本草經』

虎 麻 『大觀本草』

地 槐 『名醫別錄』

顛 槐 『釋藥性』

苦く参ま

くくらら

和本名草



下濕の地不生マシ 葉ハ槐マシの如く嫩苗
 紫色を帯び莖は二三尺穂を生じて
 槐花に似たり白色又淡黄紫色の
 あり後解と結ぶ槐角に似く
 細根午房の如く外皮黒色肉淡
 黄味甚苦

岩崎園木草圖譜の参苦の圖

水 槐 『神農本草經』

委提莖 右 同

菟 槐 『名醫別錄』

處 麻 右 同

驕 槐 右 同

斃 去 右 同

白 莖 右 同

祿 光 右 同

本 莖 『大觀本草』 『千金方』

土 槐 『三才圖會』

苦 骨 『本草綱目』

祿 白 『大觀本草』

野 槐 右 同

陵 郎 右 同

板 麻 「鄉藥集成方」

鹿 白 『本草精義』

清の桂馥『說文解字義證』には。他と異りたる見解あり。其文に曰く。……人蔘藥
 艸者當爲苦艸謂苦參也。一切經音義十一。蔘說文作蔘苦草也。其類有各種。謂丹
 蔘元蔘等也……云々。『一切經音義』慧琳音義には此文無し。玄應音義明本に……。
 苦參 說文作蔘同所……其類有各種丹…… 金切苦草也。參玄參等也。……とあるを引用したるものにして。苦參を以て
 人參となす者也。承認し難き異説なれど大に攷究の要ありと謂ふべし。或は前記
 史記の記事より胚胎したるものなるか。

苦參に關する零聞に付ては、『夢溪筆談』に齒痛の爲めに苦參を服すれば遂に腰痛

を病む。其氣腎を傷ぶるか爲也と實例を擧げて説けり。『本草衍義』にも朝士腰痛、齒を病み苦參を服し病これより入る……『福州府志』には。徐水仙の女が苦參を括し、高蓋山に服食せし記事あり。高蓋山は福州の名山なり

朝鮮に於ては。「文宗實錄」元年に、開城府留守奇虔が嘗て濟州牧使たりし時。同處は癩疾甚多く、相染を恐れ患者を無人の境に棄つるの風あり。虔之を憐み。百餘人の男女を收容し、苦參元を服せしめ、海水に沐浴せしめ、大半愈へたりとの記事あり。

苦參の名初めて日本に見はれたるは、『出雲風土記』の意宇の郡の物産中に出で。

苦參の旁にクララと訓せるを最初のものとする。此時代既に隋唐の醫學輸入せられ、醫書も亦舶載せられて。日本自生の藥草と、支那の文籍中の者と對照研究することも行はれたれば。其認識を誤らずして發見せられたるものなるべし。

人參、丹參、甘草の如き、日本に産せざりしものは、往々其對照を誤り、別箇の者を以て之に充てしも。苦參を正しく認識せしは、山野各地に自生せること多きにも、亦由るものなるべし。

日本に於ける苦參の名稱左の如し

『藥經大素』苦辛とあり和名無し。

『新撰字鏡』

苦參、久良良。

『延喜式』

クララ(苦參のフリ假名)。

『本草和名』

苦參 久良々一名末比利久佐。

『和名類叢抄』

苦參 久良々一名末比里久佐。

『醫心方』

苦參 久良々一名丁止利久佐。

『康賴本草』

苦參 和、加川禰久佐、久良々、又末止利久佐。

『類叢名義抄』

苦參 キツネササゲ、マヒリグサ、クララ。

『辨并正壽本草正譌』

苦參 キツネササゲ 仙臺。カミナリササゲ 越後。

其語原に付ては『神農本草經攷注』に於て森立之に以下の如き説あり。……立之按ずるに、本草和名、久良々又末比利久佐。竊かに謂ふ。久良々は久良久良之略。此物苦味至つて烈し、人目をして眩し、久良久良せしむる也。末比利久佐は、目比利久佐之義。比利亦比利比利之略。疼痛を謂ふ也。此物至つて苦し、以て目を洗へば、眼眶比利比利として痛む、故に名く。醫心方、末止利久佐、恐らく訛なり……。と蓋附會の説たるを免れず。

苦參の藥效に付ては、前に述べたる、史記大倉公傳によりたるか、齒病に用ひたる處

方多し。

苦參は、支那日本共に、古代より類似植物の混同なく。クララなる名稱は、約二千有餘傳統し來れり。朝鮮の名稱は「郷藥集成方」には、郷名板麻とあり「東醫寶鑑」には、은디삼블취……とあり。現在も은디삼블취の名稱を以て呼ばる。은디삼블취は苦きの意味。삼블취が本名、블취は根の意味也。

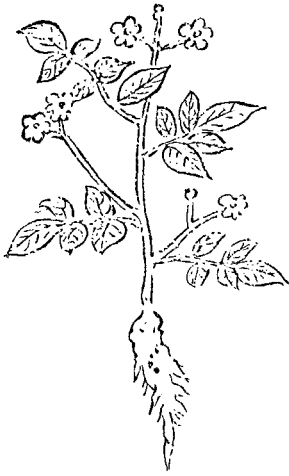
是を今日の植物學的に記載すれば。本植物は、マメ科 (Leguminosae) クララ屬 (Sophora L.) の一種にして。『牧野日本植物總覽』には…… *S. angustifolia* Sieb. et Zucc. クララ、クサエンジユ、キツネノササゲ。

多年草。全株短毛を布く。葉は羽狀複生、小葉は十餘對、長橢圓形。總狀花序は頂生、狹長、花は淡黃綠色。萼は斜黃鐘形、五短齒緣。花冠は著しく挺出。諸瓣は同長、長爪、龍骨瓣は鈍頭。雄蕊は離生、子房は有柄。莢は狹圓柱形。念球狀。長二寸許一山野、花候六月……。本州(各部)、四國、九州、琉球、臺灣。

と記さる。

苦參根は苦味健胃藥又腸内寄生蟲驅除藥とする。マドリン $C_{12}H_{17}N_2O$ なるアルカロイドを含有し強苦味を有する。『重訂本草啓蒙』刈米博士。

(3) (2) (1) 圖草本急備類證史經定枝興紹



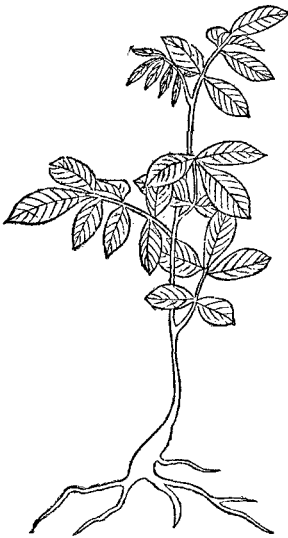
(2)

參苦京西



(1)

乾暴根探月十月八月三 參苦州邵



圖の參苦圖實名物植



(3)

參苦州秦

◎クソニンジン 蕪人參

『小野本草綱目啓蒙』に……黄花蒿にクソニンジン、バカニンジンの名あり……とあり。『倭訓栞』に……クソ人參と呼ぶものは青蒿なり……とあり。

『江馬藥物本草圖彙』手稿には……クソニンジン黄花蒿……とあり。ラテン語 *artemisia* *jaipica*. と記しあり、オランダ語も記しあれと其字明瞭ならず……。



(青蒿)ニンジンニソク
圖の蓋圖物植本日士博野牧

右黄花蒿と云ふは、カハラヨモギ即ち *Artemisia capillaris*, Thunb を指したるものなるべし。其形態に付ては野人參の項に記す。

青蒿と云へるは即ちキク科 (*Compositae*) ヲモギ屬 (*Artemisia* L) の *A. annua* L. を指した

るものにして其形態に付てはカハラニンジンの項に出づ、併せ見るべし。

◎クダラ人參

百濟ニンジン

百濟の日本の古訓クダラとよみしもの其百濟の人參。便宜上ヒヤクサイニンジン
の項にて記述す。其項を見るべし。

◎熊谷人參

クマガヤニンジン

『^{坂上}人參譜』に出づ、薩摩人參(即竹節人參の鬚の製品を指す)の一名とあり。武藏熊
谷よりも同一品を出したるにより、名けられしものならん。

◎クマノイ

熊の膽

「一」古代に於ける人參の和名とせられしもの。久末乃伊、久萬乃伊、古馬那衣、熊膽、
等々典籍により借音漢字を異にせり。

此名『藥經大素』、『新撰字鏡』、『本草和名』、『和名類叢抄』、『醫心方』、『康賴本草』等に
カノニゲグサの一名として出づ。後代の記載は大抵以上の書に據りたるものなり。

此語原に付ては諸説あり。

佐藤方定は其著『備急八藥新論』に於て、味の苦きこと熊の膽の如きによると説を述べたり。香川修菴の『一本堂藥選』亦同じ。瀧澤馬琴は『玄同放言』に於て同上の説を述べ、猶クマノイは高麗の醫ならんかと古ヘコマと稱せし渤海より人參の渡りしにより此に緣由あるものとの説を述べたり。屋代弘覽は『古今要覽』に於てクマ、カミ、古へ通せし言葉なるにより。クマは神の意なるべく。ノイは考し得ずと牛未成の説を述べ。曾槩は『人參識』に於て盧會に象膽、潑陵に龍膽と云ふ如きものなるべしと謂へり。

考證を苟くもせざる新井白石は、『東雅』に於て其義不詳と説きたり。

而して此クマノイなる植物に付ては。カノニケグサと同じく、古代より眞の人參日本にありと爲すもの。沙參となすもの。竹節人參と爲す者等説各異なれり。カノニケグサの項を見るべし。

〔二〕 人參の葉を卷きたる一種の藥材。

『内藤 尙賢 古方藥品考』に……又遼蕩葉を束ね、筆管の狀の如く長さ尺許、味極めて苦し。

頗ぶる熊膽の氣味に似たり、故に古へ久ま乃井と名く。對州の俗之を服す。暑邪及

腹痛等を治す……と出づ。『躑躅本草綱目啓蒙』には……參葉は朝鮮より莖葉を束ね、粗筆管の大きさの如くにして。外を藤にて巻、長さ尺餘或は七八寸。味苦く微甘。古渡の參葉膏は甚堅く、深黒にして光あり熊膽の如し……とあれど之れに熊の膽と名付けしとは無し。尙賢の説根據無きに似たり。

◎熊野小人參

クマノニンジン

紀州熊野より出し竹節人參の鬚根の名。

徳川家綱の代明暦四年。藥劑取締の時藥性功佳ならずとの理由にて、賣買を禁せらる。其後解禁せられたるか、或は默認したるかなるべし、之を賣買せられたること本卷に收めある竹節人參に關する各項に見ゆ。

◎熊野人參

クマノニンジン

紀州熊野山中に自生したる、竹節人參及同地にて右植物を培養したる人參。竝以上二の修製品の名稱。

熊野小人參の項を見るべし。

『日本藥園史』に。享保七年小石川小石川御藥園に熊野人參二根、同十二年に、同上九十七根を培養しありしこと出づ。

猶土參、和人參、竹節人參、吉野人參等の項に詳記す、併せ見るべし。

◎熊本人參

クマモトニンジン

肥後より出し竹節人參の一名。

『^{小野}本草綱目啓蒙』に和人參の方言として……クマモトニンジン肥後……と記せり。

『倭訓栞』に……竹節人參の一名なりと出づ。

◎貨

クワ

滿洲に於ける清代人參の略稱。

『柳邊紀略』に關東の人は參を呼んで貨と曰ふ、又根子と曰ふ。大なる者を紅根と云ふ。半肉半皮を糙重と曰ふ、空皮を泡と曰ふ、泡の多寡を見て貨の成色を定む……とあり。貨と稱せしは、滿洲の昔時に於ては、人參が貨幣と同じ重要さを、經濟生活上にもちしためなるべし。

◎光 小 熟

クワウシヨウジユク

清代滿洲人參に對し蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎光 小 條

クワウシヨウデウ

清代滿洲人參に對し蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎光 大 條

クワウダイデウ

清代滿洲人參に對し蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎光 頂 熟

クワウチヤウジユク

清代滿洲人參に對し蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。

拔頂熟の項を見るべし。

◎光 中 熟

クワウチユウジユク

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎光 二 頂

クワウニチヤウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎火 蔘

クワシン

「一」李朝後期に於て附けられたる名稱にして、ヤキバタ火田區域に産する人參。

此の名稱は主として、江原道大關嶺以東の火田部落の住民に、火田税を免除する代りに、人參納付の義務を負はせありし。其人參を稱す。後に至り錢納となる。「臨瀛誌」に……火蔘税、合四十一結七負七束、每員捧三錢式。秋捧二錢、謂二分錢、春捧一錢、謂

一分錢……とあり。

〔二〕 大黃の別名。

此別名『吳普本草』、『釋藥性』に出づ。

大黃は蓼科(Polygonaceae)に屬する。Rheum palmatum L. var. tanguticum Maxim. にして其製劑は、日本藥局方の Rhizema Rhei. なり。

(大黃は健胃藥及瀉下藥に用ゆ、瀉下成分はエモジン Emodin $C_{15}H_{10}O_5$ 、クリソフアン酸 Chrysophansäure $C_{15}H_{10}O_4$ 等のオキシメチルアントラヒノン誘導體の配糖體である。重訂本草啓蒙、刈米博士)

◎光 揀 熟

クワウレンジュク

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎廣 參

クワンシン

廣東人參の略稱其項を見るべし。

◎官蓐又官蔘又官參

クワンシン

〔一〕支那の官蓐 一

清朝初期よりの官用語。官物の人參と云ふ意也。

清朝建國の初めより、奉天省内諸山に産する人參は、其採挖を官營とし。盛京將軍管理下に官蓐局を置きて、其事務を管理せしめ。得たる人參は此を北京に送らしめ。戸部の管理に屬し。以て國庫の財源に資す。

其人參の中、皇帝の用として貢納せしむるもの。官蓐局の經費として引去るもの。及採取人が一定の義務額を納めたる、以外の自己の所得となるものを除き。其他は全部官蓐と稱し。國用に資せり。

此の參政處理は國初に始め。乾隆の初め典制を設け。咸豐二年に至り、皇帝の旨を以て停止す。濫獲の爲め人參減少し、採挖に當る人民の苦痛甚しかりしに由る。詳しきは第二卷人參政治篇を見るべし。

〔二〕支那の官蓐 二

官蓐の用語は前項の如しと雖も。また別に官の保護採禁下にある滿洲の人參と

云ふ意味にも使用せり。

『大清會典』に。……順治六年題准皇帝の批王貝勒貝子公皇族も等官褻を採取するに。各派定人數に照して發往違例の差遣者一切革去……とあり。康熙二十一年の議准にも……。凡そ官參を採取の人各印票を給す……とあり。

〔三〕朝鮮の官參

李朝中期以來の官用語。國帑として戸曹に於て管理せし人參。

國初以來人參は唯王室の使用と、上國支那への貢獻用竝に日本との國交禮物、支那日本より來る國使への贈與等に充つるの目的を以て。其產地より貢獻せしめ來りしが。明末より人參の價暴騰するや、國の貨幣無く、米と布とを以て之に代へ使用し來りし朝鮮に於ては。人參は金銀と共に一種の貨幣化し、銀參、參貨など、云ふ熟字を生ずるに至れり。而して戸曹參と稱し、一定の量を貢納の外に徵收し。且つ又東萊に於て日本と貿易せし人參には、什一の現物税を課し。此等を戸曹に保管して、官參と稱したり。

『萬機要覽』に北京行使節の別旅費として、官參八兩を給する規定ありしこと出づ。詳しくは第三卷人參經濟篇を見るべし。

〔四〕 日本の官參

徳川吉宗將軍以來、官營として生産したる所謂御種人參の製品。を學者が呼びし名稱。

〔内藤 古方藥品考〕に……人蓐數種あり、朝鮮産を最上となす。形色官蓐の如く横文あり……。〔小西長 左衛門 人參考〕に……朝鮮種官參、印付其儘三度程まぶり、切て見るに、古渡人參の如し……此類の用字例多し、略之。

◎ 關 東 蓼

クワントウシン

李朝中期以後の官用語にして、江原道に産せし自生人參の稱。

關東の地理的別名は、李朝の學者が中華文明に心酔し、八道に湖南(全羅)、嶺南(慶尙)、湖西(忠清)、海西(黃海)、關東(江原)、關北(咸鏡)、關西(平安)等と支那に倣ひて、雅名にて稱呼せしに由來す。

〔英祖實錄〕己卯二月……關東參貢は實に東民の巨弊となる……云々。猶本項の名稱は、増補文獻備考「萬機要覽」、大典會通「李朝歷代王の實錄」、其他官邊の記録文籍中に散見す。第二卷人參政治篇を見るべし。

◎關東人蔘

クワントウニンジン

滿洲に産せし人蔘の名稱。

支那中央政府より見て滿洲を關東と稱し。滿洲人蔘を關東人蔘と稱せり。『吉林地理記要』に……冊府元龜五季唐同光二年渤海王大諲譔、人蔘、松子、昆布、貂鼠皮、一擲靴革を貢す。考するに關東人蔘の目始めて之に見ゆ。……とあり。

◎廣東人蔘

クワントンシン

廣東人蔘の項を見るべし。

◎廣東人蔘

クワントンニンジン

【一】支那廣東の貿易船により、徳川中期長崎に輸入せし亞米利加人蔘。則ち學名 *Panax quinquefolia* L. の根たる藥材。

【二】前項と同じく輸入せられしも。亞米利加人蔘に非ざる、支那産の種々の草根を偽り混へて日本と貿易したるもの。

【三】此人參のよく賣れるに乘じ。奸商等日本の草根を以て偽はり造つて賣りしもの。

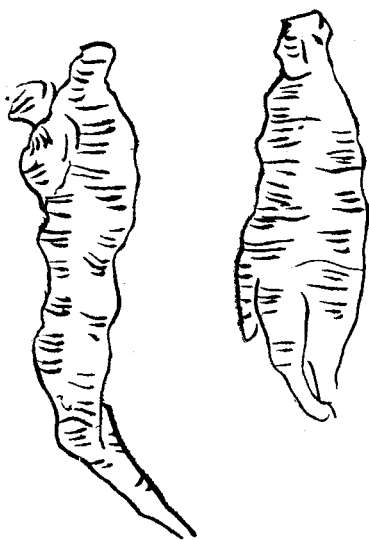
廣東人參略して廣東參、又略して廣參と呼稱せられたり。此名稱に付ては其初め商略上支那品の如く見せかけしにより。日本に於ては廣東産の人參なりと信じて命名したるものにて。『西人參辨』には此名稱は賈舶の稱する所なり。とあれどもそは後の事なるべし。『小野山廣參說』に……長崎十善寺に寓する清人赤程城の言として。廣東人參の稱は貴地方の言に係るに似たり。唐に在つては多く通せず……とある方正しかるべし。

又『水月庵漫筆』に……廣東人參、享保中持渡し其節粵人參と稱して後持渡りし唐人共、廣東人參と改む……『醫人參識』粵人參 華商の俗稱。往歲長崎の陳某なるもの言ふ。享保中夏商多く此參を持來す。其始之を粵人參と云ふ。參商遂に誤つて奥人參に作る……是に於て船商改めて廣東人參となす、粵は廣東なり……云々。本品の初めて輸入せられたる年代に付ては。享保年間説と、寛政九年説とあり。前者の方正しかるべし。

本品が何物なるかに付ては、斯道者間に種々に議論せられたれど。陸可久『ありの

まゝに出でたる説を正しとす。曰く。……一説に廣東人參はもと人參にあらず。彼地に生ずる所本草に所謂三七根なりといひしより。世人多く疑惑を生じ異説紛々たり。因て是を兼葭堂翁に質す。翁曰く。余弱冠より此の物に深く心を寄せて其

加藤玄順 和漢人參考の圖



參 東 廣



節 竹 東 廣

の説を精竅す。廣東人參の我邦に來ること享保年中を始めとす。廣東より舶來せしゆへに俗に廣東人參といふ。四十年前長崎にて清商に問ひしに。其人曰く、此物唐山にては西洋人參といふよし答へぬ。……云々。又寛政九年丁巳のとし、阿蘭陀の船アメリカ人參といふものを載せ來れり。全く廣東人參なり。……云々。是を廣東

人參といふは、西洋アメリカより廣東へ交易し來り、我邦へ交易せし故此名を得たりとかや……云々。又今年享保二年翁廣東の三七根を得て……いよ／＼西洋參、三七根の別物たる事を詳かにし。四十年來の思ひを明けたりと語られき……云々。

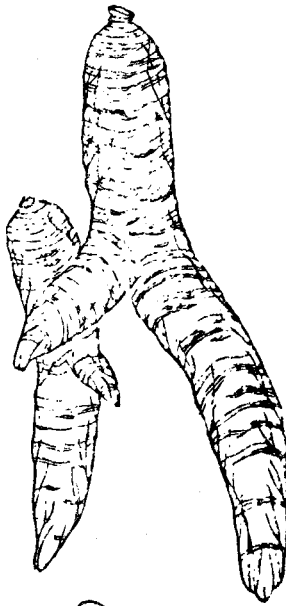
是を三七根又は芍藥手なりと認めたる記述は、『退閑耕記』に……廣東人參といへるは、人參にては無之、三七根なりといふ事聞えたれば。廣東人參うりかふ事を禁せられたり……小衛長左衛門人參考』……元來廣東人參は三七根也。切ば外の人參とは大に相違し、少しも人參切口の形はなく。味は宜しく甘味あり……。『内藤古方藥品考』……又古呂手と云者あり、形肥而輕虛下品。先哲之れを以て廣州三七と爲す者是也。按ずるに、元文中奸商、廣州三七根の人參に似たるを以て、僞つて廣東人參と爲す。邦俗之に従ふて察せず、漸く目に狎れ耳に熟す既に久し。而して遽かに改め難しと爲す……。

『加藤和漢人參考』……廣東參 西子又云ふ、此れ賈舶の稱する所也。享保年中始めて載せ來り販ぐ所。我藥肆中に之を芍藥手の參と謂ふ……。蓋し參中の最下等なる者也……。

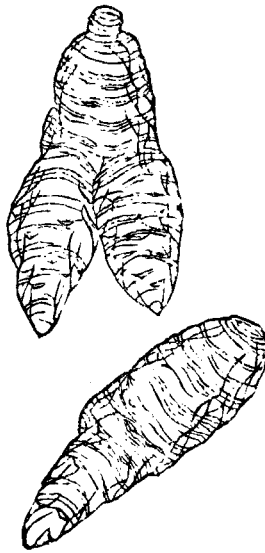
韜曰く、右に三七根とあるは、『本草逢原』に……三七 廣産、形人參の如きもの是也……

とあるものに相當す。此品をアメリカ人參に混して輸入せしものならん。又芍藥手とあるは、他の支那產の植物の根なるべし。但しアメリカ人參の中には根短かく、芍藥根に似たる形狀の者もあれば、或は此等をも併せて、芍藥手、又は三七根と稱せしこともあり得べし。

廣東芍藥根



同古路根



古方藥品考圖

是を日本產のものとしてし記述は。

『并口之本草綱目啓蒙纂疏』……蘭山曰、廣東人參は零餘子人參也。蘭賈の俗稱也。若

水廣東人參を三七根となす。韓人蔘庵以て沙參と爲す……『小野大和本草批正』にムカゴ人參の條に……一種大葉の者根大にして甚人參に似たり。これを廣東人參と

云ひし説あり非なり……。【松平秀雲本草正譌】……近代安廣東人參と稱する物は薺蔴根即ち杏葉沙參也……。【小野蘭山本草綱目啓蒙】……シラネニンジンを多く偽りて廣東人參と云ふ……。【山岡守全本草正々譌】……廣東人參 浪華の花肆より得て之を植ゆ。按ずるに、江蘇の一種なり。山中産するを見る。血分の病に用ひ効なきにもあらず……。云々。以上日本産の偽品なるべし。

本品の流行と取締

本品に其種別甚多かりし事は『養葭堂人參錄』に……廣東參、本カミと新山人參と呼ぶ、其後芍藥手人參と呼び。今又廣東人參と呼ぶ。其品甚多し、略ぼ後に備ふ。

- 之。
- | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|----------------------|---------------------|---|---|---|---|--|--|--|---------------------|---------------------|-------|
| 産 <small>ツブ</small> | 壓 <small>フシデ</small> | 割 <small>ワリ</small> | 煮 <small>ユエ</small> 朽 <small>ユエ</small> | 産 <small>クシ</small> 絞 <small>シメ</small> | 浮 <small>フク</small> 虚 <small>クシ</small> 絞 <small>シメ</small> | 黄 <small>スキトウ</small> 透 <small>ツウ</small> | 堅 <small>カタ</small> 實 <small>タ</small> | 潤 <small>ジツ</small> 和 <small>ワ</small> | 蘆 <small>ロ</small> 頭 <small>トウ</small> | 碎 <small>クズ</small> | 節 <small>フシ</small> | 其 餘 略 |
|---------------------|----------------------|---------------------|---|---|---|---|--|--|--|---------------------|---------------------|-------|

……とあり。此中にはアメリカ人參ならぬ種々の者を混せるを察すべし。

『【販路整齊】草木圖説』には。西船所輸の根は、漢人の所謂西洋人參にして、吾邦の人之を廣東人參と稱するものなり……。西船廣東に輸するを以て吾邦人の廣東人參と稱す、亦宜なりとす。先師之れを別種とし、遂に非人參説。【輒曰。小野蘭山の廣參説に於て廣東人參を三七根なりとせるを指す】あるものは。西書を讀まざるの誤に出ること言を待たず。知るべし、又林氏舊説に、

リニネ

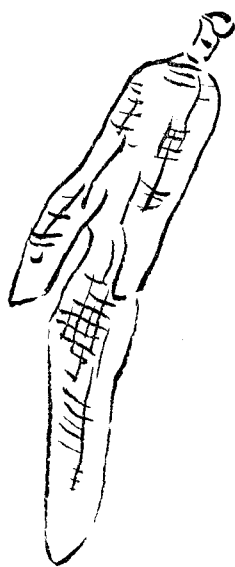
本條を吾邦の人參に異なりとするの誤は。堅布兒氏名の訛傳によることムカゴ人參の下に詳にす……云々。

韞曰。小野蘭山が危篤に瀕したる時の絶説とも云ふべき門人の筆記に成る。『廣參説』には。長崎の人安川上田兩生が廣參の初めて舶來の時、清人に聞きしに。是安筮草の根也と言ひしこと。長崎在留の清人が洋參は我地の三七なりと言ひしこと。其實物が芍藥に類すること。支那の三七には數種あること。蘭山の見たる古渡三七と廣參と同一なること。等々を舉げて其人參に非ざることを詳説せり。蓋し蘭山の實見せるもの及其列舉したる資料は悉く擬似のアメリカ人參なりしなるべく。又眞のアメリカ人參を誤認せしにも由るべく慾齋の言ひし、西洋の書を讀まざるの誤のみには非ざるべし。

本品の輸入せられし時代は。人參熱漸高まりて、而も人參に甚しく不足せし際なりければ。之を使用する者多く輸入激增せり。幕府は寶曆七年廣東人參持渡る間敷旨仰渡され。同十三年八月廿日。一廣東人參商賣之議向後堅く停止に候間此旨可相守候。右之通可被相觸候と達し。明和元年九月には、密輸入の廣東人參四百五十斤を長崎奉行に於て燒棄せり。此取締は、廣東商人が偽品を持來り、夫れが藥効なし

と云ふ、幕府の試験の結果のみに非ず。輸出入のバランスをも考慮せる、經濟政策も伴ひしものならん。

而して天明八年戊申正月廿二日に至り。廣東人參之議先年賣買停止被仰出候處、此度御糺の上、病症により効能も可有之に付。下々に迄容易に相用候爲め。向後前々の通賣買勝手次第可成旨被仰出候……と解禁したり。



圖の記參人眞嘉
手加利布亞 參人東震

蓋幕府の技師とも云ふべき醫師の臨床實驗上又現品検査上人參に準ずるの効ある旨を主張せし者もあり。且眞人參の普及せずして下民の之を得ざる者に、其缺乏を補はしむべき、醫藥行政の主旨より出しものならむ。右の法令は『天明大政録』幕府觸書留『蜀山人一話一言』等に出づ。

亞米利加人參の項を参照すべし。

◎京貢 蓼

ケイコウシン

李朝後期の官用語。京貢とは法令又は不文法的慣例に依り定まりたる貢物を、地方より京城の當該各司に納付する。其現物を上納せずして物品の代價としての米又は布或は錢を納付し。京城の各司は京貢人又は京主人と稱する、貢物納付受負商人より買取るの制度を謂ふ。

此制度の便益は、納受雙方の手數を減すること、物品變敗の損害無きこと、の外に。地方人民の負擔を輕減せしこと多大なるが故に、一の變通恩典として行はれたり。何故に人民の負擔を輕減せしかと云ふに。李朝中期以後官場腐敗し、貢物を取扱ふ中央地方の官吏は商人と結託して、其手に依る物に非ざれば縱令良品たりとも檢査の際不合格とするの弊ありて。山奥に生へし人參は官邊に通らず、鐘路に生へし人參ならばよく官邊に通過すと云ふ諺ありし程なり。且また其數量に於て關係官吏が私服を肥すべく、比々規定以上の數量を徵收したるが故なり。

人參の如きは、所謂古の任土の貢として定められたる者なるも。其後産出減少或は絶滅の後に於ても。猶貢納を強ひられし爲に貢納義務者たる人民は、錢穀を醸出

して買取り納付せし地方甚多し。京貢となる時は其負擔の苦痛甚しく減少せしなり。

◎京

參

ケイシン キンソン

長崎に於て通用せし支那人參の品種別名稱。京人參、金參とも稱す。

『加藤和漢人參考』……に長崎にて極上の人參をキンソン京と云。唐人の詞にて日本人も云ふ……云々。

『庶物類纂』に……享保丙午、長崎在留南京人俞枚吉の幕府に上つりし人參の中、京參一枝あり。色黃白にして輕脆、近來賈舶絶えて此種を齎らさずと……あり。

『麤幼雜貨譯傳簿』中人參、品名、長崎にて清商ケイシヤウの中に……京參ケイシヤウ、上好の人參也。但

其中に三角手、生姜手の異あり。金參ケインスイ、上好に同じ……とあり。

『驗會人參識』に……京參一名金參、皆西夏の稱。按ずるに、京金通用す、京墨又金墨と云ふ皆美稱也。吾藩之を鬻ぎし者まゝあり。云ふ是れ中山人齋らすと。嘗て之を檢するに、參膚數枚を槲合し、形豐大にして皆尾を勾げ、糊定する者也。其色黧白、其味は必ず天稟の眞味にあらず。

光緒年代の福建省蓋金稅則に……。京參を每觔貳拾枚參拾枚四拾枚に別ち起驗局捐銀を課する規定の條文あり。

◎京 人 參

ケイニンジン

京參の項を見るべし。

◎月 下 參

ゲツカシン

清代に見はれし擬似人參の一種。

『植物名實圖考』に、左の如く出づ。

月下參 雲南山中に生ず。細莖柔緣葉、花は又。蓬蒿萋の輩に似たり、又益母草に似て小、細莖を發し蒼莖を撃ぐ、宛として飛鳥の首を昂げ尾を翹て、枝に登り鳴かんと欲するが如し。五瓣の藍花を開く、上三勻排、下二尖並。内に又五茄紫碎折あり花腹に藏す、上一下四微かに黃蕊を吐く、一柄翻翹色亦藍紫。蓋即ち菊譜の雙鸞菊、烏頭的一種。滇人根の圓白細鬚多きを以て、月下參と爲す。滇本草、味苦平、性溫熱、九種の胃寒を治し、氣痛を定め、脾を健かにし、食を消し、噎を治し、中を寬にし、痞滿、肝積、左右肋

痛、吐酸を治す。其性又烏頭と相近し……。

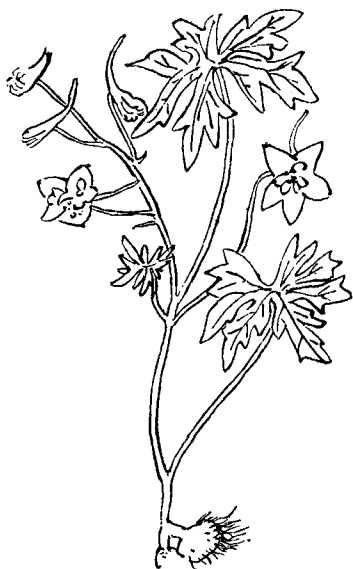
『醫科植物名彙』には、本植物に關し左の如く目錄の記載あり。

Aconitum 月下參、小草烏(CH)(HC)

Delphinium 月下參(CH, XXIV 17)



圖のウサンジイレ 鑑圖物植本日 士博野牧



圖の考圖實名物植 參下月

右 (CH) は植物名實圖考 (HC) 名 = Henry, Ang-Chinese names of plants. (Journal of the

China branch of the Royal Asiatic Society) New Series. Vol. XXII 1888.

鞆曰く、本植物はウマノアシガタ科 Ranunculaceae. トリカブト屬のレイジンサウな

るべし。

『博士牧野日本植物圖鑑』の圖右に掲げたる如し。其の植物名實圖考の圖と同一物なることを曉るべし。植物圖鑑の記事左の如し。

Aconitum Lycocotum, L. ナイジンサウ。

產地、山地に生ずる多年生草本なり。形態概形トリカブトに似たり。莖の高さ凡二尺、根葉は多くは掌狀に五裂し、各裂片は銳頭の缺刻或は齒牙を有す。莖上に總狀花序をなして花を開く。兜狀の上萼片は細長き圓筒狀をなし、上端少しく彎曲す。花後通常三箇の果實を結ぶ。

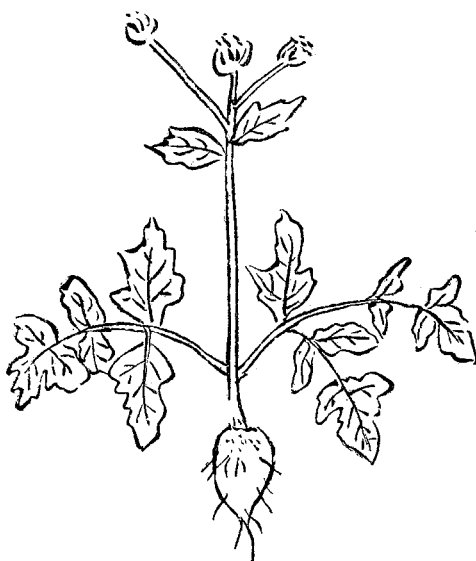
花期夏時。花色淡紫色を呈す。有毒植物なり。

◎月山人參

ゲツサンニンジン

徳川後期に見はれし擬似人參の一種。

『坂上本草人參譜』に……羽州人參、月山に生ず、土人月山人參と名く……とあり、圖より見れば、菊科の植物らしきも何ものなるや不明。此名稱出羽の一地方にのみ通用せしものなるべし。他の書には見へず。



圖の參人山月 譜參人臺之上坂

◎ 血

參

ケツシン

〔一〕 人參の異名の一。此名『名醫別錄』、『吳普本草』、『釋藥性』等に出づ。

『本草綱目』には、其名稱の緣由を説明して……其の五參の色に在つては、黃は土に屬す。而して脾胃を補ふて陰血を生ず、故に黃參、血參の名あり……。等、等と李時珍の

説あり、此れは強ひて五行思想に附會したる僻説にして。其辯五參の項に説述せり。其項を見るべし。

附記 本草和名の一本、森立之の書入に、血師の異名字類抄に有る旨記入しあり。

〔三〕『秘傳花鏡』に……土參、一名神草、一名土精、一名血參。南浙に産す、四月開花細小粟の如し、藥絲の如く白色。秋後實を結ぶ、生青熟紅性最も燥を喜ぶ、春間分種……とあるは、人參とは別の植物なるべく。徳川時代の本草學者は多くこれを竹節人參に充て説けるも、其正否を斷定すべき資料なし。

◎獻 上 手

ケンジョウデ

獻上人參の項を見るべし。

◎原 枝

清代に於ける滿洲人參の品種別の名稱。

『麤幼雜貨譯傳簿』に人參名稱長崎に於て清商の中に……原枝エシツツ自然天質僞造を加へず亦上參也……とあり。

『小野本草記聞』人參品類多し。……ウブを原枝と云ふ。唐の俗名也長崎興福寺の唐僧を隱元と云ふ。此人々參のことを悉して人參傳と云ふを作られたり。其内に原枝と云あり……云々。

『小野本草綱目啓蒙』に……鹿幼雜貨譯傳簿に、偽造を加へず、天然の人參を唐山の俗名、原枝と云。朝鮮人參には原枝少し皆製造なり……とあり。

『熊谷之欽廣參品』には右譯傳簿の記載を其儘記載せり。

◎獻上人參

ケンジョウウニンジン

徳川將軍に獻上の人參の稱呼。

各大名より其主産品を將軍に獻上するの風、後には一種の不文法的例規となる。

其品目と獻上時期は『武鑑』に記載せり。對馬の部には、二月人參とあり、此人參は最良品なり。其獻上人參の事詳しく『對馬文書』に出づ。……享保六年參府の節獻上、五斤……等の如き記事甚多し。

また『對馬文書』中には、將軍が臨時の御用にて對馬屋敷に命じて差出さしむる人參をも獻上人參と記せり。

右の外朝鮮の信使が、私的に將軍に獻する人參も亦獻上人參と稱せられたり。

新井白石起草し、家宣の時制定したる『朝鮮聘禮事』に……三使正使、副使、從事官中より、獻

上人參々拾筋……同上『朝鮮信使登營式、同通信使一行座目』に……朝鮮國王より人

參五拾斤。三使獻上人參拾斤……云々とあり。

『藥會人參識』に……獻參 調御參の一名を云ふ、朝鮮の稱呼なりと……韓人將來中第

一の好參なり……とあるは此獻上人參のことを誤り記せるものなるべし。『柴田正簡日

用藥品考』に……獻上手、即ウブの中の上品なるものにして、獻上に備ふべきの稱也

……とあり。肆中にも如此稱せし品種ありしを知る。

◎ 拳

參

ケンシン

宋時代に見はれし、人參類似品の一種。『證類本草』本經外草類、上四十三種の中に出づ。『圖經本草』に……拳參、淄州の田野に生ず、葉は羊蹄の如く、根は海蝦に似て黒色、五月採……とあり。『本草綱目』の記載も『三才圖會』の記載も、右の文の引用以上に出です。蓋し餘りに用ひられざりし藥品なりしならんか。

日本に於ては『貝原本草和名』には、之れを……今按するに、惠比久佐……に充て、『小野本蘭山

草綱目啓蒙』は之れにイブキトラノヲ、エビクサ、ヤマタイワウ、ヤナギサウ等の和名を充て『版沼慈齋草木圖説』には、之をイブキトラノヲに充て。夏日莖梢に穂を爲し六瓣の小花を開く、粉紅色、復三稜の實を結ぶ……とあり。『岩崎本草圖説』には……拳參 伊吹トラノオ、江州伊吹山に産す。葉の形大文字筆の如くなるゆへ、オホモジサウともいふ。全く紫參ハクシトラノフと同類にして、たゞ葉狹長なり。根は屈曲して蝦の形をなす、肉淡紅色なり、莖高さ二尺許、花穂馬蓼タメヌに似て淡紅色なり……と記せり。

『牧野日本植物總覽』新刊には……

タデ科 (Polygonaceae) タデ屬 (Polygonum L.) の *P. bistorta* L. イブキトラノヲ。

多年生草、高一乃至三尺、全株無毛、根莖は原肥、根莖は肥厚、根葉は長柄、莖葉は概ね無柄、披針狀、銳尖頭、心脚、長三四寸乃至尺餘、葉鞘は膜質、緩潤、長さ一寸乃至一寸五分、穗狀花序は圓柱形、密生、淡紅色、長一乃至三寸、花被は長一分餘、五深裂、裂片は倒卵狀長橢圓形、雄蕊八、挺出、花柱三、亦挺出、瘦果は三稜形……深山茶候夏。

北海道、本洲、四國、九州……

とあり。宋以來明代迄拳參と稱せしものと。日本のイブキトラノヲとは全く別物なることは。一は田野に生じ、一に深山に生ず。又其圖を對照すれば明なりと謂ふ



圖の參參會圖才三

◎乾

參

ケンシン

季朝末期の官用語。開城白參の一名。此名「九包乾參都錄」に出づ。



圖のヨノラトキバイ鑑圖物植本日野牧

◎建

參

ケンシン

清代後期に見はれたる擬似人參の一種。

此名『本草綱目拾遺』に出づ。同書は『藥性考』に……福參は、閩、浙に出づ、頗ぶる人參に似たり。而して性味辛熱、虛寒の病に宜し……とあるを建參として引用せり。又著者……趙學敏は……乙未予は剡川に館す、故鄞の屬也。市に建參なる者あるを聞き、往き覓めて之を得る。儼として臺參中、油熟の一種の如し。大なる者は惟純透する能はず、亦蘆あり竹節紋なし、味亦苦甘、竹刀を以て之を割けば心空し……。閩中近日大に行はる、亦清補……云々……金御乘曰ふ、建人參性熱獨り産婦に宜しからず、遼參と形色氣味眞に相似たり。但遼參は口に入れ回味すれば津を生ず。此は則回味すれば稍瀋る……云々。同書は『金沙江志』に法落梅は雲南東川府法戛の地に産すとあるを引き、且つ曰く……己酉友人心痛を患ふ、客有り滇より此物を帶び來る、其形儼として上黨參の如し、之を服して病癒ゆと、據て云、彼中の人皆法落梅と名く……云々。蔡雲白言ふ、建參、閩人法落梅と呼ぶ。心痛を治する神の如し……とあり。

何科の植物なるやは右の記事を以てしては不分明なり。

◎犬

參

ケンシン

咸鏡北道に於て藥草採取業者が、自生の芍藥根に對して呼ぶ名。此の名石戸谷勉氏『朝鮮の藥料植物と利用』に出づ。

芍藥はウマノアシガタ科 Ranunculaceae 牡丹屬 *Paeonia L.* の *P. albiflora* Pall. なら。

◎玄

參

ゲンシン 元參

玄參また元參にも作る。人參、丹參、沙參、紫參等と共に五參と稱せらる。

此の名『神農本草經』中品の上に出づ、之を最古のものとすべし。同書に云、……元參味苦、河間の川谷に生ず。……陶弘景の注に、……今近道處々に出づ、莖は人參に似て長大、根甚だ黒し然して微かに香る。道家時に用ひて以て香に合す……。『本草綱目』引用の陶注には、猶……其莖微かに人參に似たり、故に參名を得る……とあり。『名醫別錄』に、……玄參河間の川谷及菟匂に生ず。三月四月採根暴乾……。『吳普本草』に、……或は菟匂の山陽に生ず、三月苗を生ず、其葉毛有り。四四相値ふ芍藥の黒莖に似たり。莖方高さ四五尺、葉亦枝間に生ず。四月實黒……。『范子』計然……元參は三輔

に出づ、青色の者美し。『建康記』……建康玄參を出す……『圖經本草』……二月苗葉を生ず、脂麻に似て對生す。又槐柳の如くして尖長鋸齒あり。細莖青紫色、七月開花青碧色。八月子を結ぶ、黑色。又白花の者あり、莖方、大紫赤色にして細毛あり。節あり竹の若き者高さ五六尺。其根一根五七枚、三月八月采、暴乾。或曰蒸過日乾……又……根苗共に臭し、莖亦人參に似ず、未だ香に合するを見ず……以上の誤に對して、李時珍は『本草綱目』に……今用ゆる玄參正に蘇頌の説く所の如し。其根腥氣あり、蘇頌以て臭と爲す也。宿根多く地蠶之を食ふ。故に其中空し、花に紫白二種あり……と出づ。玄參の異名左の如し。

重 臺 『神農本草經』

元 臺 『吳普本草』

鹿 腸 右 同

端 右 同

鬼 藏 右同并『釋藥性』

正 馬 『吳普本草』『名醫別錄』

咸 多 『名醫別錄』

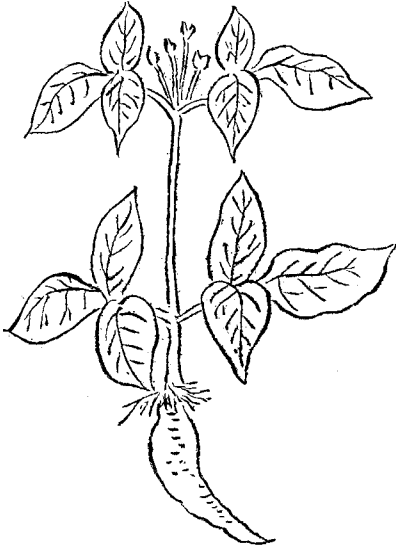
玄参 げんじん

おまんこ

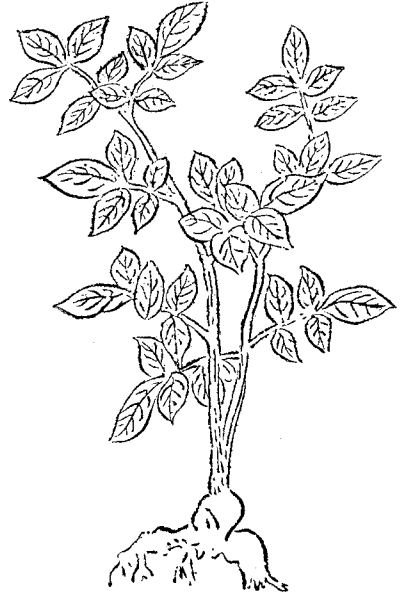


武州品川ふあるハ花淡黄色形唇の
如く天麻花に似て小く黄色兼ハ胡
麻に似て方茎對生ノ根の形天門冬
或ハ薯蕷の如く生々白色乾くと兒ハ
黒色滋潤あり

岩崎園本草圖譜玄参の圖



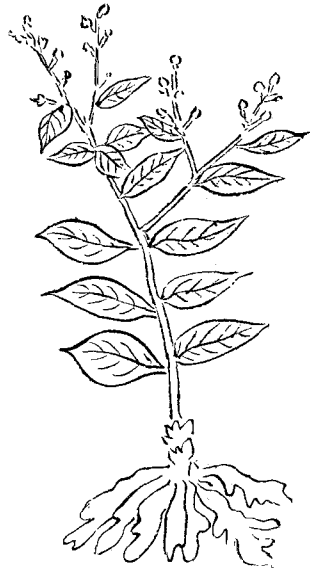
乾暴根探月四月三 參玄州江



參玄州邢



參玄州礪



參玄州衡

玄武精

『千金方』

逐馬

『藥性本草』

馥草

『開寶本草』

玄精

『范注方』

凌雲草

『村家方』

黑參

『本草綱目』

野脂麻

右同并『群芳譜』

日本名

於之久佐

『新撰字鏡』『和名抄』『延喜式』『本草和名』『康賴本草』

天押草ゴウハクサ
ヲアオシクサ

『古語拾遺』

朝鮮名

能消草

『鄉藥集成方』

森立之は『神農本草經攷注』に於て、本草和名の訓、於之久佐は、蓋於之は於保之の略語、即將に生長せんとするの義。莖幹直立四五尺、故に名く矣。今俗胡麻草と稱ふ者即是也。但圖經説く所の葉槐柳の如く、細莖青紫色七月開花々青碧色なる者、苦參を

斥に似たり。根味共に苦きを以て説を混する乎とあれど。此説例の餘りに穿鑿金
に過ぎたる僻説と謂ふべし。

又同書に……延喜式傍訓於之久佐之外、亦久良々の訓あり。蓋し玄參味苦し、人を
して人目を眩せしむる故に久良久良と名づく。苦參と自から相同名を爲す。苦參
と玄參と同物に非ざるなき乎……とあり。是も亦僻説と謂ふべし。



圖參元考圖實名物植

『延喜藥錄』に……和漢皆用ゆべし、但關東の産根最佳なり。京都比叡山に生ずるも
のは形似なりと雖も根堅く木の如し、絶へて氣味無く晒乾を経て黒變せず。疑ふ別
物……とあり。

〔牧野日本植物總覽〕の記載左の如し。

玄參はゴマノハグサ科 (Scrophulariaceae) ゴマノハグサ屬 (Scrophularia Tourn.) の學名 *S. Oldhami* Oliv. ゴマノハグサ。

多年草、莖は直生、無枝、方柱形、稍有翼、高五六尺。葉は有柄、卵狀披針形或は卵形、銳頭、圓脚或は稍截脚、密錐。花序は長形多花、苞は線形。花は淡黃綠色、萼裂片は卵形或は卵圓形、花冠筒部の半長、花冠は壺狀唇形、蒴は卵形—原野、花候夏。

本州(中南部)九州。

(備考)ヒナノウスツボに比するに。葉面は淡綠色。圓錐花序は稍穗狀。花蒴は黃綠色なり。

附記、朝鮮に於ては未だゴマノハグサは發見せられず。前記「郷藥集成方」の能消草とあるは、他植物なるべし。「東醫寶鑑」には元參の記載無し。

◎ 建 人 參

ケンニンジン

清代後期に見はれし擬似人參の一種。此名『本草綱目拾遺』に出づ。建參と同じ其項を見るべし。

◎紅 根

コウコン

滿洲人參品種別の名稱。

『柳邊紀略』に……肉紅にして大なる者を紅根と云ふとあり、此名本篇各所に出づ。

◎後 蔘

コウシン

現在開城に於て通用せる名稱。

朝鮮總督府專賣令により、指定區域内の人參耕作人が、政府專賣紅蔘の原料として買上を受くべく、人參を栽培し、生長の時期年根に至り掘採りたるも、品質が紅蔘原料として適當ならず。故に検査を受けざる水蔘の稱。

適當品なりとし、專賣局開城出張所内の検査所に持込みし後、撰り出され不合格となりし者を退却後蔘と稱す。

此後蔘の文字の初めて公文に載りしは、開國五百三年(明治三十七年)韓國法令包參規則中に、一、後蔘白斫亦自公司頒給印紙爲稱。錢估價抽百二。以爲公貨減稅釋……とあるもの是なり。

◎江 蓼

コウシン

李朝中期以後の官用語。民間にも廣く通用せり。

〔一〕 江原道に産せし人參。

〔二〕 平安道江界府の管下に産せし人參。

何れも自然生の人參なり。此名稱は、李朝歷代「實錄」。其他の公文書に散見す「萬機要覽」には。二者の混同を避くる爲め……内局御供蓼 江原道江蓼……と云ふ如く區別して記載せり。「林園十六志」に……東俗、關西、江界等の地及江原道諸郡に産する者を江參と爲す……。「海東釋史」に。『和漢三才圖繪』朝鮮人蓼の記事を引用敘述したる後に……按ずるに蓼を謂ふは、即江蓼也、本國之蓼、江界を佳なりと爲す……とあり。

◎紅 蓼

コウシン

生まの人參を蒸して乾燥修製したるもの。朝鮮開城の特産、支那向き輸出品。内地に於ては近代朝鮮に倣ひ、會津出雲等に於て製造す。

紅 藝 上 品

專 賣 局 製 品



紅參の製造は、韓國の末期李太王三十四年の秋より宮内府に屬し、官の專賣となる。爾來韓國政府、度支部、また農商工部等に轉屬す。併合後引續き總督府の專賣となり、三井物産會社をして一手に支那輸出を取扱はしめつゝあり。

紅參の起原に付ては、「增補文獻備考」。「中京誌」。「韶獲堂集」等に、金澤榮氏の同一筆になりし同一の記事あり。曰く……全羅道同福の女子山に蔘子を得。之を田に種ゆ。崔姓なる者あり傳へて之を蕃殖す。此れ家蔘の名の始め也。崔は東蔘の天下の貴ぶ所となるを以て、潜かに齎して清人に售る。清人の鴉煙に病む者蔘を用ゐて藥と爲す。故に我蔘を得て甚だ之を珍とす、然して之を服す、亦往々毒に遇ふ。崔其故を知り然して蒸して之を售る、大に利を得る、富は一道に甲し。此れ紅蔘の始也……とあり。此説は考證を缺きて史實に合せざる杜撰のものたり。茲には贅せず、第四卷人蔘栽培篇及第五卷人蔘醫藥篇に詳説す、參照すべし。

人蔘の生まの根は、水苔に包み如何に手入を爲すも約二箇月以上は保存困難なり。故に人蔘を保存し貯藏するには干すか煮るかの方法を取らざるべからず。其之を煮又蒸す方法の修製歴史は相當に古く、朝鮮には宣祖の時代より既に把蔘なる煮製の人蔘あり。「宣祖實錄」。「光海君日記」。「仁祖實錄」等に出づ。支那に於ては「大清三

朝事略』に……乙巳春三月、上は命じて人參を煮製す。是より先我國明人と人參を以て交易す、水を用ゐて之に漬す。明人佯つて市ふを欲せず、國人朽敗を恐れ急に售る、多く價を得ず。上民用の充たざるを慮り、命じて法の如く製す。急に售らず價を得る常に倍す、民用以て利す……とあり。此れを以ても猶紅參の起原とするを得ず。何となれば前記把參の記事は之より年代古ければなり。一體に草藥を煮蒸するは相當に古く。既に漢末の『本草書』に其記事あり。朝鮮に於ても人參の蒸製が古き歴史を有することは、『高麗圖經』に著者宋の徐兢が朝鮮人參の見聞を敘する條に……亦生熟二等あり、生は涉夏蠹損し易し、湯釜を経て熟する者の久留すべきに若かず。舊と傳ふ形匾なる者は謂へらく、麗人以て壓去し汁を煎に作ると。今之を詢へは非也、乃ち稜の熟する者燂を積んで致すのみ。其作關當さに自から法ある也……とあり。則ち是れ古き紅參類似品なり。『本草圖翼』には、右に述べたる如き徐兢の記事と似たる圖出づ。『五雜俎』に……高麗新羅又之に次ぐ……今生なる者得べからず、其中國に入る者を見れば皆繩縛し蒸して之を夾す。故に上に夾痕及麻線の痕あり……とあり。以上により紅參の古き傳統を有する事を知る。唯近代に至り其修製法が進歩したるのみなり。

紅。參の文字は、初めて李朝「正宗實錄」二十一年の記事に現はる。其前に當り新に水原に築城したるも、人聚らず之れが充實策として、資本家を入城住居せしめ、人參の專賣を許さんとし其等の件を清の皇帝に奏せんとして其節目案を作成せり。其中に紅。參の文字ありしを王は之を見て、參色の黃白則今之を治す、紅なる者假造に非ずして何ぞ……と之を削りし記述あり。「純祖實錄」に、辛巳十一月開城留守吳翰源の上疏中に……每歲蒸に入る紅參專ら此地に出づ……とあり。

近代に於て紅參の文字を法令に使用したるは李太王二十年^{明治十年}に發布したる朝鮮國稅關規則を以て始とす。其後外國との條約別款にも紅參の文字を使用せり。

紅參の名は其色の黃褐色に基くものなり。此製法は決して朝鮮の發明創始に非ざること前に述べたる如し。朝鮮に於て紅參を製造せし前既に支那に、紅熟、紅黨、紅根等の人參品種名あり。前述の把參は此等支那の修製法に流れを汲むものと推定す。「文苑黼黻」に明の東征の時彼國參商に學ぶとあり。

李朝正宗王以來漸次紅參の需用支那に於て激増するや。其代價として受取る銀の巨額なる輸入の爲め、當時枯渴其極に達せる朝鮮の一般經濟界を害ほし、又國計に資したること多大なるものあり、従つて紅參製造は惡官奸吏が利權爭奪の的となり、

醜争を繰返して、其聲價の維持又は人參耕作者の保護等には毫も思を致さず。參政の紊亂甚しきものありしも。明治三十四年韓國政府が日本政府に支拂ふべき兵器の代百八十五萬圓の支拂延滞して三井が五年の期限を以て紅參を管理し利益の一部を支拂に充て。一部を韓國政府に納付することとなりし以來。參務稍革清せられ、爾來保護政治となるに及び一層整理せられ。總督政治以來、耕作製造販賣等着々改善を加へられて、今日の井然たる官業となれり。近來の生産額は約一箇年約十二、三萬斤也。

◎ 貢

參

コウシン

貢獻の人參の名稱。此の名稱は簡單なる如きも、よく検討すれば數様の異りたる意義を有す。則ち左の如し。

「一」主權者たる帝王に對し、其統治下に在る行政區劃たる州縣等より。其地の土産物としての人參を無償にて一の義務として獻進するもの。是所謂先王の制たる任土の貢にして一面より見れば一種の實物徵收なり。

支那に在ては、人參産地より歴代其皇帝に人參を貢進せしこと各種文獻に出づ。

即ち『唐書』に。營州、澤州、平州の土貢に人參あり。『新唐書』に安東上都護府、大原府、幽州、檀州、遼州、潞州等皆土貢に人參あり。『宋史』に大原府、隆德府、澤州、遼州の土貢に人參あり。『九域志』には。潞州、上黨郡貢人參一千斤とあり。『明史』には山西大原府、遼州、澤州、遼東都司の貢物に人參あり。『大明通紀』に太祖六年十一月、潞州官を遣はして人參を貢す。上之に謂つて曰く、朕聞く。人參之を得る甚だ艱し、豈民を勞せざらんや、今後進むるを必せず。若し用あらば人を遣はして自から取るべし……。とて其貢を廢せり。清代に至つては國初より人參採取を官營とせしが故に貢參なるもの有るなし。『黑龍江述略』に……諸貢の外、采辦を奉ずる者に參あり珠あり……。とある如く。貢物に非ず。

朝鮮に於ては支那の古制を模倣して各地の貢物を定めたり。高麗朝に於ても後期は貢參の制ありしも文獻には見えず。李朝國初に於て貢物を定めたる時、大抵前朝の例に依りしこと、「宣惠廳事例」に出であるに因り知らる。「萬機要覽」に……國初貢參あり……とあり。「經國大典」戸典の部に……北道貢參都數一百十斤……とあり。「世宗實錄地理志」に土貢を記せる中に、百有餘郡に人參の目あり……。

「江界邑誌」に……貢參と防胡は邑の大政にして二者共に必ず須らく罷むべからず

……とあり。此制度は後代に至り、人參産出缺乏の地に、布、米、錢等の代納を許せしも、江界の如きは、實物貢納の法日清戦争の前迄繼續したり。江界の某有力者老人予に語つて曰く。自分も屢人參調辨不能の爲牢屋に入れられしが。日清戦争の砲聲は此等悪政を打破して、爲めに助かりたり云々……。

〔三〕 附庸國、被保護國、藩屏的小國等より大國即ち其當時に勢力強大なりし支那の皇帝に貢獻するもの。

此意味に於ける貢の用字にも亦三様の別あり。即ち(一)絶對服従の意志表示として勅命せられたるもの。(二)明かに勅命無きも默示的絶對服従の意志表示として小國より貢進せしもの。(三)禮儀的に進獻したる物にも、公文或は後日に於て、其事を敘する歴史に貢の字を使用したるもの是也。

貢獻人參の最も古き記事は『神農本草經』の陶弘景の注、上黨人參を敘する條に。

……今魏國獻する所のもの是也……とあり前項(三)に當るものなるべく、北魏より梁の武帝に獻せしものならんか。其他『冊府元龜』、『五代史』に、渤海より唐に人參を貢獻せしこと出づ。

朝鮮に於ける人參貢獻の最古の記録は、『三國史記』新羅聖德王二十二年に、唐の玄

宗に他の物品と共に人參を獻せしこと出づ。其上表文に、……臣の郷海曲の地に居り僻陬に處る。元と泉客の珍無く本と賈人の貨に乏し。敢て方産の物藁を將ひて天官を瀆す。……云々、其後新羅より數回唐へ人參を進獻したること、同書及『唐書』に出づ。

高麗の世となりての記事は、『冊府元龜』に、太祖王建が天成四年、後唐の明宗に人參を獻進せしこと及同書に、惠宗二年に後晋の出帝に同五十斤を獻せしこと出づ。『宋史』竝「高麗史」によれば、顯宗より宋の神宗に人參一千斤を獻せしを初めとし、文宗の代にも二回一千斤を進獻せしこと出づ。以上何れも前項の(二)が(三)かに該當するものなるべし。

高麗と元との關係に於ては、人參の貢獻は明かに(1)に相當するものとなれり。「高麗史」忠烈王三年に、密直副使朴恒を元に遣はし、中書省に上書して、貢參を罷むることを請へる記事に徴すべし。

李朝となりては、國初に明の皇帝に人參を貢進せしは、(二)の性質を有せしも、中途協請して總て貢物の額を定めたる時。即『大明會典』に、洪武五年高麗職貢の禮を定むとある時に、(一)の性質に變じて確定したりと謂ふべし。其額は正朝、冬至、聖節、曆節。

曆を受けに行く時所に各一回一百斤と定められたり。右以外の用件に國使赴京の時謂正朔を奉ずる也。の皇帝への献上、四節の時皇太子への献上の如きは(三)の性質を有するものなり。清朝となつて以來人參の貢進は無きことゝなれり。

徳川時代に於て李朝より信使を發したる時毎に人參を以て國交贈品の一とし國王竝若君徳川將軍及其嗣子に贈呈せり。徳川の記録に之を貢物と記したるは、官儒が夜郎自大の曲筆にして正しと謂ふべからず。

而して貢參なる文字が熟字化、名詞化したるは李朝以來のことなり。

〔三〕 清朝の貢參なる名詞は、前二項とは多少の異味を異にす。則ち奉天省の人參採取を官營とし、採取人夫が採取したる中より公用參と稱するものと、官參と稱するものと貢參と稱するものを引去り残りを採取人夫に給したるものにて。其貢參と稱するものは皇室用のものを指したり〔盛京典制備考〕に……貢參九十六兩官參七百八十兩、今擬減半、等……とある如し。

◎ 紅

黨

コウトウ

清代中期に見はれし擬似人參の一種。

紅は其色合を指し、黨は上黨の略、則ち上黨人參の一種とするものなれど。正眞本場の上黨人參は明初既に絶滅し。其後に於て、上黨參が最良品として名聲高かりし其名を借り襲ひて、種々のイカサマ物たる黨參續出せり。本品の其一也。『本草綱目拾遺』に……紅黨は錢塘西湖南山に産す、俗粉沙參と名く。此參の皮を去り、煮て作る……とあり。『陸人參譜』に……今市肆貨る所の紅黨又熟黨と名く。乃ち江浙間の土人參を取り、皮を去り、淨煮極熟陰乾して成る者。性下劣なり、用ゆべからず……とあり。『本草從新』に……紅黨人參は江浙に出る土人參。俗名粉沙參なる者を將ひて皮を去り、淨煮極熟陰乾して成る。味淡し、用ゆる無し……とあり。

◎紅肉

コウニク

清代滿洲人參の品種名稱。日本に於ては長崎並斯道のクロウト連に通用せり。

『麤幼雜貨譯傳簿』に……紅肉ホランジュ。是亦赤鯿中の上品、唐山之を重んず……とあり。
コウニク

◎紅毛參

コウモウシン

清の中期、西洋人が舶載したる人參擬似品。

『百草鏡』に……漳泉の估舶紅毛より帯び來る、絶て參に類せず。形長くして粗、長き者は三四尺あり。色紫黒、粗なる者は拇指の如く之を折れば中に白點の痕あり、起花紋あり。建參と相似なり、瀉痢を止む神の如し……とあり。何の植物なるかは明かならず。

◎公用蓆

コウヨウシン

滿洲人參に對する清朝初期の官用語。清朝は初め奉天省の人參採挖を官營とし、之を採取したるもの、中より、公用蓆と稱し幾分を、盛京官蓆局の經費を辦すべく引去れり。之を公用蓆と稱したること。『盛京典制備考』等に出づ。

官蓆の項を見るべし。

◎五葉草

ゴエフサウ

五葉蓆と同一の意味。人參の葉が掌狀複葉にして五出せるより名けられたるもの。

『補遺東遊記』に……先年江戸より採藥に來られし醫師、江差の島にて三極五葉の

の三四根を得て持歸りしと云ふ。蝦夷人は人參のことを五葉草といへり。人參あること疑なし。……とあり。されど此の人參と謂ふは、竹節人參のことを指したるもの也。『會人參識』に。竹節人參の異名、五葉草、安房にての名なりと出づ。『小野本草記聞』……竹節人參を敍する條に、……和參方言多くあり……五葉草山川貴……とあり。『小野本草綱目啓蒙』にも、和人參の名稱として、五葉人參、五葉草等の名あり。『松村日光山植物目錄』にも……Panax repens Mx. Goyōsūと出づ。

竹節人參外の名としては、『加地井藥品手取草』に五葉草ウレンモ也とあり。

◎五葉 蓐

ゴエフシン

人參の異名。

五葉とは人參の葉の掌狀複葉五出せるを指す。『董越朝鮮賦』に……五葉蓐。歲に闕庭に貢す。注、五葉蓐は即ち本草の所謂新羅人蓐也……とあり。唐の段成式が周爲憲に與へて人參を求むるの詩に。九華仙草眞難得。五葉靈根許惠無。の句あり。又高句麗人が歌ひたりと傳へらる、人參の詩に。三椹五葉。背陽向陰。來欲求我。椹樹相尋。

とあるを最古き五葉の記事とすべし。

◎五葉人參 ゴエフジン

竹節人參の一名。五葉草の項を見るべし。

◎黒參 コクシン

玄參の別名。『本草綱目』に出づ。李時珍の初めて命名したるもの。蓋し自ら唱へし五參五行説に合せしむべく、故らに改名設稱せしものか。

五參、玄參の二項參照すべし。

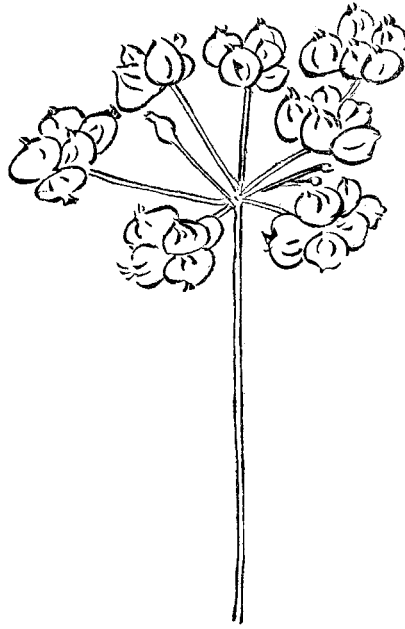
◎戸曹參 コサウシン

李朝の官用語。人參産地より六曹の一たる戸曹に納むる人參。

此名「萬機要覽」「江界邑誌」等に出づ。詳しくは第三卷人參經濟篇に出づ。

◎五子人參 ゴシンニンシン

竹節人參の變種の一。
 此名『不詳本本草圖說』高木春山手稿かと判せらるに出づ。竹節人參の複繖形花序を爲せるものか。
 其本體は左圖の如し。



圖の參人子五
と同と參人節竹極大 之略は寫描の莖葉日輯

◎御赦免人參

ゴシヤメンニンシン

徳川時代の擬似人參。防葵一名牡丹人參の稱、初め藥品取締上禁止され。後許されしにより此名あり。御免人參の項を見るべし。

◎五

參

ゴシン

人參と外に參名ある四種のを。合して五行思想に結び付けたるもの、總稱名。

古代に此五參思想なかりし事は、『神農本草經』草藥上品の上に人參あり、上品の下に沙參。丹參あり、中品の上に玄參、苦參、紫參計六參あるに依り知らる。

『名醫別錄』……沙參の部に……陶隱居云ふ……此れと人參、玄參、丹參、苦參を五參と爲す。其形盡く相類せずして主療頗ぶる同じ。故に皆參名あり。又紫參あり、一に牡蒙と名く……とあり。此陶注頗ぶる疑はし、後人の竄加したるもの認むべきに似たり。何となれば既に六參あり。又其別名に就て検討するに、五行思想と相關するもの無く、主療も亦同じからざればなり。今試みに各參の異名を掲ぐれば。

人參 黃參と稱するは『吳普本草』に出づ。其藥材の色より名けたりと認む。

玄參 玄の字黒色と通ず、其莖の黒きによるものと認む。李時珍は其著『本草綱目』

に於て故らに、黒參と命名せり。

丹參 『名醫別錄』に赤參の別名あり。丹も赤もアカの意味あり。這は根の赤色なる

より名けられたりと認む。

沙參 の別名白參は『吳普本草』に出づ。其根が白く且根より白汁を出すために名けられしと認む。

苦參 には初めより何等五色五行の名稱無し。

紫參 本名牡蒙。其紫參と言はれしは、紫花を開くによると認む。

右に據れば、參類本と五行思想と關係無きこと明白なり。

然るに李時珍は其著『本草綱目』に於て、前の陶弘景の説なるものを、敷衍修補變改し。左の如く説き。苦參を除外して紫參を加へたり。

人參 脾に入る故に黄參と云ふ。

沙參 肺に入る故に白參と云ふ。

元參 腎に入る故に黒參と云ふ。

牡蒙 肝に入る故に紫參と云ふ。

丹參 心に入る故に赤參と云ふ。

苦參は右腎命門の藥也。古人紫を捨て、苦參を稱す、未だ此義に達せざるのみ矣。

……との新説を發表せり。されど此説の妄なることは、前に説明したるが如し。猶

且つ其參と臟器との關係も從前の醫說に合せず。又五行の五色ならば、必ず青色あるべきに。之れ無し、且つ李時珍は何を苦んでか支那に於て古代より間色として賤め、孔子も紫の朱の色を奪ふを惡むと謂ひし、紫色を拉し來りしや。其五參五行説の非なること明なりと謂ふべし矣。

『普濟方』には面上の酒刺を治する、五參丸(紫、丹、人、苦、沙)なる處方出づ。

◎胡

參

コシン

朝鮮より指して、滿洲人を胡人と稱し蔑視せり。胡參は滿洲人參を朝鮮より指稱したる名稱。

「英宗實錄」己丑十一月に……胡參の買賣を禁ず、時に人參の價踊り、多く北京より胡參を買來するあり。而して其實眞參に非ざる也。藥房提調韓翼、嘗之れが爲めに言ふ。……云々とあり。

◎戸

參

コシン

李朝の中期以後の官用語。

人蔘の主産地たる江界府下の住民に對し、各戸の生計状態により等級を別ち。一戸當り人蔘何斤と採取上納の義務を負はせたり、後には金納となり、一等より九等迄に分ち錢九兩より一兩に至る徴收を行へり。

此名稱と其關係事項「萬機要覽」「江界府志」に出づ、又李朝歷代實錄中に散見す。詳細は第三卷人蔘經濟篇に説述す。

◎五島人蔘

ゴタウニンジン

徳川中期以後に見はれたる、人蔘擬似品の一種。

『和訓栞』に……五島人蔘は牡丹人蔘のこと、防葵なり……と出づ。

『廣參品』に……牡丹人蔘、一名御免人蔘、一名五島人蔘、以地産名。一名平野人蔘。此の物藥舗にて五島防風と稱し、又木防風一名刊防風と稱して、防風に充て貨賣するもの、嫩根形小なる者を以て偽造したるものなり。絶て參類に非ず。先年公儀より許容ありて賣る、故に御免人蔘と呼ぶ。近年貨賣廢罷せらる。即本草の防葵なり……とあり。

牡丹人蔘の項を見るべし。

◎古 多 邇

コタニ

此名人參の別名として『大同類聚方』に出づ。

同書に……人參 加乃爾介久差又古多邇久萬乃以……とあり。本書は大同年間平

城天皇が古傳の失するを憂へられ。命を國造縣主稻置別首又は諸國の大小神社、民

間の名族舊家に下し。其傳來する古方を徴し。出雲廣貞と安部眞直等をして選出

類聚せしめし、古藥方百卷の寶典なり。惜哉全部散佚して傳はらず。現在流布せる

大同類聚方は僞本たること學者間に定評あり。されど或は此コタニの如き其原本

の殘缺より傳へたるかも知れずとして研究すべき價値無しとせず。

屋代弘覽は『古今要覽』に……苦膽コタニを龍膽の名なりとし。ニコタ、コタニは元一名、何

れか誤なるべし……と説けり。

輒按するに『源氏物語』『新撰六帖』等にクダニの名あり。是れは木丹と書くべく、

山椀子の事なりとの説あり。古へ丹又は膽をタニと訓せし類多し。此古多邇は屋

代説の如く或は苦膽なるやも知れず。人參の古名となせる、ニコタとの關係に付て

は、猶攷究を要すべきものあらん。

◎小 人 參

コニンジン

此名稱は、徳川中期以降、品種の異なる諸種の人參に宛てられ、使用せられたり。

〔一〕 支那及朝鮮より輸入せられし人參の小形の者。

〔二〕 同上の鬚根に對して付けられたる名『和漢三才圖會』に……大人參の中より選出せし者。而して本自から一種の小なる者。其根長さ一二寸許、猶罌粟と虞美人草の如し、近來々らず。俗尾人參を稱して小人參と爲すは非なり。……とあり。此の尾人參と稱せしは、折れし根片、小形の人參、鬚根等併せて一纏とせし朝鮮人參を指せるものなり。

〔三〕 日本産の竹節人參の鬚根に對して附けられたる名。『和漢三才圖會』に……薩摩より出すものを小人參と名く。一名節人參……とあり。『醫林人參耕作記』に……倭國深山中に節人參と稱する者あり。……其鬚を小人參と稱す……。『加藤和漢人參考』に……直根參のヒゲを、人呼んで小人參と名く。……『醫林人參識』……竹節參異名小人參、藥肆とあり。『道詒本草辨疑』……小人參サツマ人參を云ふ、元薩州より出たる故に名くる也。今は諸州より出す……云々。享保十八年癸丑十月の御觸書に。和小人參を製

法したるものを藥種問屋にて検査し、商法差許せしこと出づ。此和小人參と云へるは竹節人參の鬚のことなり。

◎ コマニンジン 高麗人參

高麗人參の日本古訓よみの名稱。此名 *Panax ginseng* の日本學名の一として『牧野日本植物總覽』に記さる。

◎ 御免人參 ゴメンニンジン

徳川後期に見はれし擬似人參の一たる、牡丹人參の一名。

此名稱を以て呼ばれし中に防葵あり。幕府の藥品取締により、一旦其賣買を禁せられしも。後に至り解禁せられしに因り、此名あり。『内藤尙賢古方藥品考』には防葵と傍訓して記せり。

牡丹人參の項を見るべし。

◎ 御物 ゴモツ

徳川中期以後藥肆醫師等其道の人々間に通用したる人參品種名。

御物とは徳川將軍使用と云ふ意味なるべし。將軍に男籠に仕へし經歷ある人を御物上りと稱せし隱語ありたり。

『加藤和漢人參考』に……朝鮮人參 藥肆古へ御物と呼ぶ。今は改めて本カヌ事と稱す、眞物甚だ稀なり。……とあり。又同書長崎人の説に……御物 これは對馬より來る。世間おし出して朝鮮人參といふ是なり。此中にて惡きをゑり出して小賣所に出し、其殘の能きところ世上の商人に賣る。其中にも又上中下あり。上の御物は海老様、並バンスよりは優り、上ハンスよりは劣れり。さて極上の朝鮮人參といふはおし出て賣買に無し。……按ずるに支順の説子二十餘年前までは中下の御物の中に糊なきものあり。上の御物は希なり。近來御物と云ものは、レイダン人參と呼て小賣所に出る。一向に糊かためなり。レイダンと名目あれども文字知れず。朝鮮の官か……とあり。

鞆曰。禮單の單は、單子即目錄の事にて、禮は儀禮の事、即進呈の目錄と云ふ義なり。詳しくは禮單參を見るべし。右御物の記述は江戸對馬屋敷より賣出せし人參に該當す。

又同書に……西子云ふ。凡そ朝鮮參と稱する者、多くは參鬚を以て糊粘縛禁して實物に擬似す、故に本身の者は稀なり。今年御物參と呼ぶものを得。此は朝鮮參の一種にして、氣芳烈、色明亮、味峻厚、官に貢するの朝鮮參と同くして、其色好し矣……云々とあり。『異説まちまち』……黒田公病に成ぬる時、將軍より人參を被下、此人參は御物にて三本ならではなし。細き太根程もありなん、誠に人體の如くなるとなり。此内一本を給はりければ、公辭して宣ふ……云々。

『藥會人參識』に……調御參 又御物と云ふ。京、對馬及藥肆の稱なり。第一等の品、諸侯に分つ貢品なり。『藥會燕霞堂人參錄』……古は朝鮮上品のものを御物と呼ぶ……。

以上の記述により、御物と稱せしは初期朝鮮人參の品質よかりし頃、對馬屋敷より賣出せし上等の人參竝、朝鮮國交の禮物として幕府に贈りし人參を指したるを知るべく。後に至り其品質劣等となるに至れるは。朝鮮側に於て、良參盡きて種々の技巧を施すに至りしによるものなり。

◎御用參

ゴヨウシン

韓末の官用語。開城の紅蔘製造者の中より王室用として納付するもの「九包乾蔘

都録」に出づ。

此御用の熟字は官のゴヨウと云ふ意味に非ず。王の供御用の意也。

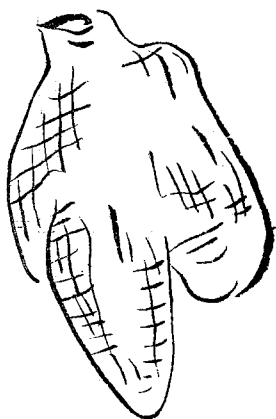
◎古呂様

コロデ

徳川中期南支那より輸入せられし人參擬似品の一。

『古方藥品考』……形肥而輕虛下品先哲之を以て廣州三七と爲すもの是也……とあり。

廣參生玉人參等の項參照すべし。



古路手人參寫眞の圖

廣參即亞米利加人參自然生の中にも往々如此形態の者もあり。

◎金剛山人參

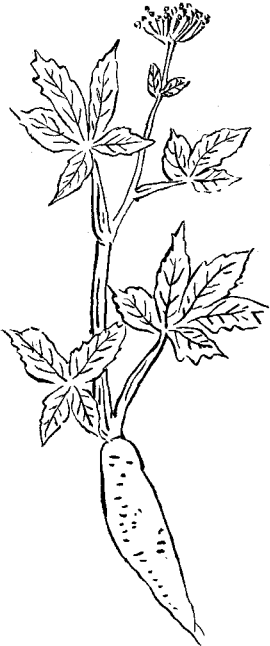
コンガウサンニンジン

徳川中期に見はれたる擬似人參の一種。

『^{坂上}人參譜』に……金剛山一種の艸を産す但人金剛山人參と呼ぶ。花形當歸に類

す、根は桔梗に似たりとあり……。

此圖によれば繖形科の植物たる如きも何たるかは不明なり。



坂上立臺人參譜金剛山人參の圖

◎根子

コンシ

滿洲の人參略稱土語。

『柳邊紀略』に……關東の人は人參を呼んで貨と云ひ、又根子と云ふ……とあり。

廿
行

◎細葉人參

サイエフニンジン

竹節人參の一品種。葉普通のものより梢細長なるもの。

『小野本草綱目啓蒙』竹節參を鉸する條に。……讚州山中に生ずる者は葉細長にして



者ルス産ニ山立中越參人葉細 圖串通草本
ス寫ヲミノ葉色彩スラアニ畫線圖原記標

鋸齒最も大なり。これを細葉の人參と云ふ。俱に根に横、圓、直の分ちあり……とあり。

『前田本草通串』附圖にも此名稱と畫あり。傍書に、細葉人參、越中立山に産するもの

……とあり。其他の説明なきも竹節人參たること疑無し。

『^{牧野}日本植物總覽』^{根本}版舊にも此名あり。學名を *Panax Schinseng. Nees, var Japonicum. Nees* *F. angustatum Makino.* とせり。啓蒙並通串の記事に該當するものなるべし。

されど同書新版には、此種を更に數種に分ち、且學名も亦改訂せり。ノコバチクセツニンジンなる新名もあり。啓蒙の記載は之れに該當するが如く。故に前二書の記載が、總覽改訂版中の何れの品種に當るかを比定し難し。

竹節人參の項中、植物總覽引用の文を參照すべし。

◎象 牙 參

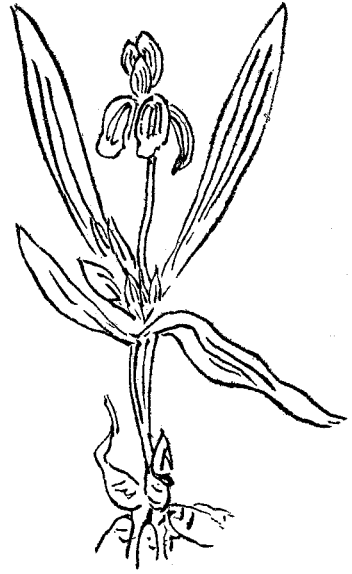
ザウゲシン

清代に現はれし擬似人參の一種。

『植物名實圖考』に、左の如く出づ。

象牙參 滇南山中に生ず、初め芽を茁つれば即ち苞を作し花を開く、白及花の如し、而して多く窄瓣、一苞四五朵陸續開放、花罷んで葉を生ず、吉祥草に似たり、而して濶し、根は麥門冬の如し。土醫云ふ、半身不遂、痿痺、弱證を治すと。

右何科の植物なるや不明也。



圖ヲ參ヲ象考圖實名物植

◎相州人參

サウシウニンジン

徳川後期に見はれたる擬似人參の一種。

『^{飯上}靈上人參譜』に此名稱の者左の如く二種出づ。

〔一〕相州人參 正名防風。相州鎌倉邊最も多し、俚人人參と呼ぶ、一名濱防風。

〔二〕相州人參 俚人山人參と稱す。……。

とあり何科の植物かは不明。

其形態は左圖の如し。

坂上玄臺人參譜相州人參の圖 相州人參正名防風
相州鎌倉邊數多俚人稱人參一名濱防風 同上の圖二 相州人參 俚人稱人參、山人參



◎ サウシシヨウニンジン

相思子様人參

竹節人參の一品種。其の果實の上部に黒點あるもの。則ち相思子の實に似たるより名けらる。

『小野原著重修本草綱目啓蒙』和人參を敘する條に……又一種、頭に一黒を點し相思子の如き者ありとあり。『岩崎本草圖譜』竹節人參の部に……一種實半黒なるもの……

との傍書に其果實のみの畫出づ。『本草圖譜名疏』には。此岩崎灌園の記載に對し大沼宏平氏は、學名を *Panax Repens*, Max. forma. と記せるは同品種と認め異種とせざりしによるか。

『牧野日本植物總覽』【村越】版には此學名を左の如く記載せり。

P. Schinseng Nees var *Japonicum* Nees. *F. trifoliolatum* Makino (*P. Ginseng* var *Japonicum* *F. trifoliolatum* Makino.) 同書改訂版には本項修訂を加へあり。竹節人參の項其部を見るべし。

相思子の名は『本草綱目』木の部に出づ。……時珍が曰く『古今詩話』を按ずるに、云ふ相思子、圓にして紅。故老言ふ、昔し人有り邊に歿す。其妻之を思ひ樹下に哭す而して卒す、因て以て名となす。……此れと韓馮冢上の相思樹とは同じがらず。彼は乃ち連理梓木也……云々とあり。

相思子に付ては雜誌『本草』昭和七年十一月發行第四號に。牧野博士の記述あり、其要を抄出すれば。

相思子はマメ科の植物にして。異名、紅豆、相槌子、美人豆、赤小豆。和名唐小豆タマツキ、學名 *Abrus precatorius* L. (= *Glycine Abrus* L.) として、木質の蔓草。……種子は光輝ある鮮明なる

朱赤色にして。其一端に臍點を周り眞黒斑あり。此豆は首飾珠數等に使用せらる
 ……云々。

附記 竹節人參の葉三葉にして、而も果實相思子様のもの『不明著本草圖說』に出づ。三
 葉人參の項參照すべし。

◎ 糙

參

サウシン

清代中期に於ける滿洲人參の品種名。人參根の表皮を僅かに削つて修製したる
 もの。

『本草從新』に。亞米利加人參を敍する條に。…西洋人參…形遼東糙人參に似た
 り、之を煎するに香しからず其氣甚だ薄し…とあり。『柳邊紀略』に。…遼東の人
 參を呼んで貨と云ふ…半皮半肉なる者を糙重と曰ふ。『兪枚吉人參譜』に。…紅泡
 の實せる者を糙重となす…とあり。

糙の字は『廣韻』、『集韻』に粗米未だ舂がざる者とあり。朝鮮に於ては糙米と云ふ
 字の公文に出でたるものは。クロマイとハンヅキマイと雙方に充て、使用しあり。
 猶滿洲人參清代の品名に。頂糙、揀糙、次糙、小糙、紹糙、糙條等の名目あり。拔頂熟の

項を見るべし。

◎草

神

サウシン

人參の異名。

此名『類書纂要』に出づ。『滿洲源流考』中、人蔘の詩に。……奥壤靈區產草神。三極五葉適常倫。……どあれど、是れは韻字の都合にて、神草を顛倒したるものなるかも知れず。

◎草

蔘

サウシン

李朝中期以後の名稱。生ナマの人參の一名稱。

「萬機要覽」に。……典醫監惠民署への產地よりの上納品として、草人蔘の目出づ、宣祖實錄「三十六年二月の記事に。……左議政尹承勳の意見中。頃年進獻の白蔘に易ゆるに草蔘を以てす。禮部の意に出づ。故に本國移咨して換封す矣。今は中朝の人草蔘を求めず、而して最も把蔘を要す。……云々。之れに對する右議政柳永慶の意見として。……草蔘は其天を全ふす。把蔘は其性を失す。藥用を以て之を言へばまさ

に則ち草參を取つて把參を舍くべき似たり……云々。

輒曰。此の記事により、草參と稱したる者は。生まの人參なることを知る。現在に於ても朝鮮の人は價貴き山人參は生にて煎服す。また紅參は蒸すが故に其天性を失し藥用の効薄しと稱して、之が藥用を好まざるの風あり。

草參の名目、清末にもありしことは。明治三十五年牛莊の招商、太古、城和三汽船會社の運賃を定めたるもの、中に。草參の文字あるに徴すべし。

◎ 造

蔘

ザウシン

李朝後期の官用語。他の植物を以て人參を偽造し。或は人參の一部分を他の植物の皮にて巻き。半偽造の人參を製作する其行爲。並びに其出來上りの品物の名。附蔘とは足の折れたる者を膠着し。又は他の根枝を以て接着して形をよりよく小を大に偽作し。或は又人參を縦斷し其半面は鬚根小根を纏めて糊着して半形を偽作し。一本の人參を二本として通用せしむる等の奸手段を謂ふ。前者と異なるは他物を使用せざる點にあり。

造蔘と附蔘は便宜上併せて本項に於て説述すべし。

附蔘造蔘の奸手段が朝鮮の斯業者の間に行はれしは。人蔘の價暴騰すると共に、一方濫獲の爲め産額減少せし、肅宗以來に最甚しくなり。遂に英祖二十八年に經國大典を追補したる「續大典」に……附蔘造蔘の類。其現發に隨ひ公に屬す。一に造銀律により處斷す……と規定せり。「増補文獻備考」の刑考を見れば……附蔘造蔘者は時を待たずして斬……とあり。又蔘間に雜物を挿入する者は主とし定配と定め。肅宗三十年に始めて用ひ。英祖の二十年に廢せしこと出づ。如此重刑を科せしも之を制遏するを得ざりしは。人蔘の利益の影には巨室大官の潜めるものありしによる。

此等不正人蔘の記事の文獻に出でたるもの甚多し。

「増補文獻備考」肅宗十九年に定めたる江界禁蔘節目中に。附蔘造蔘の類曾て正式行會する者あり。而して民は法を畏れず稍々復前習を踵ぐ。此れ則其の現發に隨ひ、一に造銀律に依り處斷の事。申明知悉……とあり。

「肅宗實錄」三十八年五月、藥房提調俞集一が上言に……嶺東、嶺南の進上人蔘、或は膠付を以て爲す者あり。西北蔘は則ち或は爛烹柔軟劈いて之に桔梗等を被らす……人命に關す云々。「春官志」に。肅宗八年、德川綱吉の將軍襲職を賀すべく信使を派遣

する際の記事に……肅廟の下教に曰く。異國に送る所の物十分精ならざるべからず……今番の信使、禮單精備の意、該曹に分付す而して其中人蔘尤も倭人の重んずる所。近來人心巧詐、蔘品僞惡、蔘を以て衣と爲し。充つるに雜物を以てす。甚しきは或は納むるに鉛鐵を以て斤兩を重くす。若し此等の詐僞を以て、異國に摘せられれば、則ち國體を損傷す甚し矣……とあり。

「英宗實錄」六年十二月に……備邊司は啓す。藥料中人蔘は最も要重と爲す。奸を用ひ造成する者造銀律の罪と同じ。而して近來法令解馳し、京中の奸細輩肆然契を設け、他物を雜へ膠付造蔘以て其利を專にす。誠に寒心を極む。此後此輩如し或は前より依り造蔘せば則ち論ずるに一罪を以てし、西北採蔘の處地方官に分付し、一體嚴飾せん焉。之を允す……とあり。同書、二十九年四月の條に。造蔘人に嚴刑を加へて島配したる記事あり。「統祖實錄」三年二月備邊司の啓の中、釜山倭館守、對馬屋敷の奉行交代したる時一書を出し……書中曰ふ有り。貴國人蔘十年前後より皆假蔘を以て割付造作。品劣り效無し。還退甚多く缺縮七十斤に近し。竝に上品を以て即速入送せよ云々……と申出し記事あり。

『對馬文書』人參に關する書類の中にも。此等不正朝鮮人參の記事甚多し……延享

元年三月町奉行石河土佐守より、人參粗惡の件に付、對馬御留守并人參方を呼出し達したる際。對馬の答は。近年朝鮮座人參、殊外惡相成、皮計の人參にて、内を粘堅めいたし候類多く、病用に遣候功も薄く、如何敷義被仰渡。……右は朝鮮人の仕業故檢査に十分注意する様國元へ可申越候。……とあり。又將軍へ献上の人參にも、間々鉛入あることを、前以て斷りし記事あり。

朝鮮より日本へ渡りし人參に、不正品甚多かりし事は、本篇各項の中に出づ。殊に判事人參に多かりしこと其項に記せり、參照すべし。

明の謝肇淛の『五雜俎』にも……新羅參大と雖も、皆數片を用ひ合して之を成す。其切小なる者に及ばず……とあり、本書は萬曆中期の著なり。朝鮮人參の僞詐手段は古き由來あることを知るべし。

「葢葉記」に造參の方法出づ。左の如し。

造 參

偶ま或人の冊葉間に造參法を録するを見る。其下書に曰く、智異山隱者の方書に出づ。海防風一斤、蘆頭を去り皮を去り、長流の水に浸す三日、一日三たび換ゆ。水もし、下藥に入り煎汁の如くならば、曬して乾くに至つて用ゆ。何首烏、龜皮を括去し、冷

水に浸す三日、一日三換、水薄くなれば切つて用ゆ。雄黒の大荳一升、水二升、同煎半は乾くに至つて出して曬す。地骨皮の麁皮を括去し、生薑の自然汁に浸す一日にして曬す。各五兩。黄芩の皮を去り蜜水に浸す一日曬す。白朮酒浸三日、皮臍を去つて、薄切し薑汁浸湯、鹽味を去るを度と爲す。甘草、生去皮各一兩。右六料右法製の如くして後、水三斗に入れ瓦鼎内に煮、五六升許に至らば滓を去り因つて海防風の俾大なる者を入れ浸して出し晒す。計り盡るを以て限と爲す。甚堅實。油紙を以て包裹し之を溫暖なる處に常置す。

◎ 糙

重

サウヂユウ

滿洲人參の清代品種名。

糙參の項を見るべし。

◎ 箱

底

サウヂイ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。

拔頂熟の項を見るべし。

◎糙 條

サウデウ

清代滿洲人參に對し、蘇洲參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の頂を見るべし。

◎草 人 參

サウニンジン

草參の頂を見るべし。

◎極 梨 草

サウリサウ

梵語に充てし人參の名。

『香藥抄』に……梵に云極梨草之を人參と云ふ。金毗羅童子經に出づ……和名云。
加乃爾介久佐、一名久末乃以……と出づ。

韞曰 金毗羅童子威德經の文は。「……爾時會中有一菩薩、名曰藥王、從座立而合掌
恭敬、白佛言如來(中略)又法若欲求種巧者、當取極梨草三兩此云人參是也又搗和藥服之、數滿七
日、有百萬巧神、來行人所、教示種々之法、隨意恣用……とあり。

唐の義淨の『三藏印度記』には。神洲の上藥、人參、茯苓、當歸、遠志、烏頭、附子、麻、黃、細、辛は印度に無しとあり。此の極梨草は。大谷大學、泉芳環師の垂教によれば……*garjara*、*garjit*の中略則 *ja* を略したるものにして、果して然りとせば、人參と譯する亦得たり……とあり。

輒惟ふに。明治の初年英語の初めて入り來りし時。ink を墨と譯し。pen を筆と譯したる類にして。印度の名藥に支那名人參を當てしものならん。

猶詳しきは、第六卷人參雜記篇。印度と人參の章を見るべし。

◎座 賣 人 參

ザウリニンジン

江戸對馬屋敷より、特に指定したる商人が特定の限定せられたる人に賣下げたる朝鮮人參。座賣人參略して座人參とも稱せられたり。

座とは鎌倉時代に創まりし、官邊と筈縁せし專占權を有せし商人團體の稱。爾來變遷あり、徳川時代の何々座なるものは。要之特許を受けて、特定の人が特定の物品又は特定の仕事の專占權を有し、行へる者を謂ふ。

世に人參座なるものを。専ら徳川政府の官業たりし御種人參の製品販賣の爲め

に設けられしもの、みの如く思惟し。左様に記述せる著書甚多し。されどそは詮索不足の誤謬たるを免れず。抑も人參座の創められし所以は。最初對馬の一手にて輸入せし朝鮮人參は、幕府の大奥御三家其他の大小名、幕府の大官等へは文書を以てする要求により之を頒付供給し。旗本一般士民の買受資格者へは、印鑑を交付し置き。以上何れも一定の量を定め限りて賣渡したり。之を屋敷賣と稱す。又別に藥種商には卸賣を爲せり。後に至り一般市民へも廣く供給する趣旨の下に、創められたるものにして對馬出身の商人一人を指定して之を賣らしむ。茲に至つて屋敷賣と座賣との二となる。座は後には幾人かに増加せり。是れ人參座賣最初の歴史なり。

其創設は延寶二年にして、廢止は天明七年也。廢止の理由は御種人參普及の爲對馬系朝鮮人參の賣行減少せしによる。以上『對馬文書』による。猶同文書に……正徳三年癸巳十一月二十二日、勘定奉行土屋相摸守邸へ、家老平田直右衛門を呼出し尋ねられし時、差出したる書付に江戸大阪ニ而人參爲賣申候儀、以前ハ人參座と申事無御座、藥種屋共へ賣渡申候得共、延寶二年對馬守より御當地に於て、人參座申付爲賣申候……云々とあり。

右對馬文書人參扣帳に其代價を左の如く記しあり。

代銀六百八拾目 延寶七年

同銀六百八拾目 貞享元年

坐人參一斤 同銀 八百目 元祿三年

同銀一貫八拾目 同十四年

同銀一貫四百四拾目 寶永四年

次で幕府官營の御種人參製造品の爲めにも亦座を設けたり。寶曆十三年癸未十一月二十七日の御觸書に。

三 奉 行 へ

神田紺屋町三丁目岡田次助朝鮮種人參座相立候。求候様子は委細一色安藝守へ可承合候。

右之趣向々へ可被相觸候とあり。

又長崎貿易により輸入さるゝ支那人參販賣の爲めにも、唐人參座を設けたり。是れは對馬の人參座が自から設けしと筋が違ひ、藥品取締上と幕府が其特許料たる冥

加金收入の爲なりしが如し。而して此の唐人參に付ては座賣人參なる名詞は使用せられざりし。

享保二十年乙卯三月 日の御觸書に

覺

一 今度唐人參座被_レ仰付、御當地にては本石町三丁目長崎屋源右衛門右之座致し候間望之ものは右源右衛門方にて相調候様に可致候、京都大阪にても追而座相極候筈ニ候事。

一人參直段之儀、上人參壹兩に付代銀五拾八匁、下人參壹兩に付代銀貳拾八匁宛に賣出候事。

(以下に、町人は名主五人組印鑑を人參座に差出置事、一人一度人參小半兩宛の事、大病人は右制限以上に相渡事。座以外に賣ること勝手たる事等の條あり)

◎先折人參

サキヲレニンジン

折人參の中の品種別。其根尖の折れたるもの。

折人參の項を見るべし。

◎薩州人參

サツシウニンジン

薩摩人參の項を見るべし。

◎扎參

サツシン

人參の折碎せるものを扎せ集めて全形に作りたる人參。

此種支那朝鮮よりも輸入せられ。また日本に於ても藥肆に於て造られたり。

『服部人參譜』に……扎參 生の時劈いて其心を噉ひ。碎鬚を藏めて密禁し、乾晒して售る。故に之れを扎參コセと謂ふ也。扎は抜く也、城邑を破つて之を取るを抜くと曰

ふ。……とあり。

ヨセの項参照すべし。

◎薩摩小人參

サツマコニンジン

薩摩人參の項に併せ記す。其項を見るべし。

小人參と稱せられしは竹節人參の小根を用ひ製し、其全形小なりしによる。

◎薩摩人參

サツマニンジン

「一」竹節人參と同一物。初め薩摩より出たるに依て此名あり。

此名稱は其植物其物を指し、又其鬚根を修製したる藥材をも指稱す。而して其藥材として市場に出し者は、鬚根なるが故に形態小さきにより、薩摩小人參とも稱せられ之を略して小人參とも稱せられたり。最初は其名稱を薩摩産のみに用ゐしも。後に至り各地に同一植物發見せられ、また其藥材も同一の形態により商品となりしに由り。此薩摩人參薩摩小人參なる名目は、何れの産を問はず同一物に廣く用ゐらるゝに至れり。

『稻生炮炙全書』に。小人參 始め薩摩州に生ず。處々之れ有り。三椶五葉、四五月花あり、細小紫白、子を結ぶ、生は青熟は紅。根は横生形ち竹節の如し。味甚だ苦し。若し其鬚を嚼まば甘苦氣味微かに人參と相近し。又之を三枝五葉草と名く。其苗葉花實は、圖經の三椶五葉説と相合すと雖。然も根形は迥然として同じからず。凡そ物之に似て非なる者なり。此物決して眞人參に非ざる也。人多く甘草湯を以て浸煮し、人參に代用する者あり。不可となす……とあり此植物を當時の學者眞人

參なりとせし者多き中に。流石に若水は眞物に非すと喝破せしは、認識確乎たりと謂ふべし。

『小野本草綱目啓蒙』竹節參を敘する條に……其初薩摩より出づ、故に總じて薩摩人參と呼ぶ……とあり。清の唐秉鈞『人參攷』日本版、石坂宗哲の跋に……近來參價日に貴とく、故に薩摩小人參を以て、煮製して之に混す。髣髴として以て分別し難し……とあり。

本植物に就ては形態人參に同じきにより、眞人參なるや否やに付て疑を懐ける者も多く。随つて大に研究もせられたり。『加藤和漢人漢考』には、加藤玄順が朝鮮信使の隨員醫官白君平に京都の本能寺に於て、此物を眞人參なるや否質問せし、問答の記載あり。綱曰く此信使は享保四年吉宗の襲職を賀すべく、又夫れより前、天和二年に同朝鮮信使の隨員醫官に某る人が、同一の事を質問せしこと『箱生炮炙全書』に出づ。

綱曰く此信使は享保四年吉宗の襲職を賀すべく、又夫れより前、天和二年に同朝鮮信使の隨員醫官に某る人が、同一の事を質問せしこと『箱生炮炙全書』に出づ。 綱曰く此信使は正使尹耽

完綱吉の將軍襲職を賀す。又『對馬文書』人參書類の中に。享保四己亥六月十九日、久世大和守御用人衆より、御留守方に被相尋候義有之候間、壹人罷出候様にとの手紙來り。原宅右衛門罷出たる處。御用人三宅甚藏を以て尾人參の様成る物壹袋御出被成。

朝鮮にも此通の人參有之候哉、持參り吟味を遂げ、右の次第書付にて明日差出候様に

との事にとの命令により。差出したる書付に。

口 上

御見せ被遊候人參、對馬守家來在勤之者共に見せ、朝鮮國よりケ様の人參出候哉と吟味仕候處。終に見申たる者無之。勿論朝鮮國より出候段も承及たる義無御座候由申候。依之藥姓之儀も相知れ不申候以上。

と返答したること出づ。當時其薩摩人參なるものが眞人參なるや否は、官民の關心事たりし事を知るべし。

猶本項に付ては、竹節參、吉野人參、和人參等の項を參照すべし。

〔三〕竹節參に非ざる別種の植物の薩摩人參の名を以て呼ばれたる者數種。

眞人參缺乏の時、薩摩人參が世上に廣布使用せられて、其名聲高きに隨ひ。種々の同名別個の者見はるゝに至れり。

(1) 女蓼菜 俗に呼んで薩摩人參と云ふ。『西人參辨』

(2) 葉は蛇牀、胡蘿蔔の輩に似、根は人參の如し。

(3) 其葉頗ふる秋蘿葉に似て、狭く長く。細紅花を開き、小蒴兒を結ぶ。以上二『稻水』

炮炙全書』

(4) 女蓼菜 サツマ人參 フジクロ。山野に自生す。冬を経て枯れず、葉形剪春羅葉に似て、兩對微毛あり。莖高三四尺葉間に枝を分ち、鬮の如く房を生じ、其上に白花を開く、形王不留行に似たり。花謝して房中に細子あり。子熟して根枯る。此根直にして土に入ること深く。皺多く形人參の如し。故に昔丹州に種て鬮を製し、サツマ人參と偽る。故にサツマ人參と云ふ。『救荒本草啓蒙』

(5) サツマニンジン一名フジクロ江州。カハラニンジン同荒救本草の女蓼菜なり。

『小野本草綱目啓蒙』

(6) 薩州人參正名女蓼菜。俗人呼んで薩州人參となす。『版上人參譜』

(7) 薩摩人參 一 葉仙翁花に似たり。野生多く救荒の女蓼菜に充つるもの也。二 水陸共に生ず、葉は白芷に似てコマカに切れ込み莖は深綠色にして光澤あり。三四尺と立のび、花枝多く出でて花芹の如し。一名オランダゼリ。以上二

種『百花天工區別』

(8) 又一種、葉微しく蕨に似て根は人參の如く鬮あり。

(9) 又一、苗の高さ三四尺、葉ヒ頭に似て小房子を結ぶ此漏蘆にして、皆サツマ人參と呼ぶ。以上二種『同本和語本草綱目』

『敬詔 草木圖説』にも……フジクロ、サツマニンジン。女萎菜……とあり。

右擬似サツマニンジン數種の中。フジクロのみは其原基よく判明せり。『敦野日本植物總覽』の記載左の如し。

坂上玄菟人參繪師人參の圖

薩州人參 正名女萎菜 倭人呼薩州人參



敦野日本植物圖誌シフログの圖

ナデシコ科 (Caryophyllaceae) フジクロ屬 (Melandrium Rochl.) の *M. firmum* Rohb. ノミクロ。カハラゲシ。サツマニンジン。カハラゴマ。

多年草。全株稍平滑。葉は長楕圓狀線形。花は腋出或は頂生。萼は卵狀圓筒形、邊緣、齒片は三角形、鋭尖頭、反捲。瓣片は倒披針形、先端二裂、萼と稍同長、花柱三、蒴は卵形、六齒縁——山野、花候夏北海道、本州、四國、九州……。

◎座 人 參

ザニンジン

座賣人參の略、其項を見るべし。

◎渣 泡

サバウ

人參の下等品。滿洲語。『盛京典制備考』に出づ、泡丁の項を見るべし。

◎澤 人 參

サハニンジン

『服部總志 人參譜』に。芹人參の一名として出づ。其項を見るべし。

◎三極五葉草

サンアゴエフサウ

人參の別名。又竹節人參の別名。高勾麗の人の作りたる人參の詩と傳ふるものに、三極五葉、背陽向陰……とあるに出づ。

五葉は即ち人參の複葉掌狀にして、その五出するを指し。三極は、稍長き葉柄が、三個輪生せるを謂ふ。但し、必ずしも三極に限らず、年長のものには四極、五極或は六極の

ものもあり。

享保七寅年幕府より本草通達之者御尋に應じ。蔣翁阿部友之進が提出したる書付に。……一人參御吟味之節申上候は、日本に真人參決而無御座候。往古延喜式等に入參獻上仕候由相見候へ共、沙參或は三極五葉草之類にて、真人參にては無御座候……云々……とあり。此三極五葉草とあるは、竹節人參を指したるものなり。

◎三葉人參

サンエフニンジン

【一】竹節人參の一品種。其葉形が三出複葉となれるもの。

『前田利保本草通串』附圖に出づ傍書に……是我諸山稀にあるもの……とあり『著者不明本草圖説』にも其記事あり又圖あり。其記事左の如し。

三葉人參

三月宿根より苗を生ず。圓莖淡紫色。高さ一尺五六寸、頭を三極に分ち、長さ五寸餘各頭に三葉を生ず。一葉の長さ五寸、頭一寸六分、本細く末尖る、周邊鋸齒あり。面黒綠色にして刺なし。四月中間より莖を出すこと六七寸。中間に三枝を分ち各頭に小枝を分ち、暈白綠花を攢簇す。五瓣五蕊、長さ一分、粉毳淡黃心長二分、花莖綠色五

月實を結ぶ。大さ蜀羊泉子の如し。初青熟すれば深紅色にして頭半深黑色。相思ツキ子の如し。根は平常の竹節人參の根に比すれば少く大也。八月に至て枯る。今年生ずる幹の側に來年の苗を生ず。……(草花圖説)

圖には……三葉人參、加賀の産……と傍書あり。草花圖説は何人の著たるを知らず。此記載相當に詳しく植物學的に説明しある點より見れば實見のものなるべく信用するに足る。而して葉三出にして實の相思子様のものあること珍とすべきなり。

〔版名〕草木圖説』中、トチバナニンジン〔版名〕人參節を敘する條に……又葉狀に些異なる種あり。又熊野には三莖一葶の種あり……とあり。同書増訂版牧野博士の補説に……時に三小葉のものあり學名を *Panax Ginseng C A May var. repens Makino forma Trifoliolata Makino* ……とあり。

〔牧野日本植物總覽〕〔根本〕版は……

ミツバチクセツニンジン (三葉竹節人參)

P. Sehnseung Nees. var Japonicum Nees f xanthocarpum Makino (P. Ginseng var Japonicum

f xanthocarpum Makino) ……。

本草通串の圖 三葉人參 是和諸山稀ニアルモノ
原圖彩色(葉のみを描寫す)

三葉人參 加賀ノ産 著者不明(高木登山手稿?)本草圖說(岩瀬文庫藏)の圖
原圖彩色(實紅)



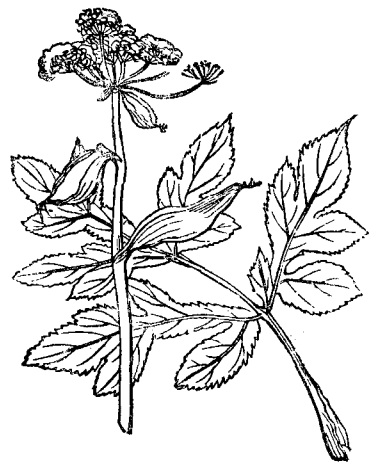
と記されあり。同書改訂版には之を修正せり。竹節人參の項を見るべし。

【三】 三葉人參と稱せられし、別の擬似人參の一。

『^{板上}本草人參譜』に……三葉人參、正名前胡。洛陽ケイロウの人南禪寺人參、又三支人參と名く……とあり。ミツバニンジンミツバニンジンの項を見るべし。

前胡はノダケとも云ふ『牧野日本植物總覽』ノダケに付ての記載左の如し。

繖形科 (Umbelliferae) ノダケ屬 (Paeucedanum L.) の *P. decursivum* Maxim. ノダケ、ウダナ、ノゼリ、コマゼリ、ゼンコ。



圖のケダノ 鑑圖物植本日士博野牧



圖の參人萸三譜參人臺玄上坂

多年草、高三乃至六尺、莖は梢部細毛を布く、葉は一回乃至二回三出、小葉は三或は五中裂、中裂片は長橢圓形、銳鋸齒縁、葉鞘は潤大紫色、複繖形花序に於て總苞片は一二、廣潤、繖梗は約二十、小總苞片は五乃至七、線狀披針形或は披針形、小繖梗亦約二十、花は紫色、萼齒片は不明、瓣片は長橢圓形、銳頭雄蕊は瓣片より長、果實は橢圓形、背側より壓扁、

廣翼、長約二分——山野、花候秋（本州中南部）四國、九州、臺灣……。

（根は解熱、祛痰、鎮咳藥である。ノダケニン Nodakenin $C_{20}H_{31}O_9$ （配糖體）といふ結晶分を檢出されて居るがこれは有効成分で無い。荻米博士）

◎三枝五葉草

サンシゴエフサウ

三椏五葉草、三椏五葉參の名も亦同一の意味を有す。何れも徳川時代日本に於て名けられたるもの。即人參竝竹節人參の掌狀複葉が五出し、又葉柄が三個對生せる形に因る。

人參竝竹節人參の掌狀複葉は、二年以上は五出を以て普通の形態とすれど。葉柄は三年生は三個の對生なれど、年數により差あり、四出五出等あり、必ずしも三には限らず。

此名稱は『名醫別錄』に出でたる、高句麗人の歌と云ふ、「三椏五葉。背陽向陰。欲來求我。椴樹相尋」に由來す。

日本に於て此名稱の出たる始めのものは、享保二年醫師にして、本草家たる蔣翁阿部友之進が幕府への言上書中に。

近來人參殊の外高直に罷成。下々大病の節、人參入りたる藥方仕兼、數萬人一統難義に付、人參之儀別して大切に被爲思召候様奉存候。之れに依り人參に付存寄之由書付奉差上候者。人參之儀は數百年以前より、醫師は勿論、其外諸人共に氣付、諸國山共、相尋候得共。誰ありて見付たる者一人も無御座候。人參の類草に、俗に三極五葉草と申もの候得共……類草に相極候……云々とあり。

『稽生炮炙全書』にも。竹節人參キヤリに對する三枝五葉草の名あり。『小野本草綱目啓蒙』にも。和人參の別名として、五葉草、五葉人參、三枝五葉草等の名出づ。『加藤和漢人參考』に。サツマ人參の別名。三極五葉參又三枝五葉草の名出づ。『和田長純人參辨』……三枝五葉草(直根也)人多く甘草湯を以て浸養、人參に代へ用ゆる者あり。尤不可と爲す也……とあり。『物類品隲』には……本邦の俗人參と稱するもの甚多し。皆眞物に非ず。但三枝五葉草と云もの人參なり。是又横根、直根の二種あり。とあり。又同書に……享保年中臺命ありて、朝鮮に所徴の種を官園及日光尾張等の諸處に植う。葉の形狀和の三枝五葉と、大抵相似なり……と云づ。

◎三枝人參

サンシニンジン

三葉人參を見るべし。

◎山

參

サンシン

此の名詞には三様の別あり。

「一」丹參の別名。『日華本草』に出づ。

「二」朝鮮に自生する一種の植物、人參とは全く異りたるもの。

董越朝鮮賦。食物を敍する條に……水蓼の芽、當歸の苗、松膚の餌、山參の糕松樹皮を去り、其中の白くして嫩なる者を取り。杭米に和して之を搗き糕と爲す。山參は藥に入る者に非ず。其長さ指の如く状は蘿蔔の如し。遼人之れを山蘿蔔と謂ふ亦た取つて杭米に和し、之を搗き煎じて餅餌と爲す……云々とあり。「星湖僊說」に……山蓼 董越朝鮮賦。「松膚之餅、山蓼之糕、自註山蓼非入藥者、其長如指、此如蘿蔔、遼人謂之山蘿蔔、亦取和杭米搗之、煎爲餅餌」。此の物、膚理極めて疏なり。米粉に和し油煎して環餅と爲す。俗に山蒸と稱す、今日尙此の制あり。必ず是此物也……とあり。

「莊陵誌」に、端宗復位の前の祭に……山蓼の餅致祭……とあり。

右に依れば。李朝の初期より二百有餘年前迄には。食用に供する一種の植物を山參と稱したることを知るべし。今食用植物に此名無し。而して右の植物は何を

指したるかは不明なれど「五洲衍文長箋散稿」山野荒政辨證説に……蘿菴其根を丁朝と曰ふ。燬熟之を食へば飢えず、寒ならず、又煮て食ふ、亦飢に堪ゆべし。北關明川府七寶山。山々に遍く自から蘿菴を生ず。山僧採り貯へ、煮て食ひ糧と爲し、荒を救ふ……とあるものなるべし。

星湖の説當を得たるものなるべし、今現に秋期に環狀の餅を作り、之れにダイコンを入れるの風あり、昔し山ダイコンを使用せし遺風なるべし、而して其山ダイコンと稱するものはマツムシサウ科(Dipsacaceae) *Sablosa Fischeri*, D.C. テウセンマツムシソウを指したるものなるべし。此植物は朝鮮處々に産す。

【三】 自然生の人參。

朝鮮に於て此名稱の出しは。人參の人工栽培が漸く盛となり、之を家參と稱し、それと區別する爲に山參と曰ひしに始まるとすべし。「中京誌」に……其種二あり、一を山參と曰ふ、山精の自から生ずるもの也。二を山養と曰ふ、之を山上に種え、歳久ふし然る後之を取る……とあり。「林園十六志」に……山參多く檳樹の北に生ず……。「純祖實錄」丁亥二十七年三月平安監司李義甲の啓の中に……楚山の府使徐萬修が托するに燕商の潜貿を以てし、山參を嚴禁し不正行爲ありし……記事あり。

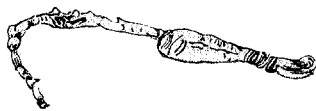
山參鉢植寫生

江 界 邑
山人參仲買人
申 曉 憲 所 有

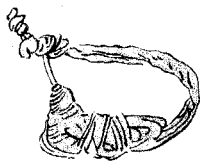
十年位のものと稱す

山參修製品寫生

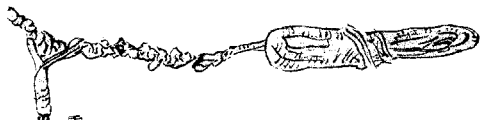
昭和五年八月の相場にて
右三本合計四拾圓位、



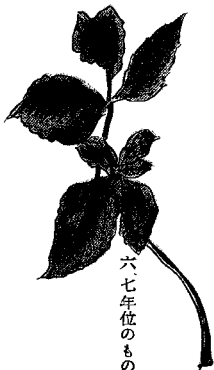
重さ七分
十五年位い



重さ一匁
二十年位い



重さ一匁五分
四、五十年のもの



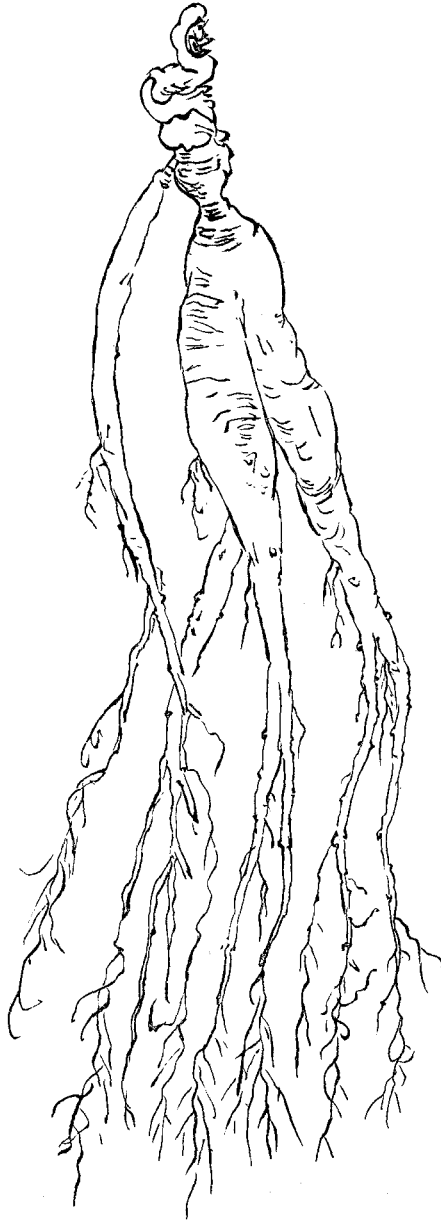
六七年位のものとして稱す

稍寫生

「五洲衍文長箋散稿」に……我東の家蔘は正廟の初年に翹まり、統廟の中葉に至り始めて盛んにして一域に遍し。今は則其賤きこと桔梗の如し、山蔘亦處として産せざる無し……とあり。

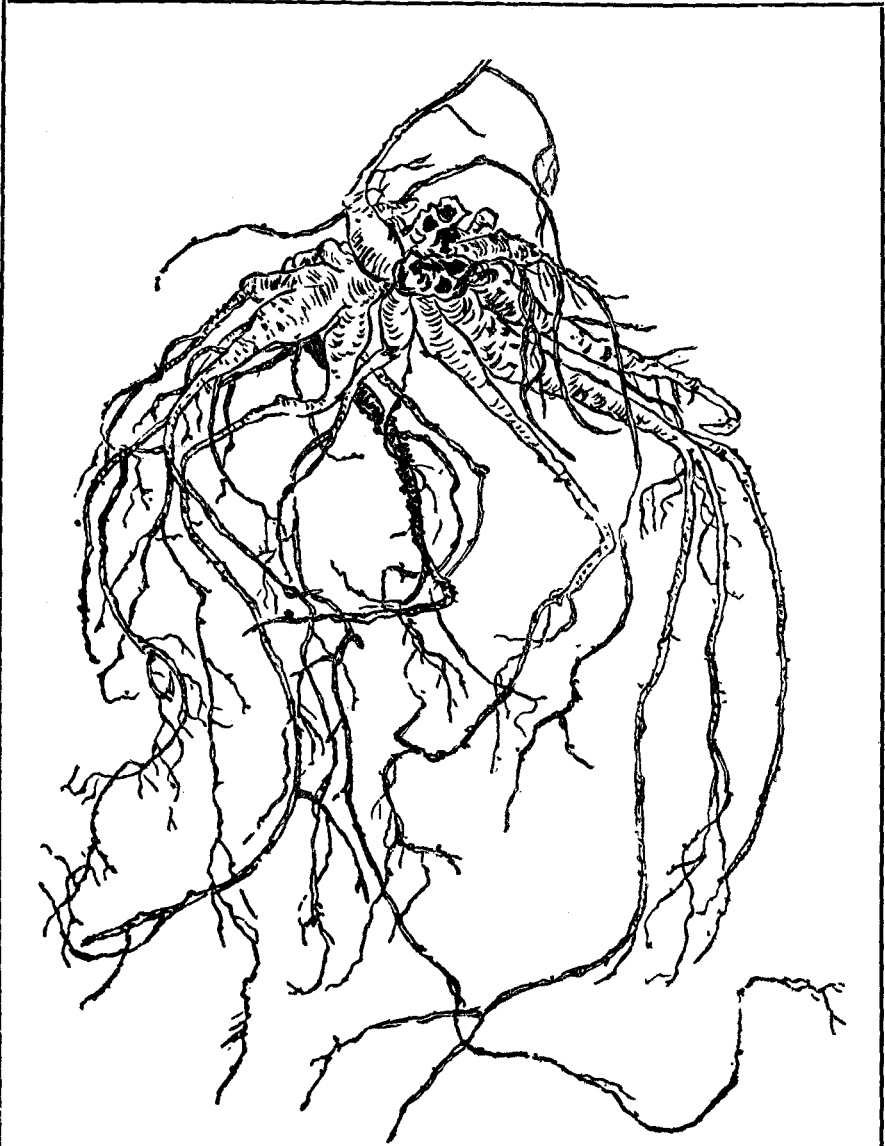
「燃藜室記述」に……光海官職の除拜、銀の多少を視て以て陞降を爲す。戸判孝純は

滿洲山人蔘 昭和六年夏奉天龍學長氏より字垣總督へ贈進したるもの長約一尺五寸



鑑定者は之を以て眞の山人蔘とせず、山蔘參ならんと言へり柄も亦同意見なり

山蔘を以て進御し、台鉞に奄登す。人あり詩に題して山蔘閣老と曰ふ……とあり。



（每二十八量重） 參 人 山

るき引取ては圓百三千三見發ては中林深面京化郡界江道北安平月九年四和昭

勅曰此記述は光海君の朝に山蔘なる名稱ありし根據とはならず。何となれば、此記事の山蔘は詩的名稱であり、且又此書の著者李肯翊は英祖十二年に生れ、純祖六年に歿せし人にして。且光海君の記事は讒誣捏造のもの多ければなり。

此の山蔘卽山蔘なる名稱は、現在に於ても廣く朝鮮に通用せり。在鮮内地人は此をヤマニンジンと呼べり。

佛人クウランの《韓佛字典》には……산삼 San-San. 山蔘 Jen-sen de montagne, Jen-sensau. vage (c'est te plus estimé, le plus cher)……とあり。

其産地は昔は全道到る處に産せしこと「世宗實錄地理志」。「東國輿地勝覽」。「林園十六志」等に於て見らる。明朝への貢獻、日本との貿易、皆全部自然生の物を以てせり。其減少は濫獲と山林の開墾に基因し、近年は僅かに國境方面咸鏡平安兩道深山の中に産す。是れも亦山林の伐採と濫獲の爲、年々激減しつゝあり。向後數十年の間には絶滅するに至るべし。江界は山蔘の集散地なり、近年の取引高は昭和三年二十五萬圓、同四年三十餘萬圓、同五年六萬圓なり。代價は古く大なる者程超累進的に高く、大正四年江界郡内に於て採取せられたる、一根八十二匁の者は參千參百圓に取引さる。一匁四十餘圓寶石の價以上と謂ふべし。

山參の需用買受人は朝鮮人の富豪と支那の仲買人にして。一度之を服用し置けば長壽するとも稱せらる。

山參の效能は栽培人參にも大に勝り。各種の疾病のみならず、延年長壽の靈藥なりと信せらるゝも、未だ其成分を科學的に研究せしもの無し。

其形態に付ては栽培人參とは多少の相違あり。されど是を植物學的に研究したる者無し。詳細は第三卷人參植栽篇の章を見るべし。

滿洲に於ても亦人參の栽培行はれし後是れと區別するため自然生のものに山參の名稱を用ひ事は『吉林地理記要』に人參を吉林の土人が栽培する事を記せし條に……。山蓯と種蓯と價格相去る懸絶……。とあり。又『盛京典制備考』に……。務めて刨夫を嚴飭に當る肥壯充足、上等山蓯を採取し。秧蓯、籽蓯を以て數を充す勿れ……。とあるにより知らる。

◎山 楮 人 參

サンチヨニンジン

徳川中期に見はれたる擬似人參の一種。

『^{販上}人參譜』に出づ、所々山谷有之……。とあり。何の植物なるか不明。



坂上養參人譜山椿參人図の圖

◎山 養 蔘

サンヤウシン

〔一〕 人蔘の發生する深山中に、目じるしを付けて山蔘の種を蒔き置き、數年を経過したる後之を採取するもの。

〔中京誌〕に……二を山養と曰ふ、之を山上に種し、歳久くして後之を採る……とある者なり。昔は此方法行はれたるも。近代人蔘の生すべき山林面積は、開墾と伐木の爲激減し。加ふるに山蔘採取者の増加して、自己が折角の苦心も他人に功を奪はるゝ結果となり。今は此法行はれざるに至れり。

〔三〕 山林より自然生の幼根を掘り採り來り。自家附近の山に移植し培養したる

もの。

【三】山蔘の種子を深山に非ざる自家附近の山に蒔付け。可成自然生に近く培養したるもの。此人蔘は山蔘と栽培人蔘との中間の形態を備ふ。此法は朝鮮の國境及滿洲に於て行はる。其價は栽培人蔘よりは高價なれど、山蔘の價の三分の一にも達せず。奸商は往々之れを山蔘として、素人の買人にツカマス事あり。刑事裁判事件となりたる例屢あり。一體に南鮮の人は人蔘の鑑識眼低く、北鮮の人は高し。黒人が見れば山蔘と山養蔘との區別は一見判明す。

(附 記)

- 一、滿洲に於ても【二】【三】の方法行はれたり。秧蔘の項を參照すべし。
- 二、全羅道和順郡同福の人蔘は其栽培養成法、他のものより、幾分か自然に近き方法を執れり。且十年根、十二年根等他に無き年根の者あり其形態も亦僅かに幾分山蔘に似寄りたる點あり。同地にては之れを同福山養蔘と稱し、包裝にも此名稱を用ひ居れり。

山蔘の項を參照すべし。

◎秋

參

シウシン

秋期に採取し修製したる人參。春參、秋參と對立的名詞。『本草蒙筌』に……秋參は重實汁の降るを得結暈膠を成す……とあり、即ち皮下液汁の秋期下降するを謂ふ。

『本草原始』にも之を無斷引用したる同一の記事あり。

徳川時代の秋參記事、皆原を蒙筌に發したる如し。『小野本草記聞』……秋參とて秋とるものは堅實也……。『野村人參耕作記』……秋參は根質重實にして力强し……。

『徵債膳錄』此書は釜山に於てする對馬貿易に於て漸次借越となり終に、孝宗年代に至り其額十萬餘兩となり。屢對馬より嚴重なる督促を受けし一件の記録なり。中に……慶安四年九月三日新任奉行宗成行が釜山に赴任し來りし時。督促を受けし條に、朝鮮側通譯の言に俺等、以て自解する無し、極めて悶迫と爲す。時期秋參の節に届かんとす。遠方に在る人參商人も亦將に至るべし。收債に望みあり……云々と出づ。

『對馬人參文書』寛延四年八月十六日上司に差出したる公文に……秋參と申候者、八九月に掘出候品に而御座候……云々とあり。

春參の項併せ見るべし。

◎皺面還丹

シウメンクワンタン

人參の別名。宋の陶穀『清異錄』によれば。後唐の天成年中に、進士侯寧極が戯れに藥譜一卷を作り。各種の藥に故らに新名なるニツクネーム的雅號を付す。例之ば白蔗サトウに雪如來、薺カイに賊參、蜂巢に一寸樓臺と云ふ如し、人參にも皺面還丹と命じたり。此異名は、人參干上りの時の上皮的皺紋を皺多き人の顔に喩へたるもの也。還丹とは、道家の煉内丹に七返九還の説あり、其九還とは九遍の循還をさし、肺液を以て丹田に還すなり等の説あり、還丹内鍊法に……金丹問答に曰く、金液は金水也、金は水の母となる母は子胎を隠す因て還丹の號あり杯の説あり。されど附會の説たり、要するに還丹は仙藥の義と解すべく。皺面還丹は皺面シヅメをしたる仙藥の意味なり。

此名稱『廣雅』疏證『輟耕錄』等にも人參の別名として出づ。

『事物異名』には皺の字雜に作り『清異錄』には皺シヅメに作れるものあり衍書なるべし。

◎私價參

シカシン

『韓人參識』に……私價參 一名禮參、一名挿參皆朝鮮の稱呼此品多くは合接或は鉛線を夾むものあり、故に挿參といふ。朝鮮人私に交易するものは皆、以上の名を呼ぶ。故に其優劣は駁雜して一定ならず……とあり。

軀曰、私價は私貨なるべし。朝鮮の信使が江戸に來りしこと、徳川二代秀忠の代以來、十代家治の世迄に十二回なり。其一行江戸に入りし總員四五百名。其一行中の人參を携帶して貿易せし者あり、朝鮮の國禁なりしかど内密には行はれたり、本項の名はそれに該當するものと考ふ。

◎紫 玉 參

シギヨクシン

人參に雅名付けたるもの。

「礪溪集」中、礪溪謝惠參なる詩中の句に、「嘩々關西紫玉參。開緘千里見君心」とあり。礪溪は愈好仁の號。關西は平安道のこと。紫玉の名其名を誇張形容したるものなるべし。此名廣く使用せられたりと考へられず、唯參考に収録す。

◎紫 花 人 參

シクワニンジン

竹節人參の一品種。其花の紫花なるもの。

『小野本草綱目啓蒙』に、和人參を敍する條に。……又紫蕊なる者ありこれを紫花人參と云ふ、城州岩屋にあり。花後實を結ぶ形圓かにして綠色、秋冬に至り紅熟す。……とあり。『澁島本草圖譜』に、竹節人參、一種紫花のもの。……と其花の圖のみを出す。同書名疏には此れを變種と認めず、大沼宏平氏は、直根なる者、實半黒なる者を皆同一に *Panax repens* Max forma. の學名を附せり。

『根野日本植物總覽』チクセツニンジン形態の記述には。……花は白色。……とあり。紫花の記載なし。

◎次

糙

ジサウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。

拔頂熟の項を見るべし。

◎子

參

シシン

〔一〕 滿洲に於ける人參の品種別名。

『植物名實圖考』に……苗を以て移植する者を秧參と爲し、子を種ゆる者を子參となす……力皆薄し……『盛京典制備考』に道光二十七年……該將軍等務めて劊夫を嚴飭するに當る。肥壯充足なる上等の山蓩を採取し、秧蓩籽蓩を以て數を充す勿れ……とあり。

〔二〕 人參の實

參子とも子參とも參實とも云ふ。『吉林地理記要』に、山人參取りを斂する條に……蓩籽落後に及び又放刷帚頭と曰ふ事を畢りて下山す、輟棍と云ふ……とあり『本草綱目拾遺』に……人參子 腰子式の如し生青、熟紅近日販參の客遼東より帶來る者、皆青色小黄豆大の如し。參葉上甚だ多し、密古塔一帶七八月霜大にして以て入山し難し。故に其子の熟するを待つ能はず、生取して歸り以て客に售る。毎に綠色多し、痘を發し漿を行る、凡そ痘の起發、分標行漿する能はざる者、藥内參子を加ふ、後日癢搨の患無し……とあり。『林園十六志』にも、又參子の名あれども人參の實たる子參、參子、何れも特定名詞にはあらず。

◎紫

參

シシン

〔一〕 人參と共に所謂五參の一。『神農本草經』には中品の部に出づ。

此名稱に充てられし者には、數種の植物あり。語原は根又は花の色による。『名醫別錄』には……河西及菟句の山谷に生ず、三月採根火炙して紫色ならしむ。……其陶弘景の注に……今方家呼んで牡蒙となす、之を用ゆる亦少なし……とあり。『圖經本草』に……紫參河西及菟句の山谷に生ず。今河中、晉、解、齊、及淮、蜀州郡皆之れ有り。苗の長さ一二尺、根は淡紫色、肉は地黃の如し。莖青くして細し、葉亦青し、槐葉に似たり、又羊蹄に似たる者あり。五月開花色白く、蔥花に似たり、亦紅紫あり。而して水薺に似たる者、粗皮紫黒、肉紅、白色、肉淺ふして皮深し。三月採根火炙紫色ならしむ。亦云、六月采根乾用……『植物名實圖考』には……蓋數種あり、滇南山中多く有之、圖經と同じ。其水薺の如き者蓋に穂を作す、色粉紅相似たり、花は仍ほ丹參の輩に類す。蔥花の如き者は稍端碎白花を開き簇を成す、實は水芹、蛇床等に似たり。葉は槐葉に比し尖長、莖葉同じく縁根は鮮しき時甚だ紫たらず、近時方家用ゆる少なし……と圖經の説を一層詳説せり。紫參アケラの別名は左の如し、

山羊蹄

『本草稽疑』

牡蒙

『神農本草經』

紫參あじま

なるさうのそ

諸國深山よき生れ二月葉
先ツて花穂を生し形蓼
花ふ似て白色葉ハ虎杖
似て軟く背紫色なり
根連珠をなす一年一塊と
生れ外皮赤褐色肉淡
紅色これ模頌の説亦
有似羊蹄者よと云ふあり



岩崎園木草圖譜紫參の圖

童腸 『名醫別錄』

馬行 『同』

累戒 『同』

『唐書』には……王孫(旱藕)一に紫參……とあり。『本草綱目』には、五鳥花なる新異名を加へ、錢起の詩集に……紫參は幽芳なり、五葩萼を連ね狀飛禽の羽を擧ぐるが如し、俗五鳥花と名く……とあるに取れり。『本草原始』には……其形地榆の如く節多し……とあり是又別の植物なるべし。

王錦の『本草詩箋』には、即牡蒙又云童腸、三四月の間地に遍く茸生す。高さ三五寸層を逐ふて起、蓋紫花を開く者即紫參也……とあり。

以上の記述により、紫參なる者には、今現に紫參と稱する者とは全く別の王孫(牡蒙)にも充てられ。又他の今日より見て種々不明の植物に充てられしを知る。

朝鮮に於ては此藥材餘りに使用せず。又唐藥の此名に該當する者を土地に於て發見せざりしと見え、『鄉藥集成方』にも『東醫寶鑑』にも此名無し。但日本に於て紫參に充てしハルノトラノヲは、山野に自生せり。

日本に於ては、此唐名紫參を知らず乃波久佐とせしものは、『延喜式』、『本草和名』。

『和名鈔』、『醫心方』、『康賴本草』等にして『醫心方』には、牡蒙にチチハグサの傍訓あり……。

森立之は『神農本草經攷注』に於て、其語源を説明し……立之案するに、本草和名、知々乃波久佐、知は志之音轉、乃ち志乃波久佐之義。其葉羊蹄に似たるの謂也、因つて墨字唐本草の墨字名を攷するに。一名馬行、即ち馬荇、荇葉に似て長大之義。本草和名に稽疑を引き一名山羊蹄、自から國名知々乃波久佐と相合す。今俗、伊吹止良乃乎と呼ぶ者是也……とあり。

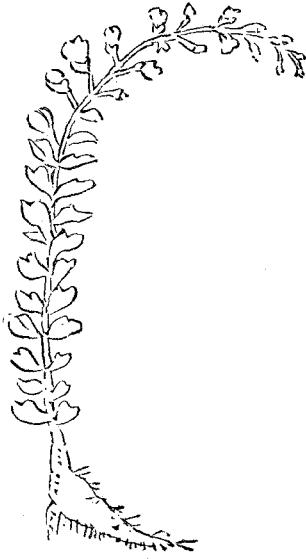
徳川時代の學者は、前項チチノハクザを古名として引用せる外に、實物を審究し、其の原基植物を定めんとせり。

『貝原本草綱目品名』には紫參に當る假名無しとなし。『小野本草綱目啓蒙』には、其和名をイロハサウとし。『鎌井本草正譎』には、イロハサウ尾州とし。『松平本草正譎』には、伊吹虎

尾と云ふ者眞也。拳參は俗名山ヤウフシ山中石上に生ず、是也。或は是を以て紫參となすは非也。紫參は伊吹山にて虎の尾と云もの也……とあり。『小野本草綱目名

疏』には拳參をイブキトラノオ、紫參をハルノトラノオとせり。『岩崎本草圖譜』は同上、飯沼慾齋も『草本圖說』に同説を述べ、イブキトラノオを産地伊吹山に多し、白山、御嶽

紹興校定經史證類備急本草 紫參三圖 京都大學本謄寫



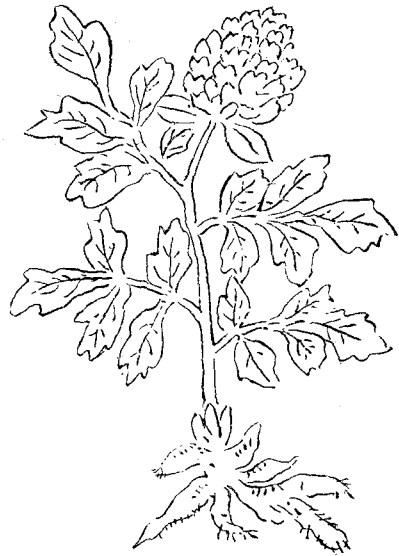
色紫使灸火根探月三 參紫州眉



參紫州晉



圖の參紫考圖實名物植



參紫州韓

にも産す……とあり。

〔二〕 人參の品種別としての名稱。

『醫人參識』に……東都老藥肆中稀に紫參と稱する者あり。外淡紫にして内淡黃其味頗ふる西洋人參に似たり。或は之を上黨參となす朝鮮に比するに甚下品也……とあり。

『敦野日本植物總覽』には、
〔根本〕

蓼科 (Polygonaceae) 蓼屬 (Polygonum L.) *P. tenuicaule* Biss et Moore

ハルノトラノヲ、イロハサウ。

多年草、高四五寸、根莖は稍念珠形、根葉は長柄莖葉は短柄卵形或は楕圓形、鋭頭、圓脚、穗狀花序は長一寸許、長梗——深山、陰地、花候三四月——本州(中南部)九州……と記さる。

◎ 紫 團 參

シダンシン

〔一〕 上黨人參の中紫團山に出づる者。

『格致鏡原』には、團を糲に作る。支那に於ては、唐以來人參の最上品とせらる。紫團山は山西潞安府の北太行山脈の一部に在り。山上に紫雲巖くより名けられたりと

稱し。又仙女の傳説もあり、其名よりして既に詩味豊かなる山なり。

文字的―詩的記述に付ては。

唐の陸龜蒙の友人より人參を惠まれたるを謝する詩に。五葉初成櫻樹陰。紫團峰外卽鷄林。の句あり。唐の周繇の段成式に人參を遺るの詩に。人形上品傳方志。我得眞英白紫團。の句あり。宋の蘇軾が王定國に紫團參を寄する詩に。突兀太行頂。豈惟團紫雲。の句あり。『大明一統志』に。紫團山は壺關縣東南一百六十里にあり、昔紫雲あり山頂に見はる、團々として蓋の如し。山に人參を出す、紫團山と名く。とあり。『潞安府志』李惟馨の拙庵看山圖序に云ふ。太行の絶頂を紫團と云ふ。世に傳ふ、神仙の宅る所と。舊志に云ふ、樂氏の二女は微子の後。常に洞に栖み山に人參を採り服食して道を行ひ仙去す。宋の政和年間、冲惠、冲淑、眞人の廟額を勅賜す。『夢溪筆談』に。王荆公喘を病む、藥に紫團山人參を用ゆべく、得べからず。時に薛師正、河東より歸る、適ま有之。公に數兩を贈る受けず、人あり公に勸めて曰く。公の病此藥に非ざれば治すべからず、疾憂ふべく、藥辭するに及ばすと。公曰く平生紫團參なくも亦活きて今に至ると、竟に受けず。

地理的記述に付ては

『金史』地理の部平陽府の産物に。紫團山人參あり。『潞安府志』……人參原と壺關の紫團山に出づ、舊と參園園は人參あり。今已に墾して田となる矣。而して求むる者猶未だ己ます……宋王存『九域志』に……潞州上黨郡貢人參一千觔……『林縣志』……紫團山は縣の西南五十里に在り、西上黨縣界に抵る。山に紫團山あり人參を産す、人呼んで截谷參と爲す……。

『直省志書』……壺關の紫團山舊と參園あり、今已に墾して田となる……。『紫桃軒雜綴』……上黨紫團參に至つては、竟に過ぎて問ふ者無し焉。栗應宏遊紫團山記に曰ふ、東峰に由り入る、屏山遮地。即ち參園已に墾して田と爲る久し矣……。

藥物的記述としては

『唐本草』に潞州太行紫團山出す所の者、是を紫團參と云ふ。『本草蒙筌』に……紫團參は紫色稍扁たし……。陸烜『人蓑譜』に……參の上黨を貴しとする、猶尤の浙を貴としとし、橘紅の廣を貴としとする如し。上黨の紫團を言ふ、猶浙尤の讚廣を貴び、橘紅の新會を貴ぶが如し。紫團參出す所限あり、能く天下の求に應ずるを得ず。是に於て遼參始めて世に貴重せらる。遼參既に貴くして人遂に上黨あるを知らず、古を考へざる過也……とあり。

韞曰く、右の陸烜の言無理と謂ふべし。如何に古を考ふるも、既に天下の名藥紫團參も遠く明代に於て濫獲と山林荒廢の爲絶滅したれば、之れを得るに途なければなり。此名譽ある名稱は、遂に唯醫藥本草書の上にのみ其名殘を止めたり。但同地域の總名たる上黨參は、其絶滅後と雖も他の植物の姿を假りて其名を襲繼し。今日猶其不肖の後繼者は、廉價なる擬似人參として市場に姿を暴しつゝあり。

また徳川時代の學者、支那の文籍の記載に囚はれて。實際に無き文籍上の名目の人參を、觀念的に存在するものとして取扱へる者多し。紫團參亦其一にして、小野蘭山の如き碩學すら、此誤に陥れり。其著『本草綱目啓蒙』に於て……赤蝦手を龜幼雜貨譯傳簿の紅肉赤槓、赤棍に充て、之を陳嘉謨の説く所の紫團參なりとせり。此同類多し、又坂上玄臺服部範忠は、其當時紫團參存在するものとして。想像上の圖まで作り上げて各其著書に出せり。

◎次 頂

ジチャウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。拔頂熟の項を見るべし。

◎シ テ ン バ

ツリガネニンジン^{ツリガネニンジン}の地方名。其項を見るべし。

◎獅 頭 參

シトウシン

其根形稍獅子の頭に似たるより名けらる。清代擬似人參の一種。防風黨參の項を見るべし。

◎信 濃 人 參

シナノニンジン

竹節參の一名。其項を見るべし。

◎施 南 山 參

シナンサンシン

清代に見はれし擬似人參の一種。

『植物名實圖考』に……見る所の舒城の施南參尙ほ黨參に及ばず……とあり。

舒城は清代安徽省廬州府の管下の地。

◎島 人 參

シマニンジン

徳川中期以後に於ける擬似人參の一種。

『小野本草綱目啓蒙』には……佐州のヤマニンジン一名シマニンジン……云々是眞の蛇床子なり……とあり。『倭訓栞』に……島人參一名濱人參、佐渡の満山に多し。又秋田人參と稱す、防風の類也……とあり。『熊谷廣參品』に……恕菴先生曰ふ、佐渡所産の山人參、一名島人參又濱人參と云ふ。出羽秋田にて秋田人參と云ひ皆一物也、參類に非ず。佐渡の満山此草を生ず、獨莖直上高さ三尺許、葉は胡蘿蔔に似る、開花白色、碎瓊又胡蘿蔔の花に似る。根は黄赤色、胡蘿蔔に似て稍大なり、稻若水翁以て防風類と爲す、或は野蘿蔔を以てす。すべて砂山に多く之を産す……。『前田本草通串』……松前の人云ふ、蝦夷の箱館と云處に島人參あり、形色氣味全く韓參の如し。此參四分を用ゆれば功韓參の一分に敵すと云へり……。

以上の記述のみを以てしては如何なる植物かは不明なり。

◎島 原 人 參

シマバラニンジン

竹節人參の別名。

小野蘭山の『本草綱目啓蒙』、『本草記聞』に、和人參の一種とし。肥前の産、肥前の方
言とせり。『和訓栞』も亦同じ。

◎志村人參

シムラニンジン

徳川中期以後に見はれたる擬似人參の一種。其産地に因り名けらる。

志村は武藏國志村なり、必ずしも此地のみの産に非ざれとも、最初の發見此地を以てせし故に名けられし。『武江物産志』に……志村の産 志村人參、ムカゴ人參……とあり。『本草通串』に百花天工區別を引き……志村人參は志村の荒田其他原野の濕地に多し。葉狭く長く、コマカに分れて、柳葉菊の葉に似て柔弱也。根長く玉あり夏花、莖二三尺程に立のび、白蕊當歸杯の花の形の如き白花攢生す……とあり。

此植物は各地の藥園にも栽培せられし如く延岡藩の藥園に此れを植えありしこと。弘化年間加來陸之の日向探藥記に出づ。『日野博士延岡藩の藥園と探藥』、『飯沼草木圖說』には……詳しく形態の記述と其圖あり。

『牧野日本植物總覽』には……。

繖形科 (Umbelliferae) イブキゼリ屬 (Carum L.) *C. neurophyllum* Franch. et Sav. シムラニン
ジン。

多年草、高三尺乃至六尺、全株無毛、脚葉は二回乃至數回羽狀全裂、裂片は披針形乃至線形、中葉竝に梢葉は羽狀全裂、裂片は一乃至三對、複繖形花序には總苞片五乃至八、線



圖の鑑圖物植本日 士博野牧 ンジンニラムシ

形、繖梗は八乃至十二、小總苞片は七八、線形、小繖梗は十乃至多數、萼片は三角狀卵形、瓣片は白色、先端反捲、果實は楕圓形、左右より稍壓扁、長一分餘—原野、花候夏。本州(中南部)九州……と記さる。

◎ 纏

シメ

浮虚輕菘なる人參製品に更に手を入れ壓緊して堅實なる如く見せかけたるもの。藥肆間の通語。

シメは總稱にして、小別して、白ジメ黒ジメ等の名あり。

『葦葭堂人參錄』に……纏シメ、虚軟なる人參を纏縛し壓して實せしめたるものなり、……とあり。

◎ 上 好 參

ジャウカウシン

『人參識』……上好參 一名好品、一名判事參皆朝鮮の稱なり判事俗半須に作る 又大人參と云藥肆。

黄白二等あり、一枝二三枚を密扎するもの多し、今市上此に過ぐるものなし。故に偽參の扎定皆此品を模擬す……云々。

上好參の名稱は、對馬と東萊府韓人通譯間に於ける取引の稱が、遂に藥肆並黒人筋に迄及びしものたらん。

判事人參の項參照。

◎上々人參

ジャウジャウニンジン

「一」徳川時代對馬の一手にて取扱たる、朝鮮人參を獻上、有償配付、拂下、賣下ぐるに當り。其品質により選別したる名稱の一。

其等級は享保年間に於て大體左の如く定めらる。此等の名稱『對馬文書』中諸所に出づ。

一、獻上人參 將軍に獻上する者。

二、上々人參 大奥、老中、諸侯等に有償配付する者。

三、上々次人參 前項の者に次ぐ階級に配付又は賣下ぐる者。

四、座人參 人參座にて庶民に賣下ぐる者。

五、撰下人參 別に用途の定まらぬ者。

又延享六年の同文書には。その正月十六日、御用番松平左近將監様へ、對馬の家老平田隼人より差出したる書付に……座人參、上々人參、撰下人參の外に、右の品に相定め難き位の人參年により少々有之……云々とあり。此時は賣下人參の等級を三等に區別せしと考へらる。

猶上人参、鬚人参、並人参等の名稱を用ひしこともあり。以上何れも『對馬文書』中に散見す。藥肆に於ても亦上人参、並人参等の名稱を用ひたり。『嘉良喜隨筆』に……人参代五百九十目、延寶七年十月のこと。幸充云、只今年天明七にては朝鮮上人参、一兩三百目より五百目に至る……云々。

【三】徳川幕府官營の御種人参製品にも、亦左の如き等級名ありたり。

天明七年十一月の御觸書に……朝鮮種人参製法所にて相渡候代料左之通。

上人参壹兩目に付 代銀七匁五分。

並人参壹兩目に付 代銀五匁。

刻人参壹兩目に付 代銀四匁。

肉折人参壹兩目に付 代銀二匁。

細髭人参壹兩目に付 代銀二匁。

光緒年代の重訂蘇省水卡捐章にも。

上人参 每觔捐錢 貳千文

次人参 每觔捐錢 五百文

と出づ。多分日本の輸入人参の名稱なるべし。

以上御種人参の値段也

◎ 淨 鬚

シヤウジユ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎ 上 黨 參

ジャウタウシン

〔一〕 支那山西上黨郡に産せし人參。

上黨は古冀州の地。秦、上黨郡を置く。漢、壺關の地。唐、河東道潞州の治となす。以來郡或は縣となり。又或は他の所管に屬せしことあり。今山西長治縣の管轄。

上黨は天の參井の分野に屬し。土地最高にして天と黨するを以て其名ありと稱せらる。『種人參譜』に：：天下の脊に居り、日月雨露の氣を得る獨り全し。故に人參の最良を産す：：と出づ。

『說文解字』に：：人黨上黨に出づ。黨即參也：：。范蠡『計然』に：：人參上黨に出づ、狀人に類する者善し：：。『藥性論』に：：人參上黨郡に生ずる者上：：。等等の記載甚多し。

上黨參略して黨參とも云ふ。又上黨の地潞州或は潞安府に屬せしことあるにより、潞參とも稱せらる。皆同一地産の者也。古來最上品として貴重せらる。『神農本草經』陶弘景の注に……上黨は冀州の西南に在り、今來る者形長くして黃、狀防風の如く潤實多くして甘し……とあり。『藥總訣』にも同一の文出づ。『名醫別錄』注に……百濟、高麗の者實用並に上黨の者に及ばず……。宋本『外臺祕要』各處方中、人參を使用せるもの、中間々特に、上黨人參と別に頭書せるものあり『爾雅翼』に……或は曰、上黨に生ず、人形皆具はる、能く兒啼を爲す……。『海藥本草』に……上黨參を試るには二人同走、一人は參を含み一人は空口、度つて三五里を走る。其人參を含まざる者は大に喘ぐ、含む者は氣息自如、其人參眞なり……。とあり宋代既に其名聲高きが爲偽贋多かりしを知らる。

『圖經本草』に……人蔘河北閩中より來る者、新羅參と名く。然れども俱に上黨の佳なるに及ばず……。

宋の楊萬里が人に人參を送るの詩に。新羅上黨各宗枝の句あり。『本草衍義』序例中に……凡そ藥を用ゆる必ず須らく州土宜き所の者を擇ぶべし。則ち藥力具はる之を用ゆる據ヨリトコロあり。上黨の人參川富の當歸……の如き……云々。又本文に今の

用ゆる者皆河北權場より博易して到る。盡く是高麗出す所、率ね虛軟味薄し、潞州上黨の者の味厚く體實なるに如かず。之を用ゆる據あり……とあり。宋代既に産額減少したるを知るべし。

何故に此天下の名參が減産したるか。夫れは畢竟官邊の誅求と開墾とによるものにして、其由來遠く古し。『博子』に……先王の制九州賦を異にす、天生せず地生せざるもの君子以て禮と爲さず。河内諸縣の如き此山を去る絶遠して各調御を出す。

上黨真人參上なる者十斤下なる者五斤上下は戸別差等調ふる所生する所に非ず、民以て患と爲す……『唐書』地理志……大原府土貢人參。宋の王存『九域志』……潞州上黨郡貢人參一千觔……とあり。昔より如何に徵索誅求の的たりしかを知る。『明史』食貨志……太祖洪武の初人參の貢を卻く、民を勞するを以ての故也……とあり。

『本草綱目』に……時珍が曰く、上黨は今の潞州也、民人參を以て地方の害と爲す、今采取せず、今用ゆる所皆是遼參……とあり。既に明の萬曆の頃には絶滅に近き状態に在りしなるべし。開墾の爲め人參の發生面積を甚しく狭めたる事の記載は紫團參の項に出づ參照すべし。

〔三〕 真人參に非ざる上黨參

『本草綱目求真』に……上黨既に採るべからず、豈復た黨參の謂あらんや……とあれど。上黨參の名餘りに名高かりし爲め、本品絶滅後に於ても、其名を襲用して別個の植物を以て之に充て、市場に出したり。其植物には上黨に産せし者もあり、又他に産せし者もあり、現に今支那に賣買せられつゝあるもの多種あり。朝鮮の蔓參も亦輸出せられ支那に於て黨參と改名して商品となれり。

『漁隱叢話』に……上黨參今賤價となる……とあるは其別物なるを指す。『滿洲源流考』に……奥壤靈區産草神。三極五葉適常倫。即今上黨成凡品……とあり注に……上黨參は几卉に同じ……とあり『本草逢原』……山西太行山に産する者、上黨人參と名く。甘溫峻補之功無しと雖も卻つて甘平清肺之力あり。『陸烜人蓑譜』に……顧るに近日參價黄金に十倍、白金に百五十六倍、而して黨參每觔銀四五錢に値す……とあり。『本草綱目拾遺』……古名の上黨人參山西太行山潞州に産する者勝れりとなす。陝西省之に次ぐ、味甚だ甜美棗肉に似たり。近ころ又川黨あり蓋し陝西毗連移種栽植、皮白く味淡桔梗に類す、獅頭無し……。『本草求真』……近ころ遼參價貴きに因り而して世の好奇居異乃ち、山西太行山出之苗及防風、桔梗、薺苳を以て偽造相繼ぎ混じ行はる、詎んぞ知らん參不同あり、性各異なる有るを……云々。又曰く……山西太行山

新出之黨之を致するに、張踏亦謂ふ甘平清肺と、並びに等しく真正の黨參の確として補益あるに非ず。今人但だ參の貴きを見て即ち此を以て參に代ゆ。亦相逕庭せざらんや。黨參の妄用を戒む……『百草鏡』……黨參一名黃參、黃潤者良し。山西潞安太原等の處白色なる者有り。總て淨軟壯實味甜き者を以て佳とす。嫩にして小枝なる上黨參と名く、老て大なる者防黨參と名く。味甘性平肺虛を治し能く肺氣を益す。『本草從新』……黨參 氣を補中し津を生ず……古本草に云ふ、參は須らく上黨の者を用ゐる佳しと云ふ者今眞の黨參久しく已に得難し。肆中賣る所の黨參種類甚だ多し、皆用ゆるに堪へず。唯防風黨參は性味俱に和平貴ぶに足る。根に獅子盤頭ある者眞硬紋なる者僞也。白黨は味微甘にして甚だ淡、功力遠く及ばざるのみ。『王堂知新錄』上黨參每斤兩許、而して遼東參每兩佳なる者赤金と異ならず……王孟英『醫案』中の處方に。黨參の名あり。唐秉鈞『人參攷』……黨參今肆中賣る所の者種類甚だ多し、攷據する所無し。皆敢て用ひず、惟白黨の味甘く甚だ淡と雖も功力の防黨に及ばざる知るべし……『植物名實圖考』……黨參は山西多く産す、長根二三尺に至る、蔓生、葉相對せず、節大にして手指の如し、野生する者根に白汁あり、秋花を開く沙參の如く、花色青白、土人之を種へて利と爲す、氣極めて濁……形狀迥かに殊なり。其れ之

を參と謂ふべけんや。舉世以て神草に代へ其非を知る莫し。而して服する者亦胸滿氣隔の患多し……。

『庶物類纂』に……享保丙辰長崎の役人をして居住清商に人參の形質を問はしめし答に……上黨は今の山西潞安府此地人參を産す其小なる者遼參と相似たり。其大なる者長二尺許日本の蘿蔔の如し功力薄し……とあり。

光緒年代『廣東省釐金稅則』の中にも……黨參每百觔抽銀參兩二分。……人參一斤抽銀貳拾壹兩以下等差ありとあり。

以上皆人參とは別個の植物にして、各不肖の子第二世黨參と云ふべきものなり。而して其第二世黨參も明代より今日迄に行はれ居る者に數十種あり。第二世黨參の擬似品を生じたること。またそれ等の植物を栽培したることを知る。

〔三〕徳川時代の本草學者醫師等が支那の古書の記載の參名に囚はれ其時も猶其本物上黨參の存在せるものと信じ右第二世黨參とは別なり以下同じ想像的に作り上げしもの。

『本草圖翼』に……上黨參。色黃堅實有肉色……獨上黨黃參功效易臻……とあるは、稻生若水が本書修正前の記載なるべく當時も猶昔しの上黨參支那に存在するものと認識したる記載振なり。『岩氷人參辨』竝に『服部人參譜』に……七八十年前に華船に

て來る上黨と稱する者、紫色にして扁大なり……とあり。是れは果して清商が上黨
參と稱せしや、又長崎邊にて命名したるかは不明なり。多分後者なるべし。『田村藥肆
人參類集』には……上黨人參二種 此品極めて得難し。故に茲に出さず、中品なる者
今茲に出す、第二品なるものを藥肆に此を呼で連節人參と云ふ。皆參蘆の節間より



圖の參黨考圖實名物植

其根を出す者なり。則ち上黨の連節參人參と稱する者是也。今藥肆に藏する所の
者、其上品なる者、一兩に付其價一貫目銀のこと以上なるべし……。

輒曰、此説明の形態等より推せば、徳川四五代頃に對馬の手により、朝鮮より入りし、
上等の山人參なること疑なし。

◎上 黨 人 參

ジャウタウニンジン

上黨參に同じ、其項を見るべし。

◎上 人 參

ジャウニンジン

上々に人參の項を見るべし。

◎常 平 參

ジャウヘイシン

李朝後期の官用語。人參品種の名稱に非ず、其調辨手段に由れる名稱。

「萬機要覽」に……江界參稅 古有貢參、自江界府直納京司、肅宗丁亥定稅三十斤、名曰

常平參、以傍近邑奴婢貢木、割給本府每斤價貢換買上送……とあり。

輒注す、稅參と謂ふと雖も稅には非ず。無償に非ざる點に於て貢物にも非ず。木

綿を代價に與ふる點賣買の如きも、其實は實價の半にも達せざるものなれば賣買に

も非ず。一種の強制徵發なり。常平參の名は常平倉に貯藏せる木綿を代價に使用

するより出でたるなるべし。奴婢の貢木とは、奴婢の籍に在る者は義務として一定

の期間、其所屬の官廳に出役せざるべからず、其出役せざる者は代りに木綿を納めたり。之れを奴婢の貢木と謂ふ、一同は五十疋なり。

◎鑲

鳳

ジャウホウ

清代滿洲人參に對し蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎芍

參

シャクシン

芍藥手の略、其項を見るべし。

◎芍

藥

手

シャクヤクデ

此名徳川中期以後に於て、命名通用したるものにて、此中には左の三種ありしが如し。

〔一〕亞米利加人參の根の變形したる者。

〔二〕支那産の或植物の根、此れにも數種あり。

【三】 眞の人參の根の變形したるもの。

【四】 日本産竹節人參の根の塊狀を爲せるもの。

右の中【二】最も多かりし如し。『廣參説』に……廣參の始めて渡る者黄黑色故に肆人其色白芍藥に彷彿たるより芍藥様と稱し、或は略して芍參と呼ぶ。今來る者黄白



手藥芍 圖の記眞寫參人

額曰、此もの、アメリカ人參の形狀に似たり、アメリカ人參の圖と對比して見るべし。

色芍藥に類せず……『古方藥品考』……又廣東人參數品あり。其芍藥手と稱するもの形長く重實此れを良と爲す……。『田村藥肆人參類集』……第二十七 ウフデ廣東人參一種 此の參は藥肆に呼て生ウツ廣東と云、又芍藥手人參とも稱するものなり。其形狀大小等しからず。大抵此の參の形狀色澤を以て察し考ふるに參根を堀り出日乾して甘草濃煎汁に浸し焙乾すと見へたり。……今藥肆藏むる所の者、第二十七生ウツ廣東參は、一兩價十三錢八分也……とあり。

『小野本草綱目啓蒙』には……廣東人參は寛延の初、唐山より渡る。舶來の芍藥に似

たり故に芍薬手と多く。略して勺参とも云、根形肥大にして横紋多くして沙参根に似たり。廣東新語に、粵無人参、蘇長公嘗種於羅浮……松峰說疫に至于藥肆中、又有所謂廣黨、夫黨者地名也、不曰廣参而曰廣黨、其命名先已不通、又安敢服食歟、可發一笑也と云ふによれば……廣東に人参の自生無く、廣東人参は眞の人参に非ざること知るべし……とあり。

◎沙州参

シヤシウシン

宋時代の人参擬似品の一種。

『海藥本草』……又沙州参あり。短小用ゆる堪へず……とあり。沙州は宋時代西夏の一部、今の甘肅敦煌縣の管内。

◎沙参

シヤジン

所謂五参の一。昔より人参に次ぐ者として並び稱せられたる藥品。其の別名左の如し。

鈴兒草 『名醫別錄』 識美 『名醫別錄』

知母 右同 文希 右同

苦心 右同 虎 瀆 『釋藥性』

志取 右同 虎治須 『藥對』

虎鬚 右同 羊婆孃 『本草綱目』

白參 『吳普本草』

『神農本草經』上品の部に沙參の名出づ。『名醫別錄』には……沙參……河内の川谷及
冤句、般陽、續山に生ず。二月八月採根暴乾。防己を惡み藜蘆に反す……陶弘景註……
……今近道に出づ叢り生ず、葉は枸杞に以て白實なる者佳し。此の沙參と竝人參玄
參丹參苦參是れを五參と爲す。其形盡く相類せず、而も主療頗ぶる相同じ故に皆參
名あり。又紫參あり正名牡蒙、中品……『圖經本草』……今淄、齊、潞、隨州に出づ而して江
淮、荆湖の州郡或は之有り。苗の長さ一二尺以來厓壁間に叢生す。葉は枸杞に似た
り又又芽あり。七月紫花を開く根は葵根の如し、大さ指許赤黄色、中正白實なる者佳
なり。二月、八月採根、南土生する者葉細あり大あり、花白瓣、上に仍白黏膠あり之れを
小異と爲す。『救荒本草』沙參 今輝縣、太行山邊亦之有り。苗長一二尺崖坡間に叢生
す、葉は枸杞の葉に似微しく長くして又芽鋸齒あり。紫花を開く根は參根の如し赤
黄色、中正白實なる者佳し。根を堀り浸洗極淨、水を換へ煮て苦味を去り、再び火煮を

まがね
沙参

数種あり處々山野陽地ふ
多し嫩葉ハ圓し七馬蹄の如
茎の二三尺楕の葉ハ狭長く
微毛茸あり葉と柄ハ白汁
出づ葉ハ狭潤花ハ淡紫白
等の數種あり

はまがね
がね



一種
白花れもの

岩崎園本草圖譜の沙参の圖

以て極熟し之を食ふ。細葉沙參は輝縣、太行山、山衝間に生ず、苗高一二尺、莖は蒿藜に似、葉は石竹子の葉に似たり、而して細長。又水蓑衣の葉に似たり、梢間紫花を開く、根は蔘根に似て麤、拇指大の如し。皮色灰、中間白色、味甜し、性微寒、本草沙參あり。苗葉莖狀説く所此れと同じからず。根を堀取り洗淨、煮熟して之を食ふ。

『本草綱目』……時珍が曰く、沙參處々山原有之、二月苗を生ず。葉は初生の小蔘葉の如くして團扁尖らず。八九月莖を抽く高さ一二尺、莖上の葉は則尖長、枸杞の葉の如くして小、細齒あり。秋月葉間小紫花を開く、花の長二三分、狀鈴鐸の如く、五出、白蕊亦白花なる者あり、並に實を結ぶ、大さ冬青の實の如し。中に細子あり、霜後苗枯る。其根沙地に生ずる者長さ尺餘、大さ一虎口、黃土地の者は則ち短にして小、根莖皆白汁あり。八九月に採る者は白くして實す、春月採者は微黃にして虚ふ。人亦往々繫蒸壓實、以て人參を亂る。但體輕鬆、味淡にして短かき耳……とあり。

韞曰、以上の記載により、其原基植物は桔梗科の類にして、今現に沙參と稱する者、及其同種品たることを知る。而して清代に至つては沙參は南北二種となれり。

『本草從新』には、記載粗略にして北沙參の形態に付ては唯……白實長大なる者良し……とあり。南沙參に付ても同じく唯……功北沙參に同じ而し力稍遜る、色稍黃形

稍瘦、小くして短し。近ころ一種あり味辣を帶ぶ者用ゆべからず。亳州に産すと……あり、猶空沙參なるものを擧げ……即甜桔梗……乃ち桔梗の一類二種……とあり。『本草逢原』にも亦……沙參二種あり、北なる者質堅性寒、南なる者體虛力微……とあり。『藥性考』……南沙參形粗は黨參に似て硬、味苦、性涼……。『本草綱目拾遺』……南沙參浙地に産する者、鮮しき時蘿蔔の如し。土人皮を去り煮熟す、熟山藥の如し曬乾すれば天花粉の如くして而も粉性なし、本名粉沙參……南沙參に非ず。南沙參形桔梗の如く中空にして鬆なり、味淡微甘、桔梗は辛ふして南沙參辛からず。毫門に産する者最も佳し。俗雄桔梗と名く……蓋參類一ならず、近日價日に貴くして各種偽品雜出す……とあり。

清の王念孫の『廣雅疏證』には……苦心を沙參となしたる異説あり別錄に因れるか。徐光啓『農政全書』に沙參考あれど、上に列記せる外別に異説あるなし。

日本に於ては此植物山野に自生多きに拘らず、古代の書に、是を沙參の藥名に充てたる記述なし。『新撰字鏡』、『本草和名』には桔梗の和名に、オカトトキの名ありと雖も、之れを沙參と同視せしとは見えず。奈良朝の時、唐より本草に悉しき鑑眞大師渡來歸化して以來、本草醫藥の學發達したるにも拘らず、沙參を發見し得ざりしは奇な

りと謂ふべし。『本草和名』沙參の項に……唐。又美濃國に殖す……『醫心方』にも沙參の項に亦……唐とあり。以上二書に唐とあるは本邦に産せず唐藥使用の意と解すべく、平安朝時代にも猶發見せられず、支那より其種苗を輸入して栽培せしを察せらる。

其後鎌倉時代に、本邦の自生を發見したるや否不明なれど。梶原性全の『頓醫抄』に……沙參唐物也、土をあらひすぎあぶりきざめ……とあり。此時代邦産を使用ざりし如し。室町時代の事は不明なり。本植物の自生を認めたる記述は徳川時代より始まるが如し。

貝原益軒『本草和名抄』に……沙參、岐、土、土とあり又同じく『大和本草』に……沙參二種あり。一種は桔梗に似たり、是を用ゆべし、又人參に換用ゆべし。一種は糸をつかねたる如く細長し、味はよけれどもいぶかし何物たるを知らず。日本にてと、き人參と云物沙參なり、葉は杏葉に似て莖は桔梗の如し、根には桔梗の如くなる心なし、輕淡なり、春苗を生ず、秋多く小花をひらく、淡碧色なり、其形つりがねに似たり、根は人參に似て味甘し、又つりがね人參と云ふ……今按ずるに羊乳根はつるの長さ二三尺、莖紫にして三葉あり、其ある處人手を觸るれば自ら香はし……これも沙參の類也……と

あり。

小野蘭山は『大和本草批正』にて之を批正して曰く……沙參「桔梗に似たり」〔韞曰く此括弧は益軒の文、以下同じ、やうじ様の沙參を云。色白くして細く吉更嫩根に似たり、古渡は實して潤あり眞物なり。新渡は潤なく折やすし、偽物なり。古渡は北沙參なり、北沙參白くして實す。……。「糸を束ねたる如く」にぎり沙參を云ふ、ふとき根を切て干し束ねたる者なり。古渡あり新渡なし偽物なり。〕と、き人參つりがね人參つりがね草とも云、南沙參なり。北沙參なきゆへ代用すべし。根は紙くづを束ねたる如にして心なし。花はうすふじ色なり、白もあり……とあり。山本亡羊も亦益軒の説を『大和本草』にて批正せり。……沙參 ツリカネ人參〔原の儘蓋し參の手製略字か、此字朝鮮の寫本にもよく參の代りに使はる。〕一種桔梗に似たりと之は、藥店にて楊枝手とも防風手とも云。一種絲を束ねたる如とは、藥店にてミダレ沙參と云ふもの也、根をさきて乾すなり。ツルの長さ二三尺とは甚短し、一丈餘にも及ぶ也。三葉、四葉、五葉もありて甚臭きもの也、自香とは誤也……。

『小野本草綱目啓蒙』には……沙參の項に其別名としてツリガネサウ〔同名。〕ツリガネニンジン。トトキニンジン〔同名。〕ありヤマダイコン〔南部。〕ナキキヤウモドキ〔但。〕シヤクシナ〔江州。〕マナ、アマナ〔同上。〕シテン〔筑前。〕ヘビチャワン〔同上。〕シヤジャシヤ〔越中。〕ビシヤビシヤ〔山城。〕「一名」

加徳郷藥本草鳥羊婆奶原本草……を掲げ……山野向陽の地に生ず。春宿根より初出の葉圓にして鋸齒あり深綠色歟冬葉フキの如くにして小なり故に江州にてシヤクシナと名づけ俚民蔬となし食ふ。春後漸く莖を起す。其葉桔梗葉に似て大にして周邊に鋸齒あり。其脚葉の形に異なり互生或は兩々相對し或は三四五六葉對生す其形圓あり長あり又二三分の濶さ三四寸の長さなる者あり並に毛あるものあり毛無き者あり。皆是を搯ば白汁出づ秋に至れば莖高二三尺其梢に枝極を分ち筒子花を開く。……其色藍紫色或は淺く或は白色或は間色……霜後苗枯る根は年を経て漸く長大なり形皆直くして人參根に似たり……云々。

『松平秀雲本草正譌』には……。

沙參 俗名ツリがネ草江州伊吹の邊にてトトキ人參と云。

薺苳は杏葉沙參

ツル人參は羊乳根なり

救荒本草の地參は俗にアマナ

同書細葉沙參は俗名ヒナ桔梗

此等皆沙參の類也

『山岡全本草正正譌』には……。

沙參 ツリガネ草、原野に甚多し、奸商賈物人參とす。

右の如く記載甚紛々たり。必意するに此等桔梗科の植物は相類似せるもの甚多く誤認され易きに由る。『岩崎譜本草圖譜』に至つては記載と其分類著しく植物學的となれり。

(1) 沙參 ツリガネニンジン

數種あり、處々山野陽地に多し。嫩葉は圓にして馬蹄の如し、莖高さ二三尺梢の葉は狭長く微毛茸あり。葉を摘ば白汁出づ。葉の狭濶花に淡紫白等の數種ありとあり左の△印のものを別に擧げ圖す。

△一種白花のもの

△ハマ沙參△地參△細葉沙參△一種尾州參△一種赤花のもの。

(2) 薺萇 ツバナ羽州

又マルバ沙參とも云ふ。葉はヤウラク沙參に似て大きく薄くして光澤あり。花紫碧色なり。

(3) ヤウラク沙參

葉は杏に似て五生し、花五瓣、紫碧色、甚細く切れたり。

(4) 羊乳根 ツルニンジン

山陰に生ず。春宿根より蔓を生じ、莖根ともに切ば白汁出づ。花の形地参に似て紫黑色なり。一種原野に生ずるもの苗葉皆小にして毛茸あり。

(5) 杏葉沙参 本草 唐沙参 和俗

根は桔梗の如く内實す。莖高さ四五尺、花は沙参に似て瓣紫色太なり。

△同上一種白花のもの。

右分類と識別當を得、各其形態の特質を描けり、圖も亦佳なり。

『〔版沼
慈齋〕草木圖説』に至つては更に植物學的となり、其記述も一層精確に、圖も亦一層眞に近づけり。

以上に記せる各植物の學名と圖に至つては、各其項に示すべきも。たゞ茲には古へ沙参と稱せられしものに數種ありしを記するに止めて、且つよく混同せられたる三者の圖を示すに止む。

附記此屬名 *Adenophora* は、*Adne* (蜜腺) と *phoros* (所有する) の二つのギリシヤ語の結合せしもの。此屬植物子房の上部に筒形或は杯形を爲せる蜜腺ありて、花梗の基部を圍める特徴をよく表示せるものなり。

朝鮮に於ける沙參の記載に付ては。

「郷藥集成方」に……沙參 郷名加徳とあり。

「東醫寶鑑」に……沙參曰曰と土名を付せり。

前書は李朝世宗十五年即西曆一四四三年日本永享五年足利義教の代に編輯刊行せられしもの也。されど此書は國初に撰述せられし「郷藥簡易方」を修正せしものなれば、其中にある加徳の名は、太祖時代の記載の襲用なるべし。又實際に其時にも加徳と稱せられしやも知れず。後書は光海君二年西紀一六一〇年日本慶長十五年の撰なれば其間に音の訛りしとも考へらる。而して其カトク又タトクなる植物は何を指したるかば明かならざれど、「山林經濟」西紀一六七三年頃の著述に治圃の部……沙參二月内移植す、數年を経て根大なり。功用藥に作り肺ウデテ干したるものに作り醬醬油に作るタン並びに佳なり……とある蔓草の羊乳根を指したるもの、如し。何となれば此植物今日も如此して食用に供するも。沙參は食用に供すること無く、唯兒童等が偶ま山野にて根を掘り生食することあるだけのものなれば也。丁若鏞の「正言覺非」には……山藥以て沙參となし雜草以て黃連と爲して可ならんや。山藥方言多德多音可下也可也蔓生の根茹るべく、本草載する所の山蔘は是此物なるやを疑ふ。董越朝鮮賦に云ふ。

「松膚マツクラダの餅、山蔘の糕、自注山蔘非入藥者、其長如指狀如蘿菔、遼人謂之山蘿菔、此の物膚理極めて疎、米粉に和し油煎環餅と爲す、俗山蒸多徳と稱す星翁。沙蔘の狀王筋の如く肌理人蔘の如く差細差長を少異と爲す也、人蔘の代用沙蔘既に之れ苟且、沙蔘の代用多徳亦孟浪ならずや。余昔し沙蔘を燕市に買す、俗所の沙蔘なる者と比して之を視るに果鼠璞也。俗所郷黃連と云ふ……云々。輒曰く此文によれば此時代にもトトクを沙蔘とせしこと明かなり。唯此文の山蘿菔とあるはマツムシサウにして、トトクと稱する蔓生羊乳根には非ず、其事山蔘の項に詳説せり併せ見るべし。徐有渠の「林園十六志」西紀一六七三年頃の著に沙蔘……一名白蔘。按ずるに、近峽州郡多く有之。其根蔬茹に作るべく桔梗に同じ……云々。輒曰く之れも亦羊乳根を指したるものにして沙蔘には非ず。

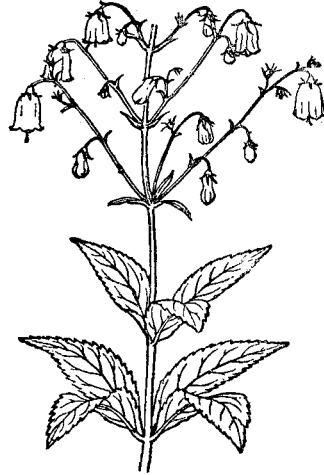
輒又曰く、現在朝鮮に於てトトクと稱しつゝあるは。蔓蔘とも稱し。桔梗科(Campanulaceae)ツルニンジン屬(Codonopsis Walp.)の學名C. lanceolata Baith. et Hook. f. 日本學名ツルニンジンにして。現に京城東大門市場にては食用として販賣しつゝあり。又間々素人療法の藥とし。或は又藥材として支那に輸出し、支那に於ては之に黨蔘の名を附して賣買せり。現に内地に赴ける朝鮮の勞働者は内地の山野に於て之を發

牧野博士日本植物圖鑑の圖



Adenophora remotiflora, Miq.

ソバナ



Adenophora verticillata, Fisch.

トトキ



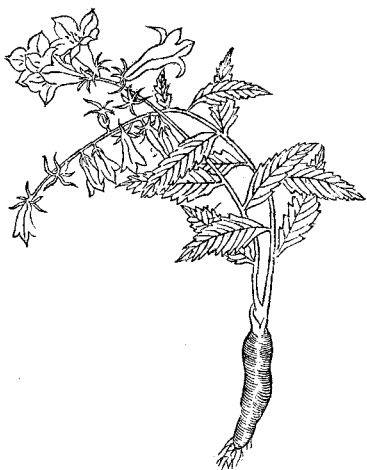
Codonopsis lanceolata, Benth. et Hook. f.

ツルニンジン

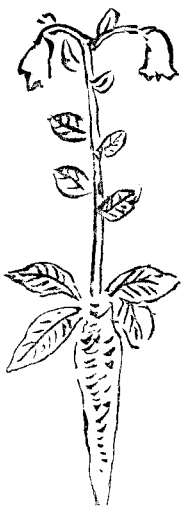


Adenophora stricta, Miq.

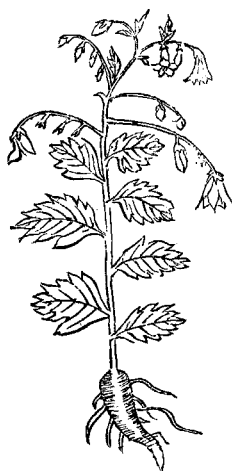
マルバノシヤジン



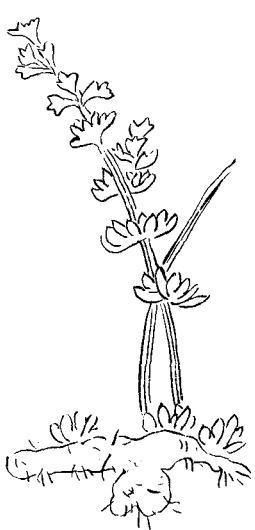
圖の參沙 考圖實名物植



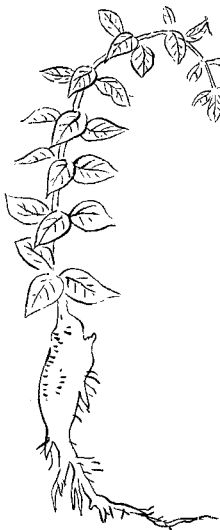
圖の參沙 目綱草本



圖の參沙葉杏 考圖實名物植



乾參根探月八月二 參沙州隋上同



參沙州潘上同



參沙州歸 圖の草本愈備頭證史經定校異紹

見せば掘採し來り食用に供せり。

朝鮮のトトクと日本のトトキとは關聯あるべし。屋代弘賢は『古今要覽』に於て、桔梗を敍する條に……按ずるにトトキはもと沙參の韓名にて東醫寶鑑にいでたるトトキの字なりといへり。此種多く岡原上に生じてその狀頗ふる沙參の如し故に岡トトキと名く……とあり。森立之は『神農本草經攷注』に於て……立之案するに、本草和名云唐醫心方同。今止々歧仁牟志无と呼者是也。「登々木は乳木之義」蓋古へ沙參を審にせず。止々歧仁无志无と爲す、故に只唐と云ふ、却つて止々歧仁无志无を以て桔梗に充て、卽阿利乃比布歧と訓す、畢竟齊苳、桔梗、沙參皆一類異稱と爲す也。……韋曰くトトキを乳の木とし白き汁出づるに附會せるは甚しき僻説と云ふべし。

トトキの名に付ては、第六卷人參雜記篇に詳説す、參照すべし。

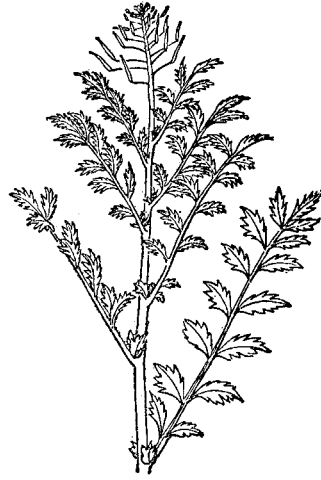
◎ ジャニンシン 蛇人參

此名稱は何時より行はれしかは不明也。近代的植物學名としては『牧野日本植物總覽』に左の如く記さる。

十字科 (Cruciferae) タネツケバナ屬 (Cardamine L.) の *C. impatiens* L. ジャニンシン 一年草

莖は多枝葉は頭大羽狀全裂、裂片は卵形乃至長橢圓狀披針形、三乃至五中裂、箭脚、耳垂、花は白色、總狀花序、角は線形、無毛——溪間水邊、花候春夏。

樺太、北海道、本州、四國、九州、琉球、



圖の邊圖物植本日 士博野牧 ンジンニヤジ

◎熟

參

ジユクシン

熱湯に浸し又は蒸氣に蒸して修製したる人參の中、某るものゝ名。大抵藥肆に於て通用せし稱號。

此熟の字は多くは潤澤を帯びたる者に命せられたり。故に湯蒸せざる者にても潤澤あるものは、往々熟の字を付して稱せらる。

『皇國名醫傳』に……田村藍水の製する所の熟參一舉千有餘斤を得たり……とあり。支那に於ては清代に拔頂熟、熟黨、紅熟、白熟、中熟、小熟、大揀熟、中揀熟、條小熟、光頂熟、光揀熟、光中熟、光小熟等の名稱あり。各其項を見るべし。

◎ 珠 兒 參

ジュジシン、又珠子參

清代後半期の初めに南部に見はれし人參擬似品の一。根形の稍丸きより此名あり。略して珠參とも云ふ。

『本草從新』に……珠參は閩中に出づ、大にして明透なる者佳し。須らく多く皮を去り、再び滾水に泡過し、然して後用ゆべし。其苦劣の味皆外邊に在り、中心に近けば苦味減じて稍甘し……其性大約西洋人參と相同じ……『金沙江志』……珠參 東川に産する者味參に似て較や苦し……『書影叢說』……雲南姚安府亦人參を産す。其形扁にして圓之を珠兒參と謂ふ……『藥性考』珠兒參は根薺苳と同じ。苦寒微かに甘味厚く體重し……『救世苦海』珠參……肺を補ひ火を除し氣を下す……云々。

『陸人蔘譜』……珠參は閩中に出づ、形圓く其皮肉絶て遼參に類せず。若し飲片に作れば參と辨する無し……。

『本草綱目拾遺』…按ずるに、珠參は本と參類に非ず。前未だ聞かず、此近年始めて行はるゝあり。然して南中之を用ゆる絶少、或は云ふ、粵西より來る、是れ三七子と。又云ふ、草根大約參の名を以てする者は其性必ず補。醫毎に其苦寒なるを患ふと。友人朱秋亭山左に客たり、珠參を貨る者製法あり、之を服して遼參に代ゆ可く、每五錢價五十金を索るを聞く。秋亭千金を罄し其方を市ふ。秘して輕しく授けず。予は其弟退谷に懇なり、始て其術を得たり、因て之を録して以て貧を濟ふ。珠參切片每五錢、附子三分を以て研し末とし、拌勻し。鷄蛋一個を將ひて黃白を去り、每殼參片を納る五錢、口を封し、鷄哺を用ゆ。小鷄出る時を待ち、取出し筆を將ひて一圏蛋上に記しと作す。如此すること七次。共せて其七圏を成せば其藥即ち成る。垂危の大症竝に產聲無力に遇ふ毎に參を吃せしむ。煎服五錢力人參に勝る、并せて起生回生臘狐の心に較ぶれば功力尤捷し…云々。

又同書南沙參の部に…張觀齊云ふ。珠兒參は其形は獨蒜之に似なり。皮を去つて煮熟すれば色紅熟人參の如し、圓大にして珠の如くなるに因つて故に名く。其味苦くして微かに辛を帶ぶ。知らず何の根子を以て造る所たるかを。價每觔五錢、牙痛を治して驗あり…『文房肆考』…珠參 苦くして微寒形ち芡實の如し…。

『唐 人 参 攷』……珠 参 苦 ぶ して 微 甘 治 火 に 宜 し、味 厚 く 體 重 し、形 芡 實 の 如 し……。
 『重 訂 蘇 省 水 卡 捐 章 』中 ……珠 兒 参 角 觔 捐 錢 貳 佰 文 ……あ り。近 代 まで 南 支 より 中 北
 支 に 輸 入 せ ら れ し を 知 る。

珠 参 に 關 する 日 本 の 記 載

『小 野 蘭 山 廣 参 説』に ば ……珠 参 苦 く して 微 寒 形 ち 芡 實 の 如 し。是 れ 我 邦 の 肆 人 呼 ん だ
 蝸 斗 様 と な す 者 也。余 諸 州 を 巡 り 幽 壑 を 探 る、常 に 見 る 節 参 を 生 ず る の 地。必 ず 多
 く 珠 参 あ り 其 味 亦 同 じ。直 根 を 産 ず る の 山 亦 生 ず ……云 々。

竊 曰 く、小 野 蘭 山 は、支 那 の 珠 参 を 日 本 の 竹 節 人 参 の 中、根 の 塊 状 を 爲 せ る 者 に 充 て



珠 参 子 物 名 實 考 圖 の 圖

はめたれど、此説誤にして二者全く別物なり。

『俗人參識』……珠參、清商俗稱、俗名念珠人參藥肆。此れ昔年朝鮮のものなり。太さ菽粒の如く圓長等しからず、即稚根なり。數顆累々として線に貫き生乾するものなり。其氣味極めて妙、今罕にあり。書隱叢説を按ずるに、雲南姚安府亦人參を産す、甚だ匾にして圓之を珠兒參と謂ふ……と。蓋し云ふ所の珠參か、本草從新亦珠參を載す同名異物か……とあり。

韞曰、此記述信すべからず。日本に入りし人參は長崎口、對馬口と支、鮮其入口を異にす。朝鮮の者を長崎清商が俗稱すること事情に合せず。而して之を支那の珠參に充つる又非也。線に貫きし人參ありしこと、他の文籍に全く無し。蓋し日本藥肆が朝鮮人參の屑もてしたる作品にして、又命名をも爲したるものか。

◎鬚

參

ジュシン

參鬚尾參、ヒケ人參の項を見るべし。

◎鬚

條

ジュデウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。拔頂熟の項を見るべし。

◎ 巡 營 蔘

ジュンエイシン

稅蔘の項を見るべし。

◎ 春 蔘

シュンシン

採挖修製の時期により、名けられたるものにして秋蔘と對稱せらる。

『本草綱目』に……春夏に采る者虛軟、秋冬に采る者堅實……とあり『本草原始』には……凡そ用ゆるには宜しく秋蔘を擇ぶべし。春蔘を用ゆる勿れ、春蔘は輕匏、汁の萌芽に升り抽便なるに因る。秋蔘重實汁の降るを得結暈膠を成す……『本草蒙筌』に……春蔘力無し、一兩を用ゆると雖も。秋蔘一錢に如かず……云々。

『小野本草記聞』に……同じ人參なれど掘時節により輕虛と重實との異あり。春以後採者は輕虛なり、此を春蔘と云ふ。秋以後採者は重實なり、此を秋蔘と云ふ……とあり、支那本草書の祖述にして實驗には非ざるべし。

『肥料人參耕作記』……春に至り掘采こと宜しからず。又法製の上色澤も劣るものなり。……秋と春とに參根掘取ることあり。然れども春參は根質輕虚にして特に力なく、秋參は根質重實にして力强し……とあり。……實驗の上の記述なるべし。
秋參の項併せ見るべし。

◎小 兼 皮

シヨウケンビ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎小 糙

シヨウザウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎鍾 山 人 參

シヨウサンニンジン

清時代に見はれし擬似人參の一種。

『新修江寧府志』に……鍾山人葠古へ稱有り焉。今鍾山時に人參あり、色紅又紅肉黨參に似たり。其性稍熱……とあり。

鍾山は江蘇省下江寧府の管下の山名。右古へ稱ありとあるは『梁書』阮孝緒傳及『南史』隱逸傳にもある古事ならん即ち『南史』の方を掲ぐれば……阮孝緒の母王氏疾あり。合藥須らく生人參を得ざるべからず。舊と傳ふ鍾山出る所と、孝緒躬ら幽險を歷る累日逢はず、忽ち一鹿の前行するを見る。孝緒感じて後に隨つて一所に至る鹿遂に滅す、就て視れば果して此草を獲たり……云々と天が阮孝緒の孝心に感じ、鹿をして人參の在る處に先導せしめし、綺談小説を載す、梁書の記載亦大同小異也。

◎小 熟

シヨウジュク

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎鑲 鳳

ジヨウホウ

鳳凰城の項を見るべし。

◎ 滌州人參

ジヨシウニンジン

滌州に産せし宋時代の人參擬似品。

此名稱と其圖『圖經本草』に出づ。李時珍は『本草綱目』に於て其畫より見れば、人



(藏庫文森大本寫) 圖草本急備類證史經定校輿紹

圖の參人州滌

參に非ず沙參の苗葉なりとせり。妥當なる意見と云ふべく、よし沙參に非ずとするも桔梗科の植物たること疑なきが如し。

滌州は今の安徽省滌縣、昔し歐陽修が知縣たりしことある地なり。

◎女直參

ジヨチヨクシン

徳川時代、日本に於て、架空的に名稱付けたるもの。

『熊谷之欽廣參品』に……今藥舖に唐大と稱する參あり。恕菴先生用藥須知詳かに辨ず。乃ち女直參なり、漢參及韓參に非ず。明會典を按ずるに云ふ、女直國歲貢人參の數、十萬斤是なり……云々とあり。

輒曰、右松岡恕菴の記事も熊谷之欽の敘述も皆誤れり。此時代日本に入りし支那の人參は滿洲産が主たるものにして又朝鮮より清廷に貢せし人參を民間に拂下げし者、清人と朝鮮人と貿易せし者が間々交りし外、漢參なる支那本土産の人參なる者絶對に有る無し。又大明會典引用の記事も誤りなり、會典には無し。且つ女直は既に明を滅ぼし清國を建て、四百餘州に君臨せる時、豈女直參なるもの有らん哉。日本學者の當時の支那の實情に迂にして且つ、支那典籍の記載に囚はれし例證の一とすべし。

女真往々女直に作らる。女直は女真のこと、契丹主の諱を避けて眞を直に變更せしとの説あるも、確ならず。

◎ シラキニンジン

新羅人參

シラキ人參の項を見るべし。

◎ シラタケニンジン

白嶽人參

對島白ヶ嶽に生せし人參。

『倭訓栞』に……とち人參は七葉樹に似たる也、美濃、信濃にてとち原人參と稱す、とちの樹の下に能く生ずるをもてなり。對馬にてしらたけ人參といふ白嶽に出る也……『醫會人參識』單股人參の條に……對馬の醫生某言ふ。吾郷白岳山中より人參を産す、其狀全く種參御種人參のことに異なることなし。山神の祟を懼れて妄に采ことを欲せず。時に吾藩薩摩の朝鮮譯士又對馬の人なり因て單に人參一事を叩くに。其言隻語も差はず暗に符合す……云々。
直根の竹節人參なるべし。

◎ 白根人參

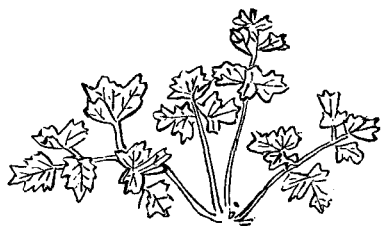
シラネニンジン

徳川中期以後に見はれたる擬似人參の一種。白根人參また白山人參シラヤマとも稱す。此名稱にて呼ばれし者數種あり。

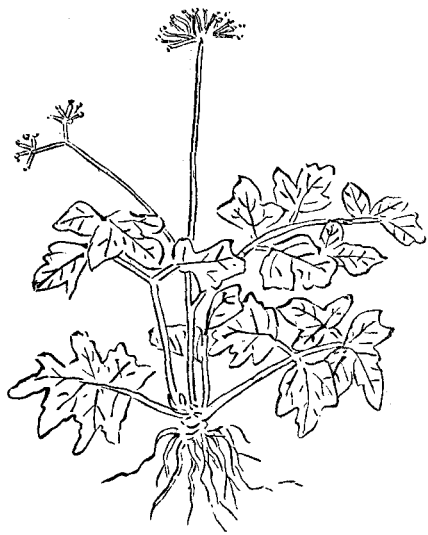
『倭訓栞』に……しらね人參は加州に出づ、白嶺は山の名也……とあり。名稱のみにて何物かを示さず。『小野本草綱目啓蒙』に……シラヤマニンジン。シラネニンジン。土人細根をカモジンニンジンと云ふ。葉當歸に似て濶短なり、白色の小花を開く芹の花の如し。人參類に非ず、ヲランダゼリなり。花白し多く誤りて廣東人參と云ふ。とあり、輒曰く、オランダゼリは歸化植物也、白山の中に自生する筈なかるべく、此説誤ならんか。『熊谷之飲』廣參品……白山人參 賀州白山多く産す故に名く。又白根人參と名く、白根は、山名此山又産す。葉は當歸に似て細なり、開花張織碎小白色、頗ふる芹花と一樣根黃白味甘し狀參の如し。稻若水翁は杜當歸の屬參類に非ず。恕菴先生曰く、土人細根を取てカモジン人參と稱す……

『百花天工區別』……白根人參、葉花彷彿としてケシツル及黃連ダマシなどの形に似て片々小草なり。とも白根より來る、今東都村下トウキョウに一種のものあり。

『兩本和語本草綱目』に……白山人參 加賀白山カガハクに生ず、根の太さ指の如くに氣味當歸の如し……『常野採藥記』享和元年辛酉夏四月採藥記事……日光黒髮山一名男



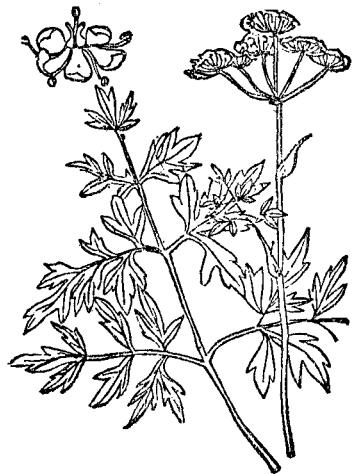
色彩圖原 圖の譜圖蒙啓日綱草本之望口井
 リゼゲンラオ名一 ンジニマヤラシ
 リナ短潤テ似=歸管葉



參人山白 色彩圖原 圖の譜參人忠範都服



圖の譜參人臺玄上坂
 參人ネ白山白産 參人山白 參人州加



圖の蘆圖物植本日 土博野牧 ンシンニネラシ

體山に上る。シラネニンジン 黒髮山の頂に生ず、葉はハ、アモレシ蛇床に似てほそし。夏日莖を抽て高さ三四寸小白花を梢に多く攢り開くこと小葉セシキヤ芎藭の如し。子はゴウゴシ蛇床子に似て稜たがし……。

以上の記載によれば白根人參又は白山人參と稱せられし者に數種あるを知る。今現に白山人參と稱する者あり、前記載中の一に該當する者なるべし。石川縣白山地域(能美郡白峰村)内に自生す。濫採の結果減少し殆んど絶種せんとせり。近時高山植物採取制限の爲、餘命稍延長せんとしつゝ、あり。

『蔵草木圖説』には、シラネニンジン、日光山、白山等に生じ……云々詳細なる植物學的解説あり。

『敦野日本植物總覽』の記載左の如し。

繖形科(Umbelliferae)センキウ屬(Cnidium Cuss) *C. ajacense* Drude. シラネニンジン、チシマニンジン。

多年草。全株無毛、葉は二回羽狀全裂。裂片は有柄、長橢圓形或は卵形、羽狀深裂。深裂片は無柄或は短柄、羽狀中裂或は深裂。終裂片は長橢圓形、倒卵形楔形或は披針形、缺刻狀。鋸齒縁、往々線形、全縁、複繖形花序に於て總苞片は二三、鑿狀披針形或は缺

如。桔梗は十乃至十二、小總苞片は七乃至十、線形或は披針形。小桔梗より稍短小：
…は多數、萼齒片は細小。瓣片は白色、長橢圓形、葯は紫色。果實は長橢圓狀卵形有翼
—高山、花候夏 樺太、千島、北海道本州、四國、…。

◎白山人參

シラヤマニンジン

シラネニンジンと同一物、其項を見るべし。

但『新藥品出產志』には…：加賀人參、白山即直根…：とあれば。此山より産せし竹節人參をも白山人參と稱したるを知る。

◎白海老

シロエビ

蝦樣人參の項を見るべし。
デ

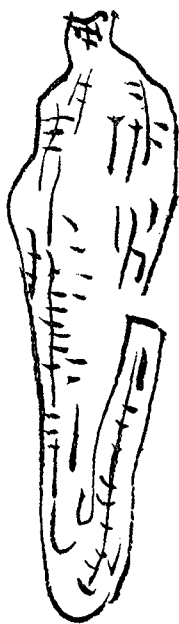
◎白手人參

シロデニンジン

徳川時代輸入朝鮮人參に對する藥肆の種別稱號。

『小野本草綱目啓蒙』…：白手人參 市人韓參中より揀出す、色白粉の如し…：と

あり此人參朝鮮の白參なるべし。本記述は朝鮮現今の白參の修製法の起原時期と、其日本へ商品として輸出せられし時代を知る、好個の資料たるべし。



寫眞人參の圖

白皮手白ク潔白粉ノ如シ味甚甘シ

◎ 參

シン

參或は蘆、蘆、淺蘆、參に作らる。

〔一〕 人參の略稱。

藥物書には此用例甚多し。『廣雅』に……蘆は地精、人參也……とある如し。

〔二〕 人參類の總名。沙參、丹參、紫參、苦參、玄參、人參、以上六者の惣名として使用せら

れしものあり。或は人參と竹節參とを併せて稱したるあり。或は他の參類と人參とを併せ稱したるあり。『松岡和漢人參品彙』に……人參總名也、近世單に參と呼ぶ……又同『松岡龐幼雜貨譯傳簿』に……人參總名也、昨今は參と計り略書仕候……とある如し。

【三】「一」なるか「二」なるか不明のもの。

『急就章』に……遠志續斷參、土瓜……とあるもの、如し。顏師古の註には之を、人、丹、紫、元、沙、苦、各參の總名とすれど確なる根據なし。

『說文解字』人蔘藥草、蔘即參也。

『唐韻』蔘。

『集韻』人蔘の字或作蔘蔘。

『六書正譌』人蔘……俗用參非。

『通韻』。『韻略』。『佩文韻府』蔘通作參。

『廣雅疏證』蔘即參後人病其重複、刪改之。

『右廣雅疏證』にある清の王孫念の説の如く、字畫が甚だ複雑なるより簡單なる參字に變更せしとの説は。明の李時珍も亦『本草綱目』に於て既に之を述べたり。されど『春秋運斗樞』禮斗威儀の如き古書にも人參の字を使へるものあり。未だ遽かに

此説に左袒し難し、但た薑薑を淺葎に改めたるは字畫の省略によること疑無かるべし。

參の義に付ては天地人三才説、參星説等あり。

詳しきは第一卷人參思想篇に詳説す。猶人參の項を併せ見るべし。

◎ 參

葉

シニエフ

人參の葉を藥用の目的とし、干して修製せられしもの、名。

人參の葉迄も棄てずに商品とするに至りしは。支那に於ては清代中期以降のことなり。『本草綱目拾遺』に……參葉 遼參の葉也。率ね多く參客人參仲買商帶び來る其氣味清く香はしくして微かに甘きを以て善く津を生ず又氣を耗せず。故に參を販ぐ者之を乾かし帶び來り以て餉遺す。茶葉に代へて湯に入れ用ゆ。藥用に入るを計らざる也、人亦之を用ゆる者無し。近ごろ遼參貴きに因り、醫輒く之を以て參に代ふ。風症の參を需むるに力用ゆる無き者、輒く葉を市いて以て代ゆ、故に今大に時に行はる。蘇州參行銀行の行と同參葉を市る。其價三五換に至る等しからず。色黄瘁せず綠翠生けるが如く、手を之に接すれば清甜の香氣ある者を以て真とす。氣清

香味苦微甘、其性中、帶表を補ひ能く、胃津を生じ、暑氣を祛り、虛火を降し、大に四肢頭目に利す。浸汁にて髪を浴せば能く光黒ならしめて落ちず。醉後之を食へば解醒すること第一……。

按ずるに、人參の三極五葉は乃ち三才五行の精氣を受けて形を草質に寄す、百草の王となる。其根之を乾せば色黃坤土の正色を得る……云々……然して百草の本性大率ね補なる者多くは根に在り。葉は則ち枝節の餘氣なり、以て補を言ふべからざる也。參葉は參の餘氣を稟ると雖も、其力を究むれば、止だ能く皮毛四肢に行く、性表散を帶び參と力遠きこと甚し。惟だ生津潤燥益肺和肝の用に施すべし。今一概に作培補元氣起病救危に用ゆ、何ぞ察せざるの甚しきや……云々とあり、『藥性考』……參葉 肺を清め津を生じ渴を止む……『臞仙山棲志』……鮮らしき參葉、茗飲に代ふべし……『本草從新』……參葉 大苦、大寒氣を損し血を敗る。其性人參と相反す、且つ用ゆる無し。從來本草内俱に載せず……。

以上數書の記述により、支那に於ては乾隆年間に漸く參葉の藥用が行はれを知るべく。下の記載により、其使用は日本が先きなることを知る。蓋し人參の尊信は日本最も篤く、且其缺乏に由るものならんか。

朝鮮に於ける葉の藥用は『蘇韓醫話』に尾張藩の醫安齋と明和二年の朝鮮信使の隨員慕菴李佐國との問答中。慕菴の答に……僕の家中參葉散あり、而して諸症を治す云々……參葉散は慕菴家審の一方而して余敢て請ふて之を得る也。故に直ちに之を製し、其方の文に隨つて以て諸症に試みん耳。蓋し參葉は諸本草中之を載せず、故に未だ其の主治を知らざる也。今日良緣ありて其方法を識り得る、積年の疑滯一旦にして豁然たり矣……云々とあり。無間に逆上して喜んだ書振と謂ふべし。

『庶物類纂』に……享保之末年對馬州朝鮮人參の葉を上る。曰く彼土の世醫常に用ひて人參に代ゆ、婦人産後の諸病及崩勞滯下或は男子の痔疾下血腸風等の症を治す、甚だ効功あり……とあり。其人參の乏しき時大に使用せられしならん。現今朝鮮の民間の療法として、間々參葉は使用せらる。又浴用としても使用せられ、現に開城にては商品として販賣せられ。一斤五十錢位なり。

『加藤玄順和漢人蔘考』……人參葉 西章云ふ、近來朝鮮より對州に入來る人參葉京師へ寄せ來るを觀るに、是れ我邦の三桮ヲチ五葉ニシテの如し。而して和邦の者に比すれば味却つて劣れり矣……『小崎本草綱目啓蒙』……參葉は朝鮮より來る。筆管の太さの如く外を藤にて巻く、長さ尺許、或は七八寸、味苦し。古渡りの參葉膏は、甘く堅く深黒の光あ

り。熊膽の如し、唐山の參葉は無し。和の參葉は朝鮮參葉の形の如く甚だ太し……
『小野本草記聞』……近來和の參葉あり反つて上品たり、根苦味多く下品なる故に葉甘
美なり……『藥譜人參錄』……參葉 數十年來漢土より來る、其氣味略ぼ人參に似て
甚だ薄し。而して間ま補闕を補ふ……『熊谷廣參品』……參葉 朝鮮より來る、即ち三
極五葉草の葉莖を纏作し、把ねたるもの、狀筆管の如し。是亦古昔未だ用ひざる所の
者、參鬚と同例。缺少の時亦用ゆべし……。輒曰朝鮮の人參葉を、竹節人參と見しは
誤也。『内編古方藥品考』又遼東蓂葉之を束ぬる筆管の狀の如く、長さ尺餘味極めて苦く
熊膽の氣の如し。故を以て古へ久末乃井と名く……『時還我讀書』に……高井元春
の金片錐方に參葉を用ひしものあること出づ。『醫人參識』……參葉 肆上のもの皆
朝鮮産也。然れども多くは皆經年の故品也、醫士固より用ゆる者少なし、慨嘆に堪え
たり。其功用は詳かに種參葉以下に記す……。又同書に……此方産する所の朝鮮
種參葉氣味朝鮮産に異なる無し。和産三極五葉草莖亦相似たり、唯だ氣味漸や浮薄
なる耳。元文の末官醫に命令して用ひて之を試むるあり、而して奏効す。今や參金
に倍す、貧乏卑賤の徒之を用ゆる能はず。此を以て彼に代ゆ彼是恤政の一條也……
云々。『享保集成絲綸錄』に……元文元辰年十一月の申渡の覺。朝鮮人參の莖葉、右者

病用に付人參服用致度存候而も調候儀難義之者。右人參のくき葉服用願候はゞ被下之候間、病人の好身の者に家主成共、名主成共一人附添下野守様御番所に罷出可相願候。尤二度目よりは壹人罷出頂戴致候様可致候。曾て六ヶ敷事に而は無之候條、此旨町々に可被申開候以上……とあり。

幕府仁政の一端を見るべし。支那に於ても近代之を藥用商品とせしことは『重訂蘇省水卡捐章』及『廣東釐金稅則』に參葉に稅を課せる等の條出づ、廣東の方は參葉每百筋抽稅柒錢五分とあり。

◎ 蔘

花

シンクワ

人參の花を採り乾燥したるもの。

『剪燈叢話』に……人參の花を採り、粉末として他の藥劑と交へ、顔に傳くること百日なれば、光彩人を射る云々の記事あり。今開城に於ては賣買せられ、一斤約壹圓なり。其用途は、之れを茶として飲用に供せり。

唐の王績採藥詩に……家豐松葉酒、器貯參花蜜……の句あり。此花は人參の花なりや、又形容詞なるやは明かならず。

◎神 草

シンサウ

人參の別名として此名『名醫別錄』に出づ。『吳普本草』にも同一の記載あり。

唐の皮日休の詩、友人人參を以て惠まる因て詩を以て之を謝すに「神草延年出道家。是誰披露記三極」の句あり。明の李時珍は『本草綱目』に……人蔘年深ふして浸漸長成する者、根人形の如き者神あり。故に人蔘神草と謂ふ……と記し。清の唐秉鈞の『人參攷』に……本朝獨り遼參を重んじ人參乃ち神草を以てす。王氣鍾靈の處に於て生ずる者味勝り力洪なる故也……とあり。

(附記) 赤箭の別名にも亦神草オクイの稱あり。

『大清經』竝に。『吳普本草』に出づ。又『酉陽雜俎』に。魏の明帝の時苑中合歡草、狀著の如く、一株百莖晝は則ち衆條扶旋、夜は乃ち合して一莖と爲る。之を神草と謂ふ……とあり。

清の陳扶搖の『秘傳花鏡』に……土參一名神草、一名土精、一名血參、南浙に産す。四月花を開く、細小莖粟の如く、絲の如し、白色、秋後實を結ぶ、生青、紅熟……とあり。之れは真人參に非ざること明かなり。或は之を竹節人參とせし、徳川時代の學者あり、當

らざる如し。『植物名實圖考』には、山西の蔓生の黨參を舉世以て神草とし、其非を知らず云々と出づ。

赤箭はラン科 Orchidaceae オニノヤガラ屬 *Gastrodia* R. Br. の *G. elata* Blume. オニノヤガラなり。

◎信州人參

シンシウニンジン

〔一〕 信濃に於て産せられし竹節人參。

『^{版上}支黨人參譜』に……信州人參 信、甲、駿の山中最も多し。此草好んで深山背陰に生ず、二月苗を生ず一莖直上莖葉皆全し、五六月莖端開花、其形胡荽の花に似て白色、秋初子を結ぶ、其形小豆に似て黄赤色、根様亦桔梗に似て黄白色、氣味或は眞に近し。八月採根晒乾、但日をして之に見せしむる莫れ……とあり。其圖を見れば直根の竹節人參たること疑無し。

〔二〕 信濃に於て栽培修製せられし御種人參。

同地の人參は弘化年中、北佐久郡志賀村の神津幸太郎なる者種を日光より傳へしに創まれり。又南佐久郡は青沼村八澤の岩松廣助なる者、嘉永年間種を雲州より取

寄せ試作せしに生まれりと傳へらる。現在の栽培地は、南佐久、北佐久、小縣、埴科、東筑摩の五郡にして、昭和五年の作付反別五十七町餘、收穫一萬一千餘貫、價格二十二萬九千餘圓也。

附記『韃野日記』を見れば、佐久間象山が藩政に關係せし時、種子等を貸付け。人參其他藥草を獎勵せし記事あり。

◎沁州人參

シンシウニンジン

宋時代に見はれし擬似人參の一種。

沁州より出づるに因り名く。此名稱と圖『圖經本草』に出づ、李時珍は『本草綱目』にて之の畫を薺萇の苗葉なりとせり。

沁州は宋の時威勝軍の治。明の山西省銅鞮縣。清同じ。今山西省沁縣。

◎參

鬚

シンジユ

人參の小根を修製したるもの。清朝以來の名稱。

明代に於ては人參の價貴かりしといへ。未だ根の鬚根迄を商品とするには到ら

ざりしが故に、此名詞無し。『本草綱目』にも其記載無し。清朝中期後、醫學の大衆への普及と共に、一方國外への輸出増加して其價も一層昂騰し。遂に其一小片たる細根までも、遂に商品として修製するに至りしものなり。

支那に於ては參鬚又は鬚參と稱し。朝鮮に於ては尾參の名稱あり、日本に於ては之をヒゲ人參と稱したり。

『本草從新』に……亦た蘆頭上に横生するもの也(妬根)。而して更に細き者は其性參條と同じ、而して力尤も薄し。參條、參鬚は參の餘氣に過ぎざるを知るを要す。津を生じ氣を補ふ。危險の證には斷じて倚仗し難し……『本草逢原』……參鬚價廉なり、貧乏の者往々用之。其胃虛、嘔逆、咳嗽、失血等の症亦能く效を得る。其性専ら下行するを以てなり……『百草鏡』……甯古塔より來る者色黃粗壯。船廠の貨之に次ぐ。鳳凰城の貨は色白きを帶び劣れりと爲す。之を煎するに亦厚味なし……。又同書に、……芽茶、參鬚各等分末と爲し、之を搽すれば牙を固め腎を補ふ……『祝氏效方』にも……固牙補腎方に參鬚と他の藥物を配合したる處方あり。『煙人參譜』には……今人參鬚を以て補となすは謬れり……。

參鬚なる名稱は支那に於て現今も使用せられつゝあり。同治四年校刊の『欽定戶

◎信

參

シンシン

李朝中期以後の官用語。日本に赴く通信使が禮物として携帶する人參の名稱。

足利時代に於て朝鮮より日本へ時々使節を派遣し、其時他の物品と共に禮物用として人參を携帶したり。されど此時は之に信參なる名稱無し。徳川開府以後に於て、將軍嗣立の時之を賀する爲め通信使を派遣せり。其際に於て徳川への禮物並通信使・正使副使從事官が纏盤贈答用の物品の一として人參を携帶せり、之を信參と稱したり。

「萬機要覽」に……宣宣祖廟王和を許すの後、光海丁巳に至る、始めて通信使を日本に遣はす、伊の後使を遺はす凡そ十度。而して禮物中人參の一種、每信使の時に當り必ず先づ期に先つて産參の處に分定す。此れ所謂信參也……とあり。「江界邑志」に……信參丁卯二百斤、丁未二百斤、壬辰百三十斤とあり。「正宗實錄」に丁未六月江原府使李願祥上疏の中に……信參の報を聞いて民魄を褫はれ心を喪ひ、一時荷擔して起つ……とあり。江界府は種々の人參の割當あり。其上に臨時に此信參を課せられて、人民が懸倒塗炭の苦を嘗めしこと想像外にあり。其事第二卷人參政治篇に詳説せ

り。

信參には特に良品を撰定し、若し鉛の挿入等の不正品を先方にて發見せられなば、國體を損傷するとし、王以下注意を拂ひしこと造參の項に出づ、參照すべし。

◎ジン ス エ ン 人 參

長崎の方言、人參のこと、支那語の使用ならん。『長崎方言集覽』に出づ、徳川時代通用せしものか、現在は餘りに使用せられず。

◎參 茶

シンチャ

人參を飲料として服用すべく煎じたるもの、此名朝鮮の稱。其飲料を參茶と稱し、其原料たる人參を茶參と稱す。

日本に於て茶に非ずして茶と稱するものに、麥茶、豆茶等あり。朝鮮には橘茶蜜柑、を乾した杉茶落葉松の芽を乾したるもの、等々あり。雀舌と稱する者の中にも山楂葉を干したるものあり。參茶も亦此意味の茶なり、藥劑處方の獨參湯と實質は同一物なれど、唯異なるは其目的が嗜好的飲料或は衛生的飲料とするか、療病に使用するかの差に在り。

されど下に記すが如く兩者の區別判然せざる場合もあり。

參茶を嗜好飲料又は衛生飲料として使用するの風習は、昔より支那朝鮮共に行はれ、今日も猶行はれつゝあり。

董越『朝鮮賦』に、董越が明の使節として來り成宗王に對面する條に、勤政殿に序坐す、既にして人參湯一盞を飲み果る。王は身を起し前に向ふ……とあり。名稱は異なれども此れも參茶と同一風習のものとな観るべし。また王王妃が大漸又は危篤の時參茶を進むる例ありしことは「景宗實錄」四年甲辰八月、上候困殆甚しく脈低く力無し。四更藥房藥房提調即內醫官の頭入診參茶を進む……。己刻後入つて診す、上答へず世弟泣て曰く急に參茶を用ひよ……云々……とあり。「英宗實錄」同四十二年「正宗實錄」二十四年「統祖實錄」十五年(惠慶宮薨逝の前)にも參茶を進めし記事あり。今日のカンプル注射の如き意味を以て行はれたるものなるべし。

また平素も飲用せしことは「英宗實錄」三十一年の記事に……上曰く予は人の黨心を懲創せんとす、故に大升氣湯を用ゆ、然して後參橘茶を用ゆべし……云々。此文は黨争の弊甚激しきより之を打破すべく奮起せんとして大に元氣を養ふと云ふ意なり。

また蔘茶を客の接待に使用せしことは。姜譯士「東槎錄」に仁祖二年正使鄭世に江戸に於て利勝前田に蔘茶兩器を贈るとあり。洪譯士「東槎錄」に肅宗八年正使尹趾完對馬に於て蔘茶を勧め、江戸に於ては將軍の使堀田筑前守、大久保加賀守、儲君の使阿部丹後守に、西京に於ては西京尹隱岐守に各信使の宿所にて蔘茶を勧めし記事あり。「海槎日錄」英祖二十四年正使趙嘯德川十代將軍家治に、對馬に於て島守竝に奉行平誠泰に、江戸に於て大日附大井伊勢守源滿英、館伴伊藤泰武、大江匡滿、支持奉行安藝守源政沆、用係和泉守源乘祐、關白の使上野館林城主松平左近將監源武光、上野高崎城主松平左京太夫源輝高等に、各信使の宿所淺草本願寺に於て、來訪の大學頭林信父子にも蔘茶を勧めし記事あり。

日本に赴きし德川時代の信使、皆此習ひありしなるべし。松平定信の『退閑耕記』には……朝鮮人は人參を茶の如くして來客に飲ましむるとの事もありとぞ……とあり。『甲子夜話』に辛未の歲……對州に於て聘禮終つて、韓客吾が諸侯を饗す。彼國のならはしとして獨參湯を薦む。諸氏目送互に藥氣を畏れ飲まず。述齋幕府の儒者林家の人獨り盛儀を謝して一盃を盡す、侍者又一盃を奉ず、又盡す、尋で別に避暑の藥と云て黒色の飴を薦む、乃謝して更に一盃を盡す。述齋の洪量、概ねこの如し……とあり。『本草綱目拾遺』に人參葉を茶に使用せしこと出づ、參葉の部を參照すべし。

支那に於ては、昔より人參を茶の代りに飲用せしは、相當に古きが如し。

『宣祖實錄』四十年四月明の使臣に人參を誅求せられ人民の困敗甚しきを憤慨して書きし史臣の記に。……今や參の故を以て舉國遑々として恒に不足の嘆あり。民生戚々として蹙額の苦に堪えず。民を醫する草の如き反つて民を病ますの物となる。其故何ぞや、我國の參を以て獻と爲す、土地の生ずる所に過ぎず。而して中國の參を以て貴とするは、長生の草の如し。遠方の物を以て恒用の茶と爲す。公卿士庶皆然らざるは莫し、轉じて相販賣す、其利百倍……云々とあり。

〔附記〕清代に於て黨參と稱せられし、一種の擬似人參をも參茶とせしことは、『本草綱目求真』に……豪貴の家朝夕茶に代ゆ。以て肺受剝削を致す、病潛滋長す、此皆誤用の害、人似習して察せざるのみ。黨參の妄用を戒む……とあり。

◎ 蓼

丁

シンテイ

滿洲に於ける人參品種名稱。

丁とは人參の劣等なる小根の稱。『欽定戸部則例』東海關雜貨稅則の品目に蓼鬚蓼丁等の名出づ。

泡丁の項を参照すべし

◎ 參

條

シンデウ

〔一〕 滿洲人參の蘆頭に横生せし者。則ち妬根に命名せるもの。

『本草從新』に……參條 遼參の蘆頭に横生する者。其力甚だ薄く、止だ以て常病を調理し及津を生じ、其渴を止むるに用ゆべし。其性手臂に横行す、凡そ指臂、力無き者、之を服して甚だ効あり……とあり。

韜曰、自然生の人參の年を経たる者には、蘆頭より妬根を生ずる者多し。又自然生に近き人參たらしむべく、山養參と稱する栽培法による者は、妬根を生ずる者多し。

山人參の賣買には、其最も年數を経たる者程價貴とし。其年數を鑑定するには、蘆頭の形態も亦着眼點の一となる。人參は多年生の一年草にして、冬枯る、時、根の上部に前年の痕跡を存し、翌年其上より出苗す。之を蘆頭と稱す。故に山養參の栽培者は其蘆頭の保存に注意し保護するが故に、蘆頭長くなり妬根を生じ易し。此妬根の小なるものを取りて條參又は太子參など、稱して商品としたる也。

〔三〕 人參の製品枝根の、取扱の時折れたるもの、名稱。

長崎に於ける當該支那商人の命名したるものなるべし。『熊谷廣參品』に……參條右シイニヂヤウ鬚參中より揀出する者此れを大折ダイオレと稱す……とあり。
スエニヂヤウ

外に大條尖、二條尖、條小熟、大條、短條、中條、光大條、光小條、泡條等の名あり。拔頂熟の項を見るべし。

◎ 蔘

皮

シンピ

人蔘の表皮、白蔘、紅蔘を製造するときに削り去りたる皮を乾燥したるもの。初めは棄て顧みざりしも、近時商品として賣買せらる。用途は主として浴用に充てらる。開城に於ける一斤の價約七八十錢なり。

◎ 新

山

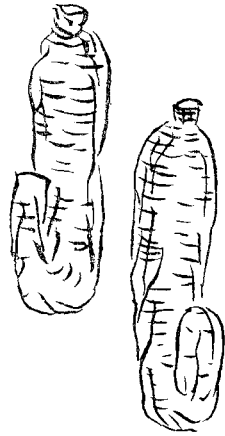
シンヤマ

徳川時代支那又は朝鮮より輸入せられし人蔘のある者に對し、藥肆に於て命じたる名。

『加藤和漢人蔘考』に……長崎士人より聞取書の條に……今より三年前に、長崎へ樣テのかはりたる人蔘わたわり。其時節に京、大阪の商人はこれは新山の人蔘とみへて、

性あしきといふて賞翫すくなし。ホンスの半にも及ばすといふて、ハンスと名け。夫れより長崎にてハンスといふ。此人參の様相續で今渡わり……。又同書に……

新山或稱生薑
セイト



古方藥品考の圖

判事を或は朝鮮新山とも呼ぶ、夫れは商人の偽稱なり……。『内藤徳賢古方藥品考』に……新山形色官蓆府製品の如く白く横文あり。其尾を拗ること蝦腰の如くするを次となす……とあり。

此稱號品にも種々のものありしを知る。

◎新羅人參

シンラニンジン

新羅より唐に其土産の人参を貢獻したるより、唐に於て命じたる名。略して新羅参とも云ふ。

其國の滅亡後に於て永く此名稱の残り存じ、使用されたること。高麗参、百濟参に同じ。此名唐の時代に至つて初めて見ゆ『名醫別錄』陶弘景の注にも高麗参、百濟参の名はあれども、新羅参の名は無し、蓋し他二國に比して開國の遅きにも由るべく。また人参認識の後れたるにも因るものなるべし。

此名稱の初めて現はれたるは、唐の李珣の『南海藥譜』一名『海藥本草』に……新羅國貢する所の者、手足の狀人形の如き者あり。長さ尺餘杉木を新羅の領地昔よりスギを産せず落葉松なるべし以て夾定す、紅絲之を纏飾す……とあり宋に至つては『經史證類大本草』の人参の條……臣禹錫謹而藥性論を按ずるに。人参上黨郡に生ず、人形なる者上、次で海東新羅國に出づ……とあり。輒曰此藥性論は唐書、宋書の書目の『藥性本草』ならん。著者不明なれど、唐代の著作なるべし。羅頤の『爾雅翼』に……人参を説く者、新羅貢する所手足の狀人形の如き有るを謂ふ……蘇頌の『圖經本草』に……又河北權場及閩中より來る者新羅人参と名く。俱に上黨の者の佳なるに及ばず……云々。輒曰く此閩中より來るとあるは新羅が南清と貿易交通せし一資料たるべし。

明以降に至つては『本草蒙筌』……新羅參 亞黃味薄し……『五雜俎』……人參遼東上黨者最佳。清河之れに次ぐ。高麗新羅又之れに次ぐ……。董越『朝鮮賦』朝鮮の産物を敍する條に……五葉の葎歲に闕廷に貢す。自注五葉葎は即本草の所謂新羅人參也……。『五雜俎』……新羅參大なりと雖も、皆數片を用る合して之を成す……。

清代に至つても猶此名稱存せり。『本草原始』……新羅參亞黃味薄し……。『植物名實圖考』……人參、今遼東吉林を以て貴しと爲す。新羅之に次ぐ……とあり。

日本に於て徳川時代に於ても學者が支那古典の記事に囚はれ、猶新羅人參なるもの存在すると誤りたる認識の下に記されたるもの間々あり。『本草圖翼』に……新羅參亞黃味薄し……とあるは前後の記載より考へて支那古書の引用なれど、併せてまた、現實の認識と見るを得べし。田村藍水の如き人參通ですら猶然り。其著『藥肆人參類集』中に……第九新羅人參二種 此の第九の參は最も中品なる者なり。或は其の狀大小同じからず、其上好なる者は殆んど人形の如し手足皆備はるなり。又中品より以下の者皆兩岐、三岐或は細條のみなり。故に襯付する者已に多し……。云々と門人に實物を示して口授せり……。又同人の『人參譜』には新羅人參の圖出づ。蓋し右の其實物を元として苗葉を想像的に作り上げしものなるべし。

李朝に至つては、近代まで羅參なる名稱殘存せり。慶尙、全羅等の産を指せしものなり。蓋し右の地はもと新羅の中心地たりしものなれば。此羅參の稱は、新羅參の略稱としての殘存なるべし。

◎ 參

蘆

シ
ン
ロ

修製人參根の頭部にある、莖部の殘りの如きもの、稱。

人參は多年生の植物にして、莖は毎年冬初枯凋し、芽は毎年地下莖より發生す。其枯るゝ時地下莖に着生せし部分に痕跡を殘存す。此鱗狀膜様の者を本草書には、蘆頭と稱せり。

蘆頭を本根より離して、一個の藥材として使用せしは、元の吳綬及朱震亨に初まる如し。爾來多く吐劑中に使用せられ。又人參を煎用する時に、蘆頭を去るべき注意本草書及處方書に出づ。而して蘆頭が一個の商品となりしは清代よりなるが如く此蘆頭は製造荷造運送の際離落し易きものなれば、もと藥肆之を惜み拾ひ集めて其他の折等と共に賣品とせしに始まるものなるべし。

本草書中參蘆の一項を設けたること『本草從新』に初まる。同書に……參蘆 宣

涌吐然して亦補性あり……今東洋西洋俱に常に之を用ゆ……とあるは。支那に於て日本の人參の蘆頭も、アメリカ人參の蘆頭も使用せしことを説明せるものなり
同治四年校刊の『欽定戸部則例』蕪湖、安徽省大平府管下關稅則中品目に、參蘆頭每拾觔各稅貳錢……とあり。『唐藥人參攷』に參蘆、乃ち參の蘆頭、苗を發するの所也。白色多し、毎に體鬆の糙貨を以て斷ちて以て之に雜ゆとあり。

此品商品として支那、朝鮮其中主に支那より徳川時代日本に入りしことは。記載最多し。『明醫藥肆人參類集』に……唐の大折人參一種、謹て案するに、此の人參第三十二の判事人參。第二十五の服ジメ人參、細鬚人參及參蘆を交へて賣る者なり……。『小野本草綱目啓蒙』……蘆頭と云者、朝鮮、唐山俱にあり。是直根頭上にありて、本根と苗とのつなぎ也。本邦にて竹節參を指て蘆頭と云者は誤なり。物理小識に節參乃參蘆也と云。本經逢原に參蘆一名竹節參と云、竝に非なり……とあり。韋曰、前半は正説にして、後半誤也と謂ふべし。『物理小識』に市上の節參小菖蒲に似て曲る乃ち參蘆也、『本草逢原』に……參蘆能く氣を耗す、専ら吐劑に入る……其蘆、世罕に用性を知る、江右の人竹節參となす、近日吾亦用ゆる有り……。とあるは誤りに非ず。今日に於て自然生の人參は蘆の長きことも亦鑑定の着眼點となる。山人參は年數を経たる者

程價貴とし、其年數は蘆によりて或點までは算へ得る故に、其蘆頭を大切はせり。予の實見したる物にて蘆の長き者は三寸に及べり。恰も小菖蒲の如く曲れるもの物理小識の記載に一致す。然るに日本に於ては *Panax racens* を竹節參と通稱せしにより。節參と謂へるを此れと同一の者と誤解し。又支那にも竹節參ありと誤つて認識し、變形の人參を蘆頭人參又は竹節人參など、妄稱したる學者多し。小野蘭山が『本草綱目啓蒙』に於て……竹節參古へ渡る今渡らずと述べあるは、右の變形の人參にして竹節參には非ず。

『葦葭堂人參錄』に……蘆頭參 大人參の蘆頭なり、此物皆大人參につけて賣る故に多くは得難し、今の市人竹節參を以て蘆頭人參と呼ぶ又鬚人參と呼ぶ混すべからず。物理小識及五雜俎を考すべし……とあるは正し。

『藥音 人參識』に……唐山及朝鮮より來るもの稀にあり。蓋し古時將來する所の者は其形節參の稚根に似たり。其氣淡白、濃苦、參商之を蘆頭人參と云ふ。又或は呼んで節人參となす……とあるは變形の人參なるべし。

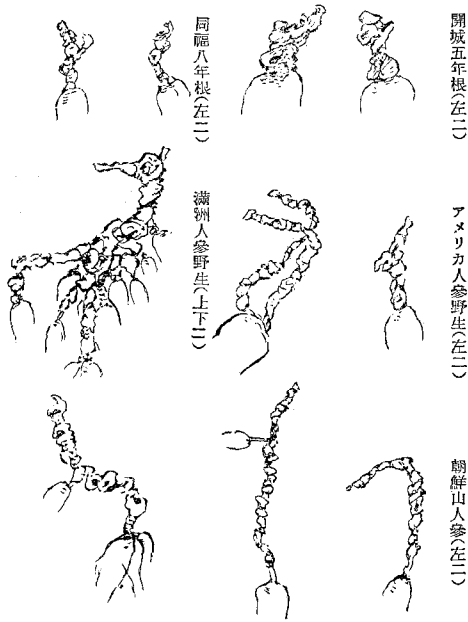
朝鮮に於ては蘆頭のみを商品として賣買したること昔も今も無し。支那に於ては之を一個の商品として賣買せり。同治四年增刊『欽定戸部則例』中、蕪湖關稅則の藥

科の中に人參、參鬚、參蘆等の名目あり。

人參の葉莖の枯れたる後、冬期に於て此蘆頭の部分を損傷するときは發芽を一二年間休止する者もあり。之を眠參又は睡眠參と稱す又蘆より側芽即ち妬根を生ず

る者もあり。

『吉林地理記要』に……稔性熱、一苗の高數寸……間一二莖の苗副出至美の根あり。是必ず原根と謂ふ蘆頭曾て摧傷を受け久しくして一苗を側生する者也……とあるは實



寫臨物實稱圖の蘆參

驗の記述なりとすべし。

徳川時代の學者が、人參の蘆頭と、竹節人參とを混同したるも故無きにあらず。何となれば、竹節人參の横根の者は、延長して一年毎に其根に白狀の凹痕を残す、人參の蘆頭も亦一年毎に右に似たる痕跡を残すものありて、右圖の如く、甚だ類似したる點あればなり。

參蘆は滿洲語にて「セ」と云ふ『音漢清文鑑』に其字左の如く出づ。



參蘆(シ)

人參蘆は唐宋時代に於ては藥用には害あるものとし、藥書本草書には人參を服用の時之を去るべき注意あり。但だ吐劑には用ひられたり。元に至つては吳綬朱丹溪等共に補助あるものとして使用せり。詳しきは第五卷人參醫藥篇に記せり。

◎水

蓼

スイシン

掘りだての生まの人參の名稱。朝鮮にては李朝の中期。支那に於ては清初に見はれし名目。

内地の福島、長野、出雲、北海道等々の地方にては現在之を土根人參と稱す。

此名稱は現に今猶滿洲及朝鮮に於て使用せられつゝあり。「通文館志」哲宗十一年庚申の條に……盛京禮部の朝鮮國王への咨に。老溝臺の處、見ミに高麗人七八名あり、密林に竄入未だ獲ず。兵等僅に衣脯包子、中に水參九百二十五苗ダクを點檢す……云々と越犯人の記事あり。

又同書十二年辛酉の條に同じく盛京禮部の咨に、八百九十三苗の水參を朝鮮人が越犯して盜採せし記事あり。

「中京志」に……水參とは新採土を出る者の名、二十兩を以て斤と爲す……云々。
李太王五年九月江華別武士の經費不足し、開城蔘戸に水參税を課せり。光武八年明治三十年に發布せる法令に水參賣買の時、圃主名下、其次、數・次數・とは根の太さの階級別名を録し、公司に納むべし……云々とあり。現行の總督府令規人蔘關係の法文中にも水參の文字を使用せり。

水參一に生蔘又草蔘、草人蔘とも稱せられたり。各其項を見るべし。

韞曰、此水參の名は、山人蔘を採取せし時に、水苔に包み或は水に浸すことより由來せしものならんか。

◎水尾參

スイビシン

尾參シラネの生まの者。今朝鮮に於て開城其他の人參產地にて通用せる名稱語。

◎滴石人參

ススクニンシン

竹節人參の地方名。

『爾野本草綱目啓蒙』竹節人參の事を敘する條に……和産方言多くあり……滴石人參ススクシ南部……とあり。

◎居根

スハリネ

徳川享保以降に於ける御種人參耕作従事者間の通用語。人參の根の形態により付けられたる名稱。

『爾時村人參耕作記』に……居根又溜根とも云ふ。其根一寸位より八九根に分れ殊に細根なし。掘出して土に置く時は居スハリる者あり故に俗呼んで居り根と稱す……云々とあり。此圖ヒトカタ根の項に併せ入る照見すべし。

◎清 河 參

セイカシン

明の後期に見はれし擬似人參の一種、清河より出でしに因り名けらる。

清河は明代の京師省廣平府の管下。清代の直隸省廣平府管下の清河なるべし。

『五雜俎』に……人參は遼東、上黨に出づる者最も佳なり、頭面手足皆具はる。清河之に次ぐ……とあるを始めとす、徐春甫の『醫學捷徑』中の處方にも亦此名稱出づ。『本草原始』に……市に小塊、色白く堅實明亮なるものあり、蘆に近く紋あり、亦無紋の者あり。市に清河と呼ぶ劑に入れ用ゆるに堪ゆ。氣味之を上黨に較ぶるに之に次ぐ……。

『本草圖翼』に……清河參、塊小、色白堅實、明亮……とあり。此記述に付て曾槃は『人參識』に於て……又稻若水本草圖翼に云。清河參、塊小、白堅、明亮、是れ若水の見るところに據つて録するか。若し然らば。昔し商船の載來るものあり。今絶て見るることなし……とあり。輒曰、予も亦曾槃と同感なり。されど如此人參は日本に入りたること有ざるべし。稻生若水之を見しとすれば。標本的のものなるべし。元來本草圖翼なる書は、稻生若水の全著に非ず。何人がの稿本を若水が補成せしものなれば、此書の記載全部を若水の説とは爲し難し。

◎成形人參

セイケイニンジン

人の形を成したる人參の稱。

『契丹國志』……新羅貢進物件……腦先茶十斤、成形人參不定數……とあり。茲に新羅とあるは、王氏高麗を指したるものなり。成形人參は孩兒參、童參、體參、人形參等と異名同物なり。各其項を見るべし。

◎薺 芫

セイジ

桔梗科の一植物。昔より人參の僞膺に用ゐらる。賊參の項を見るべし。

◎西 參

セイシン

清代人參擬似品の一種。

『雲南通志』に……土人參あり。一に西參と名く……とあり、何の植物かは不明。

◎生 參

セイシン

掘りだての生まの人參。又生人參ナマシロとも謂ふ、水參と同一物。

『梁書』阮孝緒傳に……孝緒鍾山に講を聽く、母王氏忽ち病あり……合藥須らく生人參を得ざるべからず。舊と傳ふ鍾山出所と……云々孝緒が幽險を冒し神鹿の暗示により人參を得。之を服して母の病愈へし記事あり。『南史』隱逸傳にも右と同一の記事あり。

明の謝肇淛の『五雜俎』人參遼東に出づ、上黨の者最佳なり……高麗新羅又之に次ぐ……今生なる者得べからず。其中國に入る者皆細縛し蒸て之を夾む……云々とあり。昔し生まの滿洲人參が北京に入りしを知らる。

「藜燃室記述」別集に……年例進獻人參常に生參を用ゆ。貢路遙遠未だ透濕を免れず、差賀使兪大禎は陳奏して把參を以て易ゆ……とあり。

朝鮮より明廷へ貢獻の人參は、產地江界の如き僻遠の地より使節出發の一二箇月前提納せしめ、それを携帶し行くを例とす。產地にて採取してより北京に到着する迄には小くとも四箇月以上の日子を要す。此れを生にて携帶するは甚困難なれど、宣祖の時より従前よりの白蔘即ち干したる人參を草蔘即ち生の人參に代ゆることを命ぜられ之を實行せしも、甚困難なるにより遂に奏して把蔘即ち蒸したる製品

に代ゆるに至りしなり。

「萬機要覽」に内醫院への貢物に生蔘あり「江界邑誌」に……英宗甲申府使李公壽錫の時毎戸の生蔘一分を減ず、生蔘は則ち本府納税なり……とあり。此等は京城の大官、王室の御用のものにして少量たるべし、江界邊より、京城迄ならば生の儘持來し得、現今に於ても往々、山蔘を北道より生の儘持來し取引せり。

今朝鮮に於て富豪が高價の山人蔘を買入れたる時は皆生の儘煎服す。故李王殿下も年一二回此の山人蔘の生を服用せられたり。また栽培人蔘も今現に朝鮮の民間に於ては生のものを煎服するの風あり。是を以て最も効驗ありとせらる。皆昔よりの風習なるべし。

『貝野大和本草』に……人蔘生根昔朝鮮より來り、江戸にあり、今は無之……とあり。

對馬の手に由るか或は朝鮮信使の行の便に由るか密輸入かの方途の外には朝鮮の生人蔘は日本に入り様なし。又其生まを持續しての携帶輸送は甚困難の仕事なれば、此記事は鉢植への者か或は誤謬なるべし。

『本草圖翼』に……生人蔘形蔓菁、桔梗に類す、故に世桔梗を以て造參人を欺く……とあれど。是れも支那文籍丸呑の不消化を記述したるものにて日本の事には非ず

とすべく。支那朝鮮にては如此事行はれたるも、日本に於ては其事實全く無し。

◎税

蓼

ゼイシン

李朝中期以後の官用語。

「一」徳川時代東萊に於ける鮮人と日本人との人蓼取引に對し、課したる實物徴收の人蓼税。十斤に付一斤を徴收し、戸曹の收入とす。「増補文獻考」に出づ。

「二」實際税の性質に非ず。貢物が變形して其代價を米、布、錢等にて支拂ひ、買上の形式をとりしもの。事實は實價の値か幾分に當るをも後には税蓼と稱せり。「萬機要覽」に戸曹税蓼七斤とあるもの「増補文獻備考」に英祖十七年蕩減免除の條に、税蓼貢人貢納義務者たる人民より錢穀布等を受取り上納を受負へる者。税蓼遺在怠納とある者等は、本項に該當す。

人蓼の主産地江界府よりは他の産地と同じく國初貢物として人蓼を上納したり。中期以後其産地減少し、江界が主産地となるや、其貢蓼は税蓼と名稱を代へ、左の如く割充てられ。無代徴收せらるゝことゝなれり。其年代は不明なり。此税蓼は他には課せられず。江界府のみの負擔たりし。

江界府 稅蔘 三十四斤四兩

内

内局蔘の中へ 九斤 憲宗年代三斤となる

議政府蔘同 四斤 同上 三斤

中樞府蔘同 一斤八兩 同上 一斤四兩

宗親府蔘同 三斤 同上 二斤四兩

忠勳府蔘同 七兩 同上 全減

戶曹蔘同 十斤 同上 三斤

巡營蔘同 四斤 同上 六兩

兵營蔘同 一斤八兩 同上 一兩四錢

外に計士の取扱費用補助十三兩 後五兩

右の額は「江界邑志」に載する所其額時に變更ありしこと正宗以來の實録に出づ。而して江界の稅蔘は、貢物の變形のみにあらず。最初人參採取權の代りに稅として納めし人參が、後に至り採取せざることゝなりし時にも猶繼續せられ。稅蔘と稱せられたるものなり。内局は内醫院のこと、兵營は節度使の營、巡營は其下に在る兵營

右人參と關係無き官廳に、人參を徵求する内規甚不當と謂ふべし。

◎生人參

セイニンシン

生參の項を見るべし。

◎青羊參

セイヤウシン

清代に見はれたる擬似人參の一種。



圖のモイガカ 植物圖本日本野牧



圖の參羊青考圖實名物植

『植物名實圖考』に左の如く出づ。

青羊參 雲南山中に生ず、何首烏に似たり、長根五瓣の小白花を開く、攢を成す、之を摘めば白汁あり。

【松本植物名彙】には本植物に關し、左の如く目錄の記載あり。

Cynanchum 青羊參 (CH. XXIII 31)

(CH)は植物名實圖考 *Chi wu ming Shih'n K'ao* 即ち植物名實圖考の略なり。

輒曰く、此青羊參と云ふは、其形態の記載と圖形より見て、タウワタ科 *Asclepiadaceae*

カガイモ屬 *Metaplexis* R. Br の *M. japonica* Makino と同種の植物たるべく。【牧野日本植

物圖鑑】に出でたる。其記載を左に記し圖を右に掲ぐ。

カガイモ カガイモ科

產地原野に自生する多年生纏繞草木。形態地下莖を引いて繁殖し、莖は長く延びて綠色を呈す、葉は葉柄を有し對生し長心臟形をなし全邊にして支脈明なり。莖葉を切れば白汁を出す。花は葉腋に短き穂をなし下に長き花梗あり。花冠五裂し面に毛あり、

果實は頗る大にして獸角狀をなし面に突起あり。種子に白色の種髪を有し、風に

従つて飛ぶ。花期夏日。花色淡紫色。效用 種子の白絮は綿の代用とし、針挿印肉に用ゐらる。

本種に「クサバンヤ」の名あり。

◎西洋人參

セイヤウニンジン

アメリカ人參則ち *Panax quinquefolia* L. の製品に對し。其輸入の初め支那に於て命名せるもの。略して西洋參と云ひ、又略して洋參とも云ふ。

『本草從新』……西洋人參 苦寒微かに甘し、味厚く氣薄し、肺を補ひ火を降す、津液を生じ煩倦を除く。虚して火ある者相宜し。佛蘭國大西洋に出づ、形遼東糙人參に似たり。之を蒸すに香しからず。其氣甚だ薄し……『婦人葆譜』……西洋人參、佛蘭國の西に産す。大さ白泡糙參に似たり……『藥性考』……洋參は遼參の白皮泡丁に似たり。味人參に類す、唯だ性寒、糯米飯上蒸し用ゐるば宜し。甘苦陰を補ひ、熱を退く、薑製元を益し正氣を扶く……。『鈔廣藥人參攷』……西洋參、形白泡糙參に似たり、之を蒸すに香しからず。之を啜るに苦多く虚火に宜し……『本草綱目拾遺』西洋參の條に……對半攤開する者の若き片參と名く、佳ならず、藜蘆に反す。藥に入るには選皮細潔中心

を切開せば、黒からず緊實にして大なる者良し。近日其性の寒を嫌ひ、飯鍋上に蒸すこと數十次にして用ゆる者あり。或は桂圓肉を用ひ、拌蒸して用ゆる者あり。鐵刀火炒を忌む……苦寒微甘、味厚く氣薄し……王孟英『王氏醫案』にも處方中に西洋參を使用せるもの諸所に出づ。

此名稱爾來支那に於て使用せらる。光緒年代の江蘇省外國品釐金税にも……西洋參 每觔捐錢貳拾捌文……又重訂蘇省水卡捐章にも……西洋參每佰觔捐錢參仟文……とあり。

韋曰、從新、人蔘譜に、佛蘭西國に出づ、とあるは。最初廣東に舶載せしは佛蘭西の商船なりしにより、佛國產と誤認せられたるなり。

『小野本草綱目啓蒙』には……西洋人蔘の項に本草從新の記事を載せ……今清商は廣東人蔘を指て洋參と云。沈敬瞻、程赤城等の言も從新の文に合す云々と説き右沈程は長崎在留の商人にして、幕府より廣東人蔘の事を問合せ之に答へたること庶物類纂に出づ……而して享和壬戌、蠻人將來の珍禽類纂に載る北亞墨利加アメリカの加拿大カナダ地名地人蔘の彩畫を見れば、其根肥大ならず、多節の蘆頭もなくして、廣東人蔘に非ず、又實の形を見れば、遼參にも非ず。根と實とは全く是土參土參の形節竹状なりと説けり。

輒曰く此廣東人參とアメリカ人參を別物とする説謬れり。詳しくは、廣東人參の項に説けり。併せ見るべし。

◎紹 糙

セウサウ

清代滿州人參に對し、蘇州人參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。拔頂熟の項を見るべし。

◎昭 參

セウシン

清代後期に見はれし人參擬似品の一種。

『本草綱目拾遺』……照參 金沙江志に云ふ人參三七は昭通府雲南に産す。肉厚ふして明潤頗ふる粵産に勝る。形人參の如く中油熟。一種、王子元、滇に官たり、曾て此を以て外舅稼村先生に遺る。予親しく之を見るに、狀儼として人參の如く、明潤、紅熟、壯少なる者此を服せば脹を作す。惟六十以外の人服すれば腹脹せず。其功大に血を補ふ、亦血を行せず。彼土人虚弱を患ふ者之を以て鷄腹に蒸す。大母鷄を取つて蘇家三七を用ひ、煎湯、鷄を將ひて煮ること少時、又三七を將ひ渣を搗き爛して鷄腹に

入れ、線を用ひて縫ひ好く隔て湯蒸し、鷄爛去するに至つて、三七を去り鷄を食ふ。以て勞弱諸虛百損の病を醫すべし。言ふ所に據れば即ち照參也……。

猶人參三七の項を參照すべし。

◎ 赤

棍

セキコン

清代後期の人參品位名稱。

『龜幼雜貨譯傳簿』品名中人參の部長崎に於て清商のに……赤オキコン楨オキワコラン 赤アカモロ鯁オキフコラン 赤オキフコラン棍オキフコラン 同上とあり。

◎ 赤

參

セキシシ

丹參の別名『名醫別錄』に出づ、其項を見るべし。

◎ セタヲニンジン

『小野本草綱目啓蒙』に、蛇牀の一名薩州の稱呼として出づ。蛇牀に付ては、ハマニンジン、シマニンジンの項を見るべし。

◎接貨

セツクワ

清代後期に於ける不良僞巧の人參の稱。

滿洲に於ては人參を貨と稱せり。蓋し滿洲の經濟生活と人參とは離るべからざる關係ありしを、表象する語なりと謂ふべし。接貨は形體不完全の人參に技巧を施して外見を裝ひ作りし者。『糖菓人參攷』に……偶ま見て玉石を分ち難し。短を以て長に接ぐ者あり之を接貨と謂ふ。小を以て大に併する者あり、之を合貨と謂ふ。必ず先づ水を用ひて潮過す、原汁已に出づ、又粉膠を用ひて粘繫し、蒸烘して倣成す。其力薄ふして變じ易し、固より言を待たず……云々とあり。此名稱滿洲竝蘇州參商間に通用せしを知るべし。

◎截谷參

セツコクシン

紫團參の別名。

『林縣志』に……紫團山は縣の西南五十里に在り、西上黨縣の界に至る。山々に紫團參を産す、人呼んで截谷參となす。蓋し生ずれば必ず山谷の口にあればなり……と

あり。其地方名なるべし、此名他書に無し。

◎折

參

セツシン

折れ人參の一名。此名稱徳川時代の本草家醫師藥肆等に使用せらる。

其項を見るべし、現在開城に於ては商品として此名稱あり一斤特等四圓内外なり。

◎切

參

セツシン

人參を輪切りにしたる商品。

『小野本草綱目啓蒙』に……切參は唐山より輪切にして渡すことあり、是真なりと雖も氣味必ず薄かるべし……とあり。

切人參の項を併せて見るべし。

◎節

參

セツシン

〔一〕竹節人參の略稱。

〔二〕人參の蘆頭を離して商品としたるもの。

各其項を見るべし。

◎セリニンジン 芹人參

徳川中期以後に見はれし人參擬似品。此名稱を以て呼ばれたる者に數種あり。

〔一〕ムカゴ人參即學名繖形科の *Sium Ninsi*, L.

『貝原大和本草』に……又近年世上に芹人參とて芹に似たる草をうゆ。味も芹に似たり。ムカゴの如くなる其根味甘し、未だ其性を詳にせず。本邦の醫、人參の價貴き故代へ用ゆる者多し……とあり。『小野大和本草批正』には……セリ人參はムカゴ人參なり、芹類なり食用にすべし。水邊に生ず、三葉づゝつく、下には五葉つく、初生は圓葉なり、長すれば長し。高一尺許、上に芹の如き白花を開く、本葉の外ムカゴを生ず、根甘くして苦し、細長し、昔零餘子人參と云ひしは是也。一種大葉の者根大にして甚人參に似たり、之れを廣東人參と云ひし説あり非なり……と益軒の説を批正せり。『服部人參譜』……範忠按するに、一種葉蛇牀に似たる者今の芹人參也。一種葉秋羅葉に似たる者今云ふ零餘子人參、共に眞の人參ならず、任用すべからず……。『松岡用藥須知』……ムカゴ人參又芹人參と名く……。『松平本草正譌』に……翻白草一名鷄腿根、是俗に芹人

參と云ふ。又ムカゴ人參と云物なり……。

『松岡廣參品』にも……ムカゴ人參又芹人參と名く……とあり。

【二】 食用人參則胡蘿蔔學名繖形科の *Daucus Carota*, L.

『倭訓栞』……せり人參胡蘿蔔也。『小野本草綱目啓蒙』……セリニンジン一名ドニン

ジン略してニンジン、漢名胡蘿蔔也……。『熊谷廣參品』……セリ人參 一名土人參、今菜

蔬に供する者即本草綱目所載の胡蘿蔔是也……。『松岡食療正義』……胡蘿蔔キウリン俗芹人參



圖の譜參人臺立上坂

參人芹名俗之裁多家人處諸今 本藥名正 參人芹

と呼ぶ……。

「三」一種別の者。

「熊谷廣參品」に山人參 一名芹人參 蕪州廣嶋山中に多く生ず。土人呼んで清正人參又山人參と呼ぶ、即眞の防風なり、今藥肆に眞防風と稱して鬻もの是なり……。
清正人參、胡蘿蔔の項を參照すべし。

◎船

廠

センシャウ

滿洲吉林より出る人參名。蘇州人參商店に使用したる稱呼。

船廠は吉林の古名。清朝海禁を開きし時此地に於て造船し船廠を置きしに因る。
「唐葉人參攷」……鳳凰城を去る三四千里名けて船廠と曰ふ。……其處二百里内外産する所、鳳凰城に較ぶれば稍堅實、其紅潤觀るべし。但だ其中空鬆なる者確かに少なからず。土人并に鉛條等を以て内に挿み以て利を圖る。大約六七月采取出山、冬初亦蘇に至る。鉛條の由は蓋し土人の參を採る者鉛壺に酒を貯へ酒馨れば壺を剪て條と作し以て參に挿む耳、其貨稍臺貨に遜る寧古塔のこと……云々。

「陸人參譜」……船廠出者空鬆鉛塞……とあり。

◎ 總州人參

ソウシウニンシン

徳川中期以後に見はれたる擬似人參の一種。

『販上人參譜』に……總州人參 正名防葵人家多く之を栽ゆ、俗代人參と稱す。

防葵は繖形科(Umbelliferae)ノダケ屬(Peucedanum L.)のP. japonica Thunb. にして、ポタンニンジンとも稱せられたり、其項を見るべし。

◎ 宗親府參

ソウシンフシン

稅參の項を見るべし。

◎ 挿參

ソウシン

鉛を入れたる不正品の人參。本草學者醫師等の名けたるもの。

『醫人參識』に……私價參一名禮參、一名挿參皆朝鮮。此品多は合接、或は鉛線を夾むものあり。故に挿參といふ。朝鮮人私に交易するものは、皆以上の名を呼ぶ……。

云々とあり、『鹿幼雜貨譯傳簿』にも、白楨金尾を挿むとあり。朝鮮より輸入せる單參

と稱せし者の中には此種の不正品最多かりしこと、各書の記載甚多し。

單參、サシコミ、附參の項參照すべし。

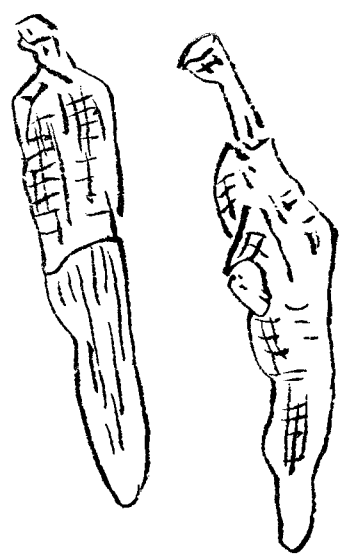
古川柳に「人參の鉛したたか後家は持ち」
「地人のまづさ人參の鉛なり」等の句あり。

◎賊

參

ヅクシン

薺芎の異名。此名詞日本に於てはセイネイ、セイデイ、セイジ等と讀まる。
薺芎は其根と味がよく、人參に似たるより古來支那に於て、人參に偽造せられたり。



圖の記參人眞寫
すと首を參人の品下しと尾を參折 ミコシサ

晉の張華の『博物志』に……魏の文帝の記す所諸物相似たる者、武天怪石は美玉に似たり。蛇牀は麝蕪を亂り。薺芎は人參を亂る……云々とあるを。其事の最古の記事とすべし。後唐の侯寧極が戯れに作りし『藥譜』に。薺芎に賊參の異名を附せしを此異名の創始とすべきか。數面還丹の項參照賊參とは人參の名を賊するの義なるべし。

薺芎の名は『爾雅』の釋草の部に……芎、薺芎……晉の郭璞の註に……薺芎……とあるを最古のものとすべし。同書邢昺疏には、陶注云根莖都て人參に似たり。而して葉小なるを異とす、根味甜し。又別本注に云、根桔梗に似て心無きを異と爲す也……とあり。爾來本草書に薺芎の名出づると雖も、其原基植物は一に非ず。爾雅の薺芎と稱せし者、郭璞が薺芎とせし者が果して今薺芎と稱する者と同一物なるや否も確かならざれども。魏の文帝の記せし薺芎なるものは確に其根と味が人參に似たる者たりし事丈は確かにして。大抵桔梗科の植物なりと推定し得。爾來の記載を見るに區々に涉れり。特に明の王圻の『三才圖會』に出たる薺芎の二種の繪は、全く別科の者にして、其一はムカゴニンジンに彷彿たるものあり。

『神農本草經』には、薺芎の名無し。唯桔梗、一名薺芎とあり。『名醫別錄』には……薺芎 味甘く寒、百藥の毒を解するを主どる……陶弘景注……根莖人參に似て葉小し

く異なる。根味甜毒を殺するを絶能とす。其毒藥と共に處し而して毒皆自然に歇んで止まらざるを以て方家の用に入る也……とあり。韞按するに、此方家の用に入る也てふ意味は。方家なる者仙道的方劑の鑛物藥を服し中毒せし者の解毒劑に用ひしものならん。唐の王燾の『外臺秘要』に中毒の解毒處方甚多きを見ても、唐代斯る亞流の患者多かりしを察すべく。遡つて梁の時代にも亦同様なりしことを推定すべきなり。

『本草衍義』に唐本注に、陶引薺萇人參を亂るとあるは謬也……、唐にては苗を見て云ひ、陶引は根を見て云ふ也、其人參を亂るとは桔梗(一名薺萇)に非ず別の薺萇也とせり。また……薺萇、今陝州採つて脯と爲す別に法あり。甚だ甘美、兼ねて遠きに寄すべし。古人以て薺萇人參に似たりと謂ふ者は是なり。此の藥、毒を解くに甚だ驗あり……云々と出づ。

『本草綱目』……時珍が曰く、薺萇汁多く濟菴の状あり、故に以て之に名く。濟菴は濃露也、其根沙參の如くにして葉は杏の如し。故に河東の人呼んで杏葉沙參と爲す。俗之れを甜桔梗と謂ふ……。又曰く……薺萇の苗桔梗に似、根は沙參に似たり。故に奸商往々沙參薺萇を通じて人參を亂る……云々。

李時珍は猶『本草綱目』中に敘して曰く、周憲王『救荒本草』の杏葉沙參と稱する者も、蘇頌の『圖經本草』の杏參も、名は異なれとも薺萇なりとせり。軀曰正し
き見解也又『神農本草經』の桔梗の陶弘景注に……其葉隱忍煮て之を食ふべし……とあるは『爾雅』に云勞隱忍の事にして、郭璞の注に……蘇に似て毛あり、江東の人藏して以て菹と爲す、亦瀹して食ふべし……葛洪の『肘後方』に……隱忍草 苗は桔梗に似る人皆な之を食ふ、汁を搗て蠱毒を治す……とあり。此に據れば、隱忍は桔梗の苗に非ず、乃薺萇の苗也とあるを以て、薺萇と桔梗とは一類なりと新説を發表せり。『秘傳花鏡』には薺萇と桔梗を同一物とせり。

朝鮮に於ては「郷藥集成方」に於て薺萇を土名委奴只とし、「東醫寶鑑」に於ては薺萇に刈刈刈の土名を付せり。現今の俗名は刈刈と稱す。或は刈刈と稱するも。上記二書のものと同なるや否は明かならず。

日本に於ては『本草和名』に、薺萇に佐岐久佐、一名美乃波久佐と和名を附し、『和名鈔』も上に同じく。『延喜式』には、サキクサナの傍訓を付し。僧蓮臺の『長生養生方』には、美乃波久佐とせり。爾後の書大抵右二名を以て薺萇の和名とせり。但サキクサなる名稱は葛の字の訓にも當てられ、『伊呂波字類抄』にはサキクサ、草名也葛草、

枝々相値葉々相當也……とあり『萬葉集』の中にもさき草の歌あり。これは別箇同名の植物なるべし。

徳川期に至つては前二個の和名の外ソバナなる一名稱出づ。岩崎灌園は此名稱

三才圖會 薺苞圖

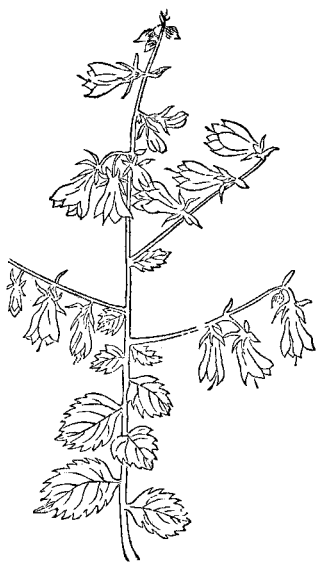


本草綱目 薺苞の圖



を羽州の方言なりとせり。『内藤尙賢古方藥品考』には……薺苞ソバナ邦産唯一種。桔梗に似て柔軟味甘苦なる者眞。救荒本草に杏葉沙參の根を以て薺苞に充つるは非なりとあり。『本草綱目大和本草』には薺苞、杏葉沙參のこと也。マルバ沙參はマルバ人參とも云、又沙參の中に同姿のものあり、紛れやすし。常の沙參より大なり、葉互生鋸齒あ

り、花は沙參より大なり下垂せず。色碧白の二種あり葉一つづ、付てあり。沙參は一つ二つ三つ四つも付てあり……『岩崎本草圖譜』には……薺萐そばな羽州又まる葉沙參ともいふ。葉やうらく沙參に似て太く薄くして光澤あり。花紫碧色なり……とあり。



圖の萐薺考圖實名物植

『敬詔草木圖説』に至つて一層完全明亮に植物學的に同種を區別して各其形態の長を述べて、薺萐をソバナと即ち *Adenophora renchiflora* Mig. に充てジャシン、ツリガネニンジン等と全かに區別せり。

詳しきは沙參ツリガネニンジンの部を併せ見るべし。



薺せう 芫わ そむお 羽州

又もろ葉沙参ともいふ
葉のやうりく沙参ま似て
大きくて光澤あり
花紫碧色なり

岩崎園草木圖譜の薺

夕
行

◎退却後蔘

タイキヤクコウシン

後蔘の項を見るべし。

◎臺貨

ダイクワ

清代中期以後の滿洲人蔘品種。滿洲甯古臺寧古塔より出でし人蔘の名稱。
『唐棗人蔘攷』に……臺貨は甯古臺出す所の貨也。地處極北船廠吉林を去る五千餘里、地極めて厚く天極めて寒し。深秋之時霜雪已に道に載す、總て八九月に在て採り歲終方に蘇城に至る。其體質皆地土既に厚く出山又甚だ遲晩なるに由り、堅實圓湛なる所以。熟多く糙少なし、即ち或は間々糙皮、肉紅にして必ず紅結する者あり。並に藏鉛之弊なし。夫れ鳳廠臺の三處此れ蓋し大地を總羅するの名。而して其各有する所屬の一隅を言へば、老城、新城等處の如し。地道甚雜はる、稱名甚だ多く以て盡くあげ難し……とあり。

◎大兼皮

タイケンピ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎泰山人參

タイザンニンジン

宋の時代に於て見はれたる、人參擬似品の一種。

『圖經本章』に……今河東諸州及泰山皆有之……泰山に出る者、葉靛青く、根白きを殊別とす……『閩書南產志』人參の事を敘する條に……今江東諸州及泰山皆有り……とあるは、圖經本草の引用なるべし。

『醫人參識』に……泰山出者葉靛青……服範人參譜嘗て此を辨す。然れども今絶て見ることなし……とあり。韞曰く、泰山人參など云ふ擬似人參嘗て日本に入りしことはあらざるべし。

◎大脩尖

タイシウセン

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎太子參

タイシン

滿洲人參の形體小なるもの、清代中期の命名。滿洲にて人參は草の王と稱す、之れに因みて名けたるもの。人參の妬根并小ガタの者。

『本草從新』に……太子參大に元氣を補ふ甚だ細く參條の如しと雖も。短緊堅實にして蘆紋あり、其力大參に下らず……とあり。『百草鏡』に……太子參は即ち遼參の小なる者、別種には非ざる也。乃ち蘇州の參行、包中より短小なる者を揀出し、此れに名けて以て客に售る。味甘苦功は遼參に同じ。

『唐葉人參攷』に……太子參細しと雖も、却て短緊堅實、其力大參に下らず……とあり。

◎大參

タイシン

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。拔頂熟の項を見るべし。

◎體

參

タイシン

有體人參の略稱。其項を見るべし。

◎台

参

ダイシン

台黨参の略稱。其の項を見るべし。

◎臺

参

ダイシン

滿洲甯古臺寧古塔のことより出づる人參の名稱。

必ずしも寧古塔の産出のみに限らず。同地市場に集められ支那本土に散せらるる者此名を以て取引さる。『本草綱目拾遺』に、建參 儼として臺参中の油熟の一種に似たり云々……福建の長樂参、廣西の南峽参儼として臺参の油熟と別無し云々……又臺参中近日の人白糖及瀘水を入れ製造其重さを取る也。凡そ参八分の製重二分を一錢に作る、以て利を圖る。店中此参を有つ者、毎日必蒸焙す、否らざれば則ち潮潤し售難し故に参を市ふ者須らく意を加ふべしとあり。茲に臺参と謂ふは滿洲寧古塔産の人参を指したるものなり。『唐采人參攷』に……臺貨は甯古臺出す所の貨也……とあり。臺貨の項参照すべし。

◎台 黨 參

グイタウシン

支那浙江省台州より産する台黨參。即ち上黨人參の名を冒す擬似品。

略して台參と謂ふ。此名未だ文籍に見ずと雖も、現に臺灣へは、支那本土より年々輸入されつゝあり。此名目の人參何時より見はれしが、又其原基植物の何たるかは明かならず。

黨參の項を参照すべし。

◎大 條

タイデウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。拔頂熟の項を見るべし。

◎大 同 參

グトドウシン

李朝後期の官用語。

大同とは大同法のことなり。大同法とは總ての貢物の負擔が不公平なるのみな

らず、實物納付は納むる地方人民も、受くる中央官廳も不便の點あるにより、其負擔を公平にし其不便を除くべく、米穀布帛納納後には錢に代へ、土地税の附加税の如くして結の土地の收護を假定したる課税に課し其收入により中央に於て元と貢物たりし物品を購入するの法。此法李朝の中期より行はれしも、其貢物の品目によりては之れに依らざる物もありたり。人參も其一なり。然るを何故に大同參と稱するかと云ふに、其大同の事務を取扱ふ宣惠廳に米錢を收めて現品人參を納付せざることにの特例として某る地方に限り取扱しものあり。依之大同參の名出づ其經緯「萬機要覽」に出づ第三卷人參經濟篇に詳説すべく、茲には贅せず。

◎大 人 参

ダイニンジン

徳川時代、朝鮮及支那より輸入せられし人參の中、形態の比較的大なるものに對し命じたる名稱。此名稱は藥肆、醫師、本草家等の間に通用したるのみならず一般庶民の間にも亦廣く通用せり。

人參は大なる者程よく效くと云ふ考へ方、並其大小により一斗當りの値段に格段の差あること。内鮮支那、今も昔も變りなし。されど必ずしも形の大的みを以て上

品とせず、質の如何が良否に關係あるにより、此大人參の稱は、後には良好なる人參と云ふ意味に轉用せられたり。

また此稱は、ダイニンジンともオホニンジンとも、讀み使はれたり。而してそれが如何に使ひ分けられたるかは、範圍甚だ不明なり。

〔一〕 大なる朝鮮人參の意。

『和漢三才圖會』……凡そ大人參の老なる者は則大にして功勝れり。嫩ヌカき者は小にして力劣る焉……。『内補古方藥品考』……朝鮮産を最上とす。形色官蔘コシロの如く横文あり、長さ三四寸、之を大人蔘と稱す。『具原大和本草』……ビケ人參は人參のヒゲなり、是又異邦より來る。堅實にして却つて大人參の性淡きにはまさる。……『淇蝶庵翁草』……朝鮮人參の事……對1州屋敷へ所望に遣はせば、一兩に付銀三拾五六匁づゝにて、今の人參とは違ひ生れながらの大人參あり……。〔1〕江戸の對馬屋敷、〔2〕人工2を加え大さを偽はらざるの意。

〔二〕 良好なる朝鮮人參の意。

『五色の絲』……大人參の正眞を知らんと思はゞ、蘆頭のあたりに横筋あるを用ゆべし……。『阪上人參譜』には朝鮮より來る人參に、大人參上中、無類、類達の三種ありと説けり。『藥會人參識』……中等參一名次參、皆朝鮮の稱呼。形上好參に似て小なり、其色は明亮な

らず。皆上好の下等として合接の者多し。今肆上大人參と稱するもの大抵此類也……。

【三】 以上の「一」「二」の何れに該るか判明せざる記述。

『淨琉璃本、御所櫻堀川夜討』に……親の大病の爲め鬚人參を買はんとして、銀を調達し來る途中。天津街道にて強盜に遇ひ、其銀を強奪せられ、非常に愁怨の言を發せしを。強盜が聞き、大切の場合、鬚人參では効くまい、大人參を買へと却つて銀を與ふる場面あり。

【四】 大人參の稱は、初め朝鮮人參に對して付けられたる名なれど、後に支那人參に及ぼしたる例。

『小野本草綱目啓蒙』に……凡俗に大人參と呼は上品の人參と云ふ意なり。形の大小に拘はらず、惟輕虛なるを惡む……云々。又同書に……大人參と云あり。唐山の俗名、京人參、金參、鳳參、或は鳳凰城人參と云。判事と異り形瘦せて枝無く色淺く黯む……。

『森田日用藥品考』……大人參 唐大人參と呼ぶ漢渡りなり。其形瘦て枝なく、其色淺く、くろむ。唐山の俗名鳳參、金參或は京人參と云ふ。

大人參なる名稱は右の如く支那渡りの人參にまで及せり、結局朝鮮産の大人參な

る名稱が價貴きものとなりし故、藥業者の營利政策として、其名を及ぼせしものなるべし。而して後には支那の大人參は、唐大と稱せらるゝに至れり、其項照見すべし。

〔五〕 大人參の稱を日本産の人參にまで及ぼせる例。

延享三年十月廿八日の御觸書に……朝鮮人參の種にて作り立候、大人參を本石町岡肥後、大傳馬町藥種屋共にて賣出す……云々の文あり。

此大人參の名稱が永く傳はりしことは、文化十一年出版『武鑑』の卷末、江戸日本橋南一丁目、須原屋辰藏の廣告に、御藥種丸散丹圓、朝鮮大人參、何々、何々……とあるにより知らる。

◎代 人 參

ダイニンジン

總州人參の項を見るべし。

◎大 部 參

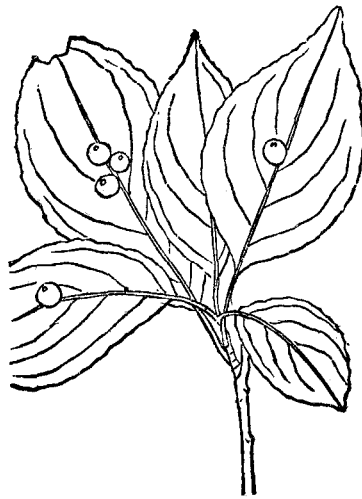
タイフシン

青莢葉の別名『植物名實圖考』に出づ。何故に參名あるかは不明。

同書の本文は……青莢葉 一名陰證藥、又大部參と名く、寶慶山阜に生ず、高尺餘、青

莖斑點あり、短枝長葉、粗紋細齒、原靱微澁、每葉上實二粒を結ぶ、生青老黒、頗ふる詭異と爲す。俚醫以て陰寒の病を治す。……とあり。

本書日本に於て重修の時、小野職愨氏は、ハナイカダと青莢葉に日本名を傍訓せり。



鑑圖物植本日士博野牧
圖のダカイナハ



圖の參部大 考圖實名物植

本植物に關する『牧野日本植物總覽』の記載左の如し。

ミヅキ科 Cornaceae ハナイカダ屬 *Helwingia* Willd. の *H. japonica* Willd. ハナイカダ
ツ
キテノキ ママコノキ ママツコ。

落葉灌木、葉は長柄、紙質、卵狀楕圓形、急遽銳尖頭、鋸齒縁、長二寸五分乃至四寸、雌雄二

家花は葉の二面中部以下に生じ、雌花は一乃至四、雄花は多數叢生、萼縁は不明、瓣片は三乃至五、廣卵形、銳頭帶綠色、雄蕊は瓣片と同質、核果は稍球形、黒紫色、徑三分一—山地、花候四五月、成果八月 北海道、本州（各部）四國、九州、臺灣。

右日支同種なるや否は不明。

◎松明様

タイマツデ

徳川の中期以後、支那朝鮮より入りたる人參の中の偽工品。而して之を見習つて日本の奸商が製作せしものもあり。黒人筋に通用せし名稱。

語原は一本の小さき人參を中心として、小鬚を巻き着け、其狀恰もタイマツに似たるより出づ。此品はまた包とも稱せられたり。

包の項を参照すべし。

◎大揀熟

ダイレンジュク

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。拔頂熟の項を見るべし。

◎大折人參

ダイヲレニンジン

折人參の中の品種別。其比較的大なるものを云ふ。
折人參の項を見るべし。

◎黨

參

タウシン

〔一〕上黨人參の略。

〔二〕人參屬に非ざる、後世の擬似上黨參の名。

『松茸植物名彙』には、左記數種の黨參名を出せり。

Campanumaea pilosula, Franch, (Campanulaceae)

黨參 (BR. III 28)

Codonopsis Tangshem, Oliv.

黨參 (H.C.) (G)

右 (B. R.) は = *Bretschneider, F-Botanicon sinicum. Notes on Chinese botany from native and*

Western Sources (part I.1881 part II.1895)

(H. C.) ㄎ = Henry Aug-Chinese names of plants (Journal of the China branch of the Royal Asiatic Society,) New Series, Vol XXII 1888

(G) ㄎ = Giles, H. A-A Chinese-English dictionary 1892

右は桔梗科の植物にして前者は、ツルギキョウ属、後者はツルニンジン属の植物なるべきも、日本名の何れに充つるかは不明也。猶上黨人參の項を見るべし。

◎湯

參

タウシン

不良品の人參名稱。

此名初めて『本草綱目』に出づ……又近ごろ薄夫あり、人參を以て先づ浸して汁を取り自から攪り曬乾して復た售る。之を湯參と謂ふ全く用ゆに堪へず。とあるものなり此記事『本草綱目』人參攷』にも復用せられ……又薄夫あり參を以て湯泡し自から攪り、乃ち瞭乾烘燥、色を做し復た售る、之を湯參と謂ふ……とあり。

輒按するに李時珍の本草綱目を著述したる萬曆時代に於て、或は間々僅に右の如き事實ありしならんも。爾來繼續して右の事實が行はれ、夫れが一の商品となる程量の多きものなりしとは信用されず。何となれば、人參服用者は多く之を刻みて煎

用し、刻まざるものも出来る丈長く煎出するが故。其形態ふやけて之を干するも商品とはなり得ざる也。また人參服用者が煎じ殻を商品として役立てる程度に僅かに煎じる事は有り得べからず。猶此れを商品とするには、各人參使用者より之を集收する仲買人を必要とすべし。何れの點より考察するも、此記事は確信するを得ず。然るに徳川時代の本草學者は、例の如く支那文籍の記載に囚はれ、斯る一種の人參あるものとして先入主となり。右本草綱目の記述を引載するに止めず、遂に湯參なる人參を實際に存在化するに至れり。

『朝鮮藥肆人參類集』に……第二十四生服の唐人參の一種此の二十四の參は、藥肆に於て呼んで生服人參と云ふ、又服様人參とも云へり、和名ウツカ人參、或は服様人參と稱す。其狀輕浮にして殆んど湯參の形に似たり。湯參は即薄故に服様人參と云へる

か……『加藤和漢人參考』に……湯參 西子 西章云綱目に曰ふ、人參を以て先づ浸し汁を

取り、自から啜り、乃ち晒し乾し復た售る、之を湯參と謂ふと矣。今の見る所、形沙參の如くにして輕虛也。藥肆中古へ之を浮と謂ふ、又服と名く、今は浮ウツカと呼ばずして單に服と稱す……又同書に……服 朝鮮又は本唐よりも來る。人參一本を其まゝに煎じ、人參膏の類をとりたる煎じ滓なり。本草に湯參といふこれなり、効甚うすし、用

ゆべからず……。『會人參識』泡參一名湯參網目一名服參物此方藥肆ウキデと稱す。
 本草云、薄夫以人參完浸取汁自啜乃晒乾售謂之湯參。此方藏、物理小識云、泡參或云服
 參。又朝鮮譯士、大賀常安云。朝鮮にて人參糕を製したる其滓を製參といふ云ふ所
 の泡參也。泡は水上浮漚即ち此說當にしかり……に柄曰人參の泡字は滿洲語。パウ
其質の空虚を云にして水のアワの泡には非ず

湯人參



服訖人參湯參人忠範許服
 頭色彩圖

以上湯參の記載、何れも孟浪にして當らず。蓋し其湯參としたる者は發育不良の
 人參か製法不良の者なりしなるべし。
 泡參、ウツカの項を併せ見るべし。

◎塘西貨

タウセイクワ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎唐 大

タウグアイ

唐人參竝大人參の項を見るべし。

◎タウグアイニンジン

燈臺人參

海峰人參の項を見るべし。

◎當 團 參

タウゲンシン

支那の人參類似品たる名稱。紫團參だけの藥効ありとして名けられしもの。

此の南宋の周輝の『清波別志』に……當團參 北人鵲豆と名く、白扁豆 溫、無毒
中を和し氣を下す、爛炊すれば其味甘し。今葛天の民取つて爛炊す……白扁豆便ち
紫團參に當るの句名也……とあり。

白扁豆は本草内に藥物として編入さる。菹豆、鵲豆とも稱せらる、日本の古名アヂ

マメ、今關西四國にてはインゲンマメと稱し、東京附近にてはフジマメと呼ぶ。栽培食用植物なり。

學名は豆科 (Leguminosae) フヂマメ屬

(*Dolichos L.*) の *D. lablab L.* なり。

本植物に付ての『根野日本植物總覽』の記載左の如し。但、右新舊二物同種なるや否は不明。

マメ科 Leguminosae のフヂマメ屬 *Dolichos L.* の *D. lablab L.* フヂマメ センゴクマメ、アヂマメ、テングマメ、シヤクヂヤウマメ。

多年或は一年生蔓草。葉は三出、小葉は膜質、廣卵形、銳頭、長一寸五分乃至五寸、花は簇生、隔離總狀花序、小苞は長橢圓形、往々萼と同長、萼は鐘形、五齒緣、齒片は三角形、花冠は白色、或は紫色、著しく挺出、諸片は稍同長、龍骨瓣は鈍頭、中部より直角に彎曲、花柱は上部肥厚、内側有鬚毛、莢は長橢圓形、鉤頭、糙澁緣——花候夏 栽植(原、熱帶)

◎唐 人 參

タウニンジン

此名稱は數様の意味に使用せられたり、(1) 最初長崎より輸入されし滿洲産の人參

に日本に於て充て用ひしを本名とす。(2)次で其滿洲産の中の某品種に限りて充てられ。(3)又朝鮮産の某品種にも充てられ。日本産の擬似人參の名にも充てらる。

【一】 支那産人參の總名としての唐人參。

『貞原大和本草』……唐人參は長崎に來る者朝鮮に次げり……『加藤和漢人參考』に西

章云ふ、今賈舶の齎らす所唐及朝鮮の二種あり。而して其品數等あり……又同書

に唐人參 西章云ふ和俗の稱呼也、船上の人は京人參と云、下品也……『岡本和語本草綱

目』唐人參 清より來る物也。味甘微苦朝鮮人參の功用に及ばざる也……『佐藤漢

志』……唐土より崎港ナガサキに來る者之を唐人參と云ふ。崎陽の人其品を鑒定し其價の輕

重を定む其分くる所の名五七十に至る唯其品に名くる耳……『松岡廣參品』……漢參

和俗通じて唐人參と云ふ。上好の者を京參と標して渡す。

『憲教類典』に享保二十年乙卯三月六日、本石町三丁目長崎屋源右衛門、唐人參座相

立候様子は委細細井因幡守へ可承合候 三月 右之通可被相觸候。とあり。其御

觸書』には同年同月に……今度唐人參座被仰付候、御當地にては、本石町三丁目長崎

屋源右衛門、右之座致候間望之者は右源右衛門方にて相調候様に可致候……云々と

あり『對馬文書』寶曆四年の扣に……唐人參を日本にて高く買ふ事を、朝鮮の方にて

知り、彼等は曰ふ朝鮮人參は一番上等であるのに。日本では支那人參よりは安く買ふのは不都合なりとて、漸次値段を高くする傾あり。側賣を統制し、支那人參を安く買はぬ事を彼等に知らしむれば、取引上便宜にして其値上を防ぐべしと云ふ意味の書面を幕府に出せし事の記録あり、寶曆十四年『御觸書』に……一、座賣唐人參之儀、唐國にても拂底の由申立長崎にて買上候元値段次第高直に相成……云々。

『蜀山人一話一言』……享保二十年卯三月十七日、御頭阿波守殿より唐人參判鑑出し置候様にと廻狀來る。本石町三丁目長崎屋源右衛門方にて賣出す。上唐人參壹兩に付代五十八匁並人參壹兩に付代二十八匁。

〔三〕 支那産人參の中のある者に對しての名稱としての唐人參。

『加藤和漢人參考』……唐大タウダイ 本唐より長崎に來るなり。人參の様もちかひ滋ジユクもなく、中もつまらず虚して輕し。是を日本の商人唐大といふ、其中に上中下あり。上は一本立にてつくろひなし、常體の病に用ひてよし、大病危病には用ゐがたし。中、下は細きものを扎ヒ集め、其性甚惡しく其効各別すくなし、此を用ゐんよりは鬚人參を用たがよし、以上加藤玄順の説以下は其子懿之の意見按ずるに、三十餘年前までは唐大の一本立の性よきものありて、大病にも用て効あり。其後の唐大は皮ばかり、唐大のよ

うに見へて内は一向糊がため。皮も何やら知れず役に立ぬものなり。是も今時は無し、凡て唐大の名目の人參なし……云々。本書玄順の分に昔年の唐大を、炊米の中に浸し、麻縛して充實し、服手と呼ものは昔年の唐大なり。色黒く或あめ色なる品多し。是も近來は砂糖にて滋ジツをつけ分目を増す、其中に上中下あり……。並バンズ、これは唐大の中にて色も能く奇麗なるを商人ども撰出して、並バンズと名けたり。ひつきやう唐大の中の極上なり。されど獨參湯の類大病危病には用がたし……。『黒川本草辨疑』……別に唐人參と云ふ者あり。唐人船にて持來る、形大にして皆一本立の物也、性重く朝鮮よりうすくうるむ。見る所は甚良けれども味朝鮮に及ばず。口中に香氣なし……。

【三】 朝鮮産の人參を唐人參と稱したるもの。

『松岡醫用藥須知』……

近來唐參と稱する多くは女直參なり

輒曰く此時代所謂女真參則滿洲人參以外に唐人參無し。

……此種今日本に多く渡る、韓參に雜へて之を賣る、當さに審擇すべし……『服部人參譜』

唐人參 此れ遼東百濟産する所の者。性味朝鮮に及ばず……輒曰く地理の無識出鱈目の記述と云ふべし。

【四】 日本の擬似人參に唐人參の名を假稱せしめしもの。

『松岡之欽

廣參品』に唐人參

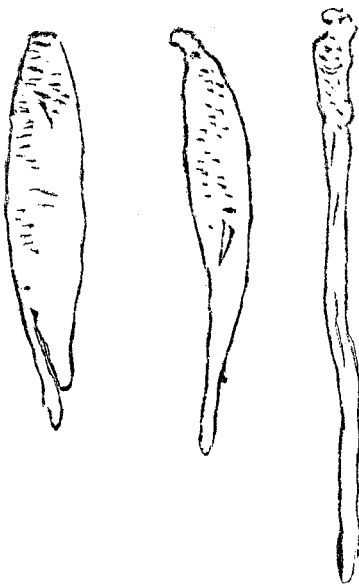
一名山參

一名野ダケ、一名淡芹、即前胡なり。

俗間或は之を呼ん

で唐人參と云ふ……『和漢三才圖會』に……近年唐人參の種を多く得て多く圃に種
 ゆ、攝州平野庄多く之を出す。二月に種を下す、初生一莖三葉長するに及び數極皆三
 葉、其葉厚潤にして深刻あり。而して筋無く略銀杏の葉に似たり……云々。輒曰く
 一體に同書の人參記事甚杜撰なり。此記載中唐人參の種とは誤なれど、此形態の記

唐 人 參



服部忠範の參譜の原圖彩色

載より見れば芹人參と稱したる擬似人參の一種なる如し。

漢藥名前胡は繖形科 (Umbelliferae) のノダケ屬 (Peucedanum L.) の (P. decursivum Maxim.)
 日本名ノダケ、ウダナ、ノゼリ、コマゼリ、ゼンコなり。

附記

唐人參は略して唐參とも呼ばれたり。朝鮮に於ても此名稱を用ひたる例あり。即「龍灣志」に……彼國禁物 唐人參一罪……とあり、譯すれば、龍灣は即國境義州の別名、清國の輸出禁制物件中に人參あり、若し之を犯したるものは死刑に處せらるの意也。

◎湯 人 參

タウニンシン

湯參と同じ其項を見るべし。

◎托 鬚

タタジユ

人參の妬根のこと。李朝正宗時代に南鮮に於て命名せられしもの。

「林園十六志」に「種蔘譜」を引きて……又蘆頭の傍ら妬根を生ずるものあり。原根を截取し只た妬根を留め用ゆるを聽す。之を種ゆるに一年の後便ち能く滋長し原根と相等し。俗托鬚と呼ぶ……とあり。今此名稱なし。

鞆曰。此記載により朝鮮の最も初に行はれたる人參の人工栽培法が、今日の方法とは異なり、自然生に近き栽培法を行ひしを知る。何となれば山に栽へて放任的方法を執れるものには妬根の發生多ければなり。

◎朶子參

ダシジン

滿洲の通俗語。開花期に採りたる人參を謂ふと『盛京通志』に出づ。

◎陀堂人參

ダダウニンジン

竹節人參の根の垂直なるもの、一名發見者の名に因み命じたるもの。但し一時の通用名にして、後には餘りに使用せられず。

『綦葭堂人參錄』陀堂ニンジン 陀堂姓は松本勢州松坂の人。此草を持って東都に獻ず、故に陀堂人參と呼ぶ。『田村參製秘錄』……熊野山の陀堂人參は類人草也……『和田長和』人參辨……享保六年丑年六月。勢州松本駝堂、人參の圖を獻上す。右駝堂は先年紀州熊野へ詣でし時、真人參を見出し取得て家園に植ゆ、今年藥草御詮義の事を聞き江戸に下り之を獻す……。

『松岡廣參品』……勢州松坂隱士、松本駝堂所獻者、三椗五葉直根、如防風味甘、但比韓産氣味稍薄……。

此陀の字、蛇或は駝に作れるものあり。

◎ 韃

參

ダッシン

滿洲人參のこと。同地北方は昔韃靺と云ふ名稱ありしによる。

明の陳延采の『本草蒙筌』に……高麗參は紫に近く體虛なり俗韃參と呼ぶとあり。韃曰、此に高麗とあるは、高句麗の人參を高麗參と稱せし昔の名稱の殘存にして、決して王氏高麗の意味にあらず。然るを曾榮程の學者も此區別を誤り。其著『人參識』の中に此本草蒙筌を引用し其の記の下に之を朝鮮參の一名として記述せり【柴田正簡】日用藥品考』には單參と韃參とを同一物として記載せり。此もまた誤也。

◎ 豎 根 人 參

タテネニンシン

竹節人參の中根の形垂直根を爲せるもの。

『板倉源右衛門蝦夷俚談』に……人參皆節人參なり。豎根人參も多くて石勝山に連なれり……とあり。直根人參の項參照すべし。

◎ 立 山 人 參

タテヤマニンジン

此の名古書に見當らず。明治年代より現今にかけて、大道商人が立山人參の名に於て、路傍に機能を述べ立て、一種の藥草根を販賣せるを見る。もと越中立山に産せし一種の擬似人參を使用したることの名残なるべきが。富山縣廳より當專賣局への回答によれば、右藥品を白蘞根なりとせり。其販賣品を檢するに立山産に非ず、漢藥商より買入れたるものなるべく、白蘞に非ず、繖形科 Umbelliferae シラネセンキウ屬 *Angelica L.* の植物の一種なるべく、香氣頗ぶる高き者也。

◎タ マ 手 玉 様

タマニンジンの項を見るべし。

多末様



圖の考品藥方古賢尚藤内

◎タマニンジン

玉人參

竹節人參の根の稍や球形を爲せる者の名稱。

『小野本草綱目啓蒙』に竹節人參を敘する條に……圓根のものは珠の如し、タマニ
ンジンとも、カブラともカイルコ手とも云ふ。並に皆白色にして臊氣あり、味至て苦
し……。とあり、各其項を參照すべし。

◎溜り根 タマリネ

据り根の項を見るべし。

◎玉折人參 タマヲレニンジン

折人參の中の品種別。折人參を鬚根と共に鷄卵の如く固めたるもの。
折人參の項を見るべし。

◎丹葉人參 タンエフニンジン

徳川中期に見はれし擬似人參の一種。

『倭訓栞』に……丹葉人參は丹後に出づ薺萋也……とあり。

賊參竝マハバノニンジン、砂參等の項を見るべし。

◎單股人參

タンニン

徳川時代の斯道者間に通用したる名稱。單股とは枝根無く一本だちの意味。

現在支那に於ても朝鮮に於ても如此形態の人參は貴ばず、却て支根ある者を貴ぶ。徳川期のある年代に於て、如斯形状の人參を貴重せしことあり。此名稱二様に使用せられたり。

〔一〕其の人參の一本立のもの。

〔服部 範忠〕『人參譜』……單股參 此れ朝鮮の上品也、本邦の藥肆土佐向と名く土佐の道壽之を好むが故也。又類達人參共名く、藥肆の言也……。

〔二〕竹節人參の直根のもの。

〔會 藥〕『人參識』……單股人參 異名直根人參 綱斗の直根にあらず 嚴永玄浩人參辨に載す。正

徳中伊勢松本蛇堂、紀伊の熊野山より、單股人參を出す。味微苦にして甘、其形科斗參と大に異無く。時に享保の初に至り、蛇堂臺命を蒙りて熊野に至り、此種を採得進上。世に蛇堂人參と稱すものは、此種に非ず、綱斗鬚也。其後玄浩甲斐の御嶽、伊豆の天城山及武藏の秩父山に到り、親

しく此種を採と云。又玄臺人參譜に言。信甲、駿山中に根桔梗に似て黄白色なるものあり、氣味或は眞に近しと云々。時に安永庚子の歲、信農の戸隱山より産するものを見るに。長さ三寸許蘆小にして體豐、味は甘苦相等し。即ち此方未だ單股あることを知らず、二子の説頗ぶる疑はし。又其後奥州仙臺より來る者を見るに、長條肥豊にして味亦佳なり。或は云仙臺永崎の北雄銳が森邊久山と云ふ處に此種を産すと頃間佐渡の醫生某云、吾郷金北山の南麓、新穂及北海の眞更川、牛嶋山中嘗て單股人參あり。又對馬の醫生某云、吾郷白岳山中より人參を産す、其狀全く種參と異なることなし……則知る此方山中人常に到らざる所には自から此の如く靈苗あり。特に其凡百雜卉に儔を同ふして朽腐せんことを嘆ずるのみ……。

韞曰、會繁は此れを日本産の眞人參と認め、竹節參の直根の者と別種として、竹節參の直根のものは項を別にして説明せり。されど之れは認識不足にして、實は同一物也。

◎丹州人參

タンシウニンジン

徳川中期後に見はれたる擬似人參の二種。

丹州人參

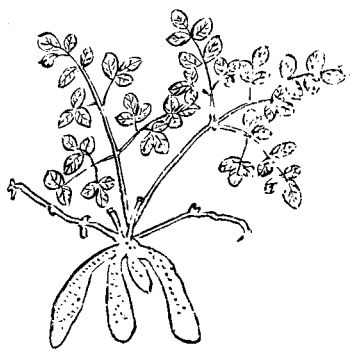
生丹州山野俚人呼爲人參者種樹家爲秦元

參人州丹の種二譜參人臺玄上坂



丹州人參

或曰有丹州山野俚人名人參者防風一種也



〔^{坂上}玄臺〕李朝の官用語。徳川政府へ修交上禮物として贈る人參の名稱。を斷定するを得ず。此圖の形態を見しのみにては何の植物か

◎單 蔘
タンシン

〔一〕李朝の官用語。徳川政府へ修交上禮物として贈る人參の名稱。

單蔘とは禮單蔘の略。單は單子のこと則一紙片の書き付けの意にして、禮單とは禮物を贈る時の目録の意味なれど。國書には別幅に其品物を列録すゆへに單子な

し。されど仍ほ單蔘と稱す。朝鮮と支那との關係に於ては皇帝へは進獻なるを以て、禮單なし、朝鮮國王より支那の大官に對しては禮單なれど、其贈る人參は單蔘とは稱せず。單蔘の用語は日本との關係に於てのみ使用せられたり。

室町時代に於ては、朝鮮より足利政府九州中國の大小名と交通する時には此用語は用ゐられ。又文祿の役前豊臣氏と交通する時にも亦用ゐられたり。而して其三使正使。副使。書狀。後從事官と改むが自己の名を以てする禮贈は、私禮單と稱したり。

〔三〕文祿の役後は、李朝より徳川政府に派遣する使節は通信使と稱し。其國交に贈る人參は信參と名を改め稱には單參と稱したり。單參は對馬と約したる歲遣船の船が、表面は獻上の意味にて物品を進獻し。是に對し朝鮮より回賜の名の下に代償に當る物品を交附する所の其實は貿易最も對馬に利益なるを行ひしが。此人參を單參と稱し又實際代償無き、例之は信使を護送したる奉行。島守の訃を告ぐる使等々には、禮物として贈給せり、之れをも亦禮單參と稱することに名詞固定したり。但し三使が自己の名を以てする、日本に於ける贈品は信蔘の中に包含し、又或は、私禮單の稱として存續使用せられたり。

「萬機要覽」に……年例入送差倭對馬守よ及大小別差倭人上同之に禮單蔘を給す。

之を單參と謂ふ。參は則ち戸曹支給し、倭譯中。事に諳んじ饒實なる者四人を擇み、定めて勾管と爲す……とあり。「春官志」に贈禮單物目の條に……順治乙未信使行權。現及大猷院家康と秀忠の靈廟禮單幣帛。權現廟焚香幣帛人參十五斤……使臣禮單人參十五斤……「通文館志」に……京外路資 日本國王若君德川將軍及其後繼者たる子執政以下馬島奉行等の處使臣私禮單人參四十九斤。首譯私禮單人參五斤……慶尙全羅忠清江原四道に卜定……とあり。

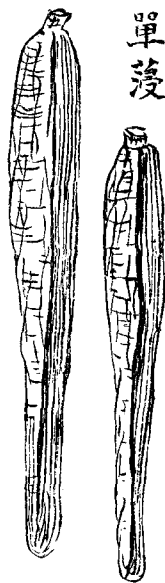
此單參中對馬の歲遣船に給する者は、後に至り品質甚しく劣等となり、甚しきは膠付接着等の技巧惡品を交付するのみならず。或は其交付數年に延滞し、紛義を起せしこと一再ならず。英宗癸丑の年には、對馬は憤りて東萊對馬屋敷の門前に於て單參全部を燒却せしことあり。

單參は初め貿易のもの、後には錢拂となりしと見ゆ、弘化三年丙午、釜山の對馬屋敷の奉行と、東萊譯官と約定したる書面に。單參一斤價錢陸陌貳拾兩に約定のこと『對書文書』に出づ。それ等内情經緯は第二卷人參政治篇第三卷人參經濟篇に詳説せり。『三』此對馬の得たる單參は商品となつて日本の各藥肆に供給せられ。藥肆本草學者等黑人筋に於て單參なる一品種名稱となり取引せらるゝに至れり。

『小野本草綱目啓蒙』に……單參は古は韃參或は簞參と書す。根の小なる者を椎にてたゝき扁くして、中をくぼめ碎小根を多く入、或は豎に裂破て糊を内に入れて根の半片を拵へ又別に鬚を多く糊にて寄合せ形を扁くして糊にて前の根の半片に合せ附て圓根の形に拵へ、上に蘆頭を拵み入るを云……とあり。

『内藤古方藥品考』に……又單蔘あり、是れも一根を割開し、其半面に蔘鬚を附着し、蘆

單蔘^{タン}



圖の考品藥方古

頭を造りて全蔘の形を爲す。今單蔘と稱するもの偽造多し。須らく辨議すべし……『井口本草綱目啓蒙圖譜』……單參 中をくぼめ碎小根を入れ糊にて粘し圓形をこしらへ蘆頭を拵入せるもの……とあり。

『藥田日用藥品考』……單參^{韃、簞、短}と書く、根小を打扁くし、中をくぼめ、碎小根を入れ、或は豎に裂き破り、糊を内に入れ根の半片を拵へ、又別にヒゲを多く糊にて寄合せ、形を扁くして糊にて別の根を半片に合つけて圓根の形に造り、上に蘆頭を拵入る。右扁根ヒ

ゲを本邦にて離したるを、市人引はなしと云ふ。其中に入れたるヒゲ並碎小根をヒキダシと云ふ……。

◎丹

參

タンジン

支那古代より人參と併せて五參の一とせられし藥品、本品には左の如き數種の異名あり。

鄰蟬草 『神農本草經』

山參 『日華本草』

木羊乳 『吳普本草』

赤參 『名醫別錄』

逐馬 『小品方』

鹿腸 『雜要訣』

『小品方』には……人腰痛を病む之を服せば則ち能く走り馬を逐ふ故に之に名くとあり。

王會孫の『廣雅疏證』に……郝蟬は圓參也、赫と郤古音相通ず、赫蟬卽郤蟬也。各本

の丹字譌也、但宋の類本譌ならず。神農本草の丹參一名郤蟬草、御覽、吳普本草を引て
 ……一名郤蟬草……とあり。

『名醫別錄』……桐栢川谷及太山に生ず。五月採根暴乾……。陶弘景註、此の桐栢は是れ淮の水原の地、義陽に在り。江東臨海の桐栢に非ざる也。今近道處々之れ有り、莖方にして毛有り、花紫なり、時人呼んで逐馬と爲す。酒に漬し之を飲む風痺を療す、道家時に用ふる處あり。時人之を服して多く眼赤し、故に性熱に應ず、今云微寒恐らく謬ならん。『圖經本草』……丹參桐栢山の川谷及泰山に生ず。今陝西、河東諸州及隨州亦之れ有り。二月苗を生ず、高さ一尺許、莖方稜、青色、葉生ず、雙對薄荷の如くして毛あり。三月花を開く、紅紫色、蘇花に似たり。根赤し、大なる者指の如し、長さ尺餘、一苗數根。冬月採者良、夏月採者虛惡。『本草綱目』……時珍曰く、處々山中有り。一枝五葉、葉は野蘇の如くして尖る、青色、皺皮、小花穂を成す、蛾形の如し。中に細子あり、其根皮は丹にして肉紫……。

日本古書の記載に付ては、『本草和名』には……丹參 唐、又美濃國に殖す……。『醫心方』にも同上の記載あり。輒按するに、此の二書の記載は當時唐品を使用したるものにて、日本には産せずとし、其唐種を取寄せ、美濃國に栽培せりと解すべきが如し。



丹參 たんじん

くわがらぎ

花紅色の物

然るに『延喜式』には……丹參を相摸、武藏美濃より貢するの條あり。『康賴本草』には丹參の和名を安仁久佐とし、日本美濃州之を採ると記せり。其後唐種が繁殖し和名を安仁久佐と稱せしか。又別の植物を丹參として認識し、其和名が安仁久佐と言ひしかは、考定すべき材料に乏しく不明と言ふの外なし。

而して延喜式の丹參の傍訓に、ニコタグサとあり。

森立之は『神農本草經攷注』に於て此れが意見を述べて曰く。……仁古太之名を攷するに、則ち今鋏形草と呼ぶ者蓋し是なり。鋏形草は花形桐花に似て小唇口の形に似て、數花穂を成す笑を含めるの狀あり。故に仁古多久佐と名く。蓋仁古立草の義、萬葉集に仁古を草花の義と爲す以て徵すべし矣……と例の附會説を爲せり。

韋按するに延喜式の傍訓は、文化版によれば、典藥寮元日御藥の人參七兩三分の傍訓に、ヒは昔の假名字のサルコタクヒとあり。毎年十二月造、元日の新四百十五劑の中の丹參の傍訓に、ニコタクザとあり。ニコタクザの傍訓は此二ヶ所のみなり。此傍訓藤原時平が撰進したる時に爲したるか否やに付ても猶講究の要あり。別箇の藥名に同一の和名を充てたる事に付ては、一方丹參の方記入誤りか。又當時人參と丹參とを同一物と見しかの二點に付き攷鑽の要あり。蓋し丹參の方誤記とすべきが如し。

徳川時代に於ける丹參の名稱に付ては別に異説なし。

『益軒本草和名抄』丹參 爾古多久佐、又按ずるに安仁久佐……とあり。韞曰く是皆古書の襲載なるべく、アニクサの名は益軒が事新らしく又按せざるも、既に古く康頼本草に丹參の日本名として出でたり。

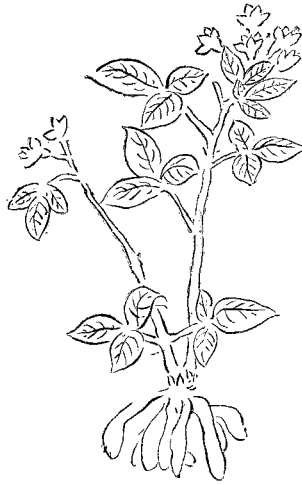
『小野本草綱目啓蒙』には……丹參ニコタクザ延喜式。今新渡多し根に數枝あり。枝毎に長さ一寸餘或は二三寸、徑一二分計り、兩頭細くして連珠の如し。外皮赤色、黄丹を塗るが如し。内は紫褐色にして白き筋あり。その莖方にして細く、枝葉對生す。皆細毛あり、和産詳かならず……とあり。

『松平本草正譌』には……丹參漢より來る和産なし……とあり。『下津圖解本草』に……丹參赤山參ニコタクザ唐斤百六十目……とあり。

以上の記載によれば、徳川中期に於ては、丹參は、古名日本にある事を知り乍ら、夫れが何の草に當るかを知らず。支那舶載の品を使用せるを知るべし。

丹參を最初クワガタサウに充てしは誰なるやを知らず。多分支那舶來の根より研究して之を定めたるものなるべし。『岩崎本草圖譜』には、これをクワガタサウに充てたること、別圖出す所の如し。其名疏に於て和名考訂白井光太郎博士左の如く記せり。

紹興校定經史證類備急本草丹參の圖



隋州丹參五月採根暴乾

三才圖會丹參の圖



此圖曰朝
其本文對生
方後とぞ致



植物名實圖考參丹の圖

丹參 くはがたきさう。

一名あざざり尾州學名 (*Salvia nipponica* Miq. forma *angutidens* Mak.) (Labiatae 唇形科)

【松村博士植物名彙】には。

Salvia multiorrhiza, Bge.

丹參 (G) (TATAR.) (P.S.M.)

輒曰く以下略す、右符號(G)は = Giles, H. A.—A. Chinese-English dictionary 1892. (P. S. M.)

は = Smith F. P. Contributions towards the materia medica and natural history of China 1871 なり。

【小泉榮次郎氏和漢藥考】には

丹參山參唇形科に屬するタツナミサウ、*Scatellaria indica*, L. var *japonica*, Maxim. の根な

り……とあり。

【牧野根本野日本植物總覽】には唇形科 Labiatae のアキノタムラサウ屬 *Salvia* L. の *S. multi-*

orrhiza, Bunge タンシン。

多年草。全株粗毛密布。葉は長柄、單葉或は二回羽、狀複葉。小葉は卵形乃至披針

形、銳、尖頭或は銳頭、鈍齒牙緣。輪繖花序は圓錐樣總狀、苞は細小、線形乃至披針形、小梗

より短。萼は帶紫色、鐘狀筒形、上唇には全縁、三角形、銳頭、三行脈。側脈は狹翼、下唇は上唇と同長、二裂、裂片は三角形、銳尖頭。花冠は碧紫色、廣口、上唇は長橢圓形、鎌狀、二齒縁、下唇は著しく短、稍圓形、三裂、側裂片は至短、圓頭、中裂形は長大、屢ば凹頭、總狀齒縁、雄藥は挺出、琉球。

アキノタムラサウは、同書に、*S. chinensis* Benth. アキノタムラサウ、コマトドメ。

多年生。高二三尺、莖は稍無毛。葉は變態多きも再羽狀複葉を正形とす。小葉は卵形、銳尖頭、銳頭、或は鈍頭、鈍齒牙縁、脚葉は長柄、梢葉は短柄、葉柄には鬚毛を布き、葉面には短毛散生。輪繖花序は六花、梢頭疎生穗狀、苞は披針形、萼は帶紫色、上唇は卵形鈍頭、下唇は銳頭、二齒縁。花冠は筒狀唇形、紫色、或は白色、細毛散生。筒部は半ば挺出、上唇は橢圓形、凹頭、下唇は三裂、雄藥二挺出、山野、花候六乃至九月。本州(各郡)、四國、九州、琉球。

……とあり、猶其品種を記せり。以上の植物、支那に於て丹參と稱せし者、一種に非ず、とは一致せざる如し。

『滿鐵中央試驗所業蹟大要』に……此の植物より新赤色々素を得たることを發表せり。

◎團

參

ダンシン

人參の鬚根を丸めて修製したる商品の稱。

『醫人參識』に……團參 此方の俗稱 此品從來吳船携へ來る所のものなり。本と

熟參の條鬚を膠接して、太さ鴨蛋アヒルノタマゴの如くし造るもの也。其性味極めて佳也。參商或は
平定單參を解きて之を造ると云へり。偽品は種參テ朝鮮人參チの日本ニの條鬚也……と
あり。

鬚人參の頂に此圖を出す、參照すべし。

◎短

中

タンチユウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間ニに於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎短

丁

タンテイ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間ニに於て命名したる品種別の名稱。

拔頂熟の項を見るべし。

◎短條

タンデウ

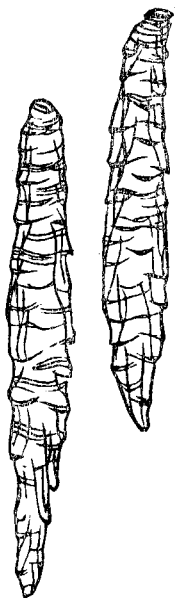
清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。拔頂熟の項を見るべし。

◎丹波御種

タンバオタネ

徳川中期の時代に見はれし擬似人參の一種。

丹波御種



内藤尚古方藥品考の圖

『内藤尚古方藥品考』に……又丹波御種と呼ぶ者あり。或は御の字を省き之を別つ(曰韃

之を別つとは御種人參との混同を避くるの意味なり。形味甚だ人蓯に似たり。而して人蓯類に非ず、其苗は水芹に類し五葉。秋に莖を抽く、每枝子を結ぶ零餘子の如し。昧者之を用ゆるものあり、……とあり。

輒曰、ムカゴ人參は葉水芹の如く五葉に非ず。右の記述は誤りなるべし。右の圖を見れば竹節人參の直根の如し。

『和漢三才圖會』に……近年唐人參の種を得て多く圃に種ゆ。攝州平野の庄多く之を出す。二月に種を下す、初生一莖三葉長するに及び數極皆三葉、其葉厚潤深刻あり。而して筋無く略ぼ銀杏の葉と相似たり、每八月中心一莖を抽く高さ三四尺……云々とあるもの、圖は葉芹の如し。或は此種と混同誤記なるべきか。

◎丹波人參

タンバニンジン

徳川中期以後に見はれたる擬似人參の一種。

『小野山本草記聞』に……苦味多く甘味少く下劣なり……とあり。

右竹節人參を指したるものなり。外に丹波鬚なる名稱もあり。竹節人參 ヒゲ人參の項を参照すべし。

◎竹葉人參

チクエフニンジン

徳川中期後に見はれし擬似人參の二種。

『小野本草綱目啓蒙』に、竹葉人參クサニンジンとあり、如何なる植物か不明。

『女上本草譜』には……竹葉人參正名柴胡、處々有之、俚人竹葉人參と呼ぶ。又鎌倉柴

胡と呼ぶ……とあり。其圖を見れば、柴胡たること疑無し。『岩崎本草圖譜』に……柴胡、

古來相州鎌倉より掘出すゆへ、鎌倉柴胡と名づく。下總小金、武州駒場及鼠山等にあり。

春日苗を生ず、大葉麥門冬に似て短く、粉綠色、莖高さ二三尺傘狀をなして小黃花

を開く。小茴香に似たり、實は防風子の如く、堅に條理あり。根黃黑色、微香あり、これ

北柴胡なり……とあり。

『本草和名』には、苳胡の和名を乃世利一名波末阿加奈……とせり。森立之は此苳の字此

草古くより薬用とせられしを知るべし。貝原益軒は『大和本草』にて柴胡の和名を

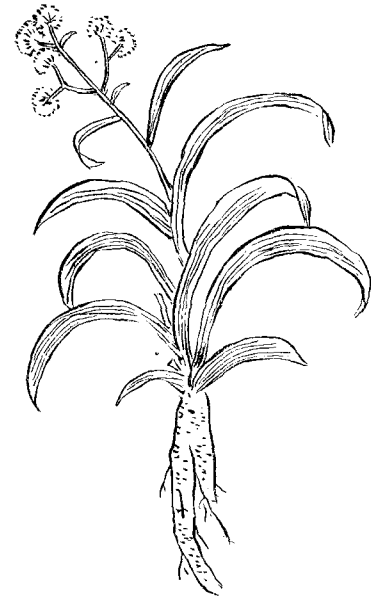
カマクラサイゴとせり。

『牧野日本植物總覽』には……

繖形科(Umbelliferae)シシマサイコ屬(Bupleurum L.)のB. falcatum L. シシマサイコカマ



圖のコイサマシ 鑑園物植士博守牧



圖の參人葉竹 鑑參人臺立上坂
胡柴倉鎌又參人葉竹呼人俚之有々處胡柴名正

クラサイコ。

多年草。全株無毛、葉は硬質、線形或は廣線形、鋭尖頭、狹脚。複繖形花序は多數梢頭、枝端に頂生、繖梗は三乃至十五。總苞片は一乃至三、不同、小總苞片五、線狀披針形。果實は橢圓形、左右より稍壓扁、長一分許、原野、花候夏。本州(中南部)、四國、九州、琉球、臺灣……と記さる。

◎竹節人參

チクセツニンジン

日本に産する人參の一種。其根が竹の節狀を爲せるにより名けらる。但し、其根の竹節狀を爲さざる者もあり。

竹節參略して節參、又フシ人參とも稱せらる大體に於ては右の説明を以て可とすべきも。猶細かに考致すれば、此の竹節人參の名を以て充られたるものには、數様の區別を爲して分解説明せざるべからず。其内容頗複雑なり。則ち以下に記すが如し。

〔一〕其根が竹節狀を爲せると、垂直根なると又球狀、塊狀を爲せると否とに拘らず總て學名の (*Panax japonicum* C. A. Mey. f. *typicum* Nakai) に充てられたるもの。

〔二〕右の中、其根が竹節狀を爲せる者のみに充てられたるもの。

〔三〕支那の物理小識其他の書に、節參とあるを讀んで、其節參なるものが比較的長き人參の蘆頭の名稱たることを曉らず。支那にも日本と同一の竹節人參ありとして想像的に考へたるもの。韋曰く、竹節人參の根と自然生人參の長き蘆頭とは、共に一年毎に痕跡を生ず其形似通へるものあり。參蘆の項の圖を見るべし。

〔四〕支那より輸入されたる其節參、則人參の蘆頭並に廣東より輸入されたるアマリカ人參の蘆頭を、竹節參の種類と認識したるもの。

但、前項の品を、參蘆なりと正しく解したる者もありたり。

【五】 「三」の如く考へたる結果、支那朝鮮より輸入されたる、人參の畸形にして竹節状を爲せる者を竹節參なるものと信じ、其名に充てたるもの。

【六】 同上根の竹節状を爲せる者は、古代日本に於てニコタ、カノニゲグサ、クマノキ等稱して人參の和名とせられし其人參と想像せしもの。

【七】 同上根の垂直根のもの、み前項の人參に該當するとせしもの。

【八】 前二項のものを人參に非ずとせしもの。

【九】 同上の中根の垂直根、塊状、竹根状の三を各別種と考へしもの。

【十】 右を同一種と考へしもの。

【十一】 右人參には相違なきも、古代の人參にも非ず、全く別種と考へしもの。

【十二】 右竹節根のものを、支那の別種の擬似人參に充てしもの。

大様右の如し。其中「七」以下は、各々其項にて詳説せり參照すべし。

參考附記。支那に於ては此竹節人參を醫藥に使用したることの典籍の記載は一切無し、但『秘傳花鏡』に土參なるものあり、徳川時代の學者是を以て竹節參と同一の者と認めたる者あるも、同書の記載簡短且圖なく、果して然るや否を確認するを得ず。

又『維西見聞記』の佛掌參を以て之に充つる者あるも是又前同様たり。此植物が支那に
和五年五月京城大學杉原德行博士が支那に旅行したる時に青島と濟南の藥肆にて發見せりと云
ふ。其附近の産なるべし。又朝鮮にも在ることは先年開城專賣局出張所へ一鮮人此植物を携帶
して鑑定を請ふべく來りしことあり。咸鏡道の産なる
が如し。と出張所前所長伊森農學士の談あり。

日本徳川時代の學者が、本植物に關する記載を摘記すれば以下の如し。

貝原益軒 竹節人參此人參の類は總て人參に非ずとす。延喜式等古代人參は砂參なりとす。其著『大和本草』

稻生若水 竹節參は日本別種の人參とす。古代人參の件貝原說に同意。其著『炮炙全書』『庶物類纂』加藤玄順和漢人參考の記載。

西 章次 三極五葉の和人參は直根本草の人參と合すとし、之を眞の人參とし。朝鮮節參、漢竹節參として、畸形人參の圖を載す。其著『人參辨』

和參は別種のもの
とす。『用藥須知』

松岡恕菴

和參は別種のもの
とす。『用藥須知』

加藤玄順

和人參は總て眞人參に非ずとし、稻生若水の說を推獎せり。物理小識の節參を竹節參とす。其著『人參辨』

小野蘭山

竹節參類を一種別の人參とす。古代人參の件貝原說を半承認す。其著『本草綱目啓蒙』

遠藤元理

直根のものを入見法印の藥園にて見、其葉を噛みしに朝鮮上品に異ならず、眞の人參とす。物理小識の節參を竹節參と同一とす。『本草辨疑』

瀧澤馬琴

延喜式其他古代の人參たるカノニケグサ、クマノキ、ニコタ等を眞人參とせり。其著『玄同放言』

山本世儒

竹節參直根のものを一種の人參とす。其著『山本亡羊人參考』

寺嶋良安

往昔より人參あり、中古用ひず。吉野人參を真人參とす。其著『和漢三才圖會』

井口望之

竹節人參漢名橫梁根一名和人參と和漢同一物とせり。其著『本草圖譜』

熊谷之欽

勢州松坂隱士松本馳堂獻ずる所の三椏五葉の直根を眞種なりとせり。其著『廣參品』

木村孔恭

和産、直根、竹節共に眞の人參とす。其著『蘇蔞堂人參錄』

田村藍水

竹節參武州多摩郡産信州人參直根豆州人參橫根江州人參直根和州人參畫桔梗科植物の如し。紀州人參不明薩摩人參を人參の一種とす。一名阪上玄臺其著『人參譜』及同

『藥肆人參類集』

屋代弘賢

出雲風土記の人參延喜式等々古代のカノニゲクサ、クマノキ、ニコタ等は竹節人參とせり。又之れを雷公桐君の人參と同一なりとせり。支那の竹節參とは別なり。直

根のものは神農本經の人參味甘と同一とし。又宋の百尺杵と同一とせり。『増補庶物類纂』

曾 槃

下野伊豆信濃木曾讚岐等の入參味甘とせり。其著『人參識』

平賀源内

山より出る直根のものを眞人參とせり。其著『人參識』

谷川士清

直根のもの、中一部を眞人參なりとし。カノニゲクサ、クマノキ、ニコタ等は何物か知れずとせり。其著『物類品鑑』

香川修菴

延喜式の人參は世に三椏五葉と稱す眞也とせり。其著『倭訓栞』

和田長純

吉野の直根を眞人參とす。其著『一本堂藥選』

新井白石

直根を眞人參とす。自己の植へたるにも不拘。其著『人參辨』

奈須恒徳

明言せざるもカノニゲクサ等を人參と認めし如し。其著『東雅』

延喜式の人參は直根にも竹節にも非ず。陶弘景の説一莖直上のものなるべしとせり。其著『本朝醫談』

佐藤方定

延喜式の添物は神代よりの仕来りなれど、古代より人參日本に在りとす。其著『備急八藥新論』

岡本爲竹

サツマ人參を其草形本草の圖說に合するを以て、眞人參とするは誤なりとせり。其著『和語本草綱目』

吉益東洞

明言せざれど、和人參を以て眞人と認めし如し。其著『藥徵』

黒川道祐

道伯の藥園にて葉を噛みてみれば朝鮮人參の味とは異ならず、眞の草なるべしとす。其著『本草辨疑』

岩崎常正

明かに別種とせり。但秘傳花説の土參に吉野人參の直根のもの充て、竹節人參に佛掌參を充てたり。其著『本草圖譜』

飯沼愨齋

竹節人參は人參と同科の別種として、明かに形態等を植物學的に記載す。其著『草木圖說』

學界の問題となりし竹節參。

此植物を日本に於て最初に發見し、藥用に供したるは、寛永年代歸化清人が日向に於て山中より採取せしに始まること、後段に記すが如し。其時に於ては徳川期の醫藥文化も大衆的とはならず、随つて人參を貴重する思想も後の如く甚しからず。且つは日向の如き僻遠の地、此藥用はあまり人に廣く知られずして経過したり。然るに天和の頃より漸次醫藥文化も向上進歩し。一方本草學も長足の進歩を遂げ、人參の需用頼みに増加したるに反比例し。支那朝鮮より入り來る人參は缺乏して値段甚しく昂騰せり。此時に於て本草學者、醫師、藥肆等が日本の山中にも人參あるべしとの假定の下に之を發見せんとして、山野を跋涉して搜索せしこと、恰も金鑛熱の

盛なる頃に網利者流が山岳を縫行せしが如し。又一方將軍吉宗の獎勵により、眞面目なる本草學者が採藥の爲學術的に山野を搜索することも隈なく行はれて。各地に於て横根直根の竹節參を發見せられたり。而して此植物の形態は、本草の人參の記載と全く一致する所あるにより、盛に是を醫藥に使用し人參缺乏を補ひたり。蓋人は慾求する熱望の度高くして之を得られざる時は、其似寄りたる物にて、セメテハと満足するは人情の常なればなり。之れが醫學者、本草學者の一問題となりしこと亦故なきに非ず。幕府當局者も亦醫藥行政の上より此品に關心を持ちしことは、『對馬文書』に、享保四年己亥年六月十九日、久世大和守より、江戸對馬屋敷の留守居原宅右衛門を呼出し示したる條に……御用人より人參の様成者一袋御出被成。朝鮮にて此通の人參有之藥姓宜候哉、又者朝鮮には無之藥姓も不存候哉、取歸り遂吟味。右之次第書付、明朝の内可差出……と示され。對馬屋敷より差上したる書面。口上御見せ被遊候人參、對馬守家來在邸の者共見せ申、朝鮮國よりケ様の人參出候哉と吟味仕候得共。終に見申たる者無之、勿論朝鮮國より出候段承及たる儀無御座候由申候。依之藥姓之儀も相知不申候以上。六月十九日 宗對馬守内原宅右衛門……とあり。此書(下項に出す)より見れば、其描方拙なれど、竹節人參たること疑なし。

此竹節人參熱も御種人參の増殖普及により遂に下火となり顧みられざるに至れり。されど猶人參代用に非ざる處方として使用せられ。又一方膺僞人參製造の原料としても大和紀伊の産地に於ては天保年代まで御種人參の栽培方の如き、同一の方法により盛に栽培せられ。又大抵御種人參と同一の方法により製造せられ。大阪表に商品として積出せしこと『山本標註』土參考』に詳しく出づ。

其地方は大和吉野郡十日市村天の川の内峯川郷平尾、茄原、川上郷、武木村、龍門郷、柳村、宇智郡五條村、紀州冬貴等にして、代價ヲクと製品は。

大極上印 天保八年代價一斤 十四匁

極上印 同 十三匁

小印 同 十二匁

玉 同 七匁

鬚 同 十八匁

其地方一廉の産業たりしを知るべし。

此植物發見の記載。

『森須恒徳本朝醫談』に……橘黄閑記、寛永年中何欽吉といふ人、清夷の亂を避けて明國よ

り歸化し。日向國諸縣郡に居て醫を業とす。竹節參の鬚を掘りて使ふ。これ薩摩小人參の初なり。一説に人參を見出せし明人は名を南陽といふ。其子孫今に傳はり南陽を以て氏とす。横梁根を使ふも此頃よりや流行しけん……云々。『醫人參識』には……按ずるに、寛永の比廣東潮州の人何欽吉といふ者。蓋し明季の亂を避けて吾藩の海濱に着し、竟に日向都城の旁に廬を結び、自から草根木皮を取り、醫を業として生涯を營む。時人稱して一宮といふ。杏林翁と號す。時に欽吉同郷の安久山中に於て、始めて竹節參を采得し、常に用ひて驗を取るといふ……云々。

雜誌本草十五號昭和八年十一月記載『明人何欽吉と和人參』日野巖氏によれば。何欽吉は、廣東潮州海縣の人にして、明末の亂を避け、大隅國內之浦に來り。それより都城に入り、知行二十石を給せられて居たと云ふ。竹節人參は、三股村の梶山の山中で發見したりと云ふ。又同人の墓は、都城市西墓地にあり、正面は、業岐山心桓居士何欽吉墓、右に、生於大明廣東海縣、左に、逝于萬治元年戊戌九月二十九日と刻され、(廢寺寂心寺より移轉)今に香花絶えずとあり、又竹節人參を土俗山掘人參と呼ぶ……と記載されあり。

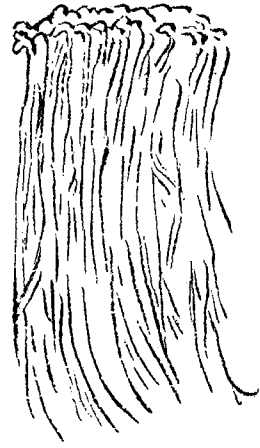
其の形態を記せるもの、中、茲に採つて記すべきもの左の如し。

『山本人參考』には、花に白花と紫花の別あり、實に圓と扁あることを記し。『山本土參考』

には、生薑の如き根より、直根も竹鞭根も生ずることを記し、即三者同一種なることを認めあり。『不詳者人參種植考』には、一年生、一莖三葉、二年生一莖五葉、三年生二極五葉、是れより實を結ぶ、四年生三極五葉、年久しき者は四極、五極、葉六七枚、五極の上二層三層となるものあることを記せり。

輒曰、開城專賣局出張所試植の成績によれば、一年生に一莖五葉の者多く、此記載と一致せず。『松平秀雲本草正譌』には、實大なるものには二顆、小なるものには一顆あることを記し。『小野蘭山本草綱目啓蒙』には、花に紫花のものあること。實の相思子の如きものあること。一年生は一莖三葉、二年生は一莖五葉、三年生は二極五葉、四年生は三極五葉。肥前に種ゆるものは、初生一莖三葉、二年、二極五葉。三年三極五葉の者あり。以上皆三年より花あることを記し。又其葉の鋸齒に粗密の別あり。讚岐山中には葉の細長なる鋸齒大、細葉人參と名くるものあること。根に直根、竹鞭、球狀等皆交り生ずること等を記せり。

『著者不明本草圖說』には、三葉人參の相思子様の實を結ぶもの。加賀の産の三葉人參。五子の人參。葉の鋸齒大に且稍倒卵狀を爲せる琉球人參一名燕尾人參。四極の瑛玖島人參等を出せり。『岩崎澁園草木圖說』には、紫花のもの、實の相思子様のものを記せり。



此種抽盡れな、曰朝 載所書文馬對
し無疑とこるな鼠の參人節竹ど

『版沼草木圖説』には……トチバニンジン、土參 深山樹陰七葉樹下等に多く生ず。

故にトチハラ人參の稱あり。葉形花狀韓參と一般難辨、或は葉の中筋上の細毛韓種よりは差粗にして強く、雄藥差、長が如くなれども、確徴とはしがたし。只實礎圓して熟實の形圓く、頂上黒色輪狀をなすの異あり。又その黒輪なきものあり。根は多くは圓して管の如く長く横に延て有節。味苦して韓種の甘而微苦なるに異なり。又或は直根韓參狀の如く、又圓して球狀を爲し、又延長行根の末、圓長塊結をなす等あれども。葉狀みな一般にして異なく。又直根のもの經年久に至つて延長鞭狀をなすに至るものあれば。此種必ず此根形をなすと斷じがたし。又葉狀に些異なる種、又熊野には三葉一葶の種あり。按に本邦所産の人參にして產地によつて根形氣味を異にするもの、如し。先師（小野蘭山のこと）花鏡の土參とす、或は然らん、西書中此種を載る

を不見。亦バナキスの一種に可收……とあり。

竹節人參の植物學的記述に付て『牧野日本植物總覽』の記載を左に轉載すべし。此補

版には舊板に比し品種を左の如く増加せり

Araliaceae ウロギ科 Panax L. ニンジン屬

P. japonicum C. A. Mey. (I. C.)

f. angustatum (Makino) [P. Schinseng var. *japonicum f. angustatum* Makino] (下の書名續記等あり此を略す、以下同じ、輒記す)

サイエフチクセツニンジン 小葉狹長 (邦内)。

f. dichrocarpum Nakai, [P. Schinseng var. *japonicum f. dichrocarpum* Makino]

サウシシヨウウニンジン 漿果頭端黑色 本州(中部)。

f. incisum Nakai (I. C.)

ノコバチクセツニンジン(新稱) 小葉缺刻狀重鋸齒緣 本州(中部)四國。

f. lancifolium Nakai (I. C.)

ナガバチクセツニンジン(新稱) 小葉狹倒披針狀形、稍單細鋸齒緣 本州(中部)九州。

f. trifoliolatum Nakai (l. C.—p. Schinseng var. japonicum f. trifoliolatum Makino)

ミツバチクセツニンジン

小葉三稀に四

本州(中部)四國。

f. typicum Nakai (l. C. 33)

朝鮮竹節

漢竹節



加藤和順漢人遊考の圖
此曰參人變形のもの也

トチバナニンジン チクセツニンジン ヨシノニンジン トチハラニンジン

キニンジン

多年草、高八寸乃至一尺五寸。地下莖は肥厚横走、莖は直生、頂端葉三乃至五輪生、長柄五出。小葉は膜質、橢圓形乃至長橢圓狀披針形、銳尖頭、銳脚或は圓脚、微凸尖銳鋸齒

縁、長四五寸。花梗は葉より超出、單一或は分岐、花は白色繖形花序、萼は筒狀鐘形、五裂、裂片は廣卵狀三角形、瓣片五、橢圓形、鈍頭、雄蕊亦五、瓣片と稍同長。子房は下位。核果は扁球形。紅熟—山地樹陰、花候七月、成果八九月。北海道、本州、四國、九州。

f. *Xanthocarpum Nakai* (T. C. 34—P. Schinseng var. *japonicum* f. *Xanthocarpum Makino*)
キミノチクセツニンジン 漿果黄色 邦内。

◎チシマニンジン 千島人參

徳川時代擬似人參一種シラネニンジンの別名。千島に産するにより名けらる。シラネニンジンの項を見るべし。

◎地 參 チシン

此名稱古來より種々の植物に宛て用ゐらる。

【一】知母即ユリ科のハナスゲに充つるもの。

『神農本草經』に、知母の一名に地參とあり。『博士松村植物名彙』にも左の如く記載せり。
Anemarrhena asphodeloides, (Liliaceae)

地參 (P.) 蚯母 (P.) 知母 (P.)

右 (P.) とあるは ≡ 本草綱目のこと (Jap) は ≡ by Japanese fathers (G.) は ≡ Giles, H. A-A Chinese English dictionary. 1892.

【二】 桔梗科の植物とするもの。

『植物名實圖考』には、周憲王の『救荒本草』を引きて左の如く記載せり。

救荒本草、地參又山蔓菁と名く。鄭州沙崗間に生ず、苗の長さ一二尺、葉は初生の桑に似て科小、葉微かに短、又桔梗の葉に似て微かに長し、開花鈴鐸の様に似たり、淡紅紫花、根は拇指大の如く、皮色蒼内豔白色、味甜し、採根煮食。

『松平秀雲本草正譌』には、救荒本草の地參を俗にアマナ、沙參の一種とせり

『岩崎瀧園本草圖譜』には、救荒本草の地參を沙參の一種とせり。圖の傍書に……葉潤く



地參植物名實圖考の圖

鋸齒あり三葉對生し、花大にして淡紫色、形山小菜ホクタロに似たり……とあり。同書

の『本草圖譜名疏』にて大沼宏平氏は右の植物の學名を桔梗科の *Aderophora verticillata* Fisch. forma. に充てあり。

〔三〕竹節參の一名とするもの。

『日本藥園史』によれば駒場御藥園、天保二年の目錄に、地參の名あり。又同じく明治二年小石川御藥園は、大學東校の所管となり醫學校藥園となれり、同四年七月文部省の所管となり、其頃調査せし草木品名調の中に、人參、竹節人參、ムカゴ人參、地參、牡丹人參等あり。

右地參とあるは、他の採藥記の用字例によれば、竹節人參の中の直根參を指したるものなることを察知すべし。

◎地

精

ヂセイ

人參の異名。『廣雅』に……地精 人參也とあり。李時珍は『本草綱目』にて之を釋して……地の精靈を得る、故に地精、土精の名あり……と記せり。

藥物に精の字を付したるもの『大清經』『神仙服餌方』等の道家の書竝之れが影響を受けたる『范注方』『釋藥性』等の書に甚多し。廣雅の此記載も亦、それ等道家の稱を掲

げたるものならん。肉蓯蓉、何首烏にも地精の異名あり。

何首烏はタデ科 Polygonaceae タデ屬 Polygonum L. のツルドクダミ *P. multiflorum* Thunb.。肉蓯蓉はハマウツボ科 Orobanchaceae のヲニク屬 *Boschniaka* のマツハダ、オガサタケ *B. glabra* C. A. Mey なり。

◎頂 糙

チャウサウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎頂 條

チャウデウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名しにる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎茶 蔘

チャシン

人參を茶の如くに飲用する、其原料たる人參。

其飲料を參茶と謂ひ、其原料を茶參と謂ふ。疾病療養の爲に服する藥用の人參と、此茶參とは其原料の性質上に差異あるに非ず。但だ之を使用する目的に於て主觀的に別あるのみなり。但し獨參湯と參茶とは煎じ方に多少濃淡の差無きにもあらず。

李朝「世宗實錄」に、明の使節が茶參を求め、王は三使に各三十斤を贈りしこと出づ。「中宗實錄」に明使と王との問答中、人參三十斤は多しとして明使之を受けず、王は曰く此れ乃ち湯茶の參なりと強ひて贈りし記事あり「宣祖實錄」丁未四月、人參誅求の爲めに、人民が疲弊困窮逃亡する者ある條に、史臣は憤慨して記して曰く……史臣が曰く國の爲に亡びんとする必ず尤物ありて之が祟を爲す……舉國遑々として常に不足の嘆あり、民生戚々として蹙額の苦に堪へず、民を醫するの草反つて民を病ますの物となる、其故何ぞや、我國の參を以て獻と爲す土地の生ずる所に過ぎず。而して中國の參を以て貴しとする長生の草の如し。遠方の物を以て恒用の茶と爲す、公卿士大夫皆然らざるなし……云々とあり。

現今も支那朝鮮に於て人參を茶として飲用するは富豪の間に行はれつゝあり。
〔附記〕 人參の葉も亦茶とせしことは『羅仙山棲志』に……鮮しき參葉茗飲に代ゆべ

し……とあり。

蔘茶の項参照すべし。

◎中 熟

チユウジユク

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎忠 勳 府 蔘

チユウケンフシン

稅蔘の項を見るべし。

◎中 兼 皮

チユウケン

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎中 樞 府 蔘

チユウスウフシン

税蔘の項を見るべし。

◎中 條

チユウデウ

清代滿洲人蔘に對し、蘇州蔘商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎中 揀 熟

チユウレンジユク

清代滿洲人蔘に對し、蘇州蔘商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎中 折 人 蔘

チユウヲレニンジン

折人蔘の中の四種別の一。其大小により別たれたるもの。
折人蔘の項を見るべし。

◎頂 兼 皮

チヨウケンビ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎直 根 人 參

チヨクコンニンジン

根の垂直形により名けられし名。一方の竹節根の如き横走せる者あるに對する名稱。略して直參とも云ふ。

此名稱の用字例にも亦區別あり。



圖の考圖藥方古賢尙藤内



圖の志藎祐成藤 根直

〔一〕竹節人參の中の垂直根を指せるもの。

『蘇野本草記聞』……直根は竹節より苦味少なし。加賀白山、紀州熊野、和州吉野、高野皆直根なり……『用藥須知』……近世一種三極五葉の中に直根のものあり。味甘香、形漢參に似たり、和漢の中には此一種稍よし……。

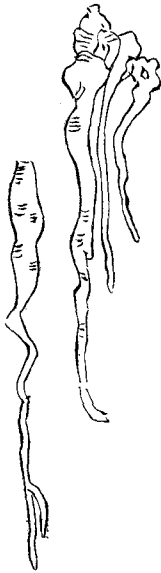
『蕪段堂人參錄』……市人和參の根直生のものを直根人參と呼び竹節のものを蕪に似て横生のものを節人參と呼ぶ……。『本朝奇跡談』……大和吉野山所々直根人參。下野日光華巖の灌の邊直根人參。紀伊熊野山の内所々直根上人參。阿波仁井田村土佐若草山木屋邊。元源、出羽の牛の首と云ふ所直根人參あり……。

『^會藥品出產志』には、日本國內各產地の下に直根或は竹節と記しあり。『紀伊續風土記』……又直根、圓根、竹節の三品は、牟婁、日高、在田、三郡、深山雜木多き陰地に自生す……。『^{内藤}古方藥品考』……直根、菱數種あり、其頭圓にして尾長三四寸、色黃白なる者を上品とす……。

〔三〕 竹節人參の中、吉野邊の産のみを直根人參となすもの。

『一本堂藥選』……和州の金峰、葛城、紀州の那智等諸山、真人參を産す。呼んで直根菱

和邦吉野參直根



和邦直根參



となす……。『^{山本}土產考』……土參 直根人參、吉野人參……。

加藤玄順和漢人參考の圖

(附記) 御種人參の如き及支那朝鮮より輸入されたる人參を直根なりと記したるものあれど、名詞化したるものに非ざれば茲には載せず。又竹節人參の中根の不完全垂直を爲せる者は別に蝦斗人參と呼びて直根とは別とせり。

◎直

蔘

チヨクシン

〔一〕 朝鮮の名稱。播種した儘養成する人參の稱、直は蔘付の儘畑に置くの義。「中京誌」栽培開城人參のことを敍する條に……人蔘本と土産開城にて栽培するの義に非ず。而して中間に居人南種を得て圃を爲くり、藥土肥料を入れた土灌養す、養蔘と曰ふ。平田直種す直蔘と曰ふ……とあり。則苗圃をつくり移植するものと、播付けのものとを指すなり。今日猶此名稱通用し、土直、養直などと稱せられつゝあり。

〔二〕 日本 の 名 稱。

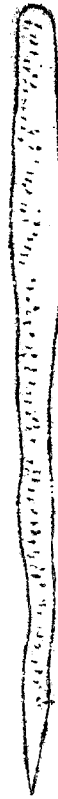
1 根の垂直を爲せる人參 御種人參と竹節人參の中直根のものとを併せて此稱を用ゆ。

2 竹節人參の中垂直根を爲せるものみに對する名稱。
直根人參の項を見るべし。

◎ ツクバニンジン 筑波人參

徳川中期に見はれたる擬似人參の一種。

『^{筑上}人參譜』に……常州人參 築波山に産す俚人呼んで築波人參となす、根防風に似たり……とあり。左の圖出づ、其圖修製品なれば、何の植物なるかは不明。



坂上步臺人參譜常州人參の圖

◎ 包

ツツミ

徳川中期以後に於て支那朝鮮より輸入したる、技巧を施したる人參に對し、藥肆に於て命名し。クロオト筋に通用したる名稱。

『^{加藤}和漢人參考』に包 長崎口對馬口共にあり、一名松明様ともいふ、人參の中空虛にて、たとへば、日本の大根の虛になりたるやうなるを、中をくり出したる粉に鬚人參の類をまじへ、糊にてかため包こめたるものなり。其上に鬚人參などにて尾をつけ、て拵へたるもの。これは一向下品のものなり不可用。以上長崎土人が加藤謙齋に語りたるを書留めたるもの以下加藤

の認之 按するに、近來松明様と云は鬚を一本卷かためたるものなり。其の中心に大人參細きものあり、是貫の木様と呼ぶ。卷かためたる鬚はほどきて先折と呼ぶ。是性よきものなり。然れども近來は其先折にも交りものあつて、性合分明ならず……『兼葭堂人參錄』……包^{ツツミ} 瘦せたる人參又は參の瘦せたる所を劈きて、條參或は孕みたるを孕と呼ぶ。又造とき剝去たる參屑を集めて糊と爲し、參皮にて包みたるもの此なり。又量目重き人參を佳とす。故に贗商鉛錫を孕ましめて量目を盜む……。

◎釣鐘人參

ツリカネニンジン

徳川中期に見はれたる擬似人參の一種。花の形狀に因みて名けらる。此名稱は混同して左記四植物に充てられ用ゐられ、後に一定するに至れり。

- (1) 羊乳根 桔梗科學名 *Codonopsis lanceolata*, Benth.
- (2) 薺 右同學名 *Adenophora stricta*, Miq.
- (3) 沙參 右同學名 *Adenophora verticillata* Fich.
- (4) 杏葉沙參 右同學名 *Adenophora polymorpha* Ledeb, var *stricta* Mak.

『眞原本草綱目品名』には……羊乳根^{ツリカネニンジン}と左右に傍訓しあり。(1)を指せり、而して同人

ツリカネニンジン

著『大和本草』には……沙參、中華より來る二種あり、一種は桔梗に似たり、是を用ゆべし又人參に換用ゆべし。一種は糸を束ねたる如く細長し何物なることを知らず……日本にてトトキ人參と云物沙參なり。葉は杏葉に似て莖は桔梗の如し、根には桔梗の如くなる心なし。輕淡也。春苗を生ず、秋多く小花を開く、淡碧色なり。其形つりがねに似たり。根は人參に似て味甘し、又ツリガネ人參と云。筑紫の人シテンバと云……あるは(3)を指したるか(4)を指したるか、又併せ指したるかは判明せず。『山本大和本草』には益軒の説を批正し……沙參、ツリガネ人參。一種桔梗に似たりと云ひ藥店にて楊枝手とも防風手とも云。一種糸を束ねたる如とは、藥店にてミダレ沙參と云もの也、根をさきて乾すなり……とあれど製品の上の鑑定なれば確説とは言ひ難し。『小野本草綱目啓蒙』には、沙參の項別名の中に、ツリガネニンジン、トトキニンジン、同名加徳本草等の名を掲げ。且本文にて……宜しく和の沙參を用ゆべし即ツリカネニンジンの根を乾したる者なり。今藥舖にて誤つてセイネイと呼、薺苳の音訛なり、然れども薺苳は別に一種あり、混すべからず……云々。又同項の文中に、羊乳(ツルニンジン、ツリカネニンジン)を沙參とするの非なるを説けり。

『録井本草正譌』には左の如く記載せり。

○沙參 ○ツリガネニンジン 唐沙參は杏葉沙參也

ツリガネサウ和名同名多し、ツリガネニンジン、トトギニンジン同名あり、ヤマダイコン南部、キキヤウモドキ但州、シヤクシナ江州、ヤマナ同上、アマナ同上、シテンバ筑前、ヘビチャハン上總、シヤジャシヤ越中、ビシヤビシヤ城州山科。

『松平秀雲本草正譌』には……沙參 俗名ツリガネ草、江州伊吹の邊にてトトキ人參と云。薺萈は杏葉沙參、ツルニンジンは羊乳根たり。救荒本草の地參は俗にアマナ、同書細

葉沙參は俗名ヒナ桔梗此等皆沙參の類也。『山岡守全本草正譌』には……沙參 ツリガネ草、原野に甚多し。奸商贗物の人參とす……。

『熊谷之飲廣參品』ツリガネ人參 花形を以て名く。一名トトキニンジン、即沙參、人參に非ず……。圓葉人參即薺萈、又ツリガネニンジンと云……とあり。『庶物類纂』丹羽貞

機の補修に……沙參紫霽ツリガネ人參蔓ツルニンジン様人參と記せり。

『小野職孝本草啓蒙名疏』にはツリガネニンジン 沙參。ツリガネサウ 薺萈。トトキニンジン。沙參。とあり。

『常總採藥記』に享和三年小金原より布施の原の間にて沙參ツリガネニンジンを探取せる記事あり。

『平賀源内物類品臨』には、釣鐘人參を沙參の和名とし……葉に毛あり、毛無し。兩葉對生四五葉對生、長葉、細葉花碧色又白、淡紫色のものありと記せり。

以上の記載紛々として、前記三植物を混同せるを知る。

『岩崎源内本草圖譜』、『飯沼德齋草本圖說』に至つては、明かに本項初頭に記せる如く區別し、猶沙參の變種數種を記載せり、其圖も亦正し。

沙參、賊參、蔓人參の項を併せ見るべし。

◎ 蔓 人 參

ツルニンジン

徳川中期に現はれし擬似人參の一種。其形態の蔓生なるに因り名けらる。

即ち支那藥名羊乳根の日本名にして、薺ナソバ沙參マルバノニンジンと共に釣鐘人參とも稱せられたり。皆其花が釣鐘狀をなせるに因む。以上三者は根形と味がよく人參に似たるにより古來より其代用品とせられたり。諸家の記載左の如し。

『貞原大和本草』トトキニンジン ツルニンジン 此二種沙參なり、本草沙參の集解陳藏器が説にある羊乳根なり……又同書に……今按ずるに羊乳はつるあり、つるの長さ二三尺、莖紫にして三葉あり。其ある處人手をふれざれども自から香ばし。靈草也、莖を折れば乳汁

の如くなる白汁出づ、根の形蘿蔔の如し、皺あり又まるきあり……人參の花より大なり。これも沙參の類也、別種也……とあり『小野本草綱目啓蒙』沙參の條に、羊乳原と別錄には別條なりしを、時珍沙參の條に併て一とするは非なり。羊乳はツルニンジン、一名ツルジャシン、トトキニンジン州對……山中陰地に蔓生す……市人或は沙參に充賣又古は人參に譌と云。とあり。『松岡用藥須知』一種の蔓生、俗醫沙參に代用す。貝原損軒益軒もと損軒とも稱す翁羊乳根となすは是也……。

『山本大和本草』には貝原の説を批正し……ツルの長二三尺とは甚だ短し。一丈餘にも及ぶ也、三葉、四葉、五葉のもありて甚臭きもの也。自香とは誤り也……とあり。

『倭訓栞』には……ツル人參は羊乳根なり。江戸にてツリガネカツラといふ、木曾にてチウブと呼ぶ……『内藤古方藥品考』羊乳根にツルニンジンと傍訓せり。『平賀品隔』には……羊乳 ツルニンジン、キキヤウカラクサ、江戸、ツリカネカツラ、木曾チブソ……『常總採藥記』……日光の峠にて採取したる藥草の中に羊乳ツルニンジン

細尾の方言トット……と出づ。以上皆正しき記述なり。『岩崎本草圖譜』には……羊乳根 ツルニンジン、山陰に生ず、春宿根より蔓を生じ、莖葉共に、切れば白汁出づ。花の形地參杏葉沙參に似て紫黑色なり。一種原野に生ずるもの苗葉皆小にして毛茸あ

り……とあるは一層精細にして正しき記述也。『版沼纂草木圖説』に至つては一層正しく、精細に純植物學的の記載詳細なり。其中に……一種草稍小にして毛茸あるもの木曾に産す、方言バアンブと云ふ。カムバヌラの屬に外ならずして種名未詳……とあり。牧野博士は下の如く之を補修せり……本文記す所のバアンブは同屬の一種にして亦本邦に見る。北支那并に滿洲にも産す。葉小にして往々毛を帯び、花冠亦小にして、其筒部稍長し。學名を *Codonopsis ussuriensis*, Hemisl. と云ふ……とあり。

本品の藥物的記載に付ては、『加藤和漢人蔘考』に……私ニ云藥肆弦人蔘と稱する物。此れ本と人蔘と各別異なり焉。故に吾人之を以て人蔘の類なりと謂はず、又一種の別草也。然れども同じく人蔘に代へ輕病に効あり。故に近來用ゆる人多し。予亦之を用ひ得たり……。同人の『治痢經驗』に……痢を治する唯人蔘宜しく病に随つて増減すべし、貧人の如きは藥舗の弦人蔘と稱する者を用ひて以て人蔘に代ゆ。真人蔘ならざるも亦効あり……。『類聚名物考』に……和解湯……今海内に弘まる、名古屋丹水の自製也。人蔘(輕症之を去る)或は弦沙蔘を用る代ゆ……『貞原大和本草』ツル人蔘、トトキ人蔘此二物は沙蔘也。人蔘に代へ用ゆ。大補無しと雖も、然れども害なし……。

羊乳根に關する支那の記載

『名醫別錄』に羊乳の名、沙參の別名として出づ。唐の陳藏器の『本草拾遺』……羊乳根は薺苳の如く而して圓大、小さは拳の如し、上に角節あり、之を折れば白汁有り、人



線白脈葉色黒面表葉圖原 圖の説圖本草薺苳飯
乳羊 ンジンニルツ

根を取つて薺苳に當つ。苗蔓を作す之を折れば白汁あり……とあるを其形態の最古の記載とす。輒曰く是疑ひもなく、日本に於て蔓人參とせしものに相當す。『和漢三才圖會』には、是を『農政全書』の羊角菜と混同し誤れる記載あり。

◎調御參

テウギョシン

徳川中期朝鮮より輸入する人參に對し、品種別名として日本に於て命じたる稱。

『會人參識』に……調御參 一名獻參みな朝鮮の稱呼 又御物ウモノと云ふ。對馬及藥肆の稱なり 此即貢品韓人將來中第一の好人參なり。單股豊大にして且長條也。其色に淡黃清白の二種あり、其質潤軟稠、乃ち之を嚼に性味極めて佳力妙恨らくは民間の家此を得ることまれなり。偶ま諸侯に頒賜するものあるのみ……とあり。

鞞曰、朝鮮の文籍に斯る名稱無し。徳川氏と李氏朝鮮と日本は國際的には對等の交際にして、朝鮮より「何々を貢す、何々を獻す」など、日本の文籍に記載せられあるは、徳川に媚ぶる御用儒者の曲筆か、或は夜郎自大の學者の舞文のみ。多分對馬か藥肆かの營業政策上の造語なるべし。又御物とは徳川將軍の所藏品、或は御餘りと云ふ義なるべし。將軍男寵の經歷ある人を御物上りと稱せられたり。

◎條小熟

デウシヨウジュク

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。

拔頂熟の項を見るべし。

◎朝鮮種人參

テウセンダネニンジン

御種人參の系統を引ける人參の名稱。

此名稱は徳川政府の公文に現す時に、御種人參とも書けず朝鮮種にて作り立候人參と初めには書きしを。後に略して此名稱を名詞化し用ゆるに至れる如し。

『物類品彙』御種人參即朝鮮種人參……今朝鮮種人參諸處に於て繁茂す。是れ本邦の風土に合すること明かなり……。『草木六部耕種法』……人參は朝鮮種を作ることなり……。『岩崎草木育種』に……。人參草本朝鮮種人參なり……。『紀伊續風土記』……享保年中、在田郡山保田莊山中に朝鮮種を培養す、今は絶ゆ……。



田村藍水人參耕作作の圖
朝鮮種人參の圖

『憲教類典』明和元年甲申閏十二月二十四日町觸。朝鮮種人參之儀は、世上人參拂

底故末々輕者共病用之節もたやすく難相用。病氣本復せざるもの多有之候に付。日本にて可致出來候ば、萬民御救之事故。先々御代朝鮮國へ人參種被遊御所望。野州今市邊にて御作らせ……云々。明和四年丁亥七月町觸。朝鮮種人參の内上竝兩品へ此度壹根毎に極印いたし……云々。猶ほ天明七年丁亥十一月、文化元年甲子三月弘化三年丙午十二月、嘉永四年辛亥十二月二十日の町觸にも、皆此名稱を用ひあり。『日本藥園史』に、大和宇陀郡森野藥園、安永六年十一月に記したる目錄に……朝鮮種人參(天文五年拜領)……とあり。又拜領草木膳葉の中にも……朝鮮種人參……とあり今現に保存せらる。

◎朝鮮人參

テウセンニンジン

此名詞一見甚簡單なる如きも仔細に検討する時は、其用字例に於て以下に記すが如く數種の別あり。

「一」徳川時代日本に輸入せられたる朝鮮人參たる藥材に對して。日本に於て呼稱せられたる名。

『蜀山人一話一言』に……寛永五年羅馬人薩州屋久島に漂着し、江戸に送られ。老

中の尋問に……人參は南蠻、イタリヤ國などにて、朝鮮人參を用ひ候哉……云々。同書淀屋三郎衛門闕所の時の財産調書の中に。朝鮮人參七十五斤とあり。『神武權衡錄』……長崎にて商賣せる唐人は人參或は朝鮮人參の價壹兩に付銀三匁位といへり……云々。

『加藤支願和漢人參考』に……朝鮮人參。藥肆古へ御物と呼ぶ今改めて本ホシ事と稱す。眞物甚だ稀なり……。『松園漫筆』……大切の病人元氣を補ふの功、惟だ朝鮮人參の外なし。卑賤貧窮のものは價の貴きに力及ばずして、見ながら死に至るを待つのみ……。『對馬文書』元文金銀吹替の時、宗對馬守へ被仰渡候御書付……金銀吹替に付、朝鮮人參の代并交易之儀共差支候哉と被相願候趣……云々。『兼葑堂雜錄』に佐久間信盛は織田信長より追放せられ、浪人となり播州益井の山奥ウツ五加木谷コに籠り。百十餘歳まで壯健にて、孫佐久間久左衛門が仕送を爲すに、金銀衣服の類に非ず。只朝鮮人參を調へて送りたること出づ。

〔二〕朝鮮人參なる植物全體即ち *Panax Ginseng* に對したる名稱。

『蜀山人一話一言』……小石川御藥園 朝鮮人參種計り殘し置く也……『和漢三才圖會』……朝鮮人參、朝鮮の北韃靼の南境に大山あり。白頭山と名く自然に人參を生ず。

『退閑耕記』……朝鮮人參の種は竹の林へ蒔付るがよし。雨霜の多くあたらぬ日の照らぬを好む……。

【三】朝鮮人參の産地を誤りたる記載。

【小野】本草記聞……朝鮮人參 集解に所謂遼東也……とあり。

【服部】人參譜……朝鮮人參 今船上互市する者上黨參と等し、蓋其山皆な太行と連

互相接するが故也……とあり。徳川時代の學者が支那の地理に對する智識の甚だ不充分なりしを見るべし。

【四】日本に於て藥肆が悪意により朝鮮人參に非ざるものを朝鮮人參と偽はりしもの。

【唐榮】人參攷』日本版石坂宗哲跋……今藥肆通じて朝鮮と稱する者、大抵上半須也眞の朝鮮に非ず……。

【小西長左衛門】人參考』……今製の人參細工人云ふ。官參の生を極上の大白糖水に五七日浸し置き、取出し少々乾かせ湯にて蒸し上げ、上部の皺をのばし製法すれば。極上の朝鮮人參にかわらず……。

【對馬文書】寶永七年の分に……朝鮮人參長崎によりも出候と申義は前々よりも

沙汰有之候……近年は唐人も唐人參を朝鮮人參見本に致製法持渡朝鮮人參と申成し商賣仕由兼々風聞承及候……云々右用心の爲め對馬の長崎田代藏屋敷へ人參少しづゝ差渡置候云々……鞆曰く右は二物を對比して吟味する爲なるべし。

『同上』寶永二年の分に乙酉八月江戸町奉行坪内能登守へ人參問屋堺屋七部兵衛被召出。人參に交物ある件仰聞られ。是の件に付對馬屋敷留守居山川作左衛門より能登守に差出したる書類に……先日御城にて老中列座土屋相模守より人參仕込挿入物等有之其上、唐人參、和人參交り居り……云々と仰せ付られし記事あり。

〔五〕 徳川政府官營御種人參製品に付けたる名稱。

『明良帶錄』田村元雄は和人參を製法せし家にて、小普請並にて三十人扶持下さる。寶曆十二年に仰付られ朝鮮人參の製法御用を勤む……

明和四年十月御觸書に……朝鮮人參一兩代六百文、半兩代二百文、小半兩代五十文、五分入代七十二文 右之通人參座にて相渡候。輕き者共へ寄々可被咄置候事……

〔六〕 徳川幕府官營栽培人參の植物其物に對し呼びたる名稱。

『和漢三才圖會』御種人參たる朝鮮人參を敍する條……其葉と花は和人參と相似て實は異なり。初は青く熟して赤く圓きこと南天の實の如し……『天明大政錄』……

朝鮮人參之儀、享保中御世話被遊諸國にて出來段々增長候に付。末々輕き者迄、病用之節、容易相用候爲。寶曆十三未年被仰出……云々。



朝鮮人參 彩色圖原圖諸參人忠範服範

朝鮮人參



同白様

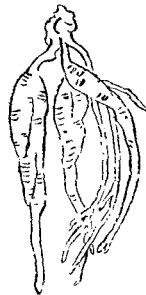


古方藥品考の圖

加藤玄順和漢人誌考の圖 朝鮮連節參



朝曰、右二國山人參の形態をよく寫せり



『享保集成絲綸錄』に……元文元辰年十一月、朝鮮人參の莖葉を貧民の療病用として無代分與するの公達文出づ。

『市中取締書留』天保十三年の分に……今般朝鮮人參實蒔聽しに罷成候に付、向後

賣捌之義……云々……。

〔七〕他の植物を誤つて朝鮮人參と呼びしもの。

『辭林本草綱目啓蒙』に……防葵の種子を傳へ世上に誤つて朝鮮人參と云ふ……とあり。防葵に付ては、ボタンニンジンの項の項を見るべし。

◎天 狗 人 參

テンゲニンジン

人參の異名の一。

『柳邊紀略』に……又神草、地精、海腹の名あり。異苑云、人參土精と名く、海錄に云、天狗人參也……と出づ。輶曰く、此名他書に無し。海錄なる書末見。天狗は星の名なり。何に因みて名けしかは不明。

◎瀘 州 參

テンシウシン

清代の擬似人參の一種。

『植物名實圖考』に……瀘、姚州、麗江又た參あり、形既に各異なる、性亦た燥……云々と出づ。瀘州は今の雲南晉寧縣の東。

◎統貨

トウクワ

清代中期以後に於ける滿洲人參に對し、蘇州人參取扱商店に於て命名したる品種別の稱號。

『唐葉人參攷』に……經商滿洲人參仲買荷主蘇に至る、行屋間蘇州人參に在つて發店す。其行規店規同じからず、凡客貨到らば、行規時主客貨を將ひて三等に分作す……とあり。

統貨 貨物の中より堅結、紅大、熟多く、糙少き者を揀びたるもの。

拗色 統貨に次ぐ品質の者、其色次紅、瘰癧、糙多く、熟少き者。

泡丁 拗色に次ぐもの、色浮白、微紅、質薄く、肉少なき者、條參の中に加へ入る。即ち右の如く大別せしもの、中の一名稱也。

◎童參

ドゥシン

童子の形を爲せる人參。また千年の人參は童形或は嬰兒の形を爲し、夜ぬけ出でて其姿を現はすとの傳説あるにより此名あり。

實質は體參、人形參、孩兒參、成形人參等と同一なり。各其項を併せ見るべし。

◎東

參

トウシン

朝鮮産人參の意味。朝鮮の人の稱したる語。

朝鮮の國名は李朝太祖が高麗朝に代り國を定めたる時、明の太祖より受けたる國號なり。されど爾來此國の學者政治家は自から朝鮮と榜標することを避け。東國、吾東、東邦、東方など、稱せり。人參も此國人自から朝鮮人參と稱したることなし、東參は即ち朝鮮人參のこと也。

此名「中京志」に出づ。

◎燈

臺

子

トウダイシ

滿洲に於ける人參の隱語。三股のもの、『東華輯要』に出づ。

◎燈

臺

人

參

トウダイニンジン

海峰人參の別名。此草アシタバ草とも、トウダイ草とも、八丈草とも稱せらる。海峰人參の項を見るべし。

◎統

頂

トウチヤウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱
拔頂熟の項を見るべし。

◎同福人參

ドウフクニンジン

全羅南道和順郡同福面に於て産せらるゝ人參。略して福參とも云ふ。

同地は人參栽培の濫觴地としての傳説を有す。曰く高麗の時代肅宗時代とも曰ひ又顯宗時代とも曰う

同地蘿蔔縣榆川里今の同福面に崔某あり、病を得て多く藥を用ゆるも其効なく死に瀕

す。其妻山神に祈願して夫の病の平癒を祈る。夢に山神現れて靈藥の所在を啓示

す。是により妻は母后山に赴き異草の根を得て夫に服せしめ、病忽ち癒ゆ。よりて其

種を播き繁殖して大に富を得たり。是れ朝鮮に於ける人參栽培の最初のものにし

て。其後紅參を製し支那に賣り大に巨利を得て、富一道に高く。遂に此れを開城に

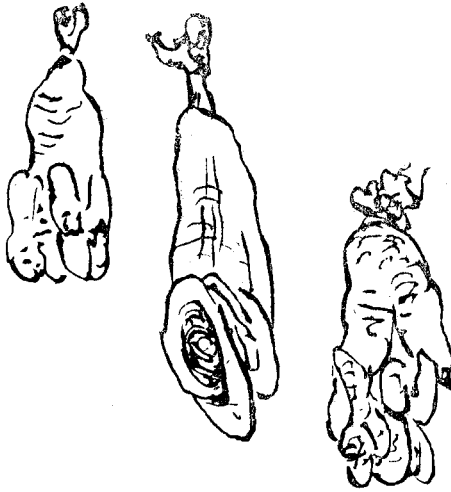
傳へたり……云々と稱す。

此説の無稽なること論無し。されど此地より栽培法を開城に傳へたるは事實な

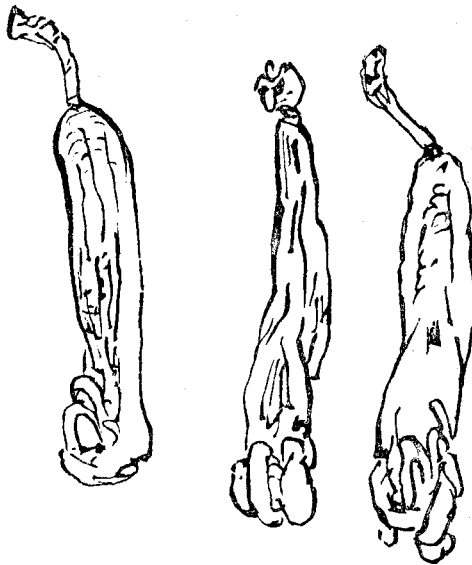
る如し。而して此の人參栽培も品質の佳き爲めに誅求に堪えずして殆んど中絶の姿なりしを、大正七年に至り吳亭南氏開城より人を聘して再興したりと云ふ。

同地の人參栽培法は他と多少趣を異にし、幾分か自然に近く、十二年根、十一年根、十

同福人參の圖



元の製法



現在の製法

年根等の長期のものを採製す。何れも白參なれど其色淡黄を帶ぶ其價も最高く開城産の三倍以上に及ぶ。需用は全部鮮内なり。産額甚だ少く一年一萬圓に達せず。今人參を栽培せる母后山は、元と蘿蔔山と稱せしを、高麗の恭愍王亂を此山に避け、

後安全に還宮せしより。山の徳を母后の懷に同じとして此稱を與へしとの傳説あり。

◎東洋人參

トウヤウニンシン

〔一〕日本の人參支那に輸入せられし後、支那に於て付けたる名稱。

徳川時代支那に販路を開きたる人參は徳川幕府官營の御種人參と、會津藩並松江藩の人參のみなり。『本草綱目拾遺』に……東洋參。汪于玉言ふ、東洋參は日本東倭の地に出づ。其參外皮は糙、中は油熟、之を蒸せば亦清香あり遼參と同じ。微かに羊羶の氣を帯び口に入るの後微かに辣すを各別と爲す耳。然して性溫平、西洋佛蘭西參。アメリカ人の性寒平なる者と又別也。此參近日頗ぶる行はる、無力の家之を以て遼參に代へ用ゆ亦効あり。每枝皆重さ一錢許、亦二三錢なる者あり。總て枝根を以て日本。の二字名を印するあり。價八換、無字のもの價五換、蓋印字ある者は彼土の官參。最道の地、印無き者は彼土の私參也。亦通身皮糙、内肉白色なる者あり佳ならず。桂圓肉と拌蒸し曬し用ゆ。

癸丑三月西曆一七三三年予は李燮堂先生の處に在り、東洋參二種を見る。一種大なる者

は粗ば拇指の如く儼として西洋參に似たり。最も堅實、一種小なる者は、每枝二三分に過ぎず。亦分許なる者あり、肉薄ふして甚だ堅實ならず。言に據れば二種皆日本洋客●商人●帯び來る。新らしき時は俱に色白く皮皆皺紋あり。其大なる者切片を口に含みて夜を過ぎて皆化す。而して滓無し、小なる者は口中に含む三夜皆化せず。大なる者煎湯の色淡、小味。小なる者は反つて濃厚。二種俱に日本の倭地に出づ。而して小なる者何を以て色味獨り厚きか、豈生産の土又同じからざらんや。……又一種亦東洋に出づ。近ごろ奉天旅順等の處の者皮上紅紋あり。云ふ彼倭國中亦之を珍とすと言ふ、其力更に十倍すと。此に於て舶商多く貴價を以て售得て中土に轉販す。今蘇州東洋參店あり、専ら此の參を市る。蓋し上年壬子●の冬●西紀一七●三年●江浙疫痘遍く小兒に染し、死する者千百計を下らず。教ゆるあり東洋參を服し能く漿を助け毒を解くと。之を服して果して驗あり、遂に大に時に行はる。藥内に入る須らく飯鍋上蒸透、曬乾、磁瓶を用ひ收存すれば、方に蛀壤を免る。……

王孟英の『王氏醫案』中の處方に、東洋參を使用せるの點々としてあり。

【三】朝鮮人參に對して支那に於て此名を命じたるもの。

『本草綱目拾遺』……又一種の東洋參、高麗新羅一帶の山島に出づ。支那に於ては往々朝鮮を一の島視せり。

關東と接壤、其參遼參と相似て氣も亦同じ、但だ微かに薄きのみ。皮黃に、紋粗く中肉、油紫、屠舞夫携來す。予曾て之を見る據つて云、性溫平、價十換を求む、言ふ產蓐之を服せば最も効ありと。其力遼參に譲らず。

【三】日本參なるや、朝鮮參なるや不明のもの。

同治四年校刊の『欽定戶部則例』關稅東海關江蘇省海州雜貨稅則の部に……東洋參每百觔捐錢參仟文……とあり。光緒年代の重訂蘇省水卡捐章に東洋蓐每百觔各稅壹兩……とあり。

日本人參に刻印のことに付ては、

明和八年三月徳川幕府の『御觸書』に、朝鮮人參の内、上並兩品へ、此度一根毎に極印いたし。唯今迄の通定値段を以て可相渡。勿論肉折、細鬚、割人參、右五品共武士方、町方、在望の者へ相渡候……云々……とあり。

『參人參識』……藍水をして其炮製を掌らしむ。その炮製の数、年毎に二三千斤或は四五千斤參膚に官字印記あるもの是なり而して此を海内に廣む……云々其後伊奈君をして其炮製に與かしむ。正字印記の者はなり、近來は各方産地の者みづから製して以て縦まゝに發賣す。因て又嘗て今市上のもの多くは印記なし。

◎ドクニンジン 毒人參

〔^{中野}田中〕日本植物志』に學名をドクニンジン屬の *Conium maculatum*, L. の日本名に此名を充て、猶……二年草。莖面に暗紫斑。葉に數回羽狀裂，終裂片は披針狀，鋸齒一缺

圖のンジニクド學物植用藥 田柴山下



第三百四十三圖へどくにんじんヲ示ス。(a)ハ一個ノ花・(b)ハ果實・(c)ハ其ノ横斷面トス。(Giesenhagen.)

刻。繖梗，小繖梗各多數，總苞，小總苞各三五。花は白色。果實は扁卵形。猛毒。栽培。……と記さる。

『^{下山}藥田 藥用植物學』には……

トクニンジン。Conium maculatum 歐洲に産す。有毒のアルカロイド Coniin (C₈H₁₇N)₂₌₄₂
Conicein (C₈H₁₅N)₂₌₇₂₄₂, Conhydrin (C₈H₁₇NO)₂₌₁₆₇₂ を含有す……とあり。

(附記) 昔希臘に於てソクラテスが毒物の入りなる酒を仰きたりと云ふ。日本の
翻譯に毒人參杯を仰ぎたりとあるものあり。或は此植物なるか？

◎土根人參

ドコンニンジン

掘りだての土の附着せる人參の名稱。現に北海道、會津、信濃、出雲、栃木等の日本人
參産地に通用せる名稱。略して土人參とも云ふ。

朝鮮、滿洲に於ては之を水參と稱す。但異なるは、内地に於ては洗ひ上げたる人
參は土根人參と稱せざるも。朝鮮に於ては洗ひたるものも亦水參と稱する點にあ
り。

◎土佐向

トサムキ

徳川後期に於ける藥肆醫師等クロウト間に稱呼せられし上人參の名。

『岡本和語本草綱目』に……長澤道壽は土佐に居れり、世人稱して土佐の道壽と呼ぶ。

道壽療病に藥物の上品を擇び用ゆ。今に土佐向と稱す極品也……。惟た朝鮮大人參の黄色、潤肥、重實なるを藥店に所謂土佐向極上の品を揀び用ゆべし……とあり。

長澤道壽は曲直瀨玄朔の門人土佐の人後京都に居る。世人稱して土佐の道壽と云ひしは當時の名流永田徳本を甲斐の徳本、田代三喜を古河の三喜と謂ひし如く。其出身地を稱するは名聲の大なる醫に限れり、道壽力めて藥材の最良品を使用せしにより、當時の良藥の本場堺市の藥肆に於て、最良品たる藥材は土佐用又土佐向ナギと稱するに至り。道壽の死後に於ても、永く其土佐向なる名稱は使用せられたり。されど後には此名稱人參のみに残りたる如し。

◎土

參

ドン

其土地産の人參と云ふ意、土人土語等の土と同じ意味なり。

清の陳扶搖の『祕傳花鏡』に……土參一名神草、一名土精、一名血參、南浙に産す。四月開花、細小粟の如し、藥絲の如し白色。秋後實を結ぶ生青熟紅……とあり。何物を指したるか不明なれど、悉く人參の異名を用ひたるより推せば人參によく似たるものなりしなるべし。

『小野本草紀聞』に花鏡に土參と云ふあり、即ち和參を土參と呼びて可し……とあり。徳川時代の本草學者往々此花鏡の土參を以て日本の竹節人參に宛てしもの多し。されど學問上よりは之を承認するには資料乏しと謂はざるべからず。

土人參の項を見るべし。

◎土 精 ドセイ

人參の古代に於ける異名。

此名『名醫別錄』に出づ。又『異苑』にも出づ。李時珍は『本草綱目』に於て……地の精靈を得る、故に土精、地精の名あり……と説明せり。

『大清經』には地黃の一名を土精とせり。

韜按するに藥名に精の字を付せるは道家の書に多し。此名蓋し本と道家より出でたるものならん。『吳普本草』にも人參の一名を土精とせり。

地精の項參照すべし。

◎土 黨 參 ドタウシン

清代に現はれたる人參擬似品の一種。

土黨參の名稱は、山西の上黨郡に非ざる他地方の上黨參の意『植物名實圖考』に下の如く出づ。土黨參 雲南に生ず、根は參の色の如し、紫花、蔓生、葉莖白汁あり、花は奶樹に似たり而して白し、蓋し一類……。

上黨人參の項を參見すべし。



圖の參黨土考圖實名物植

◎トチニンジン

柄人參

トチバニンジンの項を見るべし。

◎トチノキノニンジン

柄の木人參

トチバニンジンの項を見るべし。

◎ トチノハニンジン

栴の葉人參

『古今要覽』竹節參の事を敘する條に……トチノハ人參俗稱ウコギ人參。按に此葉小なるものはウコギの如く、大なるものはトチの葉の如し故に此名あり……とあり。

トチバニンジンの項を見るべし。

◎ トチバニンジン

栴葉人參

竹節人參の一名。トチノハ人參、トチノキ人參、トチ人參、トチハラ人參等の名あり。『小野本草記聞』には和參●竹節人參●の方言として、トチ人參、トチバ人參、トチノ木人參と記載し。其方言の地方を示さず、同人著『本草綱目啓蒙』も亦同一の記載あり、又同著『大和本草批正』に……節人參の條に……雜木の山の陰地に生ず、トチノキの下に多し。故にトチノキ人參と云、漢名竹節參……とあり。『耕本草綱目啓蒙圖譜』にはトチ人參を竹節參の直根のものとし、トチバ人參を藥名考を引用して竹節參の横根の

ものとして區別せり。『纂葑堂人參錄』にはトチ人參を熊野人參直根をの一名とし、七葉樹の下によく生ず、故に名く……とあり。輒曰、熊野人參を同地方にてトチ人參と呼びたること無し、又同地山邊には枌の木の發生多からざりし如し。『熊谷廣參品』には……和人參竹節人參の一名トチノ木人參……とあり、『醫代古今要覽』には……竹節人參の横生根のみの名稱としてトチノハ人參を掲げあり。

『飯沼草木圖説』にはトチバニンジン土參……とし竹節人參全部の名稱とせり。

『倭訓栞』には……トチ人參は七葉樹に似たるなり、美濃、信濃にてトチ原人參と稱す、トチの樹の下に能く生ずるをもてなり、對馬にてシラタケ人參と云ふ……とあり。其記述粗漏にして何の植物を指したるや不明なれど。竹節人參を指したること明白なり。

輒案するに。此名稱に付ての説の一は。枌の葉に似たるにより名くと謂ふと雖も。枌の葉は小葉七出又は八出、人參は五出掌狀なれば相似たりとは言ひ難し。第二説のトチの樹の下に多きより名くと謂ふ方、其義に近きが如きも竹節人參の生ずる處皆枌の木あるに非ず、蓋し本と飛彈信濃等枌の樹甚だ多き地方の方言なるべきか、而して此名稱は徳川時代に於ても餘りに廣く行はれたるに非ず、然るを明治の植

物學者、大抵竹節人參の日本名としてトチバニンジン〔飯沼愨齋〕の名を採用せるは、『愨齋の草木圖説』に本づくものなるべきも、妥當ならざるに似たり。

◎ トチハラニンジン 栲原人參

トチバニンジンの項を見るべし。

◎ トトキニンジン

徳川中期に見はれたる擬似人參の一種。

ト、キの語原は朝鮮語の變訛なるべし。

服部範忠は『人參譜』に於て……登々岐人參即ち沙參也、按ずるに其功人參に亞ぐ。

人參の弟と謂ふべし、故に和名轉言して登々岐人參と謂ふ……と頗ふる牽強附會の説を爲せり。

『頼原大和本草』沙參の項 日本にてト、キ人參と云ふもの沙參なり、葉は杏葉に似て莖は桔梗の如し。根には桔梗の如なる心なし、輕淡なり、春苗を生ず、秋多く小花をひらく、紫碧色なり。其形つりがねに似たり、根は人參に似て味甘し。又ツリガネ人

參と云、筑紫の人シテンバと云。本草の記載によく合へり、小兒は生にて食ふ……とあり。『小野大和本草批正』には……ト、ギ人參、ツリガネ人參共云ふ、南沙參なり北沙參なき時代用すべし。根は紙くづを束ねたる如にて心なし花は薄藤色なり白もあり……とあり。

韜曰く、此說確かならず。南沙參、北沙參の名は『本草綱目』に出ず、清代に至つて始めて見はる『本草逢原』に……沙參南北二種あり。北なる者質堅性寒、南者體虛力微なり『藥性考』南沙參形粗黨參に似たり、而し硬し味苦性涼……『本草從新』には北沙參味甘苦……白實長大なる者良し。南沙參……色稍黃形稍瘦小にして短。近頃一種味辣を帶ぶる者あり用ゆべからず、亳州に産す。とあり以上の記載によりては其形體の全貌を察すべく甚不足なればなり。

『山本大和本草』には……ト、ギ人參は砂參也……とあり『松平本草正譌』には……沙參俗名ツリガネ草、江州伊吹の邊にてト、ギ人參と云ふ『小野本草綱目啓蒙』には、和人參の部に……對州ト、ギ人參沙參方言ツル人參の事……とあり『小野本草啓蒙名疏』には……ト、ギ人參 沙參……とあり『鎌井本草正譌』……ト、ギ人參同名あり。沙參 鄉藥本草加徳……とあり。

相當に古し。『蜀本草』に……今沁州、澤州、箕州、平州、易州、檀州、幽州、嬀州、并州、並びに人參を出す。其山太行と連亘相接するが故也……とあり。此等全部悉く眞の人參には非ざりしなるべし。『海藥本草』に……沙州參は短小用に供へず……等の記載あり。されど土參なる名稱は『圖經本草』に……今河東諸州及泰山皆之有り……江淮間一種の土人參を出す。苗の長さ一二尺葉は匙の如くして小、桔梗と相似たり。相對生、五七葉を生ず根も亦桔梗の如し。而して柔、味極めて甘美、秋に紫花を生ず又青色を帶ぶ。春秋採根、土人或は之を用ゆ……とあるに始まる。明の陳扶搖の『秘傳花鏡』に土人參異名土參、神草、土精、血參、南浙に産す。四月花細きこと粟の如し、藥は絲の如く白色。秋後實を結ぶ、生青熟紅、性最も燥を喜ぶ……『建陽府志』……百丈紅 一名土人參……『直省志書』……大姚縣土産 土人參、方山に出づ、體粗糝にして性燥、藥料に入らず……『本草綱目拾遺』……土人參各地皆産す。錢塘、西湖、南山尤も多し。春二三月苗を發す藁艾の如し。而して葉細小、本の長さ二三寸石綠色を作す。日に映じて光あり。土人夏月を俟ち其根を採つて以て藥に入る、俗粉沙參と名く……。又同書に……土人參俗に觀音山貨と名く。形人參と無二、亦糙熟之分ちあり。出所一ならず、中白絲の心あり味淡なり。親しく台、溫、處州及新昌、嵯縣人此參を貨る者あるを見る。

……未だ其性を考せず亦未だ用過せず、南沙參の如し誤用する者多し……。『本草從新』……土人參 ……其參一直下行土に入る最も深し。……江浙に出づ俗名粉沙參……『王安采藥方』……土人參 陰虛を補ふ、茯苓に對配し、熬膏、楊梅結毒を治す……。『百草鏡』……土人參、切片三兩陳紹酒を用ひ飯上蒸熟、分つて三服と爲し吃完すれば。即ち白下行滑、竅孕婦亦た白帶初起を忌む……。

〔附註〕植物名彙に左の記載あり。Cium pratense, D. C. 土人參(H. M.)
右(H. M.)とあるは=Henry, Aug.,-Alphabetical list of Chinese names of plant ined. なり。

以上の記載によつて、明清に於て土人參が一種の名詞化せるを見るべし。蓋し人參の價漸騰して其不足補缺に困み。各地種々の人參擬似品見はるゝに至りしこと、吾徳川中期と同一狀況に在りしに職由するものなるべし。猶土人參と名稱付けずして、唯何々人參と稱する、實際の土人參頗多きことは、本卷の各所に出づるにより考すべし。特に、人參の入手し難き雲南方面に最多きことに注意すべし。

〔三〕 日本の人參。

徳川の中期以降擬似人參の現はれしこと支那を凌駕せりと雖も。土人參又は土參の稱の用ひられたるもの甚少し。

『小野本草記聞』に……花鏡に土參と云ふあり、即ち和參凡てを指す。竹節人參のを土參と呼びて可し……『山本土參考』は吉野人參に關する記述あり中に……土參 和名直根人參、吉野人參……とあり『小野本草綱目啓蒙』……には胡蘿蔔の和名の一を、ドニンジンとせり。

『内藤古方藥品考』には……土淺 春苗を生ず亦三椹五葉、官淺の狀の如し……云々。竹節參の名稱とせり。

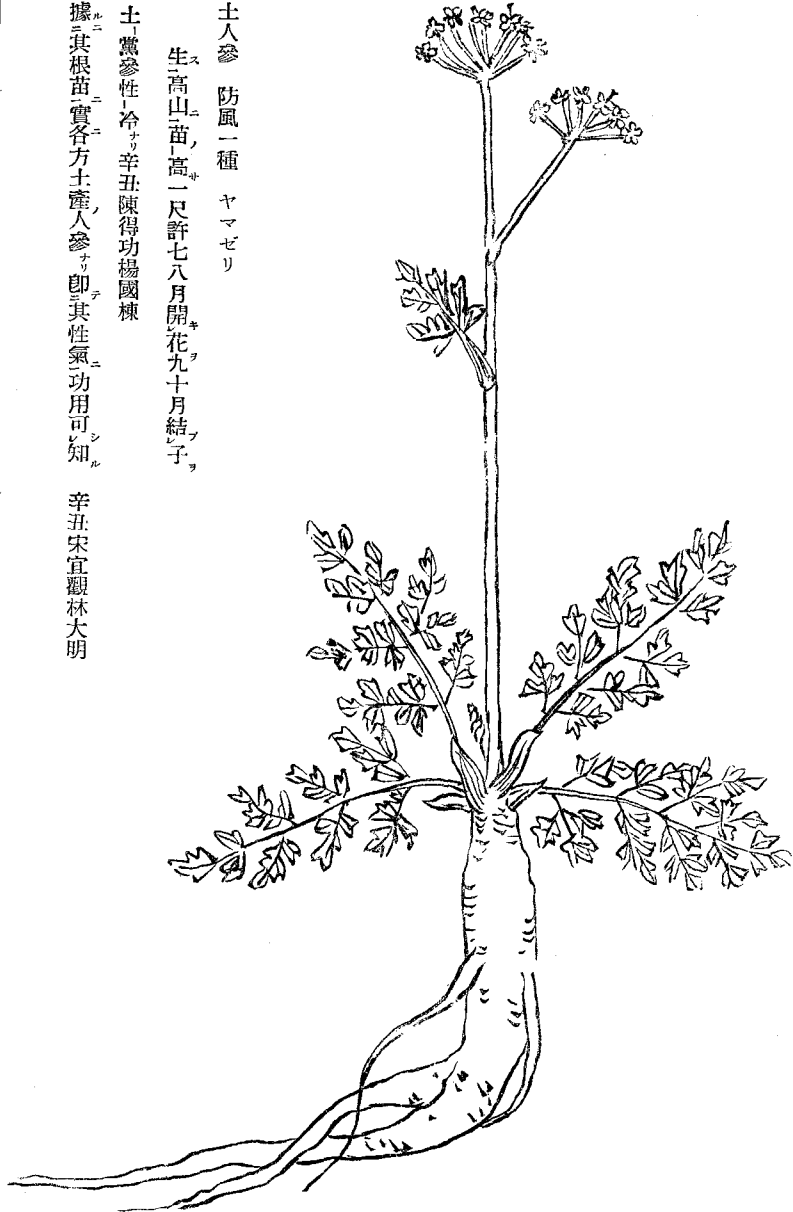
『其崎草木圖譜』には竹節人參直根の者の圖の傍書に 土參秘傳、芳野ニンジン。今は芳野にては採つくし紀州境にて作るよしなり。莖葉竹節ニンジンと同じ。たゞ直根なり、……とあり。

『奥質問本草』なる書は著者が琉球産のある植物を支那各地の學者に書面にて質し、其回答を編纂したるものなるが。中に土人參防風一種ヤマゼリとあり。此土人參なる名稱は支那の學者の回答によるもの也。而して圖あり。何の植物かは不明本圖に就て見るべし。

要之に日本に於て、土參又は土人參と呼ばれたるものは、竹節人參、食用胡蘿蔔、及右琉球産の植物の三種なり。

琉球吳繼志 質問本草 所載土人參の圖

本書は著者が四十年間に涉り琉球産の植物を圖形或は標本を送り清國各地の學者等四十餘人に質問したるものなり 旁記楊 陳は廣東の人宋 林は福建の人也



土人參 防風一種 ヤマゼリ

生^ス高山^ニ苗^ニ高^シ一尺許^ハ七八月開^キ花^ヲ九十月結^ビ子^ヲ

土^ニ黨^ニ參^ニ性^ハ冷^{ナリ}辛^{ナリ}丑^ニ陳^レ得^ル功^ハ楊^國棟

據^ルニ^ニ其^ノ根^ヲ苗^ニ實^ニ各^々方^々土^々産^ス人^々參^{ナリ}即^チ其^ノ性^ハ氣^ハ功^ハ用^ハ可^シ知^ル

辛丑宋宜觀林大明

(附記) 質同本草の著者吳繼志は假名にして。其本名は、玉城親雲上翁允溫なること。雜誌本草七號に於て伊波普猷氏の考證あり。

〔三〕 別個の意味に於ける日本の土人參。

日本の北海道、會津、下野、長野、出雲等の各人參生産地に於ては。掘りだての土の付きし人參を土根人參又は土人參と呼稱す。徳川時代よりの呼稱にして、現に今猶通用せり。

土根人參並土參の項參照すべし。

◎ 土 木 參

ドモクシン

滿洲の土木名地に於て産せし自然生の人參の名稱。

此名初めて方密の『物理小識』に出づ……土木參 明潤白からず……參を出すの土木は古の北口外に在り、向宜府の土木に非ざる也。居易録、土木は懷來城の北三十里、本名統幕鎮。隋書高關道椽德城。漢稱之を北參と云ふ……とあり。

享保十一年長崎在留八番船主俞枚吉が滿洲の生きた人參に共に採參紀略、俞枚吉が密かに部下の人を滿洲に入込ませしめ、苦心慘憺、官禁を犯して人參を採り來りし顛

末を記せしもの竝に人參譜。人參種植方法等を記せしものを幕府に上れり。其人參譜中に……土木昔亦參を生ず、今復生せず……とあり。

享保二十年幕府が長崎役人をして、在留支那商人に遼東參の形容を問はしめ、其間答を記録せし書面中に……答……遼東人參紅色を帶ぶる者を土木人參と謂ふ。江南の俗之を油熟參と云ひ、白色を帶ぶる者を白熟參と云ふ……問、所謂遼東參如今每歲齋來る參と形狀同じからず……答、土木は遼東の地の參、形皮薄く微かに紅色、遼東深山中の産參と同じからず。昔年夏商貴國に携來すと雖も、然も價低し故に復た携來せず……云々。

右『稻生著水原著』庶物類纂』丹羽貞機増補記事に出づ。

『トワモシ麤幼雜貨譯傳簿』に、長崎在留清商の人參名稱を列舉せる中に……土木ドモ判事參を稱す。朝鮮上參、唐山の人之を寶とす……。

輒曰く、此記述誤なるべし、土木參は滿洲奥地の産、判事人參は朝鮮人參なり。或は當時長崎にて其誤稱を通用せしかも知れず。

『音人參識』に……稻若水云、兪枚吉乙卯上る所の土木參と稱する者、一根重さ九錢六分、色紫黒、紅を帯び堅實、朝鮮參と全く異なり。體實氣厚ふして餘味あり、朝鮮の者に

勝る。

奉古極品地道吉林清水仁仁木大山大蔘壹百計實柒錢



代時羅韓 存保所嶼出城賢局實專
りあ記き如の上 本標入箱の來傳りよ

輒曰く、當時長崎に在留せし清商の多くは南京の出身人にして北支那の事情に通せず、故に人參に對し言ふ所確實ならず、又土木^{ドモ}の地名は滿洲各地に在り。豆滿江即ち土們江のドモも亦同一語系に屬し蒙古語なるが如し。其何れの土木なるや不明なり。

又土木參なる名稱近代に迄殘れり。現に總督府專賣局に藏する舊韓國時代より傳來の土木參の標本あり、右圖の如し。此標本は今より三十五六年前のものにして、富家技師(韓國時代)が滿洲より買來せしものに屬す。其形態より見れば確かに吉林産なるが如し、右圖に就て見るべし。

十
行

◎内局參

ナイキヨクシン

李朝後期の官用語、内局に納むる人參。

内局とは内醫院の別名。内醫院は「經國大典」に……御藥を掌和す……とあり、宮中の醫局なり。此に納むる人參を内局參と稱し、特に良品を提納せしめたり。「萬機要覽」に……内局御供參、慶尙道羅參、春等二斤秋等二斤、江原道江參、春等三十斤秋等十斤……とあり。以上純祖王時代の事右國初は貢物として産地より貢納す、爾後増減あり、後には錢納となる。又後には買上の形式となり、代價の幾分を下付す。右の外大同參其項を其項するべの幾分と。江界蔘物實の幾分とを以て内局參とす。純祖時代の其總額三十七斤十三兩二錢なり。

此人參必ずしも王の藥用にのみ使用せざりし事は、「公私見聞錄」に、仁祖の時人參の價騰貴し、民間に於て得べからざる時。戚里王のの婦人が微恙あらば、其家の子弟が藉りて以て利を罔せんとし、陽に病劇しと稱し。獨參湯の生材を請ひ得て之を賣つて利益を獲しを。仁祖が其詐を看破し。内局に命じて右の如き場合に細かに剉みて交付し、賣買するを得ざらしめし記事あり。

◎ナガハチクセツニンジン 長葉竹節人參

竹節人參の項を見るべし。

◎並 人 參 ナミニンジン

上人參の項を見るべし。

◎南 咳 參 ナンガイシン

清代に見はれたる人參擬似品の一。

『本草綱目拾遺』に……王釋堂云ふ、時下盛んに行はる。一種、福建の長樂參、廣西の南咳參の二物頗ぶる以て儼として。臺參、油熟と別つ無し……云々。とあり。

◎南禪寺人參 ナンゼンジンシン

徳川時代に於ける擬似人參の一種。京都南禪寺附近に産せらるゝにより名けらる。三葉人參の項を見るべし。

◎二 甲 子

ニカフシ

滿洲に於ける人參の形態上より見たる種別名。

『東華輯要』に人參の二種のもの指す滿洲語なりと出づ。

◎肉 折 人 參

ニクヲレニンジン

折人參の中の品種別。其比較的大なる者を云ふ。

折人參の項を見るべし。

◎ニ コ タ

爾古多、爾古太、爾己太、尔己太

ニコタ又ニコタグサ。之を日本の人參の古名となすもの。

日本古代に於る文獻に漢字「人參」を日本の自生植物の名稱に充てたるものを、年

代順に列記せば左の如し。

(一) 出雲風土記 著作推定年代
西紀七三三年頃 人參 カノニゲクサの名無し。
リ。ニコタの名無し。

(二) 藥經 大素 同 七八八年頃 人參 和名加乃爾介草、又爾古多草、又加
乃三支草、又久蕙乃伊亦名人銜異。

(三) 新撰字鏡 西紀九〇〇年頃 人參

久萬乃伊有人云
加乃爾介久佐。

(四) 本草和名同 九一年頃 人參

和名加乃介久佐。一名
念已太。一名久末乃以。

(五) 和名鈔同 九二四年頃 人參

和名加乃仁介久佐。一名久末
乃伊とありニコタの名無し。

(六) 延喜式同 九三〇年頃 人參

の傍訓に、尔コタクヒ。丹參の
傍訓にも、爾コタクヒとあり。

(七) 醫心方同 九八九年頃 人參

和名加乃爾介久佐。一名
爾已太。一名クアクイ。

右の傍訓は、同書撰著者が自から傍訓を爲したるものなりしや否に付考究の餘地あり。又延喜式に人參と丹參に同傍訓を爲したるは丹參を人參と誤りてなしたるものとの説も立ち得べし。其點に付ては丹參の部に説あり、併せ見るべし。

此語原其他の解釋に付ては、徳川時代の學者に種々の説あり。

瀧澤馬琴は『玄同放言』に於て、爾已太は似兒草なり左と太は横音相通ず人形に類するの意、萬葉集に「蘆埴乃中之似兒草、爾故餘漢我共咲爲人爾所知名」の歌を引きて説明を試み。森立之は『神農本草經攷注』に、本草和名の念古太を蓋し念加之義。古太の急呼、加と爲る。則ち久末乃以と同義。國産直根及竹節參之名其苦味熊膽と一般故に此名有る耳との説を述べ。屋代弘賢は『古今要覽』に於て……爾古太 按に、此即爾古介の訛傳なるか、又は太字は介字の誤なるか、又字典に苦唐韻康土切。集韻。

韻會に孔五切、音筈とあれば、爾古太は卽似苦膽にて。古多爾と全く同じ意なるべし。再按に、延喜式に丹參を爾古太久佐と訓し、大同類聚方に、邇古多、味苦久ムガク香之、無毒九月採取、日爾乾ニハカシラ而用といへるに、こたは卽丹參の和名にして、此物の一名にあらず。又新撰字鏡ニハカシラに、苾字を爾古多と訓し、東人云。加乃爾介といへる苾は、爾雅に蒞苾萑カバといへる苾にて、卽薺萑なり、これは紹興本草に圖する滁州兗州等の人參は、皆薺萑をさしていひしたぐひに、古はすべて其根の人參に相似たるものに、其名を假借して。またにこたともかのにけともいひしものなるべし。……古多邇大同類聚方按に龍膽の一名苦膽コクタンといへり。此物も其味苦き事苦膽の如くなるにより。またこたにと名づく。或云にこたに、にこたは原一名にて、いづれかあやまりなるべしといへり、なを考べし……とあり。

以上の諸説を評せんに。馬琴の説のニコ草は萬葉の歌の中に二三あり、何れも人家近く生へる草にして之を人參とは認め難し。森立之のニコタが苦しの義とする説は、古の國語に如此變化又は轉訛したる例無く、語音學上よりも古言學上より云ふも取るに足らず。屋代弘賢の第一説ニコタをニコゲとするの説ニコゲの音と草類とは何等の關係なし。大同類聚方云々の説は、同書既に亡び、今殘れるは偽書なり、さ

れど多少は甚殘軼の一部を傳へたりとも見られざるにあらず。ニコタ、コタニの兩名多少攷究の價なしとせず。然して之を同名とするも、苦き意味の古言とは關聯ありとは考へられず。又新撰字鏡の莖字に付てはギの部に愚見を述べあり。

必竟するに、以上の諸説皆強ひて古語をコジ付けんとする誤に陥れるものにして、何れも承認し難き説と謂ふべし。結局不明とする方學問的なるべし。

徳川中期に至り人參が社會的に重要な物品となるや、學者は此古代のニコタ、カノニゲグザ、クマノキなる古稱名の者を研究し、此を竹節人參に充て、或は眞の人參と充つる等、議論異説ありしことは、クマノキ、カノニゲグサの項に詳述せり。其項を參照すべし。

◎ ニコタグサ

ニコタ、カノニゲグサ、クマノキ丹參等の項を見るべし。

◎ 二 頂

ニチャウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。

抜頂熟の項を見るべし。

◎日光人參

ニックワウニンジン

下野日光山より産出する人參。此名稱三様の意味に使用せられたり。

〔一〕徳川幕府が官營して、日光山に栽培せし人參の稱。

〔曾藥人參識〕に……日光人參種參の異名なりと出づ。

〔二〕日光山に産せし竹節人參の名稱。

〔小野本草綱目啓蒙〕。〔同本草記聞〕。〔倭訓栞〕等には、是を竹節人參の名として記載せり。

曾繁は『藥品出產志』に於て下野人參の名の下に日光竹節及漢種とせり。

松村博士『日光山植物目錄』には日光人參を五加科 *Panax repens* Mx トチバニンジンと出づ。

〔三〕日光及其附近の山中に生ずる一種の植物。

現に之を日光人參と稱し、之が採取を副業とする者あり。今市の藥肆に於て之を買入、販賣せりと云ふ。其植物の形態は高さ一二尺葉は鰭狀にして赤き實を結ぶと

云ふと雖も、何植物たるか不明なり。昭和七年七月輶日光にて聞知。

◎二 條 尖

ニデウセン

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。拔頂熟の項を見るべし。

◎人 衙

ニンガ

『本草和名』に人參の異名として出づ。支那の典籍には此名無し。

『^{之森立}神農本草經攷注』には……本草和名衙衙に作る名義未詳……とあり。『神農本草經』の別名に人衙あり。本草和名の衙は衙の誤なるべきか。

◎人 形 參

ニンギョウシン

人參根が人の形に似たるより命せられし名稱。童子參、童參、孩兒參、有體人參、體參等と名異り義同じ。

『名醫別錄』……根人形の如き者神あり……。『吳普本草』……根手足面目あり、人の

如き者神……。范蠡『計然』……上黨に出る者狀人に類する者善し……。『晋書』石勒載記……勅の居る所の武郷北原山の下、草木皆鐵騎の象あり、家園中人參を生ず。花葉甚だ茂る悉く人狀を爲す。『隋書』五行志……高祖の時上黨人あり、宅後毎夜の呼聲を聞く、之を求めて得ず。宅を去る一里の所、但だ人參一本枝葉峻茂するを見る。因て掘て之を采る、其根五尺餘、體人形を具ふ。呼聲遂に絶ゆ……。

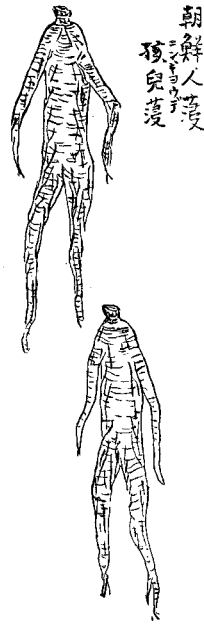
『南海藥譜』……新羅貢する所、手足の狀人形の如し。或は云ふ邯鄲に生ずる者根頭足手あり、面目人の如く能く兒啼を爲す……。云々とあり。

猶人形に似たる人參の記載は『異苑』、『墨莊漫錄』、『廣五行記』、『本草洞詮』、『五雜俎』、『郡芳譜』等、等數多くの文籍に出づ。冗を煩ひ之を省略す。

朝鮮の文籍には、新羅崔致遠の「桂苑筆耕集」に著者が在唐中、淮南都統高駢の生日に、海東人形參一軀を獻じたる書翰載せあり。「東文選」に、海東人形參の詩あり。「於于野談」に、成俛が山中にて一老人に遇ひ、其老人が成俛に食をすゝめ、それが小兒の糞たるものなりしにより、之を食はず。後にそれが人參なりしことを覺り後を追ひしも及ばず。其老人は唐の天寶年代に僊化せし人なりしこと出づ。

日本には人參傳説上の怪奇なる人形參の記事なし。支那の本草醫學書の入し後、

其記載に囚はれ、人形人參を以て偉効あるものと信じたる學者多し。尤中には稀に其虛妄なることを覺りし、曾槩の如き學者もありし。又小野蘭山の如きは拘はるべからずとせり。



柴正簡古方藥品考の圖

田村藍水は『人參耕作記』に於て……又人形の人參あり、一萬根程の内に一根ならでは無きもの也……とあるは、實地經驗の結果より出でたるものなるべし。其他本項に關する記事は夫々他の項に述べたれば茲には記述を省略す。ヒトカタネの項をも見るべし。

◎ 人 形 樣

ニンギョウデ

人形參と同じ其項を見るべし。

◎人

銜

ニンクワン

人參の古き異名の一。銜は官の階級を云ふ。

此名『神農本草經』に出づ。李時珍は『本草綱目』に於て之が説を爲して……名醫別錄に一名人銜銜は乃ち藎字の訛也。其成るや階級あり。故に人銜と曰ふ……と説けり。

森立之は『神農本草經攷注』に於て……銜は服食の謂、人之を服すれば則虚を補ふを云ふ。人に可なるの草、故に人銜と名く。蛇之を食ふの草、之を蛇銜と云ふ。麋好み食ふの草、鹿銜と謂ふの例なりとの説を述べたり。

『藥經大素』には人參和名加乃爾介草、又爾古多草、又加乃三支草、又久萬、乃伊亦名人銜異の記載にして、借音なる如く、何と讀むべきかは不明。或はニカトとして之れをニコタの音に近づけたるやも知れず。

◎人

徼

ニンケウ

古代支那に於ける人參の異名。

此名『雜要訣』に出づ。

◎人 身

ニンシン

人參の古き異名。

此名『事物異名集』に出づと狩谷掖齋の『延喜藥錄』に出づ。

◎人 參

ニンジン

支那前漢末より文献に見はれし藥草の名稱。

古代の人參に付ての考證に付ては、第一卷人參思想編に詳説すべく。茲には其概梗を述ふるに止む。

ニンジンのシンの漢字、人蔘、人蔘、人蔘、人蔘、人蔘の六種に作らる。ニンの字稀に仁に作らる。「大東韻府玉譜」には仁參とあり。

其字別に付ての議論には『六書正譌』に、人蔘上黨に出づ、草、浸に従ふ、聲俗參を用ゆるは非也……とあり。李時珍は『本草綱目』に於て、蔘及蔘字、後世字文の繁に因り、遂に參星の字を以て之に代へ簡便に従ふ。然して誤を承くる日久ふして亦變する能

元文三年明解り人參の根より
 下野縣寶都を産す根を御種生
 一葉二葉と云ふ二葉のハ二根を
 分り一葉五葉つゝ四年中ハ
 三根五葉と云ふ中葉は白根を
 実屬く其葉色黄く其根は紅色に
 多し中ハ三根の根を産して
 長大なるハ五根七根ふまり花
 穂も枝とも凡

人參

御種兒

一年の物

二年の物

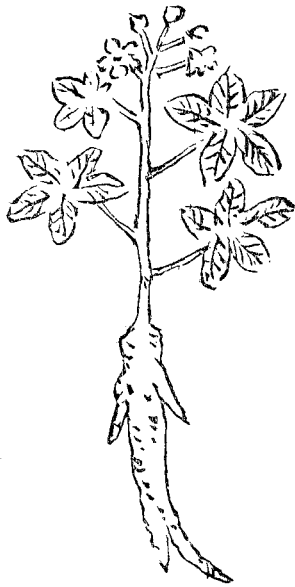
四三六一



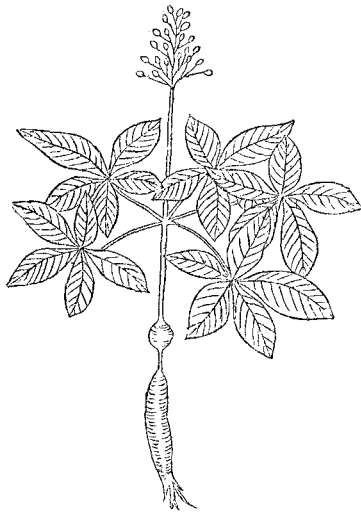
圖の譜圖草木園滋綺岩

はず。惟だ張仲景傷寒論、尙ほ葶字に作る……とあれど。此の説の當らざることは、傷寒論より古き『急就篇』『春秋運斗樞』等には參字を用ひ。又宋版の傷寒論にも參字を用ひたるものあり。唐宋の文籍は大半亡佚して傳はらず。其重刻、再重板等悉く原書の字體を存じたりとは言ふべからざればなり。森立之は『神農本草經攷注』に於て、說文葶本字、參假借なりと説けり。曾槩は『人參識』に於て、前漢の潜夫論中に、人參とあるを擧げて、李時珍の説疎なりと説けり。

本草綱目人參の圖



植物名實圖考人參の圖



『集韻』人葶、葶字或は葶蓼に作る。『佩文韻府』。『遇韻』。『韻略』等に葶通して參に作

る……とある如く。古書に於て他に例ある如く同音の異字を通じて使用したるものにして、用字の前後の區別、又其書き分けに意義あるには非ずとするを、妥當なる見解とすべし。

二に造形の關係を見るに、シンの數種の字造形にニンジンとは關係なし。參は其主產地たりし、山西太行山が、天の參星の分野に當るより名けられしとの説。李時珍竝清の陸烜の説く所。而して參の字は參星象形説あるも、正説に非ず。結局シンの各字造形とは何等の關係を有せずとすべし。

三に字義に付て考ふるに、人の字、人形より出てたることは、人形參の項に述べたる如く數氏の説あり。其外に『廣玉篇』に……其狀人に類するを以て名く……とあり、貝原益軒も『大和本草』に於て……人形の如く手足ある者あり故に人參と云ふ……と説けり。此には異論無しと雖も、事實に於ては、田村藍水の述べたる如く人形を爲せるものは一萬本中、一二あるに過ぎず。且又根の人形を尊ぶるの思想は人參よりは商陸の方古く、猶他にもあり。西洋にはマンドラゴラあり。精究審攷を要すべきなり。

シンの字に付ては、王文孫の『醫光』に參は三才也との説。『乘雅』の、人天地に參す

るの説。黄求繡の『本草求真』に述べたる、其功天地に參して並び行はるゝ等の説あり、何れも附會たるを免れず。侵の字に付ては李時珍の漸侵成長の義なる説あり。此説も首肯し難し、何となれば、漸進成長は人參に限らず總ての植物皆然らざるは無ければ也。

人參の形態に付ては、第四卷人參栽培篇に記す、茲には記載を省く。

◎胡蘿蔔 ニンジン

食用蔬菜の名稱。

此植物は歐羅巴の原産にして世界各地に分布栽培せられ食用に供せらる、二年生の蔬菜、學名より言へば繖形科(Umbelliferae)ニンジン屬(Daucus L.)の D. Carota L. 初めはセリニンジン、ハニンジン、ハタノニンジン、ドニンジン等稱せられしも。後遂に單にニンジンと稱せらる。一方の藥用人參と相混同するにより明治年代に至り之に別つために、食用ニンジンとも稱せらるゝに至れり。

此植物が支那に入りしは、『本草綱目』に胡蘿蔔……時珍が曰く、元の時胡地より來る。氣味微かに蘿蔔に似たり故に名く……とあり。『群芳譜』にも……胡蘿蔔、黃赤

二種あり、長さ五六寸伏。夏の三伏、内畦種に宜し。肥地亦漫種すべし……元の時虜中より來る故に胡蘿蔔と名く。甘辛毒無し、氣を下し中を補ひ、胸膈を利し五臟を安し、人をして健全ならしむ、益ありて損無し。子は久痢を治すとあり。

日本に渡來せしは、何時代なるか又何れの地よりせしかは不明なり。

『貞原本草和名抄』に……胡蘿蔔 今案するに、世利仁牟志牟と稱す……とあり。『小野本草綱目啓蒙』には……セリニンジン略してニンジン 漢名胡蘿蔔食用の者なり……。

『松平本草正譎』に……胡蘿蔔、俗名ニンジン。野蘿蔔俗名葉ニンジンとあり。『本朝食鑑』にはニンジン即胡蘿蔔なり……小なる者人參に似て之を截斷すれば、赤暈圈を爲す。故に俗人參と稱す……とあり。

森立之は『遊相醫話』に於て、胡蘿蔔は茴香の種類なるべし、花葉子根且香氣まで甚だ相似なり、本草茴香亦菜部にあり、共に下氣補中の功あり味共に甘辛無毒なり倭俗ニンジンの名あるも、亦平淡無毒菜中の王なるより名つけしならんか……と説けり。

『倭訓栞』にせり人參は胡蘿蔔也とあり。『小野本草啓蒙名疏』に……ハタニンジン胡蘿蔔 臺仙……とあり。『松岡食療正養』には……胡蘿蔔セリニンジン 達曰く、胡蘿蔔俗名芹人參と名く。平

安種ゆる所の者根赤く味美なり。他處の者色黄に味劣る。達曰く咳嗽久しく愈へ

す、胡蘿蔔根濕紙に裏み燻き食ふ……とあり。井原西鶴『俗つれづれ』に、難波の下屋敷に四十餘りの飯炊らしき女と並びて、葉人參畑なるに松菜などいふも揃へて、醬油かけにしてよ……云々とあり。

青木昆陽は『昆陽漫録』に……潜夫論の忠賢篇に世を治むる眞賢を得ざるべからず、譬へば猶病を治するに良醫を得ざるべからざるが如し。病を治するに當り人參を得べきに、反つて支羅服を得ると……云々とあり。明の『錢希言集』に……按ずるに、支羅服今小朱蘿蔔也。吳越間有之、之を丁香蘿蔔と謂ふ。其形參の如し、故に誤用するのみとあるを引用して。潜夫論の支羅服を食用人參とせるは誤也。

日本の民間に於てニンジン好きは何々好きなる諺あり。今に言ひ行はる。此ニンジンは食用人參を指したるものなるべし。此植物繁殖力を旺盛にすべきヴィタミンEの含有多し。俚間の諺も一概に捨つることを得ざるべし。昔し希臘に於ては、之を嗜好せば性慾を旺盛にすると稱せられ。エデプトに於ては、今日にても右と同様のことを稱せりと謂ふ。

人參の同訓同字はまぎれ易し、今多くは藥用人參を人蔘と作り使用する風あり。明治四十一年農商務省が官報にて發表したる統計中人參あり、此材料提出の時徳島

岐阜其他二三縣は之を食用人參と誤り多量の生産高を計上したるものを發表、後に於て取消せし事實ありたり。

◎人 參 果

ニンジンクワ

一種の果實の名、何に因り人參名あるかは不明なれど。下記の詩によれば、之れを食へば、不老長壽の効あること、人參に同じと云ふより名けられし如し。

『葦葭堂人參錄』に……翁榴菴花曆詩に云ふ、人面果一名人參果。兩種あり、一は蕨婆面に作る、耳目口鼻悉く具はる。熟する時口を開いて笑ふ、嬰兒の頻りに笑ふ如し。則ち落つ矣、種は朱欒の如し。但だ核は人面の如し、亦耳目口鼻悉く具る。並に醜馥酸甜、其の口に可なるを極む。俱に汝南に出づると云ふ、鼻保の産神功あり。一に云ふ紐佩服餅並に能く長生、南方有果擬還丹。女貌盈々具五官。笑口頻開深意在。芳心欲託寄言難。傳真核美如其面。沁齒飴香宛若蘭。仙品千秋潛海外。徒高參價比琅玕」とあり。

『本草綱目』人面子 海南に出づ、又廣中に出づ。樹は含桃子に似、桃實の如し。春花夏實、秋に至つて方に熟す。蜜煎甘酸食ふ可し。其核の兩邊俱に人面に似たり。耳

目口鼻畢く具はらざる無し……とあるものとは別なる如し。

◎人參草

ニンジンサウ

『^西章 人參辨』……に三極五葉の和人參は本草の人參と合す。山人世に人參草と云ひ傳ふ、其前言、山中に相傳て猶今に有ると見えたり……とあり。

竊曰く、此記載には何れの山中の人が人參草と呼びしや、それか何年代なるやを示さず。何れの山奥の事とするも、蓋し此名は古代より傳へられたるものに非ずして竹節參が世に出てし徳川中期後に呼び做したるものなるべし。

◎人參三七

ニンジンサンシツ

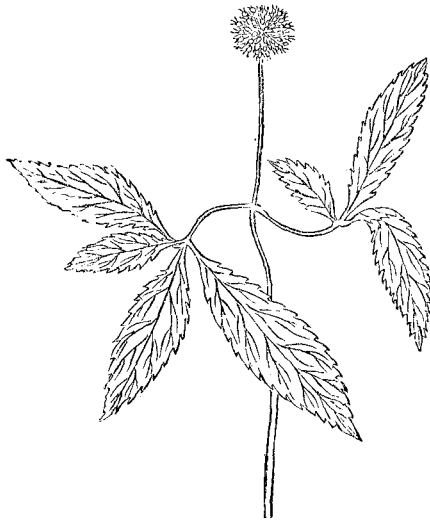
清代に見はれし擬似人參の一種。

此の名稱は清初馮兆張の『錦囊秘錄』の處方解毒寶丹中に出でたるを初めとすべし。されど、其前既に人參に代用せられし……と推察すべき記載左の如くあり。

一、本草綱目の記載

- (1) 三七一名山漆、一名金不換。

產地、廣西南丹諸州番峒深山中に生ず。采根暴乾、黃黑色團結せる者狀、白芨に似及び長き者老乾、熟地黃の如く、節有り。味微甘にして苦、頗ぶる人參の味に類す。或は云ふ試法、末を以て猪血中に摻し、血化して水と爲る者乃ち眞。彼人言ふ、其葉左三右四、故に三七と名くと、蓋し恐らく然らず。或云ふ、本名山漆、其の能く金瘡を合する漆の物に黏する如きを謂ふと、此



圖の七三土及七三考圖實名物植
七 三 (一)

(2) 説近し、全不換は貴重の稱也。
一種の三七。

同書に曰く、近頃一種の草を傳ふ。春苗を生ず、夏高三四尺、葉は菊艾に似て勁厚、岐

尖有り、莖に赤稜あり。夏秋の間、黃花を開く、藥金絲の如く盤紐愛すべし、而して氣香しからず。花乾けば、則ち絮を吐く、苦蕒の絮の如し。根葉味甘く、金瘡折瘡出血及上下血症を治す甚効。是を三七と云ふ、根大に牛蒡の根の如し、南中より來る者と類せず。恐く是れ劉寄奴の屬、甚だ繁衍し易し。



圖の七三土及七三考圖實名物種
一の七三土 (二)

二、本草綱目拾遺に至つて其記載甚多岐となる。

(3) 『金沙江志』人參三七は昭通府に産す。肉厚ふして明潤、頗ぶる粵産に勝る。形ち人參の如く中油熟。

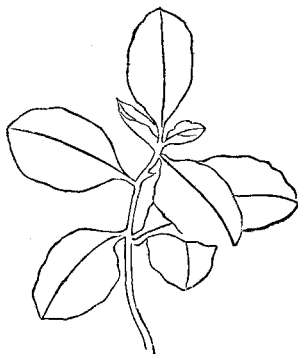
(4) 右記載によれば、粵産の人參三七ありと認むべし。

- (5) 一種、王子元が滇に官たりし時、外舅に贈り、本書の著者趙學敏が實見せりと云ふもの。狀參に較べ紅潤大小亦等しからず。味微苦甜、皮上間竹節紋を帶ぶる者。
- (6) 劉仲旭少府曰ふ、昭通別に一種の蘇家三七を出す、儼として人參の如し。明潤紅熟、彼土人虛弱を患ふる者之を以て雞服に蒸し汁を取る……云ふ是照參なりと……ある者。
- (7) 宦游筆記に、三七は廣西南丹諸州の番峒中に生ず。每莖上七葉を生ず、下三根を生ず故に三七と名く。土人入山探つて暴乾、色微黃、形白芨に似て長し、而して節ある者其味微甘にして苦頗ぶる人參に類す。故に人並びに人參三七と稱す……とある者。此物(1)と同一物なる如し
- (8) 『識藥辨徵』に云ふ、人參三七、外皮青黃、內肉青黑色、銅皮鐵骨と名く。此種堅重味甘、中黃を帶ぶ、右江土司に出づ、最上品となす。大き拳の如き者打傷を治し、起死回生の功あり。價黃金と等し……とある者。
- (9) 『百草鏡』人參三七味微甘頗ぶる人參に類す。入口津を生ず、切開すれば、內瀝青色、外皮細ふして綠……とある者。
- (10) 同上、一種廣西山洞より來る者形白芨に似る、長き者老乾薑の如く黃、節あり味甘

きこと人參の如く、亦人參三七と名く……とある者。

(11) 同上、又竹節三七と名くる者あり……とある者。

右の外『本經逢原』には……三七廣東産、形人參の如しとあり『本草從新』にも二種の三七を擧ぐ。其記述(1)(2)と大抵同一なり『植物名實圖考』にも、三種の土三七を擧ぐ。



圖の七三土及七三考圖實名物植
二の七三土 (四)

以上の中のある者が徳川の前期より廣東船により、日本に將來されしこと次項に記す如し、此人參三七の名稱近代まで残り使用さる光緒年代、重訂蘇省水卡捐章に。參三七、角觔捐錢貳百文……とあり。

三、日本の記載

支那の三七が最初日本に入りし時は、別に問題とはならざりしも。亞米利加人參が廣東より輸入さるゝに至り、廣東人參或は廣參と云ふ名稱何時の間にか出來上り。其廣參の中には眞實の亞米利加人參もあり、又廣東三七もありしより。茲に端なくも學者間に於て廣東人參は三七なり或は然らずとの問題を生ぜり。

『本草綱目啓蒙』には……天和中に渡りし廣東三七、今持ち傳ふる者、形節人參に似て大小あり。小なる者は今廣東の蘆頭と呼ぶ者と一般なり……とあり。『松平本草正

譚』には……綱目、廣西に生ずと、何物たるを知らず。時珍が一種の草と云ふ、和産の三

七と形狀相合す……とあり。『小野廣參説』には……三七の品類に數種あり、廣參なる

もの其三七の内の某る者に該り、アメリカ人參に非ざることを詳説せり。『内藤古方藥

品考』には……廣東人參數種あり……先哲蘭山の此を以て廣州三七と爲す者是也。

案するに元文中奸商廣州三七根を以て人蔘に似せ偽つて廣東人蔘と爲す。邦俗之に従ふて察せず、漸く目に狎れ耳に熟する久ふして遽に改め難し……とあれど、廣參の大部分はアメリカ人參なりしことも亦事實なり。飯沼愨齋は『草木圖説』に於て、廣參説の誤を評し、蘭山の西書を讀まざるの致す所なりとせり。

廣東人參芍藥樣、アメリカ人參等の各項參照すべし。

(附記) 日本に於て三七或は三七草と稱する者は別圖二に該當し學名は菊科の *Gynura japonica*. にして血止め毒蟲裂傷の民間藥として葉を揉み、其汁を塗る。此植物各地に培養せらる。其渡來は足利の末期なりとの説あり。



圖の七三十三及七三三考圖實名物植
三の七三三 (五)

◎人參 正果

인삼
인삼정과
ニンジン
センセイタクワ

人參を食品に製造したるもの、名。現在に於ても朝鮮内に於て通用する名詞。則ち人參を砂糖又蜂蜜にて煮詰めたるもの、ブルジョアの食料品、又は料理の一品。桔梗根を同様に製したるものを桔梗正果と稱す。

明治二十四五年の頃と推定す。大院君が開城留守韓敦源に與へたる書翰中に：

……「宴需錢事與今於人蔘正果何如是喜事耶、城役方張、宴需錢何爲以送之、人蔘正果此爲宴需之用爲之耶、甚是浮覺而喜事者也、諒之」とあり。

「萬機要覽」財用篇、供上の部……朔贖物贖價米二百六十五石十四斗九升每石六兩蔘菩價米八十五石……とあり、此の人蔘は藥用に非ずして食用なり。蔘菩價米とあるは、人蔘と桔梗を買上げる代價としての米を、供上するを云ふ。此人蔘は正果に製する原料なるべし。

正果の字義に以ては、「正言覺非」に……正果 藥果、油蜜果之一名。之を果と謂ふは、形變じて名存ずる也。星翁李儼のことの云。「藥果之を造果と謂ふ、猶假果と云ふがごとき也」古へは蜜麵を以て造つて果子の形と爲す。或は棗栗の如し造果と云ふ。……蜜を藥と云ふ、藥飯の如し……とあり。右引用せる「星湖懷説」の文は……粗粒蜜餌の項に支那のことを記述し……此類東人通じて之を造果と云ふ。凡そ眞に非ずして假爲する者俗談皆之を造と謂ふ。意ふに其初蜜麵を以て造て果品の形を爲る、是に於て又此名あり。後人其形の圓なるに妨げられ累高する能はず。故に方切して之を爲る。而して果の稱猶有る也……とあり。輒按るに、砂糖は昔朝鮮に於ては貴重なる藥品にして、宣祖王が蒙塵の時臨津に至りたる時、食無く、隨行の醫官が鬻に納めたる

砂糖を河水に溶きて進めたる記事あり。其食用として一般に普及したるは、近代のことにして、五十年を出てず、故に此人參正果も蜂蜜を以てするものが原製なるべし。而して正の字或は製の訛ならん乎。

◎人參糖

ニンジンタウ
인삼청

人參を食料品として製したるもの。則ち人參を砂糖漬にしたるもの。此品今朝鮮にて高等食品として用ひらる。

日本にも人參糖ありしことは『蜀山人一話一言』……に天和二年癸亥十二月桔梗屋菓子銘を數十列舉しある中に人參糖あり。御菓子司本町一丁目御菓子品々桔梗屋大椽とあり。此菓子如何なるものなるやは明かなざれど。人參を使用したるものなるべし。

◎人參木

ニンジンボク

一種の灌木喬木に對して人參との緣故により命せられたる名稱。

此命名は徳川中期に於て人參熱の甚盛なる頃に於て何人かにより命せられたる

ものなれど。擬似人參各品の如く薬用とする目的に於て名けられしに非ず。唯人參との縁故によりしものなり。

〔一〕 其葉が人參に似たるにより命せられしもの。

『小野本草綱目啓蒙』には牡荊を人參木とせり。『江馬元益藥物本草圖彙』又同じ。右牡荊とあるは、支那原産にして江戸時代に往々庭園に植へられし。落葉灌木馬鞭草科 Verbenaceae のニンジン木屬 *Vitex* L. のニンジン木 *V. Cannabifolia*, Sieb. et Zucc. を指するものなるべし。

又『不明本草圖説』に、ニンジン木、一種三葉のものあり花はコシアブラノ木と云ふとあり。圖あれど何科の植物か不明。

〔二〕 和名トチノ木即トチノ木科 Hippocastanaceae のトチノ木屬 *Aesculus* L. のトチノ木 *A. turbinata* Blume を此名に充てたるもの。

此名は古昔高勾麗人の歌と云ふ「背陽向陰、三極五葉、欲來求吾、櫻樹相尋」と云ふ櫻の字をトチと信じたるものなれど、此れは當らず。

支那に於て櫻と稱せられしもの一物に非ず。尤も古きは『爾雅』の釋木中にあり、…：楨、木槿、櫨、木槿。郭璞の注に二名也とあり。又楨音段とあり、是は別物也。『柳邊

紀略』に銀杏に類す、器を爲るべし、其皮は繩に製し、火槍をひくべし、軍中の用に供すとあり。『吉林通志』高麗采蔭贊の註に、椴音賈。葉は桐に似たりとあり、『盛京通志』に……椴 按爾雅從段者音假、柚屬也。從椴者音段。木槿之別名。又一音段曰椴、椴註云白椴也、樹似白楊。今此の地の椴木、即ち爾雅之椴也、各山中皆之れ有り。微紅者を紫椴と曰ふ。堅實屋材及器皿と爲すべし。稍黄色なる者糠椴と曰ふ、其質鬆……云々とあり。

朴趾源「熱河日記の綱蘭涉筆」に……高麗人參讚欲來求我椴樹相尋。中國の文書多く此贊を載す。椴樹、桐に似て甚大陰多し故に人參其陰に生ずと云ふ。椴樹は即我國の所謂自作木、以て冊板と爲す、我國に至つて賤し。而して中原の墳墓皆此樹を種ゆ。青石嶺林を成す……云々とあり。「正言覺非」には椴者楸也……。東俗以櫛斗爲椴矣。方言假……とあり。

〔松村博士植物名彙〕には、左の如く記載さる。

Tilia mandshurica, Rupr. et Max.

(Tilia argentea, Bayer) oh-shina-noki オホシナノキ。

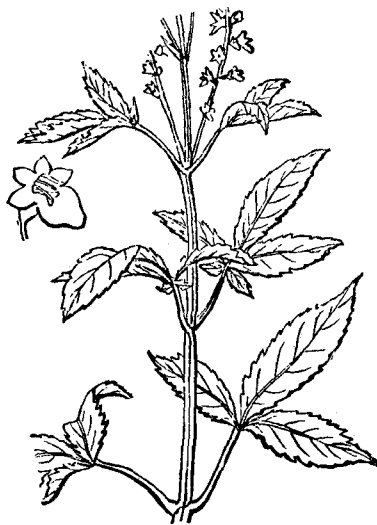
柎盛京通志) 椴樹 (H. N.) 成道樹 (H. M) 菩提樹 (H. M) 椴 (R.) (Peking) (RR11.104)

『本草通串』に『本草穿要』を引載して……人參木 椒樹は和名人參木と云ふ、其葉人參に似たる故名く。一名イドチ又イヌボウとも云。野州日光及木曾山中の竹節

著者不明本草圖説人參木の圖 原圖彩色



牧野博士日本植物圖鑑ニンジンボクの圖



Vitex cannabifolia, Sieb et Zuce

參ある邊に多し。豆州志に云、方言ウムノ、其葉五叉蕩に類す。天城小峰多く生ず、四月五枝端に簇々として細白花を開き、小子を結ぶ。木心空にして亦荆の屬也……と

あり。何科の植物なるかは不明也。

◎人 微 ニンビ

人參の異名。『名醫別錄』に出づ。

明の李日華の『紫桃軒雜綴』に……人參又人微と名く。微は亦微漸の義……と釋解せるも微漸に生長するは人參に限らず。總ての植物皆然り此說根據なき附會說と謂ふべし。『大平御覽』には人の字を久と作れるものあり。

◎ヌ キ ダ シ 拔出

藥肆の人參品種名稱。

朝鮮より渡りたる、單參と稱する人參は縱斷して一根を二つとし。其半片に人參の鬚折れ等を附着せる者。或は其鬚根碎等を人參の皮にて卷きたる者。それを分解し其ヒゲ折等を別箇とし賣りたる者の名稱。

此名『小野本草綱目啓蒙』に出づ。單參より碎小根をヌキ出せしもの市人の稱……とあり。

◎貫の木手

ヌキノキデ

徳川後期に於ける藥肆の人參品名。

『加藤和漢人參考』懿之の追加。扎ハの部に、鬚人參の中心に細き本根あり、是等の品も大人參に細工して造るが、此節の賣買になし……云々。

扎ハの項參照すべし。

◎念珠人參

ネンジュニンジン

珠參の項を見るべし。

◎ノコバチクセツニンジン

鋸葉竹節人參

竹節人參の項を見るべし。

◎ノウニンジン

野人參

野人參の項を見るべし。

◎野人參

又野胡蘿蔔ノニンジン

徳川中期後に現はれし、擬似人參の一種。其擬似は藥用人參に對してなるか、又食用人參に對してなるか不明なり。

『^{坂上}女參人參譜』に……野人參 正名黃花蒿、一名狗人參……とあり。『倭訓栞』には……ヤブニンジンは野蘿蔔なり。野人參とも云ふなり……とあり。又……ノウ人參は黃花蒿なり……とあり。『^{小野}山本草啓目啓蒙』に、人參の項に……ワラビニンジン、一名ワラビテニンジン即ヤブニンジン、ノニンジン、クサニンジンにして、救荒本草の野胡蘿蔔なり……とあり。又同項に……青蒿、ノニンジン、ノラニンジンの名あり……とあり。

『本朝食鑑』に……一種野人參なる者あり。而して形相似て之を用ゆるに堪へず野人參、竹節人參と同じ、其中蒿本あり細辨すべからず……と出づ。『^{松平}秀雲本草正譌』には……野胡蘿蔔 俗名葉ニンジンとあり。

此名一ならざしを知るべし。

青蒿は、又カハラニンジン。ノラニンシン丹波ヤブニンジン、クサニンジン大和等とも

稱し。菊科 Compositae のモモギ屬 Artemisia L. の *A. apiacea* Hance. として『改訂日本植物總覽』には、左の如く記さる。

越年草、全株無毛、根葉は叢生、細裂、裂形は線形、上葉亦細裂、裂片は絲狀濃緑にして微臭あり、莖高三五尺、上部分枝、梢頭枝端頭花は圓錐狀に排列、頭花徑二分許、花は綠黄色——河岸砂地、花候夏。 本州(中南部)

黄花蒿は、右と同科、同屬の *A. annua* L. にして、クニンジン、ホンバニンジン等稱せらる、植物學的記載は其項に出せり。



圖のチモサカ 諸國物植本日 土博野牧

ヤブニンジンとあるは、同科のヤブシラミ屬 *Tortilis* Adams の *T. Anthriscus* Gmel. として

一にノニンジン、ワラビハニンジン、ワラビニンジンとも稱す、前同書の記載左の如し。
 ヤブシラミ、ノニンジン、一年草、全株粗毛を布く、葉は二回羽狀全裂、裂片は長橢圓狀
 楔形、更に羽狀中裂、鋸齒縁、複繖形花序に於て總苞片は小數、線形、繖梗は五乃至九、小總
 苞片少數、線形、小繖梗亦少數、花は白色、萼裂片は刺毛狀、瓣片は倒卵形先端反捲、果實は
 卵形、長一分五厘、全面小刺を生ず、廢園路傍、花候夏、北海道、本州、四國、九州、琉球、臺灣。
 藁本は、前同科カサモチ屬 *Nothosyrnium* Mig のカサモチ *N. japonicum* Mig にして、前
 同書に左の如く記さる。

カサモチ、カウホン、多年草、高三四尺、全株細毛散生、葉は二回羽狀複生、小葉は短柄乃
 至無柄、廣卵形、銳頭、重鋸齒縁、複繖形花序に於て總苞片は三四、膜質、廣披針狀、繖梗は約
 十五、小總苞片は四五、膜質、廣長橢圓形或は披針狀、小繖梗は十五、花は白色、萼齒片は不
 明、瓣形は倒卵形、雄蕊五葯は白色、果實は球形、心脚、左右より壓扁——花候夏 本州(中
 南部)、四國、九州。

◎ ノラニンジン

野良人參

ノニンジンの項を見るべし。

八
行

◎ 煤

參

パイシン

清朝の後期に於ける人參僞似品の一種。

『本草綱目拾遺』に此名初めて出づ其記載左の如し。

煤參……陝西、西安等の處に出づ。形參の如く皮心俱に黒く青し、故に名く。施南柳太守云ふ、此參陝西華山に出づ。之を食ふ多ければ人を吐かしむ、其性亦劣る。味微苦、甘人參に同じ、功力は則ち薄きのみ……とあり。何の植物かは明かならず。

◎ 泡

パウ

滿洲に於ける製品人參の體質に對する名稱。

泡は借音なり、故に包の字も亦使用す、此土語を適用したる人參、包子、包丁、白泡、紅泡等々の名稱多し。

韞按ずるに、此パウは比較的圓形の者の、周圍は堅く中部の柔軟なるものに通稱する滿洲語なるべし。滿洲の小地名に包の名の付く處には概ね池沼あり。蓋し池沼も其周圍堅くして中は泥濘にて柔かなるものなればなるべし。『清文補彙』に……

凡物糠了泡了……とあり、『増補清文鑑』に…… 成色金、不足十成之曰

包……十成は純分のバアセントなり。又…… 泡、果名形似柚子内糠。又凡

物泡糠人參之泡乃不堅實無肉者とあり。又…… 凡物糠了。泡了……とあ

るにより其意義明かなり。

此名稱の記載竝に包字の適用を文献に見るに『盛京典制備考』道光二十七年盛京

將軍奏、變通葎課章程の中に……人葎七成、泡丁三成を準と爲す。數に照して收解、該

將軍核實督辦、此を欽め……とあり。韞曰、泡又渣泡と大體同意義にして、同書中に渣

泡ともあり。

成とは純分のこと。『柳邊紀略』に……關東人は參を呼て貨と曰ふ……半皮半肉

の者を糙重と曰ひ、空皮を泡と曰ふ。泡の多寡を見て貨の成色を定む。足色の者は

一斤の價銀十五兩なり……八九色は十二三兩、六七色は九兩、泡は三兩……云々とあ

り清の唐乘鈞『人參攷』に……蘇、行、分等參州の人の條に……客貨を將て三等に分つ

……又次色、浮白微紅にして質薄く肉少き者、條參に加へ入る者、名けて泡丁と曰ふ……

……とあり。猶本書には人參品名としての中に、泡頭泡條等あり『本草從新』には……

又人參内の一種白皮細長鳳凰城と名く、又一種皮糙體鬆、泡頭東洋と名くる者大に行

はる……とあり。

『通文館志』に景宗大王三年癸卯、戸部の咨中に……朝鮮人貿易包子仍は従前の例により聽従……とあり。

朝鮮の國使が北京に赴く時一人に付人蔘八十斤を齎すを許し之を八包と稱したり、此包子もツツミの義に非ず人蔘の泡より由來するものと考へらるゝも未だ確乎たる根據を見出さず。

此泡名稱は長崎の人蔘貿易により、日本にも傳はり黑人筋に通用したれども、異なる意味にも亦解せられたり。

『人蔘或問』本書は享保丙辰長崎奉行に命じ、幕府が遼東人蔘の形態育種法等を在留長崎清商に問はしめ、其問答を筆記したるものなり。其中に朝鮮參と遼東參の形態差異を問ひし答の中に……泡參は土中に在て壞損有り功力全からざる也……とあり。

『之飲谷廣參品』バウシイ泡參ボウスイ

並人蔘、此參多く服すれば必ず脹滿を憂ふ……『醫會人蔘識』には

……泡參一名湯參綱目。一名服參物理小識一名製參朝鮮此方の藥肆ウキデと稱す。本草に云、薄夫人蔘を取り完浸して汁を取り自から賸る、乃ち晒乾して售る之を湯參と

謂ふ。方密物理小識に云泡參或は服參と云ふ。又朝鮮譯士大賀常安云、朝鮮にて人參糕を製したる其滓を製參といふ、云ふ所の泡參なり泡は水上浮漚即ち其質の空虚を云此説當にしかり……とあれど輒曰其説まさに否らず。湯參の名の謂れなき事其項に説けり。之を泡參に結び付くは所謂附會の説也。畢竟『物理小識』泡參の一名に服參とあり、當時日本にてブクと稱せられし下等人品は本草綱目の湯參なりとの謬説多かりしに感染せしに基くものならん。流石の學者も滿洲の土語たるを知らず。泡を水の泡と解せるはアイキョウなりと謂ふべし。

品種名として泡頭、泡條等の名あり、拔頂熟の項を見るべし。

◎ 筴

様

ハウキデ

徳川期支那朝鮮より入りし、人參の形態により名けたる藥肆の名稱。



筴 藤 成 結 志 圖
人參 如 此 根 形 爲 開 城
圖 參 於 此 有 在 實 見

『田村藥肆人參類集』に：第九中品なる者藥肆箒手の人參と云ふ……云々。又……第四十三上黨手の朝鮮種人參一、箒手朝鮮人參二種……と實物を示して門生に講議せるを記されあり。『陸薩藤志』には箒様の圖出づ右に採録せり。

◎芳

草

ハッサフ

現に滿洲の南方に使用され居る、人參の土語、滿洲よみボンツォー。今朝鮮國境の山人參採取業者も入山中此れを隱語として使用せり。

滿鮮山人參採取業者は、入山採取中は特に隱語を使用する風あり其數百餘に上る。

◎包

參

ハッシン

「一」李朝の官用語。北京に赴く朝鮮の國使並其隨員が旅費として、又貿易品として携帶する人參の稱。

包は八包の略。八包の起原は、世宗の十一年明の皇帝に歲貢中の金、銀は國産に非ずとして其免除を請ひ此前より屢請ふり。同十二年明朝より白綿紙を以て之に代ゆること、して其免除を受け、多年の宿案解決す。此以後朝鮮より北京に赴く使節は、金、銀を携

帶することを遠慮して。其代りに旅費並貿易用として、一人人參十斤を齎すこと、なる。其後其額變更せられて八十斤とす。則ち銀二十五兩の代りの人參一斤、銀二千斤の代りの人參八十斤なり。其後に至り此内規屢變改せられ。或は銀のみを、或は銀と人參とを携帶すること、なりしも。常に之を八包と稱せり。李太王の末年には九包となれり。

而して此八包の稱は、何の時代より初まりしかは不明なり。「萬機要覽」に……燕行八包 國初赴京の人員銀貨を帶ぶ以て盤纏貿易の資となす。宣德年間に至り金銀は國産に非ざるを以て、奏請して貢を免せらる。是より赴京賣買銀貨を齎すを禁じ、人參を以て代ゆ。人各十斤、後漸濫觴、其數浸多、崇禎の初に至り每人八十斤を齎を許す、此所謂八包也……とあれど、初めより之を八包と稱し、又包參と稱せざりしことは。世宗以下其當時に近き歴代の實録に其文字無きに因つて明かなり。「經國大典」にも……赴京員人定數物貨、使以下人參各十斤……とあり包の字無し。「通文館志」に……崇禎年間加定八十斤、禮部咨內請朝鮮進貢人、帶來人參交易、每人八包。不過八十斤。以爲恒式。斤數包數查實開具。到部昭咨查看。不許朦朧多帶。出槐院臚錄とあるを以て包字を使用せる初のものとするべく。此名稱支那に起りしが如し。實

録には正宗實錄丁巳、備邊司が進參節目を定めたる中に……一、譯官八包の蔘を以て充入する古例なり……とあるを初見とす。

「續大典」……に八包外數外銀蔘齋去者、以一律論罪との規定を追加し。「増補文獻備考」に……中國曆節曆は曆を受くる使の赴く時節日多至使兩行齋す所の額を定め、一百二十斤と爲す名けて包參と曰ふ……とあるは是亦正しからず。此時より前既に包參の稱あればなり。

「通文館志」に、大司諫李元禎の啓に……臣庚子顯宗元年の年に於て京に赴く、庚戌顯宗十一年又燕に赴く、則ち商賈販賣前に倍蓰す。車輛彌ちて數十里に互る、所見極めて駭然たり。此れ八包の法廢し閑き、商賈の銀を齋す、限節ある無き故也。請ふ八包の法を申明し、更に濫雜の弊無からしめよ……とあり。

日本に於て享保以降人參の栽培發達し、且つ長崎の支那貿易盛となりし以來釜山の倭館貿易不振となり。日本より銀貨の輸入杜絶し、爲めに朝鮮國內の銀融必塞し八包の銀其半を充たすことを得ず。一時貿易關係の大官商人通譯等窮乏に陥る。

「英宗實錄」戊辰八月司譯院提調李周鎭の啓に……譯官支へ難きの弊敢て此に仰達す。八包多くは數に充たず、彼の中酬應年に増加今七八千兩の多きに至る皆八包中

に出づ……とあり。正宗の朝に至り、紅參の支那輸出盛んとなり、銀の窮乏を救へり。此時に至り、八包の人參皆紅參となる、而して此八包の法の制限は少しも行はれず、特に紅參となりし以降、一層密輸出の量を増大したり、「嘉梧藥略」に其數を擧げて、正宗丁巳一百五十斤、統祖辛未二百斤、同壬辰一千斤より八千斤、憲宗丁亥四萬斤、哲宗辛亥一萬五千二百斤より二萬二百斤……とあり、日清戰爭後朝鮮は獨立國となり、北京行使節も亦廢せられて八包は此時自然消滅するに至れり。詳しき第三卷人參經濟篇に記す。

【二】官製紅參の稱。

前項の如き歴史を有せし包參は、韓末紅參の製造盛となるや、其官製と民製とを問はず、全部包參の名を以て呼ばれ、紅參蒸造所は京城に在ると開城に在るとを別たす包所（ホツ）と稱せられたり。

「中京志」に……二十一年甲申李太王の代 明治十七年包參五萬斤を以て内庫に付す。名けて

別付參と曰ふ……とあり。開國五百三年明治二年國政改革の時、七月三日の發布勅令に……包參既に本衙門度支 衛門の專管となる譯院の内規概して釐革を行ふ。應行の條例左に列す……とあり。

附記、清朝に創參の文字あり。典制文中に散見す、王士禎の『居易錄』に……新定創參の例、創參人親王一百名人參七十勛世子一百二十名人參六十勛……以下郡王までの記載あり。

此創はホルの意なれば、包參の包とは關係なし。包參の包の字ツツムの意に非ずして、泡即滿洲語人參品種名と關聯ある如し。泡の項參照すべし。

◎泡

參

バウシン

〔一〕 滿洲人參の下等品の名稱。泡の項を見るべし。

〔二〕 支那朝鮮より舶載せし人參の下等品。

『麤幼雜貨譯傳簿』に……長崎に於ける清商の人參品名を記せる中に。

パウレン
パクスエン 包參 並

人參。此參を多服すれば、則必ず脹滿を憂ふ。唐山甚だ之を尙ばず……とありは、本項に該當するが如し。『小野蘭山本草綱目啓蒙』には……湯參は集解に詳なり、舶來あり。

譯傳簿に一名泡參と云、和名ウツカ人參、一名ブク人參。形沙參に似て白色、甚輕虛にして味最も薄し。用ゆるに堪へず、是人參膏を煎じ取たる滓なり……とあり。

輒曰、湯參の説意義なきこと其項に説く、併せ見るべし、又ウツカの項をも參照すべ

る。

【三】 桔梗科の一植物。

『松科
博士植物名彙』に左の如く出づ。

Adenophora Bockiana, Diels (*Campanulaceae*) 泡參(D.)

Adenophora capillaris Hemsl. 泡參草(D.)

右(D.)は = Diels, *L-Dei Flora von Central China*. Engler's *Botanische Jahrdücher für systematik,*

pflanzen geschichte und pflanzengeographie. Vol. XXIX. 1901

◎ 綁 錘

ハウスイ

滿洲に於ける人參の隱語。

『吉林地理記要』に……襪を採るを放山と云ふ、又挖棒錘と稱す。清の制禁采に緣り、襪字を言ふを諱みて然る耳……とあり、『吉林外記』にも……棒錘とあり。『滿洲物産字彙』に蓋平調査事項中……又都て栽培に係る者を總稱して綁錘と曰ひ。其園を綁錘園子と云ふ……とあり。

朝鮮肅宗八年上使朴鼎成、副使閔鎭遠、書狀官柳述の三使が北京に赴きし時の「燕行

録」に譯官金慶門手本の中に……探參の事彼人則ち之を挖棒槌と云ふ。其康熙四十八年己丑より始と爲す則ち人皆知つて之を言ふ。人各々言を異にす……とあり。則ち挖はホル棒槌は人參の事なり。

◎防 黨

防風黨參の項を見るべし。

◎泡 丁

パウテイ

泡の項を見るべし。

◎泡 條

ハウデウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。拔頂熟の項を見るべし。

◎泡 頭

ハウトウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種の名稱。拔頂熟の項を見るべし。

◎防風黨參

バウフウタウシン

清代に見はれし人參擬似品の一種。根の防風に似たるより名けらる。

『本草從新』……黨參：今眞の黨參久しく已に得難し。肆中に市る所の黨參は種類甚だ多し、皆用に堪へず。唯防風黨參は性味和平貴ぶに足る、根に獅子盤頭ある者眞硬紋ある者は僞なり。白黨は即ち此參を將ひて煮曬以て成す、原汁已に出づ用ゆるに堪へず……。

『本草綱目拾遺』……翁有良辯誤に云ふ、黨參の功用人參に代ゆべし。皮色黃にして横紋あり防風に類す故に防黨と名く。江南徽州等の處呼んで獅頭參となす……蘆頭大にして圓凸に因る也……とあり。

◎バカニンジン

馬鹿人參

クサニンジンの項を見るべし。

◎白 棍 ハクコン

清代人參の品種名。主として藥肆醫師等に通用す。

『藥業人參攷』に……白棍 質軽く皮泡、色黄白一ならず形頂熟の如し……とあり。

『麤幼雜貨譯傳簿』に長崎に於ける、貿易品の清商の稱呼を載せあり。其人參の部

に……白棍 ベエコン 白蝦 ヌビ 今之を並頭と稱す。

白棍 ベエコン 同上 白棍 ベエコン 挿金尾 ツアキンヒ 右並頭參を以て金參の尾を挿し之を偽造す、之を京

參と稱す……。

『愈枚吉人參譜』に……白棍 白泡の實せる者……

『人參或問』に長崎清商の答に……白根……今享保年中貴國に致す者は皆朝鮮參也……

……とあり。

◎白 熟 ハクジユク

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間（註）に於て命名したる品種別の名稱。

拔頂熟の項を見るべし。

◎白參

ハクシン

此の文字と名稱を以て古より今日迄稱呼せられし者に二種あり。

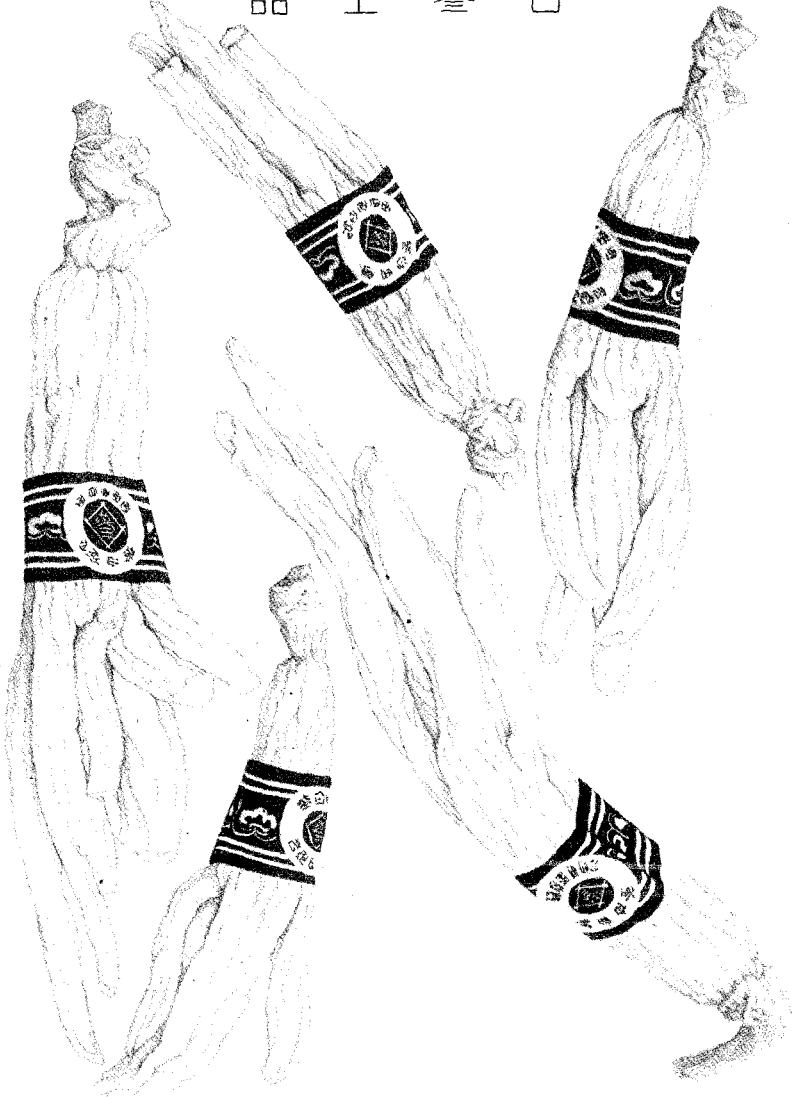
〔一〕沙參の古の別名『本草綱目』には此名稱『吳普本草』に出づとあり。

李時珍は『本草綱目』にて之に五行的附會説を爲し、沙參を五參の一に充て、肺に入る故に白參と云ふ……とあり。徐光啓『農政全書』に……沙參は太行山の邊にあり……之を白參と云ふ……とあり。『廣雅疏證』に范子計然を引て云ふ、沙參雒陽。陽雒陽は雒陽雒陽一名に出づ、白雒陽き者善し……とあり、何れも其根色より名けられしものならん。

〔二〕主として朝鮮の名稱白參は其色の白きに因り名けらる則ち上皮を薄く剥ぎて晒乾し製したるもの。此の名稱の普及は餘り古からず。『宣祖實錄』三十六年五月に明廷への進獻品に關して議論ありし項に……頃年進獻の白參易ゆるに草參を以てす。禮部の意に出づ、故に本國移啓して換封す……とあるを最も古き記載とす。

『中京誌』哲宗元年紅參の利益爭奪に因し、司譯院側と開城資本主側と紛訐ありし時、開城留守李是遠は紅參製造二萬斤外を悉く白參と爲さしめ、紅參の多量生産を制限し其價格を維持せし記事あり。蓋し白參なる名は紅參に對するものにして近代

白 蔘 上 品



開 城 製

の名稱なるべきも。其修製法は相當に古し。

此名今に朝鮮に於て通用せり、昭和六年の鮮内白參製造額は約三十四萬斤なり。日本人參生産地にも亦此白參の稱を用ゆ。而して内地にては多くハクシンと言はずハクサンと音讀せり。

◎白黨

ハクタウ

防風黨參の項を見るべし。

◎白條參

ハクデウシン

百濟參の項を見るべし。

◎把蔘

ハシン

人參を煮製し、晒乾し、數個をタバとしたるもの。

此修製法と其名稱は李朝宣祖王時代より創まる。今此の修製のもの無し。

「宣祖實錄」壬寅三十四年四月、王の傳に曰く：我國古へより曾て把蔘の名無し。

近年以來牟利狡詐の輩。別に新様の參を作り僭かに中國に賣る。此れに因り華人我國に出来る者の^{支那使節}こと 誅求督納民生を剝割す……云々。同三十六年三月の部に遼東欽差高大監より、中江の市に把參の出荷なきを責めたる照會公文の來りし記載あり。又同年五月に、廟議に於て、明廷へ進獻する羊角參は價高く得難く。中國人は把參を好むにより、是を以て易へんとの議ありしも。把參は大小長短を合し渾糝して體を成す者なれば。中に鐵片を入れる、等の詐術の行はるゝあり。若し萬一皇帝供用の時に發見せられなば、國體に關す。且つ把參は煮造するものなれば藥性を失ひ藥用に適せざるべしとの理由により。此議を行はざりし事記されあり。又「光海君日記」にも其即位の年中中江の市に於て把參の取引され居ること。又明使が把參を要求せしこと等の記述あり。「燃藜室記述」に……光海庚戌年例進獻人參常に生參を用ゆ。貢路遙遠未だ透濕を免かれず、差賀使俞大禎陳奏し把參を以て代ゆ……とあり。「文苑黻黼」に其奏文出づ。其中に明の應援軍の將より習ひ製すとあり。

『大清三朝事略』に……乙巳の春^{萬曆三十三年}三月上^{清の太祖}は命じて人參を煮製す……とあり。西曆一千五百九十年代より支那に於て、更に煮製の人參製法が盛に行はれ、之れが一般の嗜好に適し其需用に應すべく。朝鮮に於て把參なる一種の商品を製造

せしものにして。是れが後の紅參の起原と爲りしものたるを知る。

◎ハタノニンジン 加の人參

食用ニンジンのこと、ニンジン(胡蘿蔔)の項を見るべし。

◎拔頂熟

バツチャウジュク

清代後期に於ける滿洲人參に對する。蘇州參商に於て命名したる品種別。

『唐藥人參攷』に……參の店家に至るや、必ず逐一細揀して、分等次第し以て價値を定む。各自多く名色を立て五六十の名を取つて、以て人を眩す。歩を移せば形を換ゆ。以て執論し難し、總て自己の眼力辨別に在り……とあり。左の品名を列舉せり。

拔頂熟

紅潤圓綻、全乎是れ肉、每枝重さ一錢より四五錢に至る者。參の最も高熟する者。大小に拘らず。塘西の所の行、故最高熟參とす之を塘西貨と謂ふ。楊州の行熟參、反つて塘西に次ぐ。

統頂

細紅皮肉、圓湛、六七分より八九分一錢に至る者。

二 頂

細紅皮肉、或は色滯、稍頂熟に較ぶれば身瘦怯、六七八分の者。

次 頂

細紅皮肉、稍瘰皺、或は色滯り、或は瘦長、或は武相、五六七分の者。

大 揀 熟

細紅皮肉、圓湛、短壯にして四五分の者。

中 揀 熟

細紅皮肉、或は色滯、身長く三四五分の者。

中 熟

細紅皮肉、圓湛、二三分枝を爲す者。

小 熟

細紅皮肉、一分四五釐より、二分以外に至る者。

條 小 熟

細紅皮肉、身長圓瘦頭尾あり、一分以外の者。

短中

細紅圓澁枝を成す、一分上下の者。

大修尖

細紅皮肉枝數を成さず、皆大貨枝稍修下二三四蓋。而して戔梗の如く粗細なる者其力甚だ薄し。祇だ津を生じ渴を止め常病を調理すべし。或は蘆頭上横生する者、其性横行、指臂力無き者之れに宜し。

二修尖

大修尖に比し稍細し形は則ち同じ。

太參

細紅短小、自から枝數を成す。短中に比し更に小、或は瘦す三四蓋より一分外に剛る者。然して其短緊堅實なるは其力大參に下らず。

頂條

細紅皮肉、身細長、頭尾無し七八蓋より一分内外に至る者。

大條

細紅皮肉、最長五六蓋より一分に至る者。

短條

細紅大條を斷する如き者、蓋頭を成さず。

短丁

細紅蜂蝶の足の如く粗細なる者。俗蟻蝨腿と名くる者は也。

中條

細紅長短寸に盈たず、蜂蝶の小足の如く細き者。

光頂熟

光潤色明かにして粉粧して、頭尾を爲す如し、渺として粗皮無し。短圓文靜、短枝挺湛、或は傍枝あつて岐せざる者あり。六七分より一錢に至る者。

光二頂

光細圓湛、或稍長武、四五六分枝を成す。頂熟に較ぶれば少しく一等を減す。

光揀熟

光圓紅湛にして文、三四分枝を成す、二頂に較ぶれば又小なること一等。

光中熟

光揀に較べ又小なること一等、二三分枝を成す者。體色亦之の如し。

光小熟

一二分枝を成す者、中熟に較べ又一等を下る。

光大條

光圓にして長瘦、頭尾なし、一分外の者。

光小條

光圓にして長、一分内外の者。

頂兼皮

形體は頂熟の如し、而して細白皮紅肉なる者あり。輕重之に同じ。

大兼皮

形體は次の二頂の如し、而して細白皮紅肉なる者あり、輕重亦之に同じ。

中兼皮

形體は中揀の如くして瘦長、細白皮紅肉なる者あり。輕重は中揀中熟に同じ。

小兼皮

形體は小熟の如くして長短を分たず、細白皮紅肉の者あり。輕重中小熟に同じ。

頂糙

揀 糙 形兼皮に類して粗白皮、頭内亦白肉、實せず、稍頭紅を露はす、紅體大にして質輕し。

次 糙 形大兼に類して粗白皮の者、質亦輕し。

小 糙

形中兼に類して色滯、瘰癧長なる者。

紹 糙

形小兼に類して粗皮なる者、色紅なる如し、即ち小紅糙と名く。體質總て輕し。

鳳 參

形ち兼皮に類す、大小に拘らず、粗紅皮にして肉ある者、紹興に去路す、故に紹糙と名く。兼皮又紹兼あり、即ち兼皮の皮紅細結なる者。大小に拘はらず、去路亦同じ。

饜 鳳

質大にて頂揀中熟の如く而して細白糯皮梢頭紅暈あり。而して中敗絮の如し。
東洋必ず需む。

饜 鳳

質輕し、大小鳳參の如し、細白皮糯ならず、微かに鐵線紋コシノヒメなる者、亦洋し去る。

白棍

質益輕し、皮泡、色黃白一ならず、形と太さ頂熟の如し。

鳳梢

質鳳參の如くして細、長さ條の如く。小形なる者稍紅暈あり、接入鳳に鑲して以て鳳參に充つ。

片料

質輕、中にして肉ある者、皮色粗細黃白一ならず。浙人備へて潮透を以てし切片貿易す、頗ぶる熟參に似たり。奸商邪僧往々鑲節して人を眩す。然して尙ほ偽なる者に勝る。

糙條

皮糙皺にして細長、頂條の如き者。

泡頭

皮色黃白黒に拘らず、質輕し、重き白棍の如し、商人備て以て駢接し入て糙に混ず。

泡條

形中條の如くして泡白なる者。

鬚 條

細紅柴心の如き者。

淨 鬚

紅潤にして細きこと鬚の如き者。

參 蘆

乃ち參の蘆頭、苗を發するの處也、色多く白、毎に體鬆糙貨を以て斷ちて雜ゆ。

空 紅

細紅皮而して色嬌し中空にして熟する者。大小に拘らず。

白 熟

細糯にして白皮嬌嫩中空、兼皮の若き者、大小に拘らず。

箱 底

箱底は乃ち是零星の渣末、惡劣用に堪へざるの物俱に其中に入る。貨中の至底至賤の者也、都中稱して雜末と爲す。間ま落存の大段、内にあり。若蘇城に至り一たび市商の手を經れば大なる者、好き者俱に已に揀び去る。

◎葉 ニンジン

食用の胡蘿蔔のこと、其項を見るべし。

◎濱 人 參

ハマニンジン

徳川中期に見はれし擬似人參の一種、此名稱を以て稱せられしものに數種あり。
『小野本草綱目啓蒙』に和人參の部……佐州ヤマニンジン一名シマニンジン、ハマニンジン……羽州にてアキタニンジンと云眞の蛇床子なり……とあれど其植物形態の記載なし。

『熊谷廣參品』には……嶋人參 恕菴先生曰、佐渡所産の山人參一名嶋人參又濱人參と云、出羽秋田にて秋田人參と云、皆一物也、參類に非ず。佐渡満山此草を生ず、獨莖直上、高さ三尺計葉胡蘿蔔に似たり。開花白色碎瓊、又胡蘿蔔の花に似たり根黃赤色、胡蘿蔔に似て稍大。稻若水翁以て防風の類或は野蘿蔔となす。すべて砂山に多く産す……とあり『倭訓栞』には……島人參 一名濱人參、佐渡の満山に多し、又牡丹人人參と稱す、防風の類……とあり。

以上の記述によれば、蛇床子と秋田人參との種あるが如し。

蛇牀子と云ふ名稱の由來は。蛇が好んで其草の下に臥し、其葉下に子を養ふ故なりとの傳説による。別名蛇粟、蛇米等と稱し、漢藥方には女子の陰部の痒きもの、腫れたるものにも亦用ひらる。繖形科センキウ屬の植物にして、學名を *Cnidium japonicum*,



ンジンニマハ リゼマハ
圖の擬圖物植本日 士博野牧

Miq.和名をハマゼリ又ハマニンジンと稱せらる。『中野日本植物志』には其形態等を左の如く記せり。

宿根草、尺許。葉は滑澤、脚葉は二回羽狀、莖葉は單羽狀、羽片は更に羽裂——缺刻、終裂片は鈍頭。花序は葉に對生、繖梗五六、小繖梗三五——多數。總苞、小總苞各四六片、花は白色紫葍。果實は橢圓形。

◎ 婆羅門參

バラモンシン

唐時代の人參類似品、即仙茅の一名。

『海藥本草』に……其葉茅に似たり、久服すれば輕身、故に仙茅と名く。梵音呼んで河輪勒陀と爲す……とあり。『圖經本草』には……其根獨生す。始め西域婆羅門僧に因て方を唐の玄宗に獻ず、故に今江南呼んで婆羅門參と爲す。其功補人參の如きを云也……とあり。……仙茅は西域に生ず、葉茅に似て其根粗細節有り、或は筆管の如し。節に文理あり、黃色多涎、武城より來る。蜀中諸州亦皆之れ有り。今大庾嶺、蜀川、江湖、兩浙の諸州亦之れ有り。葉青く茅の如し、而して軟腹略潤し、面に縱文あり。又初生の稜欄秧に似たり、高さ尺許、冬に至り盡く枯れ、春初乃ち生ず。三月花あり、梔子の花の如し、黃色實を結ばず。其根獨莖、而して直、大さ小指の如し、下に短細肉根あり相附す。外皮稍粗、褐色、内肉黃白色、二月八月采根、暴乾用ゆ。衡山出る者花碧、五月黒子を結ぶ……。

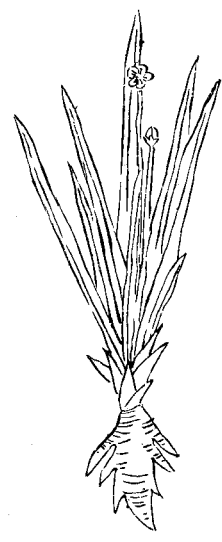
『本草綱目』に李時珍は右の記述を評修して曰く……蘇頌が説く所詳く之を盡し得。但四五月中莖を抽く四五寸、小花を開く深黃色六出、蒴子に似ず、處々大山中之有

り。人惟梅嶺の者を取り用ゆ。而して會典會典大明成都歲貢仙茅二十斤……とあり。
 『本草原始』には……按ずるに、續傳信方仙茅を敘す。云五勞七傷を主とり、目を明に
 し、筋力を益す、後補に用ゆるに宜し。本と西域の道人傳ふる所、明化元年婆羅門僧此
 藥を進む。明皇玄宗之を吃して効あり、當時藥方傳はらず。天寶の亂方書流散上都一

江寧府仙茅



戎州仙茅



空。三藏始めて此方を得て傳へて李勉に與ふ……云々とあり。

本植物『醫考日本植物總覽』の記載左の如し。仙茅はヒガンバナ科 *Amaryllidaceae* キンバイザサ屬 *Curculigo Gaertn* のキンバイザサ。の *C. orchoides Gaertn.*

圖の草本異紹類證史經

多年草、根莖は圓柱形、葉は膜質、狹披針形摺折、長毛散生、花梗は短くして地上に出ず、兩性花は最下に在り、他は皆雄花、苞は膜質披針形、花被片六、亦披針形、長四五分、花被柄は長絲狀、子房は絨毛を被むる、花柱は三岐、蒴は長橢圓形、長四分。四國、九州、琉球、臺灣。

◎判事様

ハンスデ

判事人參と同じ。『躑躅本草綱目啓蒙』に……漢渡人參品類多し、上品を判事手と云。形狀肥大にして色黄に潤ありて甚美なり。然れども氣味薄し、朝鮮の次とす。判事手を唐山の俗名羊角參と云。集解に謂ゆる羊角參は百濟參の一名にして此と同じからず……とあり又同後段に……朝鮮の上品を判事手と云。廣參品に判事は古朝鮮の判事官の者持來りし人參上品なりしに因て官を以て參に名つく。然れども以後其品渡らず。故に上好の京參肥大黃實なる者を以て判事に充因て今此名あり……云々。

輒曰く、判事は元來朝鮮の人參に命名せるものにして、漢品に有之筈なし。或は商人が斯く拵へ稱したるや、又羊角參云々の條も實に合はず。百濟參羊角參の項に其事説明せり。

猶判事人參の項併せ見るべし。

◎判事人參

ハンスニンジン

徳川の中期支那朝鮮より輸入せらるゝ人參に對し、品種名稱として長崎に於て命名したるもの。

此名稱は後に三都の藥肆醫師本草學者等斯道者に通用す。判事一に半須又半事反事と書けるは誤り也。此名稱は初め朝鮮物に付けられしものにして。其語原は東萊府の中に判事廳なる分課あり、通譯の官名たる判事が事務を執る廳舎なり。東萊府使の下に在る通譯は日本との國交を掌るが故に、特に待遇し。今日にて言へば高等官待遇とも謂ふべき判事の官名ありしなり。此判事は對馬との人參貿易公務をも掌り。又實際に於ては自己も人參貿易を行へり。判事朝鮮よみバンサなれど訛りてハンスとなる、其人參名稱は蓋し茲に出でたること疑無し。

此判事の人參名稱は後には、支那物にも及ぼせり。そは支那物を朝鮮物として高く賣らんとする藥肆の營業政策に出しものなるべく。猶其名稱たる對象は時代により同一に非ず。畢竟渡來人參の品等變化と藥肆の政策とに由來するものなるべ

し。

判事の語原に付ては、日本の學者の説けるものに附會謬說多し。中には會槩は薩摩に仕へ同藩任用の對馬人朝鮮語譯士と交際したる丈けありて其說正しく、之を東萊誠信堂判事廳の雅名扁額?の吏目とせり。以下に日本文籍の記載を列舉す、正と誤の相半はせるを見るべし。

『加藤和漢人漫考』に……判事 西章云ふ是れ唐人參也。和俗半事と稱す、船上の人羊角參と謂ふ形色最も美、黃潤明亮、上黨參にも充つべしと雖も氣味俱に薄し、朝鮮に如かず……同書長崎隱士の享保初年京都に來りし時の筆記に……ハンス 近代長崎にて日本人のいふ詞なり。元來は朝鮮の詞にて、朝鮮人參の中にハンスと云ふ様あり。長崎口にハンスといふ人參は無し。然るに二十年ばかり以前に今より七八十年前長崎に様のかはりたる人參わたわり。其時節京大坂の商人はこれは新山シキヤの人參とみへて性あしきといふて賞翫すくなし。ホンスの半にも及ぶ可きかといふてハンスと名けたり、それより長崎にてもハンスといふ。此人參の様相續て今に渡れり。今にては能く用ひ覺へて。朝鮮の極上ばとにこそなけれ、長崎口にて上人參也……
加藤認之の追書 に……今此品少なし……此のハンスにも上ハンス並バンスの品等あり。

此中の上をキンソンともホンスと云ふ……と記せり。

『松岡用藥須知』……近來判事手ハと云ふあり。此又眞偽あり眞の判事は今無之。唐

參の中、形肥大にして蠟色オイロなるものを以て之に充つ。是は女直參なり韓參に非ず……。

……。

『藥田日用藥品考』……判事ハ 古渡韓參の上品なるもの、此品絶て無し。今の判事は

漢渡人參中の上品なるもの……云々。

『西章人參辨』……判事手 唐人參にして和俗の稱呼也。船上の人は是を羊角參非白

角參之と云ふ、形色聚美にして黄潤明亮。上黨參にも充つべきものなれども氣味俱に

薄くして朝鮮に及ばず……。

『蘇村葢段堂人參錄』……判事人參ハ 或説に曰く、反事人參は體質共に朝鮮參に異な

り、反事は朝鮮の地名なり。然れども朝鮮國の參に非ず。又一説、判事手は漢にては

京參キョウジンと呼ぶ、一説に朝鮮國通士を呼んで判事と謂ふ……。和俗形色の類せる物を呼

で何の通事とも云、羈トウ鷄キョウ通事ツツシヤク、羈鷄通事と云ふが如し。朝鮮人參に類したる人參なれ

ば朝鮮判事人參なるべし。此の判事參に二種あり、一種は金井玉蘭なく皮色白く、微

しく黄を帶て肉堅白なり。これを採て沸湯を灌ぎ略ぼ蒸して暴乾して熟製せるも

のとみゆ。今の市人黄梳汁を以て染るものあり宜しく辨ずべし。一種朝鮮參に似たるものあり、共に功能朝鮮參の下品のものに次ぐ。

判事朝鮮之官名、數十年前朝鮮國遣使來聘、其判事官所私貨最有極品。以來數年謂朝鮮上品稱判事參、然今無之。華參以似判事樣者。市人呼判事參。卽華參之上品也。韋曰、此漢文の一章判事の名稱起原としての正説なるべし。而して何書かよりの引用なるべし。

『音藥人參識』……上好參一名好品一名判事參皆朝鮮稱なりの判事は俗半須に作る 又大人參と云肆此品調御に亞ぐ者也、亦黃白二等あり、一枝二三枚を密扎するもの多し……然れども今市上此に過るものなし。故に今僞參の扎定皆此品を摸擬す。傳へ言ふ、昔年朝鮮の官人私に上好參を販ぐ。因て參商遂に好參を號して判事人參と稱す。按に判事は朝鮮譯士の目也、或は云是東萊誠信堂の吏目なりと……。

『熊谷之敏廣參品』……上好の者を判事と稱す。往昔判事官人始めて將來せし故に呼ぶ判事は朝鮮の官名也……。

『附藥肆人參類集』……第二十一生判事の唐人參 此參は藥肆呼んで唐の生判事人參と云ふ。其形小大ひとしからず、或は生根を壓し曲げて陰乾し賣る者と見へた

り。故に其色黄白にして透明ならず、或は水に浸して根梢を引き延べて復此を壓し堅めて陰乾する者。藥肆に此を呼んでシメ反子といへり。第二十二シメ反子の唐人參 此の參は藥肆に呼で判子人參と稱す。又唐判事ともシメ判事とも云ふなり。其狀堅實にして大小ひとしからず、其色黄にして質亦清からず……。

『小簡人參考』……和にても色々人參を偽造すと雖も半須計りは外の人參を以て似せる事は決してならず。全體違ふたる物なれば、似たる物も無之、最すこし組み入れてわたす也。半須人參近來至つて稀に相成、江戸座方より出す半須は唐口にて往古に多く相渡れり。龜幼雜貨譯傳簿に朝鮮の上品判事手と云ふあり。近來絶て渡さざる故、座方より出す者は至て古く。蟲入樟腦の氣計りなり。半須は根至つて太く、元來生ゆへ巢入やすく形は見事なれど氣味は薄し……。

『對馬文書』弘化三年の分に。東萊府の訓導美哉玄同知、別差君章李主簿より釜山倭館の代官に差出したる、前受取人參代延納方に付懇請せる書面中に……明年四五月間入送限三年、如是於判事廳中、爲可舒之、望公私萬幸……云々とあり。

右の如く常に東萊府使の下にある判事廳に於て判事たる通譯が對馬守の代表者たる代官と人參取引を爲したる也。右は對馬に年例として給すべき單參の事なれ

ど。此外に被執蔘と稱する純然たる商取引の人蔘も亦通譯は商人に交りて貿易を行ひたり。朝鮮には、商譯と云ふ熟字ありたり。商人と通譯を同一視せしを見るべし。また徳川時代日本に赴きし信使の隨員も密かに人蔘を密貿易したり。

◎盤 龍 參

バンリョウウシン

清代に現はれし人蔘擬似品の一種。

『植物名實圖考』に左の如く出づ……。盤龍參 袁州、衡州の山坡皆之れ有り。長



盤龍參植物名實圖考の圖

葉初生は萱草の如く而して脆弱、春時葶を抽き苞を發す、瓣繩斜糾の如し、小粉紅花を開く、大小豆の如し、瓣に細菌あり、上翹中白蘂を吐く、根に黏汁あり。衡州の俚醫之

を用ゆ、滇南以て陰虛の症を治す。其根は天門冬に似たり、而して微かに細く、色黄……。

『^蘇蘇植物名彙』には、盤龍參に付て左の記載あり。

Spiranthes australis, Link (Orchideae) ネヂバナ 菱草(詩經疏)。 蘭 (G.) 盤龍參 (D.) (CH. XV: 5)

Abbreviations に於ては (G.) は = Giles, H. A.—A Chinese English dictionary. 1892

(D.) は = Diels, *L-Dei flora von Central China*, Engler's Botanische Tahrbücher für systematik, Pflanzen geschichte und pflanzen geographie. Vol. XXIX. 1901 (CH.) は植物名實圖考。

『^根根^本本 日本植物總覽』本植物の記載左の如し。

ラン科 Orchidaceae ネヂバナ屬 *Spiranthes* Rich. の *S. Spiralis* Makino. モヂスリ、ネヂバナ、ヒダリマキ、シンコバナ

多年草、高一二尺、莖は瘠長、葉は線狀披針形乃至線形、穗狀花序は狹長、扭捩腺毛を布く、苞は卵狀披針形、子房より超出、花は地平、紅紫色、花被諸片は線狀披針形、上側三片は稍合生、唇瓣は白色、長橢圓形、皺曲——原野草地、花候初夏 樺太北海道、本州、九州、琉球、臺灣。

◎引　ハ　ナ　シ

ヒキハナシ

朝鮮人參の技巧を施せるものを分離したる商品名。

朝鮮より渡りたる人參は、初期は上等品のみなりしも、後に至り人參缺乏し其價騰貴するや種々の技巧を施せり。其中單參と稱せし者最甚しく、一本の人參を縦斷して此れを二本に使ひ。半面へは碎片又は小根を附着して形を作れり。其半面の附着物を外して之を引ハナシと稱して商品としたるなり。

『小野園山本草綱目啓蒙』に……單參を解きたるものを市人ヒキハナシと云ふと出づ。

◎鬚　人　參

ヒゲニンジン

人參竝竹節人參の鬚根を藥材として製造したる者の名稱。

鬚一に鬚に作られ、又尾人參、小人參とも稱せらる。

朝鮮に於ては之を尾蔘と稱し。支那に於ては參鬚又は鬚參と稱す。人參の一小細根迄も藥用の商品となりしは。三國共に人參の價騰貴し且人參が醫藥として大衆に迄普及せし時より始まれり。日本に於ては徳川の中期以降のことなり。其品

質を別てば左の如し。

- (1) 支那より輸入されたる支那産人參のヒゲ。
- (2) 朝鮮より輸入されたる朝鮮人參のヒゲ。
- (3) 幕府官營の御種人參のヒゲ。
- (4) 幕府外會津、松江、尾張等等藩製御種人參のヒゲ。

田村藍水人參耕作記之圖
朝鮮種人參細説人參法製之圖



- (5) 日本各地に産せし竹節人參のヒゲ。
 - (6) 不正藥業者が竹節人參のヒゲを以て人參のヒゲに偽造し。又は他の植物の根を以て人參竝に竹節參のヒゲに偽造したるもの。
- 鬚人參に關する文獻の記載左の如し。

『貞順大和本草』……ヒゲ人參は人參のひげなり、是又異邦より來る本邦産に非ず。

堅實なる故大人參の淡きにはまざる。節人參と云ふものあり……其鬚をヒゲ人參と云ふ……。

『小野大和本草批正』……ヒゲ人參 朝鮮にも唐にもあり、今は本邦のものもあり……。

『小野本草記聞』……薩摩ヒゲ上品也 下野日光ヒゲ參を俗にカモジ人參と云ふ 信濃ヒゲ上品
但馬丹波苦味多く甘味少し下品なり……和産方言多くあり……カモジ人參津之
ゲを束ねたる人參なり 小人參ヒゲと……とあり。

『小野本草綱目啓蒙』……鬚人參は本經逢原に參鬚と云、韓參の鬚は黄白色にして、味
良上品なり、今藥舖に先折と呼者也、唐山より來る鬚は赭黄色にして味韓參の鬚に劣
れり、凡直根には鬚少なく竹節には鬚多し……又同書和人參竹節の部にカモジニ
ンジン會津鬚と云ふに……とあり。又同項に……竹節參の鬚は微く甘味あり、藥用に入
るべし。薩摩ノバシて乾たる日光カモジニンジン 信濃の産を上品とす。但馬丹波の産
は苦味多くして下品なり……とあり。

『加藤和漢人參考』……參鬚、西章云ふ是れ船上の人の稱呼也。唐及朝鮮の二種あり
即ち參及竹節參の鬚也輒曰此記事誤也支那朝鮮より竹節參のヒゲ輸入せられし事無し氣味本根に劣らざる者也。市肆
の名稱一ならず其韓鬚の太き者先折と稱す氣味最も佳なり。其細小なる者を朝鮮

の鬚或は拔出と呼ぶ……。

『松岡用藥須知』……又鬚人參あり一名薩摩人參とも吉野人參とも呼ぶ。今四邊深山の中背陰の地に生ず……巖然として參の形狀を備ふ用ゆ可きに侶たりと雖、而も其本根は味苦く辛し。や、此一種眞に近しと雖も此亦竹節のたぐひにして補益の劑中に入べからず……。

『調本和語本草綱目』……鬚人參 或は小人參と呼ぶ。人參の根頭にある細毛の如きもの。功力大人參より薄しと雖も、湯參クツカよりは其氣味勝れり。

『淇蝶菴翁草』……享保の初頃には、對州屋敷へ所望に遣せば、一兩に付銀三拾五六匁づゝにてよき大人參あり。鬚人參などは少し身を持ちたる者は用ひず……。

『對馬文書』……寶永二乙酉六月三日 鬚人參之儀カガシ上方に而は御拂を被成候得共御當地江戶のことに而御拂被成候儀無之候。

口 上 覺

一、從前鬚人參と申物朝鮮より少し宛出申候。是は人參に付き有之鬚に而御座候由申候。見懸は惡敷御座候得共、藥性は殊外能御座候而價は心安く候故。朝鮮國中に而専ら用申候付。例年纔ならずは調出ヒキ不申候。前々より上方に而は爲拂候共

御當地に而者爲賣申候事無御座候。市中に而者唐朝鮮の鬘人參商賣仕候由承申候。只今病家人參差支迷惑仕由承。餘り難儀に存候間、頃日鬘人參少々取寄、手前に而獨參湯にいたし試仕候者。成程氣味も強く藥性宜敷御座候間。有合候分御當地於小賣所爲賣申候はゞ。價も少々心安候に付輕き者之給用に仕、乍少諸人之病氣をも救可申歟と奉存候故奉伺候以上。

右に付土屋相摸守當時の勸定奉行様御用人より現品内見に付持參、其價書付差出様申來るに付持參す。

鬘人參一斤 價六百四十目 但壹兩に付十六匁宛。右差障無之勝手次第賣可被申と指令せり。

輛曰此文書は鬘人參の歴史上貴重なる資料と謂ふべし。

『熊谷之歎廣參品』…鬘人參と稱するもの六七十年已前始めて將來す。古昔用ひざるものか、諸家本草に載せず。唯清の張璠玉の本草逢原、參蘆の條に參鬘の名を出す。其餘未だ之を見ず…此もの和産を以て之を考するに。直根の參鬘にあらず…即三極五葉草の横梁根に付たる鬘なり…韓より來るものは質黃白味好し。漢より來るもの赭黃色味劣る…。

『西鶴用心藏』には……江戸本石町唐津屋にて、鬚人參七十三兩、他の上人參と共に騙取せられし物語出づ。

『嘉良喜隨筆』……人參壹斤代五百九十目、延寶七年十月のこと幸充云只今にてみれば日より五百目に至る、鬚或は折れ杯にても一兩百廿目以上也、朝鮮上人參は、一兩三百物每如此高直なるに、人々渴命にも及ばぬも奇特と云ふべし。

『天明大政録』……細鬚人參一貫目銀二匁……。

『徳川公文書』明和元年甲申閏十二月二十四日御觸書の中に、細鬚人參半兩目に付代錢六百文とあり、右の外御觸書にヒゲ人參の事を記せるもの多し。

ヒゲ人參に付て最も誤謬の記載は『和漢三才圖會』なり、其記載に曰く……尾人參ヒゲは朝鮮中華共に之有り。蔓生にして人參と一類異種のものなり。高さ一二寸葉は人參に似て小さく蔓は莖より出で、地に布き、至る處根を出すチヨロキの如し。其蔓根を取て藥となす織き者はトコロの鬚に似たり、故に鬚人參と名く。每唐船之を持來る小人參と稱す、惟堅實にして其功は大人參の浮虛なるにまさる……。

韌曰く著者寺島良安何に據りて斯る無稽の記述を爲したるか。本項に付ては屋代弘賢は『古今要覽』正誤中に全く傳聞の誤也……と訂正せり。

出雲人參には大鬚小鬚等の稱あり。

◎被執 蔘

ヒシツシン

徳川時代東萊の日鮮貿易に於て取引せられたる人蔘に對し、朝鮮側より命名したる官用語。

此貿易は東萊の倭館則ち日本名對馬代官屋敷に於て行はる(正宗丁未六月七年明釜山鎮に移轉す)被執なる熟語は朝鮮の吏文にして借音。今此言葉亡びて傳はらず。被執は總て代金を前借し、物品を後より渡す意。其品物は人蔘に限らず。後に至り其意味變化し、前借と即時拂とを問はず日本との貿易取引の倭館に於て行はる、物總てに使用せらる。

「東國總貨錄」「八域志」二書大抵同文に……每歲對馬の人島主の文引を受け、數百人來つて館中に留まる。朝家慶尙道の租賦の若干を割き之を與ふ。留倭一半を割きて島主に貢し、一半を以て稟用す。事とする所無くば彼此の書信を將ひて貨財交易の事に與かる。而して亦即ち價を與へず、之を以て歲年流割ワリバライを約す。之を被執と謂ふ……とあるは前借の意なり。

「續大典」戸典の條に……蔘商倭館に被執の爲下去する者。東萊府は本曹の公文に

準し什一收税……とあるは、取引の事を指せるなり。「萬機要覽」に……被執蔘 倭館開市の初、萊府の商賈専ら蔘貨を以て倭館初め慶長銀後寶永銀等に換買す。其利甚厚し故に

其被執に従ひ什一納税十斤被執一斤納税此れを以て作つて單蔘と爲すとあるもの亦同じ。

「肅宗實錄」庚寅三月東萊府使權以鎮の狀啓、東萊貿易の弊害を述べ、之が革正策を論せる條に……商譯人參を被執貨す。而して銀を出す時。倭人愛する所の者の被執は準數に近く以て給すと雖も。愛せざる者は稽緩時を後らす。又多く準せず。故に商譯争ふて媚を獻じ心腹と爲る。國家制邊の計實に莫大の憂となる……云々。又……自今譯官の名を以て被執を得せしむる無く、戸曹及各衙門の物貨亦皆商賈の名を以て被執し。以て國體を尊ぶべし。且各衙門の被執價銀の代りに先捧多捧は受取るし以て商賈の利を奪ふべからず。一に商賈の年條分數の如くすべし……。とあるは前ギン受取と、取引との雙方の意味を有す。

右により被執の意明瞭なるべし、右上疏の年肅宗庚辰は日本の元祿十三年に當る、其八年後の寶永四年の『對馬文書』……に人參出方別而致不足、兼而豫渡置候前金之三分一漸賣出し、殘金の人參朝鮮方より賣渡不申相滯候故、寄金無御座上納難成候……云々と元祿十三年宗對馬守より老中阿部豊後守まで願出たる書付あり。彼我

の文書を對照して這般裡の事情よく判然たり。

「海樺日記」英祖癸未の時正使趙曦の日本に赴し時の記に……余萊府に在るの時多く被執人參を見る。未だ此の若き蜜漬蜂蜜にて色を付け重みを増せしものの者あらず。五六年來人心益す射利に巧に、此習倭館に漸長すと聞いて甚だ駭き惡む……とあり。

被執人參の品質甚しく下等となりしは、單參に同じ、必竟産額の減少による。單參の項を併せ見るべし。

◎尾

蔘

ピシン

修製したる人參の小根。日本にては、ヒゲニンジン、コニンジン。支那にては鬚蔘又參鬚。朝鮮に於ては尾蔘と稱す。

此尾蔘なる名稱は朝鮮に於ては、現在も通用しつゝありて、左の如き細別あり。

紅尾蔘 紅蔘の尾蔘

白尾蔘 白蔘の尾蔘

大尾 百箇内外を一包とするもの

大中尾 二百箇以外を一包とするもの

中尾 二百一本以上を一包とするもの

米尾 細折、米粒大、米粒倍大程のもの

蔘皮尾 細毛のもの

細尾 同上

白直鬚 白蔘の細毛の長くスグナルものを揃へて束とす

紅直鬚 紅蔘の同上

尾蔘の名稱は何時生れたるかは不明なれど。人蔘の小根迄も之を商品とするに至りしは、其供給不足と價の騰貴してより後のことなるべく。朝鮮に於ては文獻には英祖年代西曆一七二五年より見はる。「萬機要覽」に……英宗甲戌戸曹に令して價を給して體蔘を三十五斤、尾蔘二十五斤を江界に買取すとある如し。されど此時代に尾蔘と稱せしものは、今日尾蔘と稱する者よりは、一體に太く。且小さき一本だちの人蔘も、其中に交り居りし事は、「正宗實錄」辛亥二月、平安道觀察使沈願之の狀啓中に……尾蔘の一條以て量施すべき者あり……云々……尾蔘の如き祛らざれば穉蔘子遺を得ず云々とあり。其意は尾蔘を官に於て使用し之を産地人民より提納することの規程を廢止するに非ざれば。人民は山中にある稚き小さき人蔘迄も採盡す

により、將來人參は絶滅するに至るべき慮あり……と謂ふに在るなり。また「正宗實錄」尾參は體參の尾頭なり、體參五斤の尾は僅かに一斤の資となる……。之を以て當時の尾參の品質を推察し得べし。ヒゲニンジンの朝鮮より渡るもの最初は太き一本立のもの交り居りしことは日本の文獻にもあり。ヒケニンジンの項に説けり。
ヒケニンジン、折人參、參鬚、鬚參の項を參照すべし。現在開城の尾參の中には、苗圃より拔去る一年根のみの者もあり

◎人 形 根

ヒトカタネ

御種人參栽培耕作關係者間に於て、人參の根形に因り付けたる名稱の一。

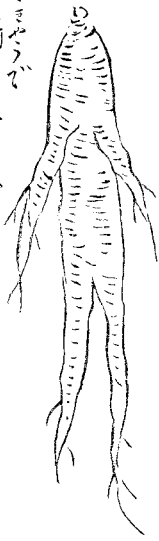
『田村人參耕作記』に……土地に由て少しづつ、參根の肌或は長短肥瘦の分あり。不可根カネと稱する者あり。又誤つて不形フカタテとも云へり。其根枝多くして常根に違ふ者を指して云なり。

又居根スベネと稱する者あり、又溜根タマリネとも云へり。其根一寸位下より八九根に分れ、殊に細根多し。堀出し土上に置時は居スる者あり、故に俗呼で居根と稱す。

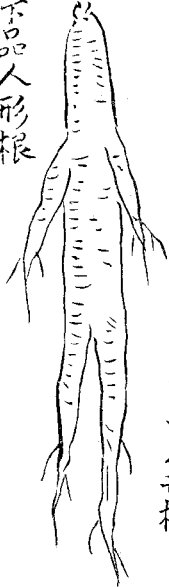
又人形の人參あり、一萬根程の内に一根ならでは無きもの也、其狀に四等あり。

其根人形に類する者上なり、其次は肩一段下りて出來るなり、又其次は腹の所より

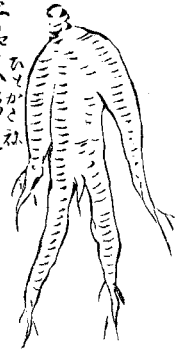
可もがしんが
龜胸様人形根



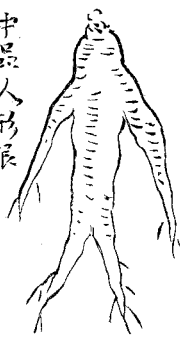
下品人形根



上品人形根
あやかしんが



中品人形根



不可根
あやかしんが



長根
あやかしんが
一名溜根



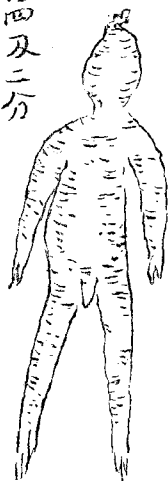
田村藍水人參耕作記の圖

兩手を出すなり。

或は兩手ありて兩足なく、或は兩足ありて兩手なきもの多く有之。兎角蘆頭の下
人像人參之圖 ヒトガタノヒトマシノヨ 延享四年丁卯六月印四番邊羅船持渡る所なり唐山廣東の産といふ。

男

掛目ニ拾四及二分



掛目拾四及九分

片乳アリ

女



圖の藁雜堂膜藜 圖の參人カリメア形人

本草綱目人參爲藥切要與甘草同功有入參處上有紫氣搖
光星散而爲人參實神草也根有手足面目如人者爲神云

より整く兩手を出す者良也。

其狀全き者極て稀なり……又龜キキョウツデヒトカタ胸樣人形と稱する者あり。左右の手外へ出て龜胸の形に似たり、甚下品なり……とあり。

以上御種人參の狀態を知るに、好個の資料とすべし。而して又當時は今日の如く根の多く分岐せるものを貴ばざりしを知る。

◎ヒブリニンジン

徳川中期に見はれし擬似人參の一種(?)

『證廣大和本草』に……又西國にてヒブリ人參と云ふものあり、伊吹防風の類也とあり。何物かは不明此名稱のもの他の本草書に無し。

◎平野人參

ヒラノニンジン

徳川中期に見はれし擬似人參の一種。攝津平野庄に於て栽培せしより名けられしものか。

『小野本草綱目啓蒙』に……ポタンニンジン、一名ヒラノニンジン……藥肆にて其屑を防風として賣る、防葵なり……とあり。『和漢三才圖繪』に……又云ふ近年唐人參の

種を得て多く圃に植ゆ攝州平野の庄多く之を出す。二月下種初めて一莖三葉を生ず、長ずに及び數極皆三葉、厚脛深刻ありて筋無し。略ぼ銀杏の葉に似たり。每八月に中心一莖を抽く高さ三四尺細白花を開く蓋の如し蒴藿及胡蘿蔔の花に似たり。秋後子を結ぶ細小亦胡蘿蔔に似たり、霜後枯る宿根亦能く生ずる也……あり。『古今要覽』には右記述に對する岡村尙賢の説を「右は俗に平野人參と稱するものにして防葵なり。又此種は文祿年中朝鮮征伐の時携へ來りしを、平野にて培養せしものなるに、それを唐人參の種と云へるはまた誤れり」……と記載せり。鞞曰く防葵には牡丹人參の俗稱あり。されど和漢三才圖會の形態の記載、葉が銀杏に似たること。葉に深刻ありて筋なきこと數極皆三葉と言へるは、防葵の形態とは全然異なれり。岡村尙賢説の朝鮮征伐の時携へ來りしと云ふ、擬似人參他にも多く、此説も亦信すべからず。

『熊谷之歌廣參品』……に平野人參 牡丹人參一種。此物藥圃にて五島防風と稱し、又木防風一名刊防風と稱して防風に充て貨賣するもの、嫩根、形小なる者を以て偽造したるものなり。絶て參類に非ず。先年公義より許容ありて賣る故に御免人參と呼ぶ。近年貨賣を廢罷す。即本草の防葵なり……とあり。

明曆四年幕府が藥品の取締を勵行せし時に。左の件の藥性功佳ならずとして賣

買を禁止せられし中に、重目輕粉。平野人參とあり。後に至り販賣を許容せられしものなるべし。牡丹人參の項を見るべし。

◎百 濟 參

ヒヤクサイシン

三國對立時代百濟國より入りたる人參を支那に於て命名したるもの。而して百濟滅亡後も、長く其名を失はずして使用せられたり、國亡びて名の人參に存せしこと高句麗、新羅亦同じ。

『名醫別錄』陶弘景注に……俗百濟の者を重んず、形細ふして堅白氣味は上黨より薄し……とあり。『藥總訣』に……人參ミ見ミに用ゆる者は是れ高麗、百濟の者……とあり。

『本草蒙筌』に……百濟稜白堅且圓、白條稜ミと名く、俗名羊角稜……。『紫桃軒雜綴』……人參上黨山谷に生ずる者最良し。遼東之に次ぐ、高麗百濟又之に次ぐ……とあり。

日本に於ては徳川中期以後本草學發達し、支那の本草醫書に着目するに至り、其記載の名目を其時にも猶存在するものと信じ。朝鮮より輸入せらるゝ人參中に一種の百濟參なる者儼存すると妄想觀念して、遂に其假定を實在のものとなすに至れり。新羅人參、高麗人參其他の支那本草書にある名目の者皆然りしものあり。

『和料藥肆人參類聚』に……第七、百濟參二種。此の第七の參は藥肆に呼んで西口の人參と云。其狀白色にして質堅し細小なる者世人以て上好と云。或は下品に至ては其種甚多し。謹で按ずるに、第七、第八の參は形質共に堅ふして横紋殊に少なし。其色他參より白し……今藥肆に藏むる者第七中品一兩には其價四百六十目……『人參耕作記』に……但一通り朝鮮種人參と稱するあるも、是は百濟人參の種にして、其所殊に丸く、横紋少く其色白くして鬚多し。是を知らずして次となる者なり。蘆頭の下怒り丸く横紋少くして色白く鬚多き者は百濟人參の種也……『本草圖說』……槃按ずるに……遼東と稱する者蘆頭に近き處清癯にして體豊かなり、此を好品と爲す。百濟は肩張り身瘦其品稍低し……。輒曰、此記事の如く滿洲人參が肩瘦せ朝鮮人參の肩の張れるは、今日に於ても同様なり。而して今日では肩の張れるを尙ふ、好尙の今昔異なるを見るべし。

『古今要覽』には……享保の御代宗對馬守をして朝鮮に令し遼東、百濟二種の三十株を召寄せられ云々と。御種人參起原の誤説を述べあり。又同書に寶曆の頃迄は朝鮮の使來聘する毎に必ず遼東、百濟の人參五十觔を貢せしものなるに云々……後には二斤となれり云々と記せり。何れも誤謬なり當時朝鮮の中に百濟、新羅など、云ふ

稱の二種人參なく。又滿洲人參を國交禮物として使用せし例絶對に無し。また二斤など、云ふ少量の人參を國の禮物とせしこと絶無也。

『^{加地井}高良藥品手引草』に……百濟參 朝鮮人參也とあるは、事實に適する記載と謂ふべし。

◎百 尺 杵

ヒヤクシヤクシヨ

人參の異名(?)

『圖經本草』に……春苗を生ず、深山背陰椴漆の下濕潤なる處に多し。初生小なる者三四寸許一極五葉、四五年兩極五葉を生ず。末に花莖あり、十年に至つて後三極を生ず。年深き者四極を生ず。各五葉、中心一莖を生ず、俗百尺杵と名く。三月四月花あり……とあり。此記述人參の名を稱するか、又其花莖を稱するかは判然せず。

岡村尙賢は説を爲して曰く。杵と杵と其字相通ず。とちの樹和名鈔に杼音杵又當旅反苜と同じ和名とちとあり、百尺杵は杼の樹のいと高く直聳せる狀をさして云ひしなり。又人參の葉はとちの葉に似たり。人參にとち人參あり和漢暗合百尺は誇張にして建陽府志土人參に百丈紅の名あると同じ……と附會説を發表せり。

◎ 楓葉人參

フウエフニンジン

徳川中期に見はれたる擬似人參の一種。

『小野蘭 山原著 重修本草綱目啓蒙』に……フウヤウニンジン、エイザンスミレにして雜草類の胡董草也……とあり。『熊谷 廣參品』に……本草辨疑誤つて參類と爲す。今洛北叡山及鞍馬山中陰濕の處多く之を産す。葉は楓葉の如く又芹に似たり。家園に培養すれば葉稍大、二月開花樺の花に似て白色花圍朝鮮須美禮と名くるものに甚だ相似

ウエキキヤ



(參人葉楓) レミス山叡比
圖の鑑圖物標本日土博野牧

たり。葉綠色、莖微黃、根淡黃にして胡蘿蔔の嫩根に似たり。漢名末詳……とあり。

『倭訓栞』には……フウヤウニンジン 北叡鞍馬に多し……とあり。

北叡山スミレはスミレ科 (Violaceae) スミレ屬 (Viola L.) の *V. eizanensis* Makino. としてエゾスミレ、エイザンスミレ、カクレミノ等の日本名あり。『博植物圖鑑』には其形態を左の如く記さる。

產地。山地に生ずる多年生無莖種なり。形態。葉は通常三裂し、各裂片亦分裂し、裂片に缺刻齒牙を有す。花後葉形の頗る大となるその形初生葉に比すれば單純なり。花は大にして其數少く、通常葉より低く其距長し。往々香氣あり。花期。春日花を開く。花色淡紫白色。

◎不可根

フカネ

ヒトガタネの項を見るべし。

◎服ジメ人參

フクジメ人參

服人參の項を見るべし。

◎福 參

フクシン

〔一〕清代に見はれたる人參擬似品の一。

此名『藥性考』に出づ。建參と同一物とせり。或は福州參の意か。

『^音會人參識』に……福參西賈俗稱或は曰ふ福參は即泡參なり、或は北參と云ふ。香川太沖

云ふ、其始め福州の商船載せ來る所。故に遂に稱呼となると、此説是に近し。今絶へて見ることなし。只其名残り有るのみ……とあり。彼此同一物なるや否やは不明なり。建參の項を見るべし。

〔三〕現在全羅南道同福の人參を略して福參と呼ぶ。

◎服 參

フクシン

服人參の項を見るべし。

◎服 人 參

ブクニンジン

長崎貿易により支那より輸入されし、人參の劣等品。

『小野 關山本草綱目啓蒙』に……湯參を泡參とし、和名ウツカ人參一名ブク人參とし、形沙參に似て白色甚輕虚にして味最薄し、用ゆるに堪へず、是人參膏を蒸じ取たる滓なり……とあり。

『加藤 玄順和漢人浸考』に……西子云ふ。綱目に曰ふ、人參を以て先づ浸し汁を取り自から啜り乃ち晒乾し復た售る、之を湯參と謂ふと。今の見る所形沙參の如くして輕虚也。藥肆中、古へ之を浮ウツスと謂ふ又服ブクと名く。今浮と呼ばず單に服と稱する己、浮とは輕瓢の謂ひ、服とは汁を取つて之を服するの義也。今時通用の服 縛參に非ず……又同書中に長崎隱士の談筆記……服ブク朝鮮又は本唐よりも來る人參の一本を其まゝ煎じ人參膏の類をとりたる煎じ滓なり。本草に湯參といふ是なり、効甚薄し不可用……。

『黒川 道祐本草辨疑』……煎じて汁を取り跡の煎渣を乾かす。本綱湯參、和名ウツカ、ブクとも云ふなり……。

『田村 元雄藥肆人參類集』……第二十四生服の唐人參 此の參は藥肆生服の人參と呼ぶ、又服手人參とも云へり、和名ウツカ人參ブク或は服用人參と稱す、其狀輕浮にして殆んど湯參の形に似たり。此の人參は即ち生根參にして俗製を加へざる者なり。故に今呼んで生服人參と云、市人或は水に浸漬して後之を壓堅めて服ジメ人參と稱す。

第二十五服ジメ 第二十五の參は藥肆に呼で服ジメ唐人參と稱す。即本草に述ぶる所の湯參とは別なり。湯參古來る、今絶てなし、稻若水服參を唐參とするは誤也。『熊谷之飲廣參品』……フク人參と稱する者あり、質輕鬆氣味殊に薄し尤下品也。此れ人參膏を煎取たる渣滓なりと云。一説に服人參と書くは服は北と通ず北土の意なり。又一説に福州人始めて將來す故に名くと。服一本浮フ虚クに作る。

『下津圖解本草』……又輕虚なる者俗にフクともヒョンカとも云ふ……。

『會人參識』……泡參一名服參物理小識 此方の藥肆ウキデと稱す……。

『岡本和語本草綱目』……浮人參ウツカ 或は服フクとも云もの。本綱の湯參なり、朝鮮産の人參を完ながら藥に用ひ其後を乾かして本邦に渡す者也……。

韋曰、湯參なる人參は唯書籍上の虚名にして事實其の如き人參無かりし事其項に説明す。本項フク人參なる者も亦下品の人參なるに過ぎず、之れ湯參に充つるは正しからず。又此の語原は通俗ブフクして居ると稱するブクなるべし。泡參湯參の項を併せて見るべし。

◎節 人 參

フシニンジン

竹節人參の略稱、則 *Panax repens* の中根形が竹鞭狀を爲せる者の稱。

『貝原大和本草』……節人參と云ふ者あり。葉は芹に似たり。根に節ありひげ多し、

山中陰濕の地に生ず……節人參は其大なる根なり。とあるは別物か又誤記なり。

同書誤用藥品の條に……。篤信謂世醫人參に薺蔴桔梗……節參を代ゆ、然而して性

各異にして相類せず。『小野本草綱目啓蒙』に……横根のものは竹鞭の如くして鬚多し、

竹節人參とも節人參とも云……。

『龍澤玄同放言』……皇國にて人參といふに二種あり。その一種は節人參是也。そ

の葉芹に似て細根多かり、山中陰濕の地に自生す……。

益軒は實物を見ざる敘述にして、其葉芹に似たりダケは誤也。馬琴も亦誤れり。

大和本草の無斷引用なるべし。

『小野大和本草批正』に……節人參、和人參なり、芹に似たりと云は非也、五加に似たり、

とちの木の下に多し……と批正せり。

『田村人參耕作記』……倭國山中にも節人參と稱する者あり。一名は類參草と云ふ、

薩州肥州、和州信州の諸國より多く之を採出す。其鬚を小人參と稱す……。

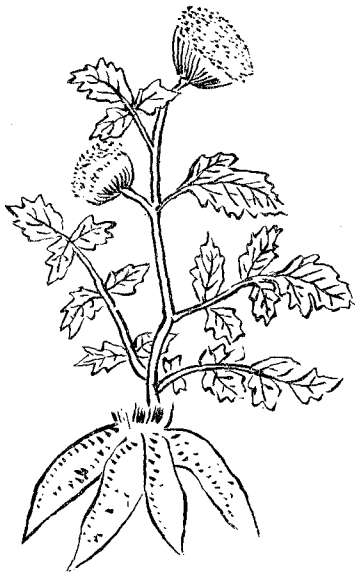
『續和漢名數』……俗醫節ありて苦き者を代用す、節人參と稱す。山中水に近き處

に生ず、其味苦く元氣を滲泄すべし……。
『北海隨筆』……仙見ヶ嶽に人參有りと云へども見當らず……人參皆節人參なり
……豎根人參も多くして石勝山に連れり……。
以上四書の記載は正當なり。但、益軒の水に近き處に生ずとあるは誤也。猶竹節
人參の項を參照すべし。

◎富士人參

フジニンジン

徳川中期に現はれ一種の擬似人參。



坂上臺人參諸富士人參の圖

『最上人參譜』に……駿州人參、富士山一種の草を産す。俚人富士人參と呼ぶ、葉水楊梅に似て大青綠色……とあり。何科の植物かは不明。

◎附

蓼

フシン

造參の項に併せて説述す。其項を見るべし。

◎佛

掌

參

ブツシャウシン

『岩崎本草圖譜』に竹節人參の圖の傍書に佛掌參維西見聞記和名かのにげくさ鈔

竹節人參なり諸國山中皆あり、苗葉朝鮮種に似たり、深山北陰の地に生ず、根は萎蕤に似て節あり、味苦し實圓く生は綠色熟すれば紅色となる。

とあり、韜曰く、未だ維西見聞記なる書を見ず。此名の宛て方が正當なるや否は批判し難し、されど、竹節人參の根形は、蜜柑の佛手柑の如く、佛掌には似ず。恐らく當らざるべし。唯茲に參考として其名を出し置く。

◎粉

參

フンシン

佛掌參

維西見
聞記

かのひげさ

和名

一種実半黒あり

竹節人參あり諸國山中皆あり
苗葉朝鮮移まゆる深山北陰の
地不生根公萎難く節あり
味苦一実圓く生る綠色熟まれば
紅色あり

柄曰、維西見聞記ノ雲雨産ノ佛掌參ニ充ツルハ誤也



一種紫花あり

岩崎園木蘭圖竹節人參の圖

今朝鮮に於て白蔘と稱する者と同一製法によりし人蔘。粉は白粉の粉にて色の白きを意味す。

『松岡用藥須知』……又粉蔘と云あり色白し別物に非ず。外皮を削り去たるものなり、生なる時竹筴を以て粗皮を刮去るものなり、久しく貯ふれば氣味脱してあし……とあり。

『熊谷廣參品』……方書に粉蔘といへるは採時外皮を剥去る、故に色粉白になる也他物に非ず、慎憲之欽の本名。按ずるに、藥肆に蒸をとりと稱する蔘あり。外皮黃褐にして肉粉白輪なし疑らくは是か……。

『會人蔘識』……粉蔘市舶俗稱。古老言ふ、享保の年吳船載來するものあり。皆皮を去り扎定するものなり、參商呼んで白扎と云ふ、贗商廣東人蔘を取つて贗造すと言へり……とあり。

輒曰く、此人蔘何れより入りしや不明なれど。享保の初年には朝鮮に於ては未だ人蔘栽培に着手せず山人蔘には如此製法の蔘なし。滿洲人蔘の中には當時如此製法のもの存在したるが如し。按ずるに此種の滿洲人蔘を指し、また或はアメリカ人蔘の別製品を指したるものなるか。

◎粉末紅蔘

フンマッコウシン

紅蔘を粉末としたるもの、紅蔘は朝鮮總督府專賣局に於て製造し、三井物産會社をして一手に販賣せしむ、紅蔘は朝鮮に於ては官製の外は民間に其製造を禁じ、又總て販賣を禁止せり、但だ内地に於て少許の買受を許せり。されど此粉末紅蔘は誰にても賣買自由なり。

◎兵營蔘

ヘイエイシン

李朝中期の官用語、兵使の營に收むる人參、平安道に限る。
税蔘の項を見るべし。

◎別付蔘

ベツプシン

李朝末期の官用語。

李太王二十一年明治十年甲申宮中に於ける一派の輩は開城に於ける紅蔘製造の巨利あるを觀て、通譯、商人等に獨占的に許しある其製造限定額の中より一萬餘斤の製

造權を宮中に收めて掌握し、其より生ずる利益を内用に資したり。此人參を別府蔘と稱し後に略して別付と稱せり。

◎別 質 蔘 ベツボウシン

質蔘の項を見よ

◎片 參 ヘンシン

支那に於て輸入のアメリカ人參に對し付けたる、品種的名稱。此名稱餘りに廣くは使用せられず。其縦斷しあるものを指す。右の人參は或は病蟲害により蠹蝕損したる部分を削り去りて修製したるものならんか。

『本草綱目拾遺』西洋參の條に……對半攤開する者の若き片參と名く、佳ならず……とあり。

◎片 料 ヘンリョウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間にて命名したる品種別の名稱。
拔頂熟の項を見るべし。

◎ 豐 基 人 參

ホウキニンジン

慶尙北道榮州郡豐基面に於て生産せらるゝ人參。其修製法は白參にして尾端を僅かに曲げあり。李王家に於ては御先代迄藥局に於て多くは此人參を使用せられたり。

曲參の項に圖を出す併せ見るべし。

◎ 鳳

參

ホウシン

〔一〕 清代滿州人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。

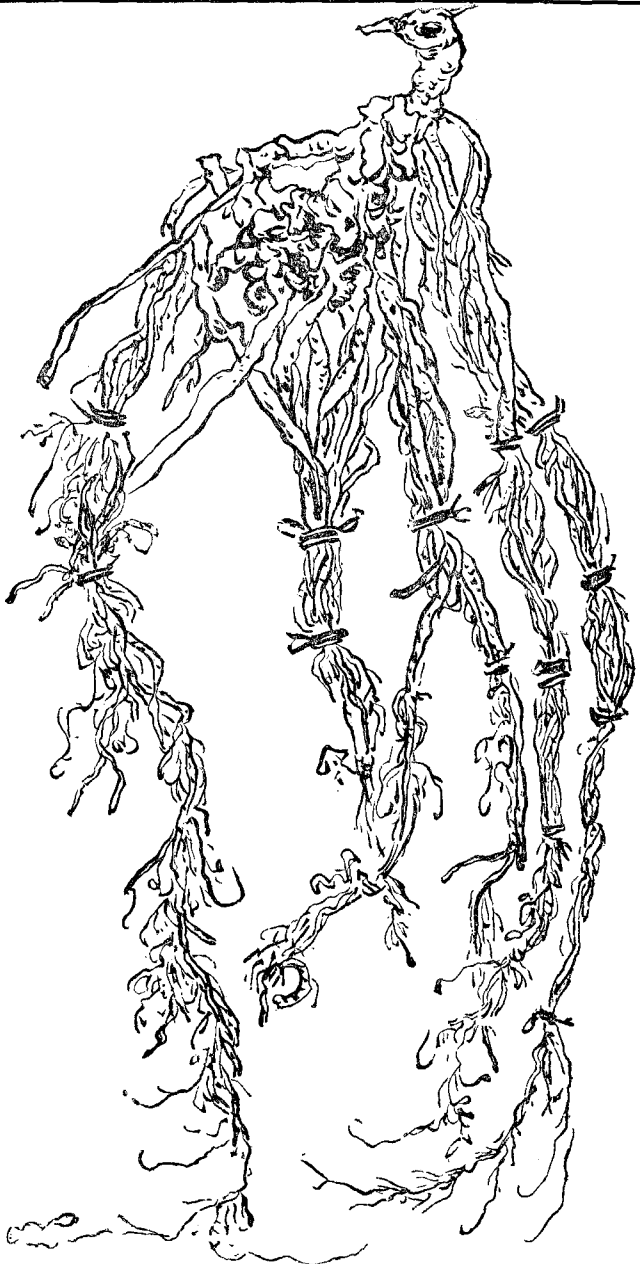
拔頂熟の項を見るべし。

〔二〕 鳳凰城より産出する人參。鳳凰の項に出づ見るべし。

〔三〕 鳳凰の形狀を爲せる人參。

專賣局開城出張所に滿洲より持來りし、韓國時代より傳はれる、實物と寫眞あり、左に模寫して出す。但此名稱は固有名詞に非ず。偶ま其形が鳳凰に似たるより名けしものならん。人の驚いて走るが如き形の人參に驚參など、命名する例もあり。

鷲形寶參葷科 此寶參如有用者亦可延年益壽也



高有二尺五重柒兩六錢價值萬金

◎ 買

蔘

ボウシン

買蔘とは買上人蔘の義にして李朝後期の官用語なり。則買は買うの意。其代價は主に米粟布又銅錢の三種、主として布により支拂はれたり。

〔萬機要覽〕に……例買蔘顛末 例買と云ふは、單蔘の所需年例として江界に於て買取するの謂也……とあり。買蔘の用途は主として單蔘の需要に充てられり。單蔘とは中宗王三浦の亂後對馬と歲遣船の數を約條して。其對馬の船が獻上の名の下に物品を進納し。朝鮮よりは王より回賜の名に於て米、布、人蔘等を交付する一種の公貿易にして。此人蔘は最初東萊に於ける日鮮私貿易の人蔘十に對し一の實物税を課し其後取引減少し隨つて税額縮まり。英宗甲戌其人蔘を產地、主として江界に於て買上ぐること、せり。之を買蔘の始とす。買蔘は後に至り右單蔘需用の外に日本に派遣する信使が携帶する所謂信蔘と稱する者も亦買上ぐる事となり。例買蔘別買蔘と二種となれり。例買蔘は毎年の買上げ。別買蔘は臨時信使を派遣する歲の買上なり。而して其買上の方法に於てもまた政府が直接產地より買上ぐるものと。通譯に錢穀を給與し商人より買上げしむるものとの二となれり。商人より

買上ぐるものは別に問題なしと雖も、産地より買上ぐるものは、買上は名のみにして、其實は市價の半にも達せざる徴發たる已ならず。中間に介する奸官汚吏が必要量以上の徴發を行ひ。其代償も亦中央政府に於て規定したる實額は決して直接提供者たる産地の人民には交付さるゝものに非ざればなり。或は故らに検査不合格として、其間に不正手段を弄せり。人民は自から採取して上納する者に非ず、多くは商人より買入るゝ者にして、官より受くる價と、買ふ價とは大なる差額ありしなり。買參は後に至りて國幣を以て買上ぐる外に産地の人民に買上費を負擔せしむるの方法をも採用せり。其法は結に課するものにして、地稅の附加稅とも謂ふべきものなり。茲に至つては産地の人民は更に二重の損害を負ふことゝなれり。則ち其附加稅の徴收も亦定額以上が奸吏の手に於て行はれ、更に買上の時に前に述べたる如き不當の徴發を行はれ。猶其上に其買上に際し合格品たるべく種々の賄賂を要し。猶事に關係ある中央より出張し來る官吏の賄雜費、其人參の運搬費等を負擔せざるべからざればなり。

此の買參のみならず其他貢參等人參の爲めに江界府下人民の蒙りし慘害は言語に絶するものあり。爲めに子を賣り妻を賣り田を失ひ家を失ひ、部落流亡戸數半減

したる事もあり。其任に當る歴代の江界府使、其監督者たる平安道觀察使より。其惡政の革罷江民の救濟を申陳したること數十回に止まらず。廟堂の官よりも同様の啓申ありしこと亦同じ。之に對し屢姑息の蠲減等を行ひしも。未だ人民の痛苦を減少するを得ず。然るにも拘らず、猶是を罷むることを得ざりし理由は。對馬との公貿易により、國內に産せざる。銅、錫、染斜、南洋藥材、象牙、水牛角等の國家の必需品を得ること、本位貨無き朝鮮が銀を得ること、併せて國家の財政歲計に資すること（此中には巨室大官の利益も含む）等の利益が杜絶全滅する虞ありしに由る。猶一の理由としては倭寇の慘害にヲビへたる朝鮮は此公貿易の杜絶するあらば其羈縻撫綏の政策を失ひ慄悍なる對馬島民が海賊となるの結果を恐れたるにも由るものと考せらる。貿參は後に至り、宗親府蔘、中樞府蔘の如き元貢物の性質を有し無代納付せしものにも亦適用せり。

此人參の惡政は、日本が人參栽培の發達と長崎貿易の繁盛に因り、對馬の釜山貿易が甚しく衰退せるにより。朝鮮の人參栽培も發達し又紅蔘の製造により支那より銀を得ることによりて天然人參産地の人民は其惡政より救はれたり。

されど猶輕くなりしと言へ、其負擔は近代迄免がれざりし也。『大韓朝鮮論』によれ

ば明治二十八年に於て、江原平安兩道には例買蔘錢と稱し結に課せる租税ありしを見る。又江界故老の談によれば日清戰役後庶政の改革迄存続したり。

英祖の代江界府使李壽鳳の詩竹田山地名六章の中に左の詩あり。

左昌右閩豐草其原 我眼何瞽不採一根

罷點其歸婦子迎門 見我愁顏濡涕自捫

賣糸東隣鬻牛西村 彼多採者嬉々笑言

註 左昌右閩は茂昌閩延の兩郡。罷點は官より採蔘人夫の點檢。

◎鳳梢

ホウセウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間に於て命名したる品種別の名稱。拔頂熱の項を見るべし。

◎鳳城

ホウワウジャウ

滿洲鳳凰城より出づる人參。必ずしも其地の生産に限らず、同地より集散せらるゝ人參の名稱。場合によりては對岸たる朝鮮産の人參も、其中に包含せられたるこ

とを推定せらる。

『本草從新』に……人參内に一種。白皮細長なるもの鳳凰城と名く……『唐乘人參攷』に……鳳凰城 鳳凰城の貨は地道出す所一ならずと雖、大略早く出づ。白秀體鬆にして瘦せ長き者皆鳳凰城と曰ふ。土人採取し山を出る甚だ早し。五六月即掘採すべし。賈人便ち蘇城に至り開價す矣。故に其質堅からず、皆未だ霜雪を経ず行根未だ久しからざるに由る。統て貨は糙多く熟少し、此種低價なり。惟だ洋廣江西に於て行銷せらる。一たび年を過ぎ春風透る時は、熟は則ち變じて糙となり、糙は則ち更に瘰癧に變して用ゆるに堪へず矣。瘰癧音別枯病也……とあり。

猶同書に載せある蘇州人參商間に於て、品別して稱呼する名稱五六十を擧げある其中に。

鳳參 質大にして頂棟中熟の如くして細白糯皮、梢頭紅暈あり。而して中敗絮の如き者、東洋日本の必ず需む。

鑲鳳 質輕し大小鳳參の如く細白皮、糯ならず。鐵線紋ある者亦洋去す。

鳳梢 質鳳參の如し、而して細長條の如し、小形なる者稍紅暈ある可なり。接で鑲

鳳に入れ以て鳳參に充つべし。

右の三を擧げあり。此種の人參が長崎貿易により日本に入りしことは日本の文籍の以下に列記する如き記載により知らる。

『加藤和漢人參考』に……羊角人參、鳳凰城など、云銘の品近來渡らず……とあり。

廣川獬の『長崎見聞錄』に……鳳凰は人參の極品なり……とあり。

『兼段堂人參錄』に……鳳凰城人參 一に鳳凰人參と呼ぶ、根頗る長くして岐多く、形鳳凰の如し……とあり。

輒曰く、著者木村孔恭は其人參の鳳凰城なる地名に因つて名けられたる事を曉らす。強ひて是を鳳凰なる鳥の形と解して、其挿圖にも、力めて鳳尾に似たらん品を掲げあるは、一のナンセンスたるを失はず。

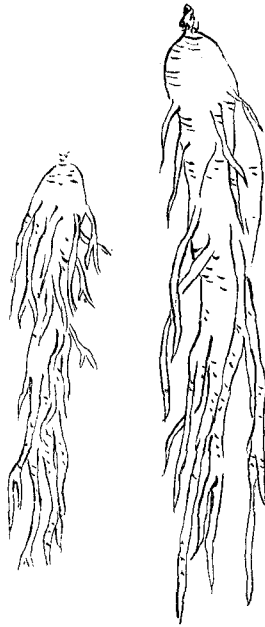
『田村藥肆人參類集』には……第十七カウゴ鳳凰唐人參一種 此の參は藥肆に呼んで鳳凰人參とも又鳳凰城とも云へり其狀常參と異なり形質清くして横紋亦少し、此れ則唐人參の甚だ上好なる者なり。今按ずるに此の人參は疑らくは即本草に述ぶる所の遼參ならんか……謹て按ずるに此の人參は則ち遼州より出す所の參なるべし、蘆頭横紋少くして質堅白なり……今藥肆藏むる所の者一兩價六百目なり……。

輒曰く著者田村藍水は自から遼東人參を栽培し其形狀を圖して人參耕作記に掲

げながら此人參の遼東參なるを曉らずして別の遼州なる地産と考へしは誤なり。
或は遼州と遼東とを混同せしか。

(附 記)

一、現在の出雲人參に鳳記なる商號の品あり。此名は徳川時代支那へ輸出せし



參鳳鳳 圖の錫參人堂葺兼

時以來の標號なり。鳳凰城人參に關聯せるものなるべきか。

二、古川柳「鳳凰になる人參の煎し売」なる句あり、人參の煎しガラとは。親の病の爲に人參を買ふべく身を賣りたる娘のことなるべく、又鳳凰となるとは鳳凰のヌイある襦衣シカケを着る花魁オイランに出世すべしの意にして。人參名稱にカケたる句

なるべし。

三、支那には、鳳凰城の人參たる鳳參とは全く別に鳥の鳳凰の形を爲したる人參をも鳳參と稱し尊重する風ありしこと、鳳參の部に圖を出したる如し。木村弘恭の圖せる鳳凰參は此れとは全く思搆の關係なき者とすべし。

◎鳳凰城人參

ホウワウジヤウニンジン

鳳凰城の項を見るべし。

◎北 蔘

ホクシン

〔一〕李朝の官用語。關北則ち咸鏡道に産せらるゝ人參の稱。

〔林園十六志〕に……東俗關北に産する者を北蔘と爲す……とあり。

〔二〕支那中央より、滿洲の人參を指したる一名稱。

〔發行人參識〕に……遼東人參 異名……北參清船俗稱……とあり。

◎補 縮 蔘

ホシユクシン

李朝の官用語。人蔘を貢納せしめ、又は買上ぐる際、定めたる斤量に對し、其目べりを見込みたる量を併せて收納せしめたり。其目べり見込量の人蔘を稱す。「萬機要覽」李朝歷代王の實錄等々に出づ。

◎ ホソバニンジン 細葉人參

クソニンジン的一名、其項を見るべし。

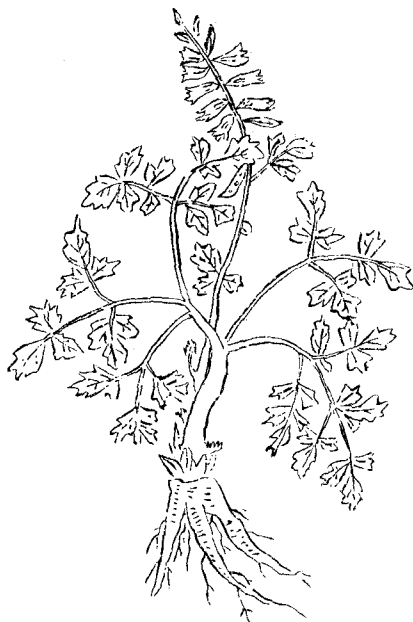
◎ 牡丹人參 ボタンニンシン

徳川中期に見はれたる擬似人參の一種。其葉が牡丹の葉に肖たるより名けらる。「一」其牡丹人參と呼ばれたる者にも數種あり。防葵は其の主なるもの也。

『貞原大和本草』……防葵 下俗にボタンニンジンと云ふ……。

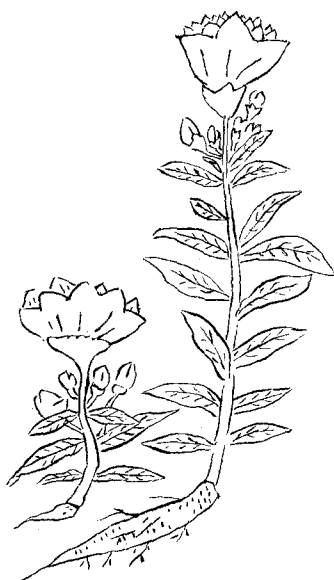
『小野本草綱目啓蒙』に……ボタンニンジンは一名平野人參、コシヤメンニンジン、ゴメンニンジンと云是藥舖にてケヅリボウフウと稱し防風となし賣る者にして、毒草類の防葵也……とあり。『松岡用藥須知』に……その牡丹人參と稱するものは即木⁺防風にて、皮を刮去て藥家に之をけづり防風と稱す。これ本草の防葵の一種にして參類

坂上玄臺人參譜の圖
牡丹人參 今處々有之此草無稱折莖白汁出



額曰、此圖、防葵のボタンニンジン
の形態と全く別也、何科の植物たるや不明

坂上玄臺人參譜の圖



鈴鐸人參 一名牡丹人參

に非ず……とあり。『倭訓栞』……ボタンニンジン 五島人參とも云ふ防葵也……とあり。『小野本草啓蒙名疏』には……ボタンニンジン 防葵……とあり。『坂上人參譜』には……牡丹人參 今所在有之 此草毒あり莖を折れば白汁出づとありて、防葵とは全く異りたる畫を載す。『直海龍』廣大和本草』には……ボタンニンジンと云ものあり、即防

葵なり、五島ボウフウと云ふ似たりと雖も防風に非ず……とあり。

以上指稱の植物は繖形科 Umbelliferae ノダケ屬 *Peucedanum* L. *P. japonicum* Thunb. L. 日本名、ボタンバウフウ、ボタンニンジン、ゲヅリバウフウにして、『醫野野外植物圖譜』には其の形態等を左の如く記せり。

海邊の丈夫な越年草で高さ一二尺。根は直下し多肉、葉は三三裂で小葉は全邊或は一二の粗齒がある質厚く白綠色で毛なく脈は密である。葉柄には長鞘がある。莖は疎に分枝し枝頂に複繖形花穂をなして小白花を密着する。其葉が牡丹葉に似てゐるとの見立で牡丹防風の名がある。昔人參の代用にする事が免されたので御赦免人參とも謂はれ。近時之れを食用にする處があつて野菜防風と呼んでゐる……とあり。

アデイオリ人は之を性慾藥として使用したりと云ふ近代此根より防葵素 (*Peuced-
anum*) $C_{16}H_{16}O$ を折出せられたり。

〔三〕 阪上玄臺は『人參譜』に鈴鐸參一名、ボタンニンジンとして、桔梗の一種を出せり。

◎本 須 様

ホンスデ

支那朝鮮より輸入せらるゝ人參に對し藥肆の品別名として付けたる名。

此名は便宜上藥肆が命じたるに出でし名なれば、其品に擧ぐべき特質無く、また時代により同名にても異種を充て呼ばれたり。其此名を以て稱せられたるものに數十あること、本篇各所に出づ。

『加藤和漢人參考』に……朝鮮人參藥肆古へ御物と呼ぶ今更めて本事と稱す、眞物甚だ希なり

……とあり。同書長崎の士人享保初年京都に來りし時著者が同人より聞取し筆記の中に……長崎にて極上の人參をホンスト云ふ、是れは日本の詞にて朝鮮の上品にアテシ鄙語なり。唐人は言はず……又……ハンス 近代長崎にて日本人のいふ詞なり。元來は朝鮮の詞にて、朝鮮人參の中にハンスといふ様あり。長崎にはハンスといふ人參は無し。然るに二十年ばかり以前には今日より長崎へ様のかはりたる人參わたれり。其時節大阪の商人これは新山の人參とみへて性あしきと云ふて賞翫すくなし。ホンスの半にも可及かといふてハンスと名けそれよりもハンスといふ……。

軛曰、此語原説非なり、何となれば、ハンスの名稱、ホンスよりは先に存在せしものなればなり。

『蘇村葦葢堂人參錄』に……本事人參 古は朝鮮上品のものを御物と呼ぶ。今又改めて本^{ホンス}事と呼ぶ又本須とも云ふ。本事の名は判事と別つために對したる名なるべし……輒曰此説も亦根據なき臆測説なり。『^{藥譜}日用藥品考』に……本^{ホンス}巢手 市家にてホンスデとは、今の韓産の總稱なり。其産と呼ぶものを本巢^{ウツ}の産とも云。單參をほどきて造りなほしたるものを、本巢の造りとも又本巢のサイクものとも云……とあり。

輒曰、結局ホンスはハンスの訛りなり。ハンスは東萊府使の中の一分課判事廳に於て取扱し人參の稱其考説詳しく判事人參の項に出す參照すべし。

◎本朝人參

ホントウニンジン

竹節人參製品。官より指定したる名稱。

寶曆四年二月、徳川政府が大和國吉野郡産の竹節人參製品の發賣を許す時、他の人參と紛れざるべく本朝人參と名稱せしめ賣出さしめたり。されど此名世に行はれざりき。而して人參の稱號中、明かに官より名稱を與へたるは此一品のみなり。和人參の項を見るべし。

マ
行

◎マ ガ リ デ

曲リ様

徳川時代支那朝鮮より輸入されし人參の中根を上に曲げて修製したる者に對し、藥肆に於て命じたる名稱。一にシリマゲとも稱せらる。『小野本草綱目啓蒙』に……ウブと呼者根は形圓にして扁ならず枝あるものも糊にて粘す、根の末寸餘上に屈て糊にて粘す根大に見る爲なり。此をマガリ手と稱す、此太き處に必ず鉛を入る一錢の重さの參に五錢餘の鉛入る者あり……とあり。

韞曰く、此製法は根を太く見せんが爲に非ず、荷造輸送上損害を少からしめんが爲なり。今朝鮮同福錦山豊基の人參は皆此製法によれり。

曲參 エヒデの項參照すべし。

◎卷 人 參

マキニンジン

鬚人參を團集したるもの、名稱。

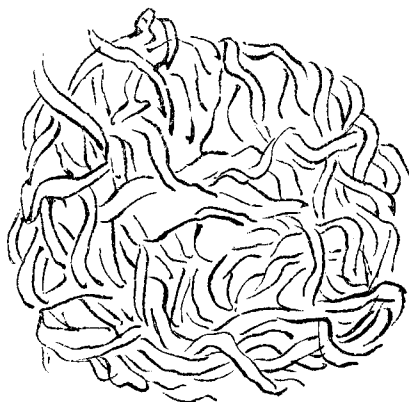
『服部人參譜』に……薩州の者細根短なる故に團と爲して售る、卷人參と稱す。或は團と爲さざる者あり。今醫家多く用ゆ故に多し矣。薩州人曰く國中ノ之品を以て獨

参湯に充つ……とあり。圖あり左に出す。

『^音人參識』に……團參 此方俗稱 此品從來吳舶携來る所のものなり、本と熟參の條鬚を膠接して大さ鴨蛋の如くに造るもの也。其性味極めて佳也。參商或は平定

アヒルノタマゴ

又有不爲團此
世共用故多



色彩圖原 圖の參人卷體參人忠範部服
也鬚の參人節竹圖此日朝

單參を解きて之を造ると云へり。僞者は種參の條鬚也……とあり。

輒曰く、御種人參既に栽培せられ立派なる國産品あるに。此の如く外國品の僞造を作りしとは情なしと云ふべし。今日々本製品に外國名を附し包裝に外國語を並ぶるの亞類？。

◎松葉人參

マツバニンジン

徳川中期に見はれたる擬似人參の一種。其葉の形狀より名けらる。

『百花天工區別』(輒曰此書未見)に……松葉人參 一名マツバナデシコ。葉マツナに似て微しひろく、又瞿麥の葉に似て短し。莖一二尺立秋莖頭間小紫花を生じ小角兒を結ぶ。長松に充つべきもの也……とあり。



圖の鑑圖物植本日 土博野牧
ンジンニバツマ名一 コシデナバツマ



松葉人參今處在皆有之

圖の鑑參人莖立上坂

『水谷豊文木會採藥記』に文化七年庚午の年六月三日、木會川を越して三留野に出で與川村の山にて採取せし記あり……マツバナニンジン 細葉多くつき葉ギク草に似て葉ハバ一分許、長五分許、先圓く高さ一二尺直立して秋に至り枝を分ち五瓣の小紅花

を開く……とあり。

『牧野日本植物總覽』の記載左の如し。

Linaceae アマ科 *Linum L.* アマ屬の *L. stelleroides* planch. マツバニンジン、マツバナデシヨ一年草。全株無毛、葉は披針狀筈形乃至線狀披針形、圓錐花序は疎房狀。花冠は淡紫色、萼より更に其三分一長がしし原野、花候夏、北海道、本州(北中部)

◎圓葉人參

マルバノニンジン

徳川中期に見はれし擬似人參の一種。此稱は根・葉下部に近き圓形を爲せるより名けられたるものならん。

『熊谷廣參品』には……マルバノニンジンは即眞の薺芎。一名杏葉沙參、丹後州獅々崎多く之を産す、土人呼んで人參と爲す。莖つよく葉つよく厚く處々三葉四葉つゞ付、桔梗に似て葉圓く尖る。花白色ツリガネ人參と云、又紫花のものあり。又洛陽比叡山中にもまゝ有之……。

『内藤古方藥品考』には……形人蔘に似て人蔘の名を冒す者亦少なからず。その中

に……杏葉沙參とあり……云々。

マルバノニンジン

『山林大和本草』……薺萇杏葉沙參のこと也。マルバの沙參マルバ人參とも云ふ…。
『倭訓栞』……圓葉人參は薺萇なり。丹後に多し。

以上其記載異なるは、此種桔梗科の植物種類多く且相似て紛れ易く。此時代漢名を實際に當はめる時に其見解を異にしたるに由來すべく。今左に本項の名稱に當てられし者の學名を擧ぐれば。

廣參品の記載は(三)に當る、他の三書の記載何れに當るか明かならず。

(一) 薺萇 ソバナ *Adenophora remotiflora* Miq. 根葉丸し。葉一づつづ互生す。

(二) 杏葉沙參 マルバノニンジン *Adenophora Polymorpha*, Ledeb. var *stricta* Mak. 葉一つづ、互生す根葉の形(一)に同じ。

(三) 沙參 ツリガネニンジン *Adenophora verticillata* Fisch. 根葉丸し、葉四又は三輪生附着す。(詳しくは沙參の項の圖を見るべし。)

◎ マレタチコウチ

『小野本草記聞』に……和蘭語にて、朝鮮人參の葉を云ふ……と出づ。
参考として掲記す。

◎ 蔓

蔘

マンシン

羊乳根日本名ツルニンジン朝鮮名。此蔓蔘の名今に朝鮮内に通用せり。

「五洲衍文長箋散稿」産後鷄藿辨證説に……今産後の百病薺芎ソウキョウは蔓蔘マンシンと稱すの生ナマな

修製前の生の蔓蔘 小根を去り形を整へたるもの



修製したる蔓蔘



寫臨物現頼



る者を取り陳雌鷄と同煎膏を成し汁を取り温服。而して立ろに甦る……とあり。

頼曰此薺芎ソウキョウとあるは乳羊根日本名ツルニンジンを指したるものにて。沙蔘則ソ

バナを指したるに非ず。又蓋多貴の蓋の字はトか又タの音のある字の誤なるべし、

此書寫本にて傳はり全卷誤寫頗多し。著者は憲宗時代の人なれば、今より約百年前に既に此蔓蔘の稱ありしを知る。蓋或は蟲の字の誤寫か。

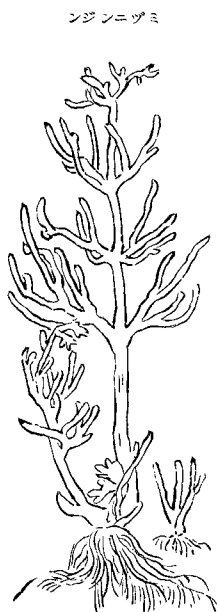
此蔓蔘は全道到る處に産し。朝鮮人が食品としても使用し。京城東大門市場には其干したるものを食品に束として賣りつゝあり。又山野に於て發見したる時は、掘り採て生にても食用す。内地出稼の朝鮮労働者が日本の山野に於て之を發見したる時は採つて食ふ由也。民間藥としては、之を多量に採取し來り袋に入れて釜の中に極煮し、其滓を捨て更に之を煮詰めエキスを作り貯へ置き。男は疝氣淋病、女は産後の諸病、子宮病、腰の病等に特効ありとして使用せり。又藥材としては支那に輸出し、黨參と名稱を更へて賣られ。又近時大阪にも藥材として輸出さる。

現在朝鮮の土名曰トトクと稱す。「郷藥集成方」には砂參を加徳「東醫寶鑑」には多徳と爲しあり。皆此植物を指したるものなるべし。猶日本の植物(桔梗科)土名トトギ又トトキは其語原は朝鮮語の傳來なること蓋し疑無かるべし。詳細は第六卷人參雜記篇トトク考に説述す。『朝鮮語辭典』に：：：만근薺ソバナ：：：とあるは誤也。

蔓蔘の圖と其植物學的記述はツルニンジンの項にあり、共に參照すべし。韜曰、此植物に對し今尙沙參の名稱を宛て記述せるものあり、誤也。

◎ ミヅニンジン 水人參

『井口本草綱目啓蒙圖譜』に此名稱と畫出づ。『小野蘭山本草綱目啓蒙』に……ミヅニンジン水中に生ず、ナニシジン胡蘿蔔の葉に似たり……とあり。前書は後書の圖なきを憾として著作



井口之望本草綱目啓蒙圖譜
元圖着色をみ帯るたば淡綠色

せられたるものなるに。後書の記載と前書の畫とは一致せず。而して其圖より見れば淡水の藻類なる如きも、藻類圖譜を見るに其形と同一のもの無く。何者を指したるか判明せず。

◎ ミツバチクセツニンジン 三葉竹節人參

竹節人參の一品種。三葉人參並竹節人參の項を見るべし。

◎ ミツバニンジン 三葉人參

徳川中期に見はれし擬似人參の一種。葉の形狀より名けられしものならん。

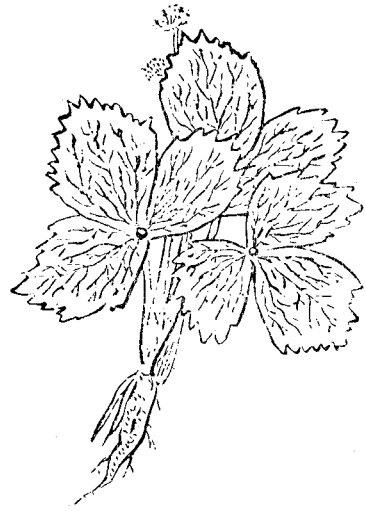
『小野本草綱目啓蒙』には、王孫の記述中に又一種延年サウト呼者あり……其別名にミツバニンジン、エンレイサウ……とあり。

右は、ユリ科 Liliaceae. エンレイサウ屬 Trillium L. のエンレイサウ *T. apetalon* Makino. なるべく『野野日本植物圖鑑』に左の記載あり、其圖と共に左に録す。

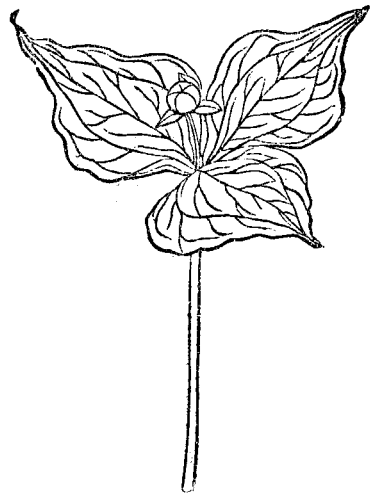
産地、溪間樹陰などの濕地に多き多年生草本なり。形態莖五六寸頂に廣卵形の三葉を輪生す。其葉間に一梗をぬき、一花を開く。萼片三ありて花瓣なし。花期五月頃。花色帶紫色。

『坂上人參譜』……三葉人參正名三斤菜所々山野有之俚人三葉人參と呼ぶ……とあり圖あれど、何科の植物か明かならず。『本草拾萃』には前胡にミツバニンジンの和名を附せり。

輒曰く、其根葉が三出せるによるものか。前胡はノダケオニゼリ等とも稱し學名。形體等『牧野日本植物總覽』に左の如く記さる。



坂上玄參人參三葉人參の圖



日本文物館ニシレンサイの圖 牧野博士

繖形科 Umbelliferae のノダケ屬 Peucedanum L. の P. decusivum Maxim ノダケ、ウダナ、ノゼリ、コマゼリ、ゼンコ。

多年草、高三尺乃至六尺、莖は梢部細毛を布く葉は一回乃至二回三出、小葉は三或は五中裂、中裂片は長橢圓形、銳鋸齒縁、葉梢は濶大紫色、複繖形花序に於て總苞片は一二、廣濶、繖梗は約二十、小總苞片は五乃至七、線狀披針形或は披針形、小繖梗亦約二十、花は紫色、萼齒片は不明、瓣片は長橢圓形、銳頭、雄蕊は瓣片より長、果實は橢圓形、背側より壓扁、廣翼、長約二分—山野、花候秋 本州(中南部)四國、九州、臺灣。

柄曰く、前に掲げたる各書の記載によれば三葉人參と稱せられし者右の外に數種

ある如し、蘭山のあげし王孫は、日本名ツクバナサウ、ユリ科 Liliaceae ツクバナサウ屬 Paris L. の *P. tetraphylla* A. Gray なれど果して此れなるや否は明かならず。

右二種の外『本草綱目啓蒙』ムカゴ人參の一名をミツバニンジンとせり、其項を見るべし。

◎ミヤマニンジン 深山人參(?)

此名稱『博士野外植物圖譜』に出づ。何故に人參名を得たるか不明。其記載左の如し。

繖形科 Umbelliferae シラネセンキウ屬 *Angelica* の *A. Florenti* Franch et Sav.

山地の多年草で地下莖を曳く。莖は直立一尺内外疎に上部分枝する。葉は互生有柄細裂し裂片は狭く葉柄本は短鞘を呈する。枝頭に複繖形穂を着けて五花瓣の細白花を開き果實は兩邊に廣翼がある。

◎ミヤマヤブニンジン 深山數人參(?)

『小野本草綱目啓蒙』に野胡蘿蔔、青蒿、竊衣、竹葉にヤブニンジンの名ありと出づ。

『敬野日本植物志』にヤブニンジンの一變種として學名を *Osmorhiza aristata*, Makino. と記し……概形瘠小。終裂片狹長、深裂。果實は粗毛……と記さる。
ヤブニンジンの項を見るべし。

◎ 眠

參

ミンシン

自然生の人參と栽培人參とを問はず。秋後に至り其葉枯凋して後、翌年の春に至りても發芽せず。二年目或は三年目に至つて發芽するものを稱す。死せしに非ずして、眠れるの意也。

此語は今猶開城、錦山、茂朱、豊基等の人參栽培地及平安、咸鏡山、奥、自生人參發生地に通用せり。眠參或は睡眠參とも稱す、内地人參産地にては之をネムリ人參と稱す。滿洲人參栽培地に於ても現に此稱あり。

「林園十六志」に……「種蔘譜」を引きて、蔘或は一二年芽を生かざるものあり。切に認めて已に壞却せりと爲すべからず。是れ津液下行し根柢充實するなり。俗蔘眠と呼ぶ……とあり。

◎ムカゴ人參

徳川中期に見はれし擬似人參の一種。葉莖間にムカゴの如き實を生ずるにより名けらる。ムカゴとはヤマノイモ又はシネンジョウの莖に生ずる黒き塊状のものを云ふ。

『貝原大和本草諸品圖』に……山芹、蔬と爲すべく味佳し、水にも陸にも宜し、國俗山芹を人參と云ふ、實は零餘子の如し根甘く胡蘿蔔の如し……。

『小野本草綱目啓蒙』に……ムカゴ人參一名ヤマゼリ、セリニンジン、ミツバナニンジン池澤溪間に生ず、葉は木香花葉に似て厚滑深綠色、其莖軟にして藤蔓の如く、長一二尺、莖梢に碎白花を開く、芹花に似たり。實は脚葉間に生ず、零餘子ムカゴに似て小なり。故にムカゴニンジンと云、根直にして横文あり、味甘苦人蔘の味の如し。世に以て廣東人參と爲ものは是せにあらず……。

『松岡用藥須知』……又ムカゴ人參あり、三葉人參と名く。又芹人參と名く……ムカゴ人參は菜類にして藥用に入らず。今人此の根を以て飯上に蒸し絲にて緊しく紮し堅めて人參に充つ……。

『熊谷廣參品』……ムカゴ人參、一名三葉人參、初生三葉或は五葉、莖を抽きて花を開く、碎白傘を張るが如し。頗芹の花に似たり故に芹人參と名く。葉間別に實を結ぶムカゴの如し故にムカゴ人參と名く。稻生若水救荒本草に云地瓜兒是也……。又同書に……近世廣東より渡る參。藥肆廣東人參と稱し芍藥手と稱す……。京師鷹峰藤井道壽の話に、近ごろ廣東より其數根を栽えて來獻す。命じて官園に栽しむ、予親しく目撃するに本邦所産のムカゴ人參也、但肥壤に培養したるものに比するに苗葉稍大なりと……。輒曰、此說誤謬なる如し。

『坂上人參譜』には圖二を出し其一に……零餘子人參、今處々人家之を栽ゆ。俚人或は莖葉を採つて酢醬に和し食ふ其味尤美也……。と旁書し、其二には……大葉零餘子人參とあり……。』

『山本大和本草』……山芹、ムカゴ人參を云ふ漢名未詳。葉の圖佳ならず。(輒曰、貝原大和本草の圖のことか)細長小葉五枚或は三枚着て互生す。莖二尺計り芹の如き花を生ず。葉に岐無く細鋸齒あり、水邊に生ず……。

『松平本草正譌』……ムカゴ人參は綱目の繖白草也、即鷄腿根なり。救荒本草の圖考すべし、貝原松岡二氏鷄腿根を河原柴胡となす大に誤れり……。

『山阿本草正正譌』……正譌ムカゴ人參を鷄腿根也……先人未發の説也……と批難せり。

『倭訓栞』に……ムカゴ人參は廣東人參なり、もと朝鮮より來ると云ふ……。輒曰此記載頗ぶる見當違ひの誤記なれど、當時斯る説も民間に傳はりしと見ゆ。

『岩崎武江物産志』に……志村邊の産　ムカゴニンジン　鼠山の産　ムカゴ人參……とあり。

此植物藥用植物として諸方に試作せられしと見ゆ、小石川御藥園が明治二年大學東校の所管に屬し醫學校藥園となり。明治四年文部省より調査したる植物目錄の中にムカゴ人參あり。『日本藥園史』によれば。熊本藩の藥園、明治六年熊本縣の命により藤井景倫の調査したる同園の植物目錄中にも零餘子人參ありしこと出づ。蓋し藩政中よりの栽培なるべし。

『飯沼草木圖説』……にはムカゴニンジン　水澤濕潤の地に生ず。莖線條あつて高二三尺、形柳葉の如き細長葉或は三を以てする鰭狀の長柄葉を互生す。梢上細極に在つては三莖一莖をなし、短小にして略ミツバゼリの如くなるあり。夏秋の際枝頭に重繖花を放く。大き一分餘、五瓣白色二柱五雄藥、又實形小茴香實の如き小珠を生

じ、後落て新苗をなす。その新苗の葉は多は三裂、尤もミツバゼリの葉の如し。此一殊性あつて又舊指根の如く殆ど人參の形あるを以て、ムカゴ人參の名を得。

第五種

シユム、ニジラテ羅 ニシオルテル、ワートルエツペ 蘭

春氏第四種のシユム、シルユムを以て本條とす可疑

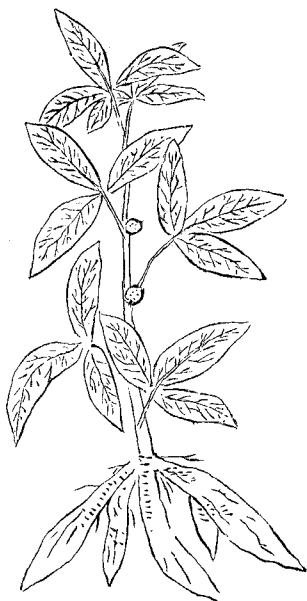
増訂版牧野博士の補記……此種は其稚苗或は秋深けて莖上の小枝に往々單葉を生ず。果實は平圓形にして長さ一分に充たず。吾邦邊陲の人時に之を人參即ちオタネニンジンと誤認し以て其品と倣せり。始めて我邦の植物を泰西に紹介せし。Aempler 氏此誤謬を承けて之を真正の人參と爲し其圖説を其著 *Amoenitarum Exotica-rum* (一千七百十二年出版中に登載せり。林リッホ娜ネ氏依て本種に命ずるに *Sium Ninsi L.* の學名を以てす *Ninsi* は即ち人參なり……とあり。此れにより人參名及學名の由來判然と明になれり。

本植物に關する『牧野日本植物總覽』の記載左の如し。

繖形科 — Umbelliferae. ムカゴニンジン屬 *Sium L.* の *S. Ninsi L.* ムカゴニンジン。

多年草、全株無毛、葉は羽狀複生、小葉は三乃至五、卵形或は披針形、稀に線形、細銳鋸齒

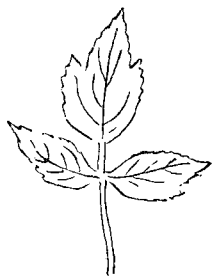
大葉零餘子人參 今人多栽之



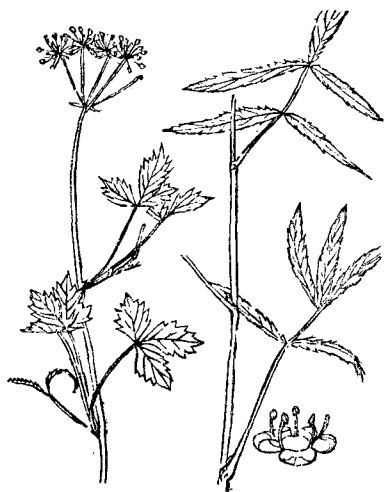
坂上立參人參の圖

山 芹

可爲蔬、味佳。水ニモ陸ニモ宜シ
 國俗山芹ヲ人參ト云實ハ零餘子
 ノ如シ根甘シテ如胡蘿蔔



大和草木譜の圖



ガムニンジ 牧野博士 日本植物圖の圖

縁、複繖花序に於て總苞片五、線狀、繖梗は五乃至七、小總苞片亦五乃至七、披針狀線形、小繖梗は多數、花は白色、萼齒片は銳頭、瓣片は倒卵形、凹頭、先端内捲、雄蕊五、挺出、果實は扁卵圓形。

水澤、花候夏秋 北海道、本州(各部)九州。

猶ムカゴニンジンと植物種名の *Nisai* との関係に付ては雜誌本草昭和八年十二月發行第十七號に牧野博士の詳細なる考證あり。其要領を左に摘記す。

今を去る五十四年前の明治十年に東京の博物局にて發行せし「博物雜誌」第四號に。小野職愨氏のムカゴ人參を以て御種人參に誤るを辯ずるの文あり。其中に、伊勢紀伊の地方に於て奸商が朝鮮人參の種なりと稱しムカゴ人參の種を高價に賣り之を買ふて同地方に培養せしこと出づ。事は明治十年前後なり。

Nisai は人參を約めた語でムカゴニンジンを入參と誤り。エンベルト、ゲンフェル著西紀一七一二年 *Amoeritarum Exoticarum*. にムカゴ人參の圖を入れ。

參人 *Sju sijn*, vulgo *Nisai*, *Nindsin* & *Dsindson*, *Sinice* Son, *Tartarice* Soasai, *Sisarum montanum* *Coreaense*, *radice*, *radice non tuberosa*.

と記し。西紀一七五三年刊行リンネ氏の *Species Plantarum*. にムカゴニンジンを入 *Sium*



圖の參人ゴカムの中書著の氏ルエフンケ

て見をるたれら作の物植此で近所都京が氏ケは圖此、て付に圖此は土博野牧
 たい描の人本日來從、るあで來出な事見に實、うらあでのもたし生寫が身自
 。る居てれらせ讀賞といなはのもぶ及に此で圖の參人ゴカム

名と命名したり。是れ今日吾人が一般に使用する學名なり……云々。

猶詳しきは同誌に就て見るべし。前二書の圖あり其中ケンフェル氏の圖を上
轉載せり實に珍とすべし。

◎ 明

參

メイシン

朝鮮に於て、李朝中期に於ける把參の別名。支那に在つては、透明なる人參の名。前者は既に亡ひで使用せられず。後者は今猶使用せらる。

「宣祖實錄」丙午正月明より使節の來る前其待遇方を議するの條に。李好閔の言の中に……且つ聞く羊角參は採取十餘斤、僅かに三兩を得ると、故に未だ猝かに辨する能はず。明參に至つは則ち小參と雖も合して之を造る。故に頗ふる辨じ易し。而して唐人亦甚だ之を好む、明參は當さに多く備ふべし。王曰く二百斤已に令して措備す。李好閔曰く、此れ則草參、禮單に當て用ゆべし……云々。即把參と稱したるもの、別名たるを知る、把參の項參照。

『典海』に……人參別名、透明なるにより名けらる……とあり。

ヤ
行

◎羊角參

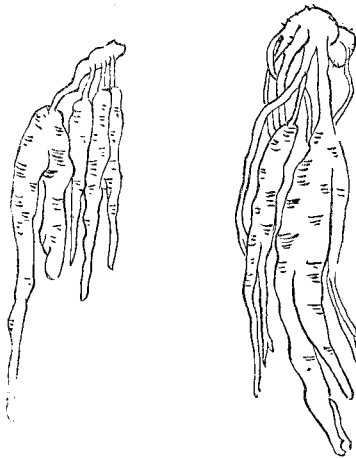
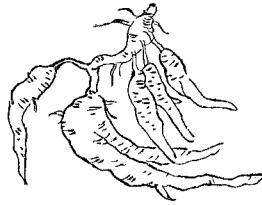
ヤウカクシン

朝鮮産の人參に對し。明代支那に於て俗稱したる名。

此名初めて明の陳嘉謨の『本草蒙筌』に出づ。曰……百濟參白堅且圓、白條參と名

羊角參連節

今頁舶載來羊角參如此



加藤立順和漢人葎考圖

く、俗羊角參と名く……とあり。蓋し老ひたる綿羊の頭角の數個並出せる者に較べ
名けしものならん。

朝鮮に於ても此名稱を間々用ひしことは「宣祖實錄」三十六年五月夕講の條特進官

成泳の啓に……進獻の明廷へ人參羊角の如き者極めて得難し。一斤當さに三十餘匹・布のことに至る而して亦買し得ず……云々とあり。「續大典」に……關西軍營及熙川、雲山、神光等の處、一角の蔘と雖も帖文無き者私買を許さず……とあり。此角も亦羊角の略ならん支那斤量の角を
使用せる例なし。

徳川時代に於ても、此名稱通用せしことは『加藤和漢人蔘考』に……判事 西章云是れ唐人參也、和俗半事と稱す、舶上の人羊角參と謂ふ白條參の羊角に非ず形色最も美なり、黃潤明亮、上黨參に充つべしと雖も氣味俱に薄し。……同書に……此羊角人參は鳳凰城など云銘の品近來渡らず、渡るも流布せず……。『増補庶物類纂』所載、享保丙辰の歲幕府が長崎奉行をして遼東人參の形態を尋問したる條、長崎在留清商伊漢臣の答に……今貴國に致す羊角參、京參、白棍、泡參皆朝鮮也……とあり。『西人參辨』。『葦霞堂人參錄』。『加藤和漢人蔘考』各羊角參の圖を掲ぐ。此圖想像上のものに非ずして、何れも實見の者なるべく。就中人蔘考の圖は朝鮮自然生人參の經年の者の形態をよく描寫せり。上に出せり。

◎ 養

蔘

ヤウシン

栽培人參のこと。朝鮮に於て人參の栽培起りて後付けられたる名。

「中京志」土産の部。隆熙四年補修記事に：…人參。元と土産に非ず、而して中間に居人南種を得て圃を爲くり藥土灌養す、養蔘と曰ふ…とあり。

◎ 洋

參

ヤウシン

〔一〕支那清代後期に於て日本人參を東洋參と稱し、アメリカ人參を西洋參と稱す。其略稱。

故に洋參と稱するとき兩者を指すこともあり、又何れか一方を指すこともあり。各其項を見るべし。

〔二〕蘭科の植物擬似人參の一種。

『松村植物名彙』に左の記載あり。

Salvium setcnuenicum, Krzl. (Orchideae)

洋參 (D.)

D 参 = Diels, L.-Dei Flora von Central China, Engler's Botanische Jahrbücher für systematik, Pflanzen geschichte und pflanzengeographie. (Vol XXIX, 1901)

◎ 瓊玖島人參

ヤクジマニンジン

『本草圖説』に……四極の竹節人參の如き圖出づ……。
文無し。參考として茲に掲ぐ。

◎ 藥

參

ヤクシン

朝鮮の名稱藥用人參の意。人參を茶として飲用するものに茶蔘あり。是れと區別すべく造られし語。

「松雲大師奮忠舒難錄」に……圓光元佶長老に與ふるの書中。贈物に……藥蔘一斤……とあり。又慶七松の「海槎錄」にも京の圓光元吉長老へ藥蔘一斤、江戸の承兌西笑長老へ藥蔘一斤、對馬の僧玄蘇へ藥蔘一斤、宿蘆禪師に藥蔘一斤を贈りし記事あり。

文祿慶長の役後朝鮮より信使を發することゝなり。正使呂祐吉副使慶暹が日本に赴けり。文祿の役國交に活躍せし朝鮮の僧惟政則松雲大師は此の二年前孫文或と共に日本に赴きし時。交誼を訂せし日本の僧侶に書信と藥蔘を贈るべく此一行

に托せしなり。

『英宗實錄』五年の記事に……。上曰く内局の藥蔘江原道蔘を用ゆる……。か云々。
『正宗實錄』にも藥蔘の記事あり……。

◎藥 精

ヤクセイ

古代支那の人蔘異名。『范注方』に……。人蔘は藥精也……。とあり。

◎藥 用 人 蔘

ヤクヨウニンジン

日本にて食用蔬菜の胡蘿蔔をニンジンと稱するにより、此れと混同を防ぐために
明治年代人蔘に付けられたる名稱。

◎野 山 蔘

ヤサンシン

自生の人蔘を支那人は此名を以て呼ぶと『典海』に出づ。
光緒年代福建省蓋金稅則の中に……。野山蔘每觔二十枚 野山蔘每觔四十枚の規
定あり。起驗局捐銀を課する規定に出づ。

◎野 參 ヤシン

栽培人參の實を鳥が啄み去り。其タネを山に墮し、それが自然に生へ出たる人參の名稱。

全羅南道人參産地和順郡同福面に此名稱あり。福島縣會津に於ても同一なり。但會津にてはヤサンと讀めり。此種のもの稀に發見さる。會津に於ては、ヤマドリが人參の實を啄み去ると稱せり。

◎藪 人 參 ヤブニンジン

徳川中期に見はれし擬似人參の一種。(?)或は又擬似胡蘿蔔の一種なるかも知れず。

【貝原大和本草】に……野胡蘿蔔ヤブニンジン 胡蘿蔔と同時に生枯す。又種子あり自生す……

食すべし無毒本草に見えたり。俗にヤブニンニンジンと云……

【小野本草綱目啓蒙】……野胡蘿蔔 青蒿 竊衣 竹菜にヤブニンジンの名あり。

【熊谷之飲廣參品】……草人參、一名ヤブ人參 細葉細莖、蛇床に似て小、毛有り花を開く白

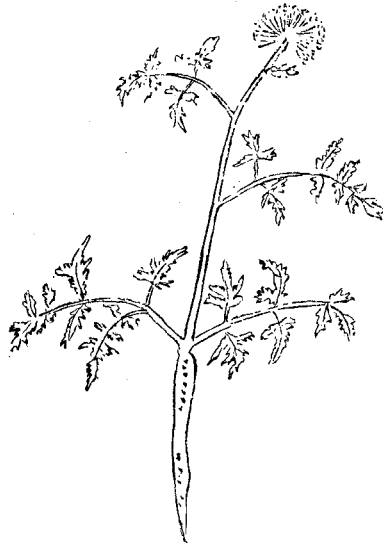
色横簇して生ず。乃ち野胡蘿蔔なり。

『和訓栞』……やぶ人參は野胡蘿蔔なり、野人參とも云ふ……。

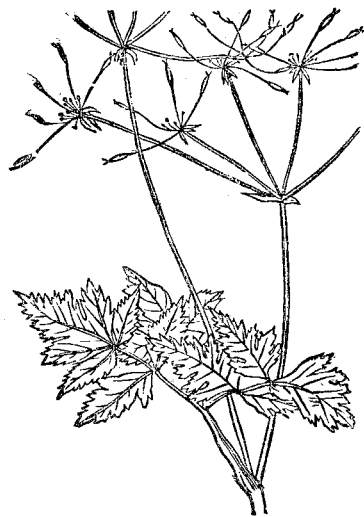
『坂上^ノ人參譜』……斂人參正名蛇牀、洛陽の人斂人參と呼ぶ……。

斂人參 正名蛇牀 洛陽人呼斂人參

ヤブニンジン



坂上立人參譜の圖



歌野博士日本植物圖鑑の圖

『蜀山人一話一言』……漢種の蛇牀子はヤブゼリと云ふ草の實也。(今道傍にヤブシラミと云ふ草の實には非ず)是は鶴蝨と一種二類也。鶴蝨もヤブニンジンと云ふ草の實なり……。

『和漢藥物本草圖彙』にラテン名とオランダ名を掲げあり、左の如し。

ヤブニンジン 野胡蘿蔔。

Cheerophyllum bulbosum. カローロベイリウム、ビュルボシム。

Raspachtige wilde kerhel. ラープアフチヘ、ウイルデス、ケルヘル。

『飯沼
慈齋草木圖説』には……ヤブニンジン、ナガシラミ野胡蘿蔔とあり、牧野博士の重修

記事に其形狀を詳説して學名を繖形科の *Osmorhiza aristata*, Makino et Vade. とせり。

『松野
博士日光山植物目錄』には *Osmorhiza japonica*, S. Z. なる學名を付せり。

『牧野
博士日本植物志』に、ヤブニンジン屬 ヤブニンジン一名ナガシラミ、*Osmorhiza aristata*,

Makino. 宿根草、一二尺。粗毛。葉は三出更に二回羽狀全裂—深裂、終裂片は長橢圓形、

缺刻狀齒牙。繖梗三五、小繖梗多數、小總苞五六。花は白色。果實は長橢圓形、剛毛。

……と出づ。

猶ノニンジンの項參照すべし。

◎山 人 參

ヤマニンジン

【一】徳川中期に見はれたる擬似人參の數種。

此の名稱を以て呼ばれし者は甚しく多數に上れり、蓋し山に生ずる者多く、且此名

稱簡易なる通俗稱なればなるべし。

『小野本草記聞』には……或は云、邪蒿、ヤマニンジン。京師の近郷に自生し、和州勢州の田野にあり。胡蘿蔔の葉に似て、毛茸無し。葉筋逆違にいつ、故に此名を得る、夏に至り藎を抽き葉互生す。花と實ともに芹に似たり。直根にして白し、生なるときは胡蘿蔔の香あり、食ふ可し毒なし……とあり、同じく『本草綱目啓蒙』には、人參の項に左の如き數種のヤマニンジンの名を出せり。

△佐州のヤマニンジン、一名シマニンジン、ハマニンジン。羽州にてアキタニンジンと云ふ眞の蛇床子なり。

△キヨマサニンジン一名セリニンジン、ヤマゼリ、ヤマニンジン。藝州廣島毛利元就の城址に多く生ず……。

△タウニンジン、一名ヤマニンジンは即ノダケにして前胡なり冒名の物數多し。

△天南星

△シラアワボウフウ

△邪蒿

△山蘿蔔

に皆ヤマニンジンの名あり。

『熊谷之飲廣參品』嶋人參 恕菴先生曰く。佐渡所産の山人參一名嶋人參又濱人參と云、出羽、秋田にて秋田人參と云ふ皆一物也。參類に非ず佐渡滿山之を出す……又同書に唐人參一名山人參一名野ダケ一名濱芹即前胡なり。俗間此れを唐人參と呼ぶ……又同書に山人參一名芹人參 蒼州、廣島山中に多く生ず、土人呼んで清政人參と爲すと呼ぶ即ち防風と名くるもの是也……。

『松岡經卷用藥須知』……又藝州に山人參と稱するものあり此即ち眞の筆防風なり。人參の類に非ず……。

『坂上玄臺人參譜』相州人參二種の蒿の内一種の傍書に……相州人參別名山人參と……あり。

『小野畠山本草記聞』には伊吹防風をヤマニンジンとせり。『飯沼慈齋草木圖說』には白川防風をヤマニンジンとせり。

邪蒿に付ては、『北齊書』儒林傳に、邢峙字は士峻、國子教授となり、皇太子に讀を授く。厨宰、菜として邪蒿を進めし時、刑峙は此草不正の名あり、殿下食ふべき所に非ずとして斥け。顯宗之を聞いて喜ぶと云ふ云々の記述あり。

伊吹防風は繖形科 Umbelliferae のイブキボウフウ屬 *Seseli* L. の *S. Libanotis* Koch var.

dacifolia Franch. et Sav.

多年草、高二尺、葉は二回羽狀全裂、裂片は披針狀線形、銳頭、缺刻狀羽狀中裂、複繖形花序は無總苞、或は苞片一、線形、繖梗は多數、小總苞片は少量、線形、小繖梗は多數、花は白色、萼は五齒縁、瓣片は卵形、先端反捲、雄蕊は瓣片の倍長、果實は卵形、長橢圓形、絨毛密布。



ンジンニマヤ

圖の鑑圖物植本日 士博野牧

山野、花候夏 北海道本州(北中部)

白川防風は繖形科 Umbelliferae ノダケ屬 Peucedanum L. の *P. terebinthaceum* Fish. var. de Itoideum Makino にし

天南星は天南星科 Araceae のテンナンシヤウ屬 Arisaema Mart. の植物にして數種

あり、蘭山のヤマニンジンとせしは何れなるかは不明。

其他は各其項。マツムシサウは山蔘の項に於て、各其植物學的記述をなせり、併せ見るべし。

白川防風に付ては『牧野博士日本植物圖鑑』に其形態を左の如く記せり。

……ヤマニンジン 一名シラカハボウフウ 繖形科

〔產地〕我邦中部以西の地に産し山野向陽の地に生ずる多年生草本なり。〔形態〕葉は概形三角形を呈する羽狀複葉にして多裂し、小葉は不規則なる缺刻及鋸齒を有す。其質硬くして光澤を有し、葉柄の基脚は擴がりて莖を擁す。簇葉間に高さ二三尺の莖を抽出し、枝梢上に複繖形花序をなして、五瓣の小花を攢簇す。〔花期〕夏日〔花色〕白色……。

〔二〕 自然生の人參

現在朝鮮内に於て内地人は自然生の人參を山人蔘なる稱にて呼べり。

◎ ヤマホリニンジン 山堀人參

竹節人參の日向地方に於ける土名。竹節人參の項を見るべし。

◎姚州參

ヨウシウシン

支那清代に於ける人參擬似品の一種。『植物名實圖考』に……滇姚州麗江亦た參有り、形既に各異る、性亦多燥……とあり、何の植物なるかは不明。姚州は今の四川省舊永寧道の境内。

◎横

筋

ヨコスデ

現在會津製の人參の一品種。

小形の人參に上より下部まで環狀横紋を作りたるもの。其筋は黒く外形薄き鼠黒色のもの、臺灣向としての輸出品。

◎吉野小人參

ヨシノコニンジン

吉野人參の鬚根を修製したる者の名稱。薩摩人參竹節人參の鬚根を修製したるものを薩摩小人參と稱せられ。吉野人參の未だ世に出でざる前に於て大に世に行はれたれば、その名に倣ひて命名せるものならむ。

『内藤 尚賢古方藥品考』に……又竹節淺直根淺其鬚根を芳野小人參となす、和州吉野に出づ……とあり。

◎吉野人參

ヨシノニンジン

竹節人參の別名。最初竹節人參の垂直根の者を初めて大和の吉野山中に發見せられしより此名あり。吉野又芳野にも作る。

徳川時代の本草醫藥書に此名稱を以て記載せる者を仔細に検討すれば。其著者の認識に於て左の如き差別あり。

- (一) 大和吉野並其附近及吉野に接壤せる紀伊の山中に産する竹節人參全部を指す。
- (二) 同上の中根の垂直根の者を指す。
- (三) 同上の中根の塊状の者を指す。
- (四) 同上の地方産別種桔梗科?の植物を指す。
- (五) 日本に産する竹節人參は、根形の如何に拘らず此名を以て稱す。
- (六) 日本に産する竹節人參中根の垂直なる者を指す。

以上の如く其認識區々に涉れるは、學理的實驗的根據なき主觀より出發したるに因り。唯一見したる外形のみを標準として區別されたること。植物學が發達せざりし當時に於ては、當に此植物のみならず一般の植物に於ても亦同様にして。蓋し無理からぬ事と謂ふべし。本項に對する各學者の意見を左に列舉すべし。

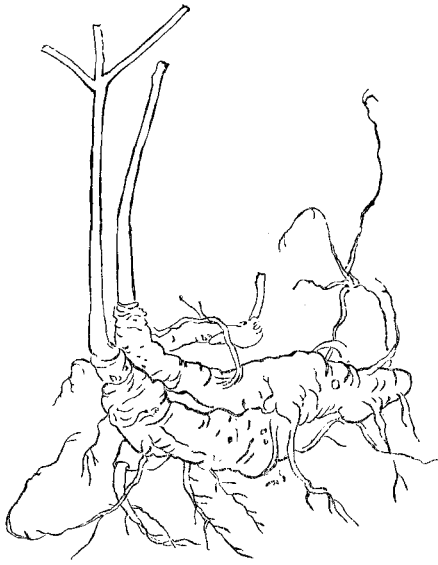
熊谷子欽は其著『廣參品』に於て、和人參の部に、一名吉野人參、大和吉野産之一名日光人參、一名薩摩人參等各地の産を列舉せり。由之竹節參の一名と認めたるを知る。松岡恕菴も其著『用藥須知』に於て、又鬚人參あり一名薩摩人參とも吉野人參とも呼ぶ。今四邊深山の中背陰の地に生ず……とあれば前説と同様とすべし。西章次も亦上説と同じきは薩摩人參の一名を吉野人參、斗知婆人參、宇古義人參とし深山幽谷背陰の地に生ず……其根竹鞭の如し、又直根あり……とあるにより明かなり。

小野蘭山は、『本草綱目啓蒙』に於て、和人參の部に數十種を列舉し。其中吉野人參を、直根、横根等三品交り生ずとせるにより(二)に該當する意見とすべし。

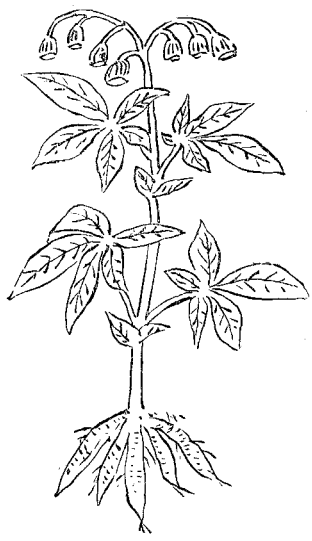
田村藍水は其著『人參譜』坂上玄臺名に於て、其圖に吉野人參の一種として、根形花形桔梗科の植物の如き畫を出し。此則齊薊の一種なり……と記し。他の一種は竹節參なりとせり。

山本篤慶は其著『土參考』に於て……土參 直根人參 吉野人參……とせり。是明かに直根の竹節參全部の名稱と認めたるものなり。土參なる名稱は此時代多く直根の竹節人參に充て使用さる。

木村孔恭『蕪葎堂人參錄』には同吉野ニンジン和州芳野の市人多く採り售る故に



根の參人野吉 色彩畫原 圖說圖草本明不著也



坂上玄臺人參譜
和州人參 今生和州吉野山一種即竹節參也。一種橫根爲梁氣味類豆
州人參、土人呼吉野人參此則蕪葎也
額曰此一種ノ蕪葎ト云フハ桔梗科植物にして此葉は描寫の誤なるべ
し、此書の畫總て社撰の者多し

呼ぶ……とあり。是吉野地方産の者に限り、此名稱ありとしたるものにて和人參の
中に包含するとせるものなり。別に熊野人參の稱を掲げあり

山岡守全も其著『本草正正譌』に於て……韓種、吉野直根、玉人參、竹節人參の四種。予が園中に並び種へ試するに形狀一物にして見判がたし。然れども熟視するに大體韓種吉野は一樣にして、玉と竹節は稍異り……とあれば。此亦前説と同一とすべし。而して此觀察は誤なり。

屋代弘賢は其著『古今要覽』に於て……其根の横なるものは所謂竹節人參にして其一名を節人參といへ共、西土にて竹節參と云物とは同名異種なり。又圓なるものは珠人參一名蚶斗人參カトル、一名蕪菁人參カワラ、一名吉野人參といひ。西土近世にては之を珠參或は珠兒參といふ。又直なるものは即直根人參一名を單股人參といふ……とあれば、竹節人參の圓根のみ吉野人參としたるなり。曾槩も亦大體上説と同じきことは其著『人參識』に於て竹節人參、單股人參、直根、蚶斗人參と三別し、其蚶斗人參の下に藥肆名稱として吉野人參の名を掲げ。其根縦直にして短身長尾正に蚶斗兒の形に似たり……と記せるにより知らる。

岩崎灌園は其著『本草圖譜』に於て、直根のものを竹節の者と別に掲げて芳野ニンジンとし、今芳野にては採つくし、紀州境にて作るよしなりと傍書せる所より見れば、吉野及其附近の直根のみ吉野參としたるを知る。

此植物が眞人參なりや否に付ても。亦學者間に議論ありたること及此植物の發見者竝に御種人參日本國內に繁殖の後も。僞品の材料として吉野邊に栽培せられし事等は他の項に説けり。直根人參、和人參、馳堂人參、竹節人參等の項參照すべし。

◎ 扎 人 參

ヨセニンジン

人參の小根又碎片を聚めて相纏着し一個の全形を作り。又は小を大に拵へたる僞工人參。略してヨセとも云ふ又寄にも作る。此種の人參重に支那朝鮮より入る中には日本に於て見習ひて作りし者もありたり。

『加藤和漢人參考』中享保の初年京都に來りし長崎隱士の談を筆記せる中に……扎ヨセ長崎口對馬口ともにあり。是は細き人參を三つも四つも合せ糸にてくゝり合せたるもの、藥に用ひて少しは効あり。是も今時流布ならぬよし一向に見へず……。
下以加藤認……此の扎も近來は無し。細けれど性よきものなり。

『岡本和語本草綱目』……大人參の細かき者を聚め扎て大に作る者あり……其効力薄し……。『寄葦葭堂人參錄』に……寄ヨセ細小の參を聚て大參に造り拵し壓實したるものなり。之れを扎參と呼ぶ。

ラ
行

◎羅

參

ラシン

李朝中期以後の語。 朝鮮産則ち嶺南道慶尙湖南道全羅に産せし人參の稱。

此名稱は朝鮮全道に産せし人參が濫獲と山林開墾の爲漸く減少し。 朝鮮の一部と西北鮮の一部に産するに至りし時代、其産地を別つべく命稱せられしものにして。「林園十六志」に……東俗朝鮮のこと嶺南湖南に産する者を以て羅參となす。 關西道平安の江界等の地及江原道諸郡に産する者を江參と爲し。 關北道咸鏡に産する者を北參となす……とあり。 此名蓋し新羅參の略稱としての傳統的命名ならん。「増補文獻備考」に……董越朝鮮賦に「五葉の蓂莢に闕廷に貢す」は所謂羅參なり……とあるは謬り也。 何となれば董越が明の使節として朝鮮に來りし成宗王の時代には此名稱存せず。 且つ明庭への歳貢の人參は宣祖の時にも平安道の人參を使用せしこと「宣祖實錄」に記載あればなり。 此一項は編修委員の一人が濫りに臆測を加へたるものならん。

王室供御の人參は此羅參を使用せしことは「萬機要覽」に……内局御供蓂慶尙道羅參春等二斤秋等二斤……とあり。 又「英宗實錄」甲寅王が備堂備邊司の提調を引見して問答

せる條に……上曰御用は則ち羅蔘乎、對へて曰く羅蔘は四斤と爲す。而して御用足らざる故間々江原蔘（ゴウジヤン）を用ゆ……とあり。「正宗實錄」初年の部に、英祖大漸の時内醫院が羅蔘を使用せざりしとて、藥房提調が彈弦せられし記事あり。正宗二十二年戊午六月に延日縣監鄭晚錫の上疏中蔘弊を論ずる條に……近來山採漸く稀に家植甚だ多し。古へ稱す所の羅蔘或は有之と雖も。而も蔘商輩審（シム）藥（ヤク）官（クワン）に潜付し其賣る所に非ざれば便ち點退あり……とあり。

◎羅浮參

ラフシン

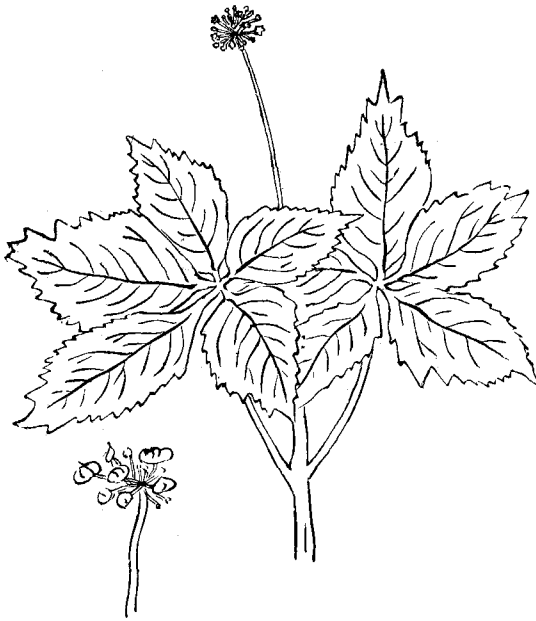
清代に見はれし擬似人參の一種。

清の宋廣業の『羅浮山志』品物志の條に……羅浮産する所の人參、殊に本草人參と類せず。狀仙茅の如く葉は細ふして。細圓紫花あり三葉一花なる者を仙茅と爲し。一莖一花ある者を人參と爲す。根は人字の如く色は珂玉の如し。羹汁之を食へば味參と別つ無し、但た微かに膠漿あるのみ。滋補亦人參に匹ふ採つて藥餌と作す……とあり。羅浮は廣東惠州の名詩境。梅花に名あり、葛洪手植の梅あり。隋の趙師雄が梅の精たる美人と會せし故事あり、蘇東坡が任に在る時、人參を植へし歴史あり。

◎ 琉球人參

リウキウニンジン

『本草圖說』山著不明高木春に、琉球人參一名燕尾人參として圖出づ。竹節人參の別



參人尾燕名一 參人球琉
紅實色彩圖原 書の説圖草本

種『牧野
根本』日本植物總覽改訂版新名稱ノコバニンジンに相當するものか。

◎栗短

リツタン

開城人參耕作者間の土語。人參の一年生の苗生へ出でし中に、發育の望なき虛弱なる者。耕作人は之を抜き去る。此名「中京志」に出づ、此名稱今に使用さる。

◎類參草

ルキジンサフ

竹節人參の一名。其形態眞の人參に類似せるより名けらる。

『坂上人參譜』……くまの山の陀堂人參は類參草なり……

『田村監水人參耕作記』に……倭國深山中にも節人參と稱する者あり。一名は類參草と

云ふ、肥州、和州、信州の諸國より多く之を採出す……云々。

◎類違人參

ルキチガヒニンジン

徳川時代朝鮮より輸入せし、一種品等の違ひたる人參。

此人參正徳三年の頃初めて入る。其時従前の朝鮮人參一斤の代銀一貫四百四十目なりしに。此類違人參は一斤の代價三貫百二十五匁に、江戸對馬屋敷に於て價を

定めたる點より見れば。品質好良なりしものなるべし。此人參の仕入に付、對島屋敷家老より幕府に伺ひ幕府よりは仕入差扣ふべき旨命令あり。以上『對馬文書』に出づ、左の如し。

正徳三年十一月二十一日

口上之覺

一、此度調來候類違人參百斤程御座候。此以後每歲不相替持來可申候哉。直段は異國之事に候故難計奉存候得共。當年之價相調候ば、年により多少は可有之候得共、カテラズバ必者每歲可持來邪と奉存候以上。

十一月 日

平田直右衛門

大久保清左衛門様

小笠原隼之助様

人參直段之覺

一人參壹斤 代壹貫四百四拾目 但壹兩に付參拾六匁

右者唯今賣申候人參之直段

一類違人參壹斤代三貫百廿五匁 但一兩に付七拾八匁餘に當り候得共端者除可

申候

右者此度參候人參之直段

同月二十五日土屋相撲守様に、平田直右衛門被召寄、御逢被成御直に御渡し被成候御書付左に記之。

朝鮮人參之儀に付、被差出候書付之趣委細令承知、各々にも相達して類違之人參持渡候儀を被致無用、只今迄之通之人參計渡候様に被致候以上。

十一月

(右御料紙奉書半切)

輒按するに、右勘定奉行より輸入を差止たるは、餘りに價の高き事を慮りたる爲なるべし。此後の對馬の人參文書には類違なる各稱の人參は一切見へず。然るに文獻には此名あり。

『^{坂上}參製秘録』には……朝鮮より來る人參として左の三種を擧ぐ。

大人參 上中下

無類

類違人參 白條參なり、薄皮を去る、去らざる者は藥店の稱する類違なり

『田村藥肆人參類集』……第三遼東人參三種 此の第三の人參は藥肆に呼で類違人參と稱す。是即朝鮮第一の人參にして世に之を重んず。其狀白色にして透明なり、今極めて得難し、此の一種は根上の薄皮を刮り取り上製を爲せる者あり……。今藥肆に藏むる所の者第三上品なる者一兩に付其價六百三十目……。又同書に……。第十三朝鮮人參一種、此の第十三の人參は藥肆に呼で朝鮮中、上の類違人參と稱する者にして、大率其根細長にして黄色明かならず……。

『肥後忠人參譜』單股參 此朝鮮上品なる者也、本邦藥肆に土佐向と名く。土佐道壽之を好むの故也、又類違とも名く。藥肆の言也……。鞆按ずるに、此類違人參の出現は、以上の記録より推定して、朝鮮に於ける何等か人參歴史上劃期的の事情に因るものならざるべからず。此年代に於て、南鮮の山間に於て密かに人參の人工栽培の初まりし時に當る。其秘密にしたるは、人民が誅求を恐れたるに因るものにして、最初は鉢植等によりしものにして、其産額も甚少額なりし也。此時代自然の山參も殆んど採滅らし、其大なるもの絶無となりし時にして、此類違と云ふは栽培人參の根大なりしにより。價を高くして釜山の倭館貿易により、日本に賣りたる者なりと、推定すべきに似たり。

◎麗江參

レイコウシン

清代に見はれし人參擬似品の一種。『植物名實圖考』に此名出づ。麗江は雲南麗江府。

◎鈴鐸參

レイシヤクシン



(1)



(3)



(2)

圖の參鐸鈴 諸參人臺立上坂

麗江は雲南麗江

徳川中期に見はれたる擬似人參。

『坂上人參譜』に左の四個の鈴鐸參を挙げあり、蓋此名稱著者の命名に係るものなるべし。

一、今深山陰濕の處尤多し、俗七葉桔梗と呼ぶ、とあり何の植物か不明、圖を見るべし。

二、山野皆有之折れば白汁出づとあり、桔梗科の植物の一種ならんと推定す圖を見るべし。

三、圖を見るべし。苗は桔梗科の植物の如きも、根全く異なれり。

四、正名桔梗とあり、圖より見れば確かに桔梗也、圖の掲載を略す。

五、牡丹人參とあり、桔梗の一種の如し、牡丹人參の項に圖を掲ぐ。

◎麗

蓨

レイシン

滿洲に於ける製造人參の種別名。

『吉林地理記要』に……又煮水せず、灌糖せずして生刷生蒸するものあり。名けて麗蓨と曰ふ、即ち高麗蓨の粗製法に假ふ也……とあり。

◎禮 參

レイシン

李朝の官用語、禮單參の略。

『音人參識』には……私價參一名禮參一名挿參皆朝鮮の稱呼……とあり、輒曰私價は私貨の誤りにして、官貿易以外の者を指し、又日本へ來る信使の一行の密貿易の人參を指したるものならん。果して然らば、禮單參とは別なれど禮單參と同時に携帶する者なれば、誤り傳へて斯く呼ばれ記されしものならん。

單參、私貨參の項參照すべし。

◎禮 單 參

レイタンシン

李朝の官用語、此名稱後に民間竝日本の人參斯道者間に通用す、單參と同じ。

『通文館志』……日本國王徳川將軍若君徳川嗣執政以下馬島奉行等之處、使臣私禮單

人參四十九斤……とあり。

『加藤和漢人參考』……近來御物と云ふものは、レイタン人參と呼で小賣所より出る、

一向のりがためなり。レイタンと名目あれど文字知れず。朝鮮人の官人の名か……

……とあり。

『音人參識』……平定參一名禮單一名單參一名年助 皆朝鮮の稱也 對馬の人某言ふ朝鮮風俗始て人に接する時は、以上の二品を贈る。故に禮參、禮單等の名ありといへり。……此說半可通の謬記なり。單參の項を見るべし。

◎例 質 蔘

レイボウシン

李朝の官用語、質蔘の項を見るべし。

◎遼 參

レウシン

遼東參の略稱。遼東は遼河の以東の意味にして、昔に於ける今の滿洲の稱。此文字の地域確たる限界の意味無し。

『小野本草綱目啓蒙』に……人參 品類多し朝鮮、唐、和三品に分つ、朝鮮を上とす名産なり、即集解に遼東參、遼參と云者なり……とありて。朝鮮と遼東とを混同せり。徳川時代の學者に如此、遼東參と朝鮮人參とを同一とせる者他にも多し。名醫別錄注に……高麗は是遼東と、高句麗のことを指せる記事を見て誤りしものなるべし。

輒又曰く、明の遼州は山西太原府の西隣なり。『蜀本草』に……沁、遼、澤、箕、平、易、檀、幽、嬭州、並に人參を生ず。蓋し其山太行と連互して相接するが故也……とあり。此の遼州の人參は遼參なる名稱として呼ばれしことなし。然るに徳川時代の學者中、遼東參即滿洲參を此遼州と取違へし者もありたり。

遼東參の項を見るべし。

◎ 遼 東 參

レウトウシン

遼東則ち今の滿洲に産せられし人參。遼東人參の略、又略して遼參とも云ふ。又遼東參の偽品に對して遼東眞人參とも稱す。

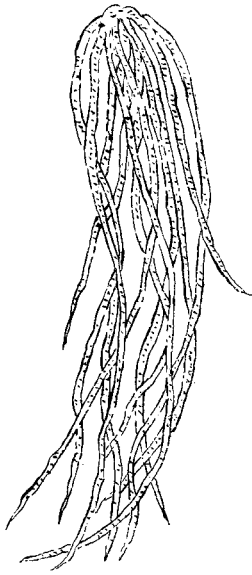
『名醫別錄』に……人參、上黨の山谷及遼東に生ず……陶弘景の注に……次で高麗を用ゆ、高麗は即ち是遼東。形大にして虚軟百濟の者に及ばす……同人著『藥總訣』にも同様の文あり、是を遼東の人參記事文獻に出たる最初のものとす。されど未だ遼東人參なる特定名詞となれりとは觀るべからず。明の陳嘉謨の『本草蒙筌』に……遼東參、黃潤、纖長鬚あり、俗黃參と名く……とあり、『本草綱目』に……今用ゆる所の者は皆是れ遼參……遼參連皮なる者、黃潤色、防風の如く、皮を去る者、白さ粉の如し、偽なる者

沙參、薺、芫、桔梗を以て採根造作之を亂る……とあり。明の時代には其名詞となれるを見るべし。

清の『陸垣人蔘譜』に……世人遼參に非ざれば服さず……とあり。清代の典籍此類の記載多し。

日本の文籍に此名稱を記せるものを見るに『田村人蔘耕作記』に……人蔘を培養し作るには意を用ゆべき事有之、遼東人蔘の種を作りて尤宜し。其根特に頭小にして横紋多く之を製して上好となる……盧頭ナゲの下扨肩の如くにして怒なく横紋多くし

遼東人蔘



坂上玄臺人蔘譜の圖 額曰如斯人蔘なし何を認めしか葦木甚新議に
高麗參を絞する條に、根頗纖長 ……下垂一尺に及ぶ者あり……其十枚
なる者價銀と等し……とある文に因り想像して描きしものか。

て鬚少きものは遼東人蔘の種也……とあるは能く滿洲人蔘の形態を寫せるものと謂ふべし。然るに坂上玄臺の名を以てせる同人の著なる『人蔘譜』には遼東人蔘

として頗奇なる形態の人參の畫あり、右に出せり。

『吉田近聞寓筆』…：官苑人蔘遼東朝鮮二種あり。遼東蔘は紫莖澀葉、朝鮮蔘は青莖軟葉、此を以て異となす…：とあり。

輒曰く、人參耕作記並近聞寓筆の記事は、よく滿洲人參の形態の特質を寫せり。現在に於ても朝鮮人參は肩張り、滿洲人參はナデ肩なり。現今はナデ背の小根少なき滿洲人參は價低く、肩張りて根の分岐多き朝鮮人參を上品とせり。徳川時代に於ては、根の垂直に長き根の分岐少き人參を貴びたり。

◎ 遼 東 人 參

レウトウニンジン

遼東參の項を見るべし。



遼東種人參之圖 田村藍水人參耕作記の圖

◎ 揀 糙

レンサウ

清代滿洲人參に對し、蘇州參商仲間にて命名したる品種別の名稱。

拔頂熟の項を見るべし。

◎ 揀

參

レンシン

撰擇したる良好の人參の名。

『熊谷廣參品』……又方書に揀參と稱するは上好の者を揀擇するの義なり……『藥

名辨疑』……揀參 上等の人參を揀擇するの義か。『只原大和本草』……揀參上等の人

參を揀擇の義か……。『小野大和本草批正』……上等の人參を揀ふの意にてよし。

軀曰く、右の如く解すれば動詞となり、名詞とは爲らず、揀びたる上等の人參と謂ふ

べき也。

『唐葉人參攷』……蘇州人參商店に於ける滿洲人參の別種別名中にも。光揀熟、大揀

熟、中揀熟、揀糙等の名稱あり、拔頂熟の項を見るべし。

『松浦朝鮮通交大紀』……正徳五年己未、此年有章君德川家繼の墓を草廡と云 不例の事有しに

より。我州特に書を萊府にいたし、揀參を彼國に求められし。其書略に「乞極品揀參、

參拾斤、今所懇求、雖出例外、貴府幸體此意、速賜如數應付、曷勝感激。」と有しに、彼其事を

果さず、後享保三年戊戌に至り。其斤數を減じ、且是を買參とし、東萊府使をして書を

復して。「所求揀參事出規外、數亦過多、而係是緊要藥用、未准幅、特許買送貳拾斤……」。我州^{對馬}其求請を改めて買參とし。且斤數を減じ、またことさらに延引して其期を失せし事、誠信の道に在てかくのごとくなるべからずとて、姑く其書を受けて人參を還されしに。譯官等累りに此事を哀訴しやまざりし故。やむ事なく代官をして、其價によりてこれを買せしめられたり。

輒曰く本件は將軍の病により。特に人參を朝鮮に求めたるものなれど。彼我の意志十分に疏通されざりし故。遂に不成効に了り、對馬は甚しく面目を損したり。

本件「肅宗實錄」には、乙未^{正徳五年}十月の條に……領議政徐宗泰又曰く、對馬島主好品の人參を得るを請ふ。此れ乃ち後弊に關するあり、諸臣に下詢して可なり……皆曰く、後弊に關するあり、宜しく防塞せしむべし。上曰、科外の別求必ず後弊を貽す防塞可也……とあり。

本件の經緯に付ては第二卷人參政治篇に詳説せり。

◎ 潞

參

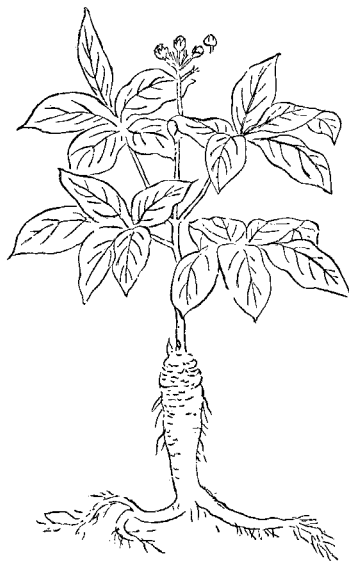
ロシン

又潞州參とも云ふ。支那山西上黨郡潞安府^{或時は潞州と稱す}に産せし人參。今山西潞城縣

の東北の地に當る。

『本草綱目』……宋蘇頌圖經本草繪く所の潞州の者三椹五葉真人參也……潞州

潞州人參



(藏庫本森大本寫) 蕪草本急備類證史經定校興紹

稱曰、此膏實に合せざる點あれど人參は深山中に生じ臨寫の難きものたれば。存分想像を加へたるものなるべく。眞の人參たること疑なかるべし。

の者は今得べからず……云々。

清の王孟英の『王氏醫案』中にも潞參を加へし處方あれど。此時は既に眞の人參たる潞參は絶滅したれば。此潞參とあるは別種の植物也。詳しくは、上黨人參の項を見るべし。

◎ 潞 黨 參

ロタウシン

清代に見はれし擬似人參の一種。

潞州人參一名上黨人參は、支那古來人參の本場品にして其名天下に冠たり。然るに明代に至つては既に絶滅したり。されど其名餘りに名高かりし爲め、不肖の養子とも云ふべき人參に非ざる植物其後を繼ぎ、依然黨參の名を襲ひて四百餘州に需用せられたり。而して復其黨參の復擬似參見はれ、現在に於ても用ひられつゝある、明州の明黨參、台州の台黨參と云ふ如きもの數多出現するに至りしより。本場品たることを明にするため潞黨參と稱する名稱を以てするに至れり。然して此潞黨參と稱する者にも、實は他産の者多し。現に臺灣に此名を以て輸入されつゝあり。民國七年魏劭卿『吉林地理記要』に……今潞安府産の潞黨參は眞參に非ず……とあり。上黨參、潞參の項を参照すべし。

◎ 蘆 頭

ロ ッ

參蘆の項を見るべし。

ワ
行

◎黄 草 參

ワウサフン

滿洲の稱呼霜後に採る人參の稱、此名『盛京通志』に出づ。

滿洲及朝鮮平安咸鏡の國境に於ては、自然生の人參を採挖する時期を一年三回に分つ。春を草節と謂ふ人參の苗漸く出たる時也。夏を丹節と謂ふ人參の子熟して紅色を呈せる時也。秋を黄節と謂ふ人參の葉漸く黄凋せし時也。經驗ある採取業者の言に依れば、人參葉の秋に於ける黄凋色は一種別の色彩あり。遠視して能く是を判別し得ると謂ふ。

今現に朝鮮國境竝滿洲人參採取業者の間には、人參を芳草ポンツォーと呼べり昔の稱の黄草の轉訛に非らざる無き歟。

「中宗實錄」二十年二月王が朝講に御したる時。領事權鈞の啓せる中に……鈞又曰く……且頃ごろ宣川鐵山の人黄草を上國地方に要質す。故に令して盜直を設け以て禁ず。若し令禁する勿くば、但に益無きのみ非ず。無窮の弊を開くを恐る……云々。

咸鏡南道に黄草嶺あり、又「東國文獻備考」圓山の條に……又西南至赴戰、大小白亦黄。

草。麝香…：太白山の條に、南至于高草、劔磨、白巖…：とあり。黄草高草何れも人參に關係ある如し。

『服部人參譜』に…：黄參は遼東參也。共に朝鮮に屬して來る、連皮の者黄潤、色は防風の如し、皮を去る者堅白粉の如し…：とあり。

右の記載は、明の陳嘉謨の『本草蒙筌』に…：遼東參黄潤織長…：俗名黄參…：とある引用なるべし。而して此黄參なる名稱も色にのみ由りたりと早斷すべからざるに似たり。

◎黄 絲 ワウシ

人參の異名なりと『釋藥性』に出づ、意味不明。

◎秧 子 蓐 ワウシシ

秧蓐の項を見るべし。

◎秧 蓐 ワウシン

〔一〕山に蒔つけその生へたる人參。

清朝は創業の當初より、滿洲の自生人參採取を官營とし、盛京ホウケンに官蓐局を置きて其事務を管掌せしめ、獲たる人參は北京に送らしむ。其中皇室の用を除き、他を國帑とす、是を官蓐と稱す。清朝の中期に至り、收穫漸減少するや、山より幼根を移植し或は子タネを山に散して、其増殖を計れり。それ等の生へ出たる幼根を秧蓐と稱したり。

『盛京典制備考』に。嘉慶十二年皇帝の旨を奉じて發したる制令中に……若し官蓐中より秧蓐を發見せば。其採取納付者竝に其監督の任に該る官に、責任を負はすの規定あり。『植物名實圖考』に……三姓、寧古塔亦た試採甚だ多からず。苗を以て移植するものを秧參と爲す。子を種する者を子參と爲す。力皆薄し……とあり。

秧の字は禾本科の移植のナエを意味す。秧蓐の名は人參をうゑるの意味より出でたるものならん。

〔二〕小さき人參。栽培のもの。

前項の意味を擴げ、後には幼根の人參にも使用せらる。『吉林地理記要』に……蓐營は俗に樺椎營と稱す、乃ち蓐を種ゑるの區也、産する所のもの秧子蓐と名く……云々

とあり。

營は滿洲山林の中に居住せる山民の一區域を云ふ。棒・椎は滿洲人蔘盜採者が人蔘と云ふを忌諱して造りたる隱語。

『東華輯要』に……栽培後六七年を経て採る者を秧子蔘と稱す。其品最も遜色あり……とあり。

◎黄

參

ワウシン

〔一〕 人參の別名。

『吳普本草』に出づ。李時珍は『本草綱目』に於て人參の此別名を五行に附會して説明せり。五參の項を參照すべし。

〔二〕 滿洲に産せし人蔘の明代に於ける俗名。

『本草蒙筌』……遼東參黃潤織長俗黃參と名く……。

〔三〕 徳川時代の人參品種名。

〔服部 範忠〕人參譜』……黄參 是遼東參也、共に朝鮮に屬し來る連皮なる者黄潤色防風に似たり。皮を去る者堅白粉の如し……。

〔四〕『百草鏡』に黨參の別名なりと出づ。但し此黃參の黨參は古への上黨參たる眞の人參に非ず。

◎和製人參

徳川幕府官製人參に命名したるもの。和人參の項を見るべし。

◎和參

ワシン

和人參の略稱、其項を見るべし。

◎和人參

ワニンジン

日本産の人參竝に竹節人參。擬似人參に對し、徳川中期に於て命ぜられたる名稱和人參の和は國産の義略して和參とも云ひ、又和國人參とも稱す、又和の字倭にも作らる。

其用字例の區別は左記の如し。

〔一〕支那、朝鮮産の人參と對立的に觀たる日本産の眞人參全部の名。

『明良帶錄』田村元雄は和人參を製法せし家にて、小普請勤仕並にて三十人扶持下さる。寶曆十三年に仰付られ朝鮮人參の製法御用を勤む……。

〔二〕同上徳川幕府官營の御種人參に對する名。

『御書付留』延享三年寅年八月。和製人參賣出之儀に付御書付。町奉行え 朝鮮人參の種に而被仰付作立候人參。藥種屋共へ直段入札爲致、右人參高札の者に相渡、向後和製人參と名付、直段の儀は藥種屋共勝手次第に賣出候様に可被致候。

『舊政府御達留』延享三年丙寅十月十四日 大目付え 小石川諏訪町伊勢屋清左衛門、糶町九丁目大阪屋多四郎と申者共方にて和國人參商賣致し。十一月七日より賣出候間、望之者は右の者共方にて相調可申候。

『同上』文政十二年己丑八月 日 松平肥後守殿より人參日本値段書、濟 近年肥後守領内爲救領分にて作立候和人參製法等仕覺へ。追々作増國用之外……〔中略〕近年唐商共和人參相好。唐船へ持渡候由に付……云々。鞆曰く、以下略す。此件和人參貳千五百斤を長崎より支那への輸出を會津に許可したるものなり。

〔三〕竹節人參の中、根の垂直根の者のみの名稱。

『加藤和漢人參考』……和參 西子云ふ。是れ藥肆中に於て呼んで直根參と名く、又

吉野參と名く。其上品なる者は則ち形羊角參と一般、下品なる者は形蠟蚪の如し。『御觸書』寶曆四年戊年二月 和人參賣弘代料の事。大和國吉野郡下市村村岡彦右衛門製法和人參賣弘。竹川町松屋平兵衛、南傳馬町壹丁目伊勢屋孫八と申者共方にて、本朝人參と名付けて來る十五日より商賣致候……云々。

〔四〕竹節人參の中根の横梁なる者に對する稱名。

〔會人參識〕……竹節人參異名和人參本藩。小人參藥肆。

〔五〕根の垂直なると竹節たると塊狀たるに論なく竹節人參全部に對する名稱。

〔西人參辨〕……夫れ三極五葉の和人參は高山の陰地を好み樹下に生ず……。

〔御觸留〕元祿三年庚午七月 日

一、和人參商賣之儀、糺町三丁目庄右衛門店長谷川安清に御免被遊候間、此段相心得可罷在候。木藥屋方にて商賣仕候共、京人參シメ計商賣可仕候。唐人參朝鮮人參交候而商賣堅仕間敷候……云々。

〔同上〕元祿十四年辛巳十二月廿五日

和人參商賣之儀、長谷川安清、香具屋信濃差免候。忽而和人參、外にも紛敷致商賣候様に相聞候條、自今以後右兩人之外、和人參一切仕間敷候。若相背もの有之ば、可爲ヒガ曲

事……。

『同上』享保十一年癸丑十月 日 覺。

和小人參只今迄製法不致生藥にて相用候に付、功能無之候處。此度齋田甚三郎……

……以下八名中略 右之者共制法いたし、藥種商問屋改會所にて相改候上……。商賣いたし

候事……。製法和、小人參、唐人參と功能同事にて紛敷儀に無之候。稱曰く、本項和人參と

鬚根也。

『小野本草綱目啓蒙』には、和參方言多くあり……吉野人參、トチ人參、カモジ人參、小人

參……等竹節人參全部の地方名を擧げあり。同『本草記聞』亦同じ。又前書に……和

人參の出たるは稻、松、岡、稻生若水、松岡支達兩先生より以後の事也……。和人參は今諸國に産す

皆深山幽谷雜木多き陰地に生ず。其初薩摩より出づ故に總して薩摩人參と呼ぶ……。

『兼段堂人參錄』……市人和參の參根直生のもを直根人參と呼び、竹節の如く形

専ら萎に似て横生のもを節人參と呼び……云々。

『物類品隔』……朝鮮參本邦に植ゆれば和參と等しく下品となる……其言誤りな

り、和參亦直根のものあり……云々。『常採藥記』享和三年、加波山 土參ワニンジン。

『本草藥名備考和訓抄』……ワニンジン 竹節人參即土參竹……。

節直根二種あり

〔六〕竹節人參及其他の擬似人參等を包含したる名稱。

〔加藤玄順和漢人參考〕序……昔時稻若水先生本草の學に詳し……先生常話に云、世間和人參と稱する者凡そ十餘種ありと雖も。人參の類に非ず……。

〔松平秀雲本草正譌〕……防風。大和本草所云の單防風眞なり、俗に山人參と稱す。加賀白山是を出す、和人參と稱す。

〔松岡聖齋用藥須知〕……凡そ和人參と稱する者其類甚だ多し……。和人參と稱する者十餘品に及ぶ……。と竹節人參其他各地の擬似人參の名を列舉せり。

◎蕨葉人參

ワラビハニンジン

ワラビ人參の項を見るべし。

◎蕨人參

ワラビニンジン

徳川中期に見はれし擬似人參の一種。其葉の蕨の葉に似たるにより名けらる。此名稱を以て呼ばれし者一種には非ざる如し。

〔小野蘭山本草綱目啓蒙〕……ワラビ人參、一名ワラヒデ人參、即ヤブニンジン一名サツマ

ニンジン、ノニンジン、クサニンジンにして、救荒本草の野胡蘿蔔なり。

『版上之靈 人參譜』……蕨葉人參 今所在皆有之。正名陰地蕨、洛陽の人之れを蕨葉人參と云ふ……。

『松平秀雲 本草正譌』……蕨葉人參は、本草の陰地蕨也……。

『倭訓栞』ワラビ人參、陰地に生ず蕨に似たり、野胡蘿蔔の類也……。

『松岡之欽 用藥須知』……諸和參の中……其他蕨葉の人參、セリ人參、前胡根をも人參に充て……云々。

蕨人參の項並野人參の項を見るべし。

◎割 人 參

ワリニンジン

御種人參を、小民に買易らしむべく小量として袋に入れ賣りたるもの。

割人參、折れ人參と同一の文字なれど即一は破片の意味、一は分割の意、同字別義にして全く別個のものなり誤るべからず。明和四年亥年七月の御觸書に。

朝鮮人參割候而袋入

壹兩入 代六百文

半兩入 代三百文

小半兩入 代百五十文

五分入 代七十二分

右之通人參座に而相渡候。かるき者共へ寄々可被咄置候事。

同年八月三日御觸書中にも 上、並、兩品へ一根毎に極印致し、唯今迄の通定直段を以て可相渡、勿論、肉折、細鬚、割人參、右五品共、武士方、町方、在方望の者へ相渡候……云々……あり。

徳川幕府醫藥行政當局者の社會政策的頭腦の働を見るべし。

(附記) 元祿寶永頃、支那朝鮮人參の賣買の時は、大抵銀貨を以てせり。古川柳に「人參を錢で買ふのは、いぢらしい」とあり。洗ひざらひ穴あき錢を集めよせて九面十面して其代價を調達したる悲惨なる實情を吟じたるなり。其後御種人參の繁殖により、人參は下層に迄買易くなり。錢を以て取引せらるゝことゝなりしなり。

◎割 人 參

ワレニンジン

人參の製造中破砕したるもの。折人參と同一の意味なれど。長さに多少の差異

あり。

『天明大政録』に……天明七年丁未十一月朝鮮種人參制法所に而相渡候代料左之通。

上人參壹貫目に付 代銀七匁五分

並人參壹貫目に付 代銀三匁

割人參壹貫目に付 代銀四匁

肉肝人參壹貫目に付 代銀三匁

細鬚人參壹貫目に付 代銀二匁

但並肉肝鬚は小半貫包迄相渡。割は五分包迄相渡筈に候。

右之通に候。鞆曰く肝は折の誤？。

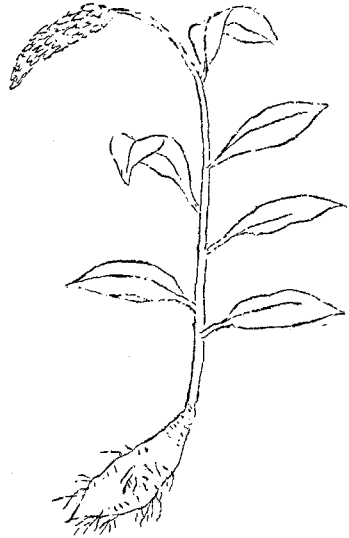
◎威勝軍人參

キシヨウケンニンジン

宋時代に於ける一種の擬似人參。

此名稱と圖宋の『紹興校定經史備急本草』に出づ。其畫によれば蓼科の植物の如し。明の王圻の『三才圖會』にも人參の畫として二つのものを掲載し。一は眞の人參らしく。一は此紹興本草の畫と全く同一のものを出せり。此植物明代にまで人

威勝軍人參



（藏庫文森大本寫）書草本急備類證史經定枚興紹



一の内の二圖の參人 會圖才三

參として稱呼せられしが如し。

威勝軍は宋代の政治區劃の名府州など、同じ今の山西沁縣に當る。

◎撰下人參

エリサゲニンシン

對馬屋敷にて賣出せし、朝鮮人參中、撰り出したる下等の人參。

此名稱對馬文書享保以降の分に散見す。

享保十五年庚戌九月 日 御觸書……去春水野和泉守人參吟味之節。上々人參之外は、えり下げ人參と申觸之人參賣出し申筈に有之候處、いまだ賣不出趣に相聞え

候。相應の直段にて早々賣出可申旨、宗對馬守役人へ可被申聞候。
 軀曰、幕府當局の主旨は、値の廉なる人參を庶民の需用に應せしめんとするに在り
 しものなるべし。

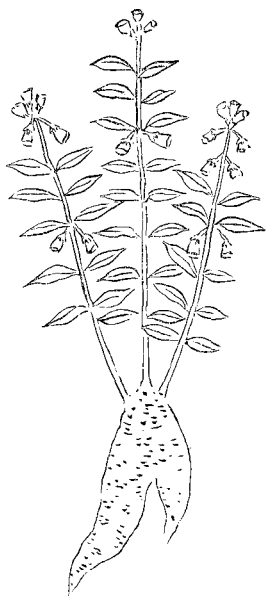
◎ 兗州人參

エンシウニンジン

宋時代に見はれし、擬似人參の一種。兗一に兗に作る。
 此名宋の蘇頌圖經本草の畫に見はれしを初とすべし。其後明清の文籍に此名無
 きを見れば、此人參宋時代の通用使用に限られし如し。

兗州は古九州の一、唐の河南道魯郡、明清の山東省兗州府なり。

兗州人參



紹興校定經史證類備急本草
 (藏庫文森大本寫)

◎折 人 參

フレニンジン

人參竝竹節人參の生根を取扱ふ際破折したる其小片及人參修製品の荷造運搬其他取扱中に破折したる小片の商品名稱。

而して最初には自然に折れし者のみなりしも、後には故らに折れし形に拵へし修製品を生ぜり。又初は形も比較的太かりしも、後には鬚人參と少しも區別無き小き者となれり。其形に於ては、折れたる儘の者と、束ねたる者と、丸く巻きて纏固せる者との別あり。産地に於ては、朝鮮、滿洲及日本の別あり。品種に於て、人參及竹節人參、及他の植物の偽造品の三あり。等級に於ても、肉折、枝折、先折等々十數種の名數に上れり。

但、其等名稱は、時代により處により相異なり必ずしも一定せず。

『小野本草綱目啓蒙』……折人參あり、譯傳簿に參碎と云、唐の肉折、枝折、大折、中折、先折等の名あり。今偽物多し、もと折人參と云は、根末の碎け折れたる者を云。又形の至て細なる者も通じて折人參と云り。然れとも今此物なし。故に中折、大折皆鬚の大なる者を以て偽る。譯傳簿に參條と云ふ。肉折は久しく渡らず。今市人の賣る所

の物は皆御種人參の鬚を以て偽せ、卵の形にこしらへたるあり。タマニクヲレと云ふ。……とあり。

『正簡日用藥品考』の記載は詳かなり之を摘記すれば。

折人參 折人參とは根末の碎け折れたるものを云ふ。

(1) 肉 折

(2) 枝 折

(3) 大 折

(4) 中 折

(5) 先 折

朝鮮及唐より來る

今(6)無し、(7)(4)(5)共鬚の大なるものにして即ひげ人參と云ふもの也。

(1)も今は少なし。

(6) 又形の細なるものを通じて折人參と云。

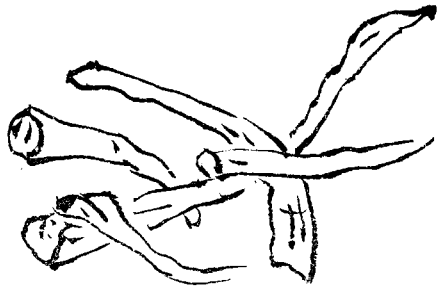
(7) 玉肉折、鶏卵の形に造りたるもの。

市家に賣るものは。御種人參、小人參の鬚を以て偽るものなり。

『古今要覽』に……折人參俗稱 按に根鬚細小にして折たるが如し、故に名く……と

あるは誤也。此時代の折人參と稱するものは、前に比して細小となり。大なる者は大折と稱して區別せり。屋代弘賢は本草學者にも藥學者にも非ず。故に其由來を

折肉



寫眞人參の記の圖

折先



寫眞人參の記の圖

知らず認識を違へし也。

『内藤古方藥品考』……又葳鬚あり、尾人參と呼ぶ。其細根を佐幾遠禮と呼ぶ。俱に氣味具はる者用ゆべし。又商人其細根を取り之を潤し之を矯め短を續で長と爲す。長さ四寸許の者あり、又佐幾遠禮と呼ぶ……。

『田村人參耕作記』に同人の製したるに御種人參肉折の圖あり、茲に採録す。

『田村藥肆人參類集』……第三十二 唐の肉折人參一種、則ち前の第九箒手人參の細

條及或は竹節參の細鬚を交へて製する者と見へたり。又藥肆に大折人參と稱する者あり、肉折の内より短小なる參を擇出し名くる者なり。其名各異なること有り。雖、本は皆一物なり……。今藥肆藏むる所の者第三十二の參は、一兩百三十錢目なり。……第三十三唐の大折人參一種謹て按ずるに、此の人參は則第三十二の判子人參及第二十五服ジメ人參の細鬚及參蘆を交へて賣る者なり。故に參蘆七分に細鬚三分を入れ合する者なり。今藥肆藏むる所の第三十三の參は一兩四十六錢目也……。

【加藤和漢人參考】……參鬚、唐及朝鮮の二種あり。其韓鬚の太きものを先折と稱す。中古半事參の枝を切る所の先折に非ず。氣味最も佳し……今肉折と稱するものは、唐鬚にして和産を交ゆること多し……。

【服部人參譜】 碎人參 此異邦より來者人參に代へ用ゆる也。此の種用ゆべし其性味佳今通用す人參に同じ……。

【岡本和語本草綱目】に……碎人參。古と今と同じからず。古のは大人參の末稍の折れたる物或は細小にして大人參と稱し難き物を以て碎人參と稱せり。今此れを聚束ねて扎人參（ミキ）に作るが故に、近世の碎人參と稱するは皆鬚人參の中より揀出せし者なり。功效薄し……。

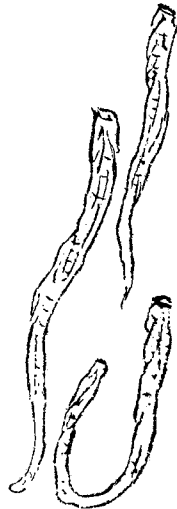
『黒州本草辨疑』折れと云者あり。元は大人參の梢の折れたる者又は細くして大人參と云難き者を折人參と名けて渡す。今は皆束ねて大人參に作る故に、本折稀なり。今ある者は鬚の中に少し太きを折と云……。

『奥西治藥辨疑』に……鬚人參と云ふ者あり極めて細毛なる者なり、性能くして、大人參のウツカよりも優れり之れに上下あり今此中より太きを撰出し折人參と云ふ。

『葦葭堂人參錄』……肉折人參 竹節參の根鬚なり、朝鮮の製は黄色、唐製は赤色

田村藍水人參辨作記の圖 朝鮮種人參 肉折人參法製之圖

古方藥品考の圖 七ツ折



を帶ぶ。形大なるものを枝折と呼ぶ。本根枝折にまじゆ。中なるものを肉折人參と云。細鬚を鬚人參又大折人參と呼ぶ。靱曰く、肉折の全部を竹節の鬚とせしは誤也。

『熊谷廣參品』……折 肉折 近世藥舖に折と稱し賣るものは多くは漢參なり。朝

鮮の肉折は薄く片ぎ、サシヨミ人參とて尾の細き處、半折れの皮の肉を刊りさしこみ。薄片たる皮の缺を掩ひ粘着して皮となす。故に朝鮮の肉折は少し……。

〔松岡用藥須知〕……此の一種眞に近しといへ共此亦竹節參のたぐひにして補益の劑中に入へからず……。若かず折れ人參の尤勝れるには……。

〔小西長左衛門人參考〕……官製鬚折の品別して宜し。古來の朝鮮に毫厘も違なきもの也……。

『公儀御觸留』には左記の如き公文あり。

延享三年十月二十八日 大目付へ

朝鮮人參の種にて作り立候。大人參折人參、本石町貳丁目岡肥後並大傳馬町藥種屋共方にて商賣致候間、望之者は右之者共方にて相調可申候。右之通可被相觸候。

明和六年甲申閏十二月二十四日

……右之者共、朝鮮人參、江戸座賣並に在々下賣申付候。但人參代左之通……肉折人參半兩目代錢壹貫文、細鬚人參半兩目に付代錢六百文、但並折細鬚は小半兩包五分包共相渡候。(勅記。右之者共の人名略す)

天明七年丁未十一月二十二日

……人參製法所にて相渡候代料左の通……肉折人參壹兩目に付銀三匁。

輒曰く以上は幕府官營人參に關するもの也。竹節人參に關するものは。

寶曆四年戊年二月 日

和人參賣弘代料の事

大和國吉野郡下市村岡谷彦右衛門製法和人參賣弘。竹川町松屋半兵衛南傳馬町一丁目伊勢屋孫八と申者方にて本朝人參と名付來る十五日より致商賣候間。望之者は右之者方へ罷越相調可申候……とある品目中に……

……大々人參 代銀五拾目 枝折人參 代銀廿五匁 肉折人參 代銀廿貳匁……とあり……

『三河治痢經驗』には……又云ふ。鬚人參之れを別種或は大人參の細根を以て鬚と爲し蘆頭を以て節と爲すの諸説ありと雖も。先師の考に云。元來大人參の根蘆一寸或は一寸半許土中に在り。其土中の蘆に横細根多く附着す。長崎に於て鬚と蘆は一物也。京攝の藥肆鬚と蘆節とを以て之を別ち、大折、中折と稱し之を賣る。皆鬚人參の大なる者にして素より碎人參に非ず。昔時人參價卑しき時、商人大人參の末碎を以て碎人參と爲す。今時無之や必せり焉。今攝津の藥肆に先折と稱する者眞也。又一種藥肆朝鮮碎と稱する白色の物は韓參の蘆に附ける細根か其價貴し。今

多く渡る所の大碎中碎鬚等は唐人參の蘆に附ける細根、今多く之を通用す。又或説に云、其鬚極めて細かに他物を混せず眞なる者殆んど是唐人參の本根の半に敵す。亦貧家に補有り、余屢之を試むるに果して然り矣……。

又同書に……又按ずるに韓參碎シマ、込マキ貫スネと稱する有り。此れ眞の韓參の細根也、其効極めて佳也。而して此品餘國に稀なり得易からず……。

又同書に……藥肆碎人參なる者數品あり。而して其枝碎と稱する内大折、中折、蘆頭、鬚なる者偽雜尤多し、之を辨すべし。近來參價極めて貴し、故に薩摩小人參を糞製し以て之に混ず、彷彿として分別し難し。又鮮碎或は先碎と曰ふ者、此れ長崎に於て唐人參羊角參と銘する者にして。櫃中細小なる者、或は藥肆其形容を作らんとして切出す物也と。而して攝都出す所少く其價亦貴とし、此れ藥師の上半須の碎人參と稱する者其効極めて佳なり。又曰朝鮮渡る所の眞の碎、眞の鬚なる者近來之れを視ること稀なり……。

以上の記載により、其折人參と稱する者に多種多樣あり。且時代により其對稱の目標物甚しく異なれるを觀るべし。蓋し、折人參、鬚人參の如きは、最も大衆的にして、販路廣く、賣行多かりしに由るものなるべし。鬚人參、尾人參の項を併せ見るべし。

外國語

◎ American Ginseng.

亞米利加人參即ち學名 *Panax quinquefolia*, L. の外國に於ける通稱的名稱

◎ *Aralia epens Maxim.*

竹節人參の學名の一。

◎ *Araliastrum foliis ternis Quinqueparitilis, Ginseng et Ninjin officinalis.*

西紀一千七百五十年英吉利の C. T. Trew. が其著 'Plantae Selectae' に於て支那人參に對して命じたる學名。されど終に一般に用ゐられず。『中井朝鮮森林植物篇』

◎ *Araliastrum Quinquefolii folio maius, Ninjin, vocalam.*

西紀一千七百十八年佛蘭西の S. Vaillant. が其著 *Sermo de structura florum* に於て支那人參に對して命じたる學名。『同上』

此れ實に歐洲人が人蔘に對して學名を附したる最初のものにして、此以後より西洋人が漸く人蔘に着目するに至れり。而して此名稱は遂に世に行はるゝに至らず。『同上』

◎ Dwarf Ginseng oder Ground Nut.

Panax Trifolius L. のアメリカの俗稱其項を見るべし。

◎ Gen-seng.

人參の佛蘭西語 *Histoire de Coree, introduction, vii,* に出づ、但學名には非ず。

◎ Ginseng chinensium.

西紀一千七百十八年、佛蘭西の J. F. Laffau, が其著書 *Ginseng* に於て、支那人蔘に對して命名せしもの、されど此名世に行はるゝに至らずして止みき。『中井朝鮮森林植物篇』

◎ Ginseng Sinensium

西紀一千七百七十三年 H. Black well. が其著 (Centuria.) に上の如く題して美しき彩色畫を載せたり。『同上』

◎Jen-sen.

佛人フランシアス、クウランの著 Dictionnaire Coreen Francois には人參に此字を使用せり。

仁參 In-san-i, 仁參 jen-sen. ... とあり。

◎Panax Bipinnatifidus Seem.

此名エングレルプラトル共著野生植物書に出づ Panx pseudo-Ginseng Will. の一種とせり其項に併せ記す見るべし。

◎Panax Ginseng.

人參の學名。露西亞の C. A. Meyer. は西紀一千八百四十三年に人參に對し命名し、遂に是れが一般的に行はれて、今日の學名となれり。『中井博士朝鮮森林植物篇』

Panax は總てを意味する希臘語 Pan と醫藥を意味する axos が結合せるものにて、人參が萬病に功ある藥草たるをよく表現せり、ギンセンは人參の訛音。

◎ *Panax Quinquifolium* var. *Ginseng*.

西紀一千八百四十三年露西亞の E. Regel 並に R. Maack が *Panax Ginseng* の名を變改せしたるもの、但し世に行はれず。【同上】

◎ *Panax quinquefolia* a *Coreensis* Siebold.

和蘭人 P. Fr. de Siebold は西紀一千八百三十年其著 Synopsis Plantarum Oeconomicarum Universi regni Japonici. の中にて人參に命名したるもの。【同上】

◎ *Panax ginguuefolium*, var *Ginseng*.

露西亞の E. Regel 及 R. Maack が西紀一千八百六十二年此名に人參名を改めしも行はれずして止む。【同上】

◎ *Panax japonicus* Wery.

露國大藏省編《滿洲通史》に出づ、北京露國教會の附屬醫師キリローウイが日本産人參に對して命じたる名稱。

◎ *Panax pseudo ginseng.*

北京露國教會附屬醫師キリローウイの記述、ネバル地方に發見せられたる人參類の植物に命じたる名稱。《同上》

◎ *Panax Pseudo-Ginseng* Wäll.

此名エンゲレル、プラトル共著野生植物書に出づ、其記事の略左の如し。
前項と同一物なるべし。

In Ostasien : P. Pseudo-Ginseng Wäll, Blättchen lang und alnählich zugespitzt.

◎ *P. Bipinnatifidus* Seem.

P. Bipinnatifidus Seem. mit doppelt Feders : paltigen Blättchen.

(A. Engler & K. Prantl : Die natürlichen Pflanzenfamilien, 8. Teil, 8 Abteilung, S. 59.)

Hooker's, flora of British Indiana. 右左の記載あり。

Aralia bipinnatifida, C. B. Clarke; leaflets pinnatifid the lobes serrate or bipinnatifid pilose above.

Panax bipinnatifidum, seem. Rev. Heder. 100.

SIKKIM HIMALAY, alt. 8500-11,500 ft.; J. D. H.; C. B. Clarke.

Generally resembles *A. Pseudo-ginseng*, and perhaps not distinct.

Leaflet petioled or sessile, lanceolate acuminate or caudate.

Rootstock horizontal, quite like that of some examples of **A. Pseudo-ginseng**, and doubtless, like it, produces tubers not rarely.

◎ **Panax quinquefolium**, L.

亞米利加人參の學名 (A. Engler & K. Prant *Die natürliche Pflanzenfamilien*.) に出づ。

『五編藥物本草圖彙』稿本には凡て人參を此名稱として出づ即ち

人參 *Panax quinquefolium* L.

Heibularjel, Hilagl wortil. へーブラーヂク、ハイルウルテル…と蘭語をも

附せり

『〔蘇浙〕本草圖説』にも人參に此名を充て

バナキス、キユインキユエホリユム、羅　ヘーブラーヂグ、ヘイルウヲルテル、蘭、按
林氏云、佛蘭西人之を米里堅の加納達名地に採て、支那に輸出して大に利を得るもの
にして、即漢人の所謂ギンセンダ、日本人のニンジン共に人なるものこれ也。云々

◎ *Panax repens*, Maxim.

竹節人參の學名の一。

◎ *Panax Schin-seng* var. *coraiensis*, Nees.

獨逸の Nees von Esenbeck は西曆一千八百三十三年に其著 *Icones Plantarum Medicinalium* の中に於て朝鮮人參に命名したるものなり、是れ西人が朝鮮人參に眞の學名を命したる最初のものなり。『〔中非〕朝鮮森林植物篇』

◎ *Panax Trifolius* L.

此名(A. Engler. & K. Prantl Die natürlichen Pflanzenfamilien.)の左の畫と共に出す記事左の如し。

P. trifolius L.

Wurzelstock fast kugelig angeschwollen: *P. trifolius* L., von Canada bis zu den südlichen Vereinigten Staaten, B. meist zu 3, bisweilen auch zu 5; es ist dies die kleinste der hierher gehörigen Arten. Sie heisst in Amerika "Dwarf Ginseng" oder "Groun Nut".

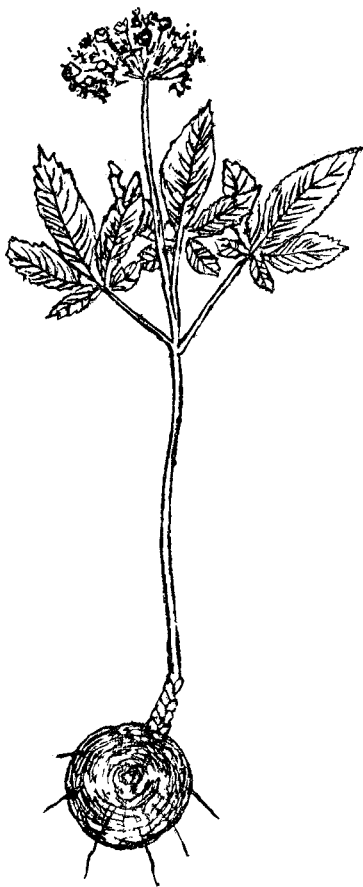


Fig 9, panax trifolius (original)

(終)

第 號

昭和 年 月 日寄贈
寄贈先

昭和九年八月二十四日印刷
昭和九年八月二十八日發行

非賣品

著 者

朝鮮總督府
專賣局囑託

今 村 軻

發 行 者

朝鮮總督府專賣局

京城府蓬萊町三丁目六二・三

印 刷 所

朝鮮印刷株式會社

